

沼津市文化財調査報告書 第113集

中原遺跡発掘調査報告書

第1分冊

3区の調査・8区・5区の調査・6区の調査

2016

沼津市教育委員会



中原遺跡より浮島沼と愛鷹山を望む



中原遺跡と千本砂礫洲（西から）

巻頭カラー図版 2



3区東側完掘状況



3区西側完掘状況



8区完掘状況



5区完掘状況

巻頭カラー図版 4



6区完掘状況



ガラス小玉鋳型とガラス小玉

例　言

1. 本書は静岡県沼津市原字一本松他に所在する中原遺跡の発掘調査報告書（第1分冊）である。第1分冊は中原遺跡西側にあたる3区・8区・5区・6区について記載しており、東側の4区・7区・自然化学分析については第2分冊に、調査の成果・遺物観察表・写真図版については第3分冊にそれぞれ掲載している。
2. 発掘調査は、沼津駅付近鉄道高架事業（新貨物基地建設）に伴い、静岡県沼津土木事務所より依頼を受け、予定地内に分布する埋蔵文化財の記録保存を目的として実施した。
3. 発掘調査は、平成20年7月から平成22年8月まで実施した。資料整理は平成22年7月から平成28年3月まで実施し、いずれも沼津市教育委員会事務局文化振興課が担当した。
4. 発掘調査の関係者は以下のとおりである。

調査主体者	沼津市教育委員会	教　育　長	工藤達朗 (H20～27)
		教育次長	村上益男 (H20・21)　海瀬　治 (H22・23)
			工藤浩史 (H24～26)　井原正利 (H27)
事業担当者	沼津市教育委員会	文化振興課	
		課　　長	上原正之 (H20・21)　宮下義雄 (H22・23) 井原正利 (H24)　勝又恵三 (H25～27)
		参　　事	鈴木裕篤 (H22)
		副参　事	鈴木裕篤 (H20・21)　初又利明 (H22・23)
		課長補佐	後藤　豊 (H20・21)　山口正文 (H22) 勝又恵三 (H23・24)　山本惠一 (H25・26) 高橋清一 (H25)　山内良太 (H26・27)
調査担当者 (平成20年度)		文化財調査係長	高尾好之
		主任学芸員	鶴田晴徳
		指導主事	小林昭正 片桐誠一郎 高橋信一
調査担当者 (平成21年度)		文化財調査係長	高尾好之
		主任学芸員	鶴田晴徳
		主　　事	小崎　晋 原田雄紀
		指導主事	高橋信一 佐野貴明
調査担当者 (平成22年度)		主幹兼文化財調査係長	山本惠一
		主任学芸員	鶴田晴徳
		主　　事	小崎　晋 原田雄紀
		指導主事	高橋信一 渡邊　均 倉地　憲 佐野貴明

5. 整理事業の関係者は以下のとおりである。
- | | | |
|----------------|------------|-----------|
| 整理担当者 (平成22年度) | 主幹兼文化財調査係長 | 山本惠一 |
| | 主任学芸員 | 鶴田晴徳 |
| | 主　　事 | 小崎　晋 原田雄紀 |

	指 導 主 事	高橋信一 前嶋秀張
整理担当者（平成 23 年度）	主幹兼文化財調査係長	山本恵一
	主任学芸員	鶴田晴徳
	整理補助員	目黒上子 佐藤花奈子
整理担当者（平成 24 年度）	主幹兼文化財調査係長	山本恵一
	主任学芸員	鶴田晴徳
	整理補助員	関ちづる 西川久美子 松島あつ子
整理担当者（平成 25 年度）	主幹兼文化財調査係長	池谷信之
	主任学芸員	鶴田晴徳
	臨時嘱託	矢田晃代
	整理補助員	笹原伊津子 目黒上子 高林千明 土屋周子 松島あつ子
整理担当者（平成 26 年度）	主幹兼文化財調査係長	池谷信之
	学芸員	木村 晃
	臨時嘱託	矢田晃代
	整理補助員	笹原伊津子 守屋智子 目黒上子 土屋周子 松島あつ子
整理担当者（平成 27 年度）	主幹兼文化財調査係長	池谷信之
	学芸員	木村 晃
	臨時嘱託	矢田晃代

6. 整理作業の実務は沼津市文化財センターにおいて行った。資料整理の一部作業について、整理補助員 工藤みさ子の協力を得た。事務処理は、事務補助員 土屋周子が担当した。
7. 本書の執筆は木村・矢田が担当した。第Ⅱ章、第Ⅲ～Ⅶ章第1節および第2節の遺構について矢田が、それ以外は木村が執筆した。全体の編集は木村の指示のもと矢田が担当し、その際整理補助員の松島の補助を得た。
8. 発掘調査と本報告書の執筆にあたり、以下の各氏・各機関よりご指導およびご教授をいただいた。記して深く感謝の意を示す次第である。（五十音順・敬称略）

池谷初恵、大賀克彦、大森信宏、大谷宏治、齊藤 努、佐藤祐樹、柴垣勇夫、島津美子、杉本幹夫、鈴木一有、土屋了介、藤村 翔、北條芳隆、堀内秀樹、丸杉俊一郎
9. 現地調査における基準点測量・測量監理業務については、株式会社シン技術コンサルに委託した。
10. 現地で取得した遺構のデジタルデータについては、沼津市が所有する遺跡管理システムに取り込み、同システム上で編集・図版作成を行った。本作業については株式会社シン技術コンサル（担当：中山日出夫）に委託した。
11. 空中写真撮影については、株式会社フジヤマへ業務委託を行った。

12. 金属製品の保存処理については、株式会社吉田生物研究所へ業務委託を行った。
13. 遺物実測については、土器実測を株式会社新技術コンサルに遺物写真実測業務として、石製品・土製品・金属製品・玉製品の一部については、株式会社ラングに遺物デジタル実測業務として委託した。
14. 本書内の遺物実測図については、遺物を実測した後に Adobe Illustrator CS5.1 にてデジタルトレースを行った。また、一部の遺物については株式会社ラングに委託して作成した 3 次元レーザースキャナー（PEAKIT）による画像を使用している。
15. 第 2 分冊に記した自然科学分析は、第Ⅷ章 1～5 をパリノ・サーヴェイ株式会社に委託し、6 については、沼津市文化振興課の池谷信之が執筆した。なお、第Ⅷ章には未報告である 1 区・2 区から出土した資料の成果も含まれている。
16. 本書に係わる発掘調査資料および出土遺物は、沼津市教育委員会事務局文化振興課文化財調査係（沼津市文化財センター 〒 410-0873 沼津市大瀬詣 46-1）で保管している。

凡 例

1. 方位は国家座標の真北方位で、座標値は世界測地系に準拠している。標高は海拔高を表す。
2. 遺構名の記載は例のとおりに統一した。なお、各区の報告において、8区・5区を除いては、原則調査区名は省略した。 例) 3区第1号竪穴住居址：3-SB1
3. 遺構の略号は、次のとおりである。遺構実測図の縮尺は基本的には以下に示すもので統一をしたが、一部の遺構についてはその限りでない。そのため、各図にスケールを表示した。
 - SB：竪穴住居址 : S=1/80
 - SH：掘立柱建物址 : S=1/80
 - SD：溝状遺構 : 分布図 S=1/250、1/300、平面図 S=1/80、1/150、断面図 S=1/80
 - SK：土坑 : S=1/80
 - PT：ピット：分布図 S=1/250、1/300
 - P：柱穴 : 各遺構図による。
 - SX：不明遺構 : S=1/80
4. 遺構実測図中のスクリーントーンの指示は以下のとおりである。

			
カマド	粘土範囲		焼土・炭化物
5. 遺物実測図の縮尺については以下のとおりである。
 - 土器 : S=1/4
 - 石製品 : S=1/2、S=1/4
 - 土製品・銅製品・鉄製品・玉製品 : S=1/2
 - 古錢 : S=1/1
6. 本書で使用した土器類の断面表現は以下のとおりである。
土師器断面（白抜き） 須恵器断面（黒塗り）
7. 遺物出土状況図は出土位置の座標を記録した遺物のみ記載している。なお、遺物のシンボルについては各図に凡例を表示した。
8. 遺物出土状況図で示した挿図番号と出土遺物実測図に示した番号は同一である。また遺構出土状況図には、遺構主要断面図に出土した座標を投影したドット図を併せて掲載した。
9. 土層・土器胎土の色調・記号は、新版標準土色帖に基づいて記載し、計測は土色計（SCR-1 第一合成株式会社製）を用いた。
10. 第3分冊に記載した遺物観察表における法量の単位は遺物の種類ごとに異なる為、各表に単位を示した。また（ ）は残存値、「-」は計測不可能な部位を示す。

11. 本遺跡で用いる時期区分は鈴木敏則氏の遠江須恵器編年（鈴木敏則 2001・2004）を用い、本文では遠江と略す。以下の表は、近畿地方の陶邑古窯址群、飛鳥地域の土器編年とおおよその対応年代を示している。

陶邑・飛鳥	TK10	TK43	TK209	飛鳥 I	II	III	IV	V	平城 I	II	III	IV	V	VI	VI	VI	VI	VI
遠江	Ⅲ期前葉	Ⅲ期後葉	Ⅳ期後葉	Ⅲ期末葉	IV期前半	IV期後半	IV期末葉	Ⅴ期前半 (初期)	Ⅴ期前半 (中期)	Ⅴ期前半 (後期)	Ⅴ期前半 (中期)	Ⅴ期前半 (後期)	Ⅴ期後半 古相	Ⅴ期後半 新相	VI期 前半	VI期 後半	VI期 後半	

12. 須恵器の記述については、以下の文献に基づいている。

鈴木敏則 2001「湖西窯古墳時代須恵器編年」『須恵器生産の出現から消滅』(補遺・論考編)：141～170頁
東海土器研究会
鈴木敏則 2004「静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』：35～53頁 浜松市教育委員会
鈴木敏則 2005「第5章 まとめ 第1節出土須恵器について」『東若林遺跡』：89～113頁 浜松市文化振興財團

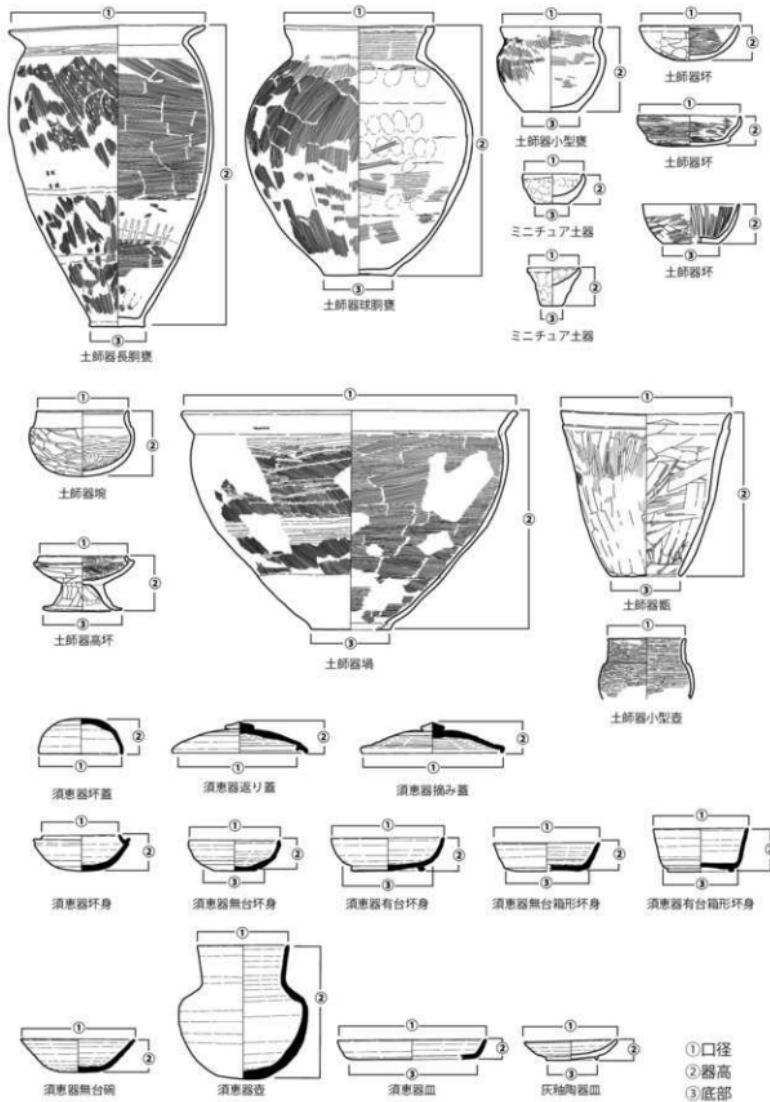
13. 土師器の記述については、以下の文献に基づいている。

池谷初恵 1995「伊豆国における奈良平安時代の土器様相—三島市壱町田遺跡を中心として—」
『大場川遺跡群』：142～157頁 三島市教育委員会
甲斐型土器研究グループ 1992「甲斐型土器研究グループ 第1回研究集会資料 甲斐型土器—その編年と年代—」
山梨県考古学協会
木ノ内義昭 2002「須恵器流入以降～律令時代の土師器の様相一主として律令時代富士郡衙推定域の出土遺物から一」
『東平遺跡 第16地区（三日市廐寺跡）, 第27地区発掘調査報告書』：114～127頁 富士市教育委員会
山本惠一 1989「静岡県下の6～8世紀の黒色土器について—主に東部地方を中心として—」
『東国土器研究』第2号：112～127頁 東国土器研究会
山本惠一 1995「静岡県下の6～7Cの土師器 一駿河東部・伊豆北部の現状について—」
『東国土器研究』第5号：113～129頁 東国土器研究会

14. 鉄製品の記述については、以下の文献を参考にした。

大谷宏治 2003「I 地域区分、時期区分と鉄器分類」『静岡県埋蔵文化財調査研究所研究紀要』第10号：11～16頁
(財)静岡県埋蔵文化財調査研究所

15. 土器底部などに残る木葉痕や糸切り痕等は、紙幅の都合から各区のPT計測表の前に拓本によって一括で示した。



*須恵器計測箇所については鈴元編 2001『須恵器生産の出現から消滅』東海土器研究会 を参考とした。

主要土器器種分類図

目 次

巻頭カラー図版

例言

凡例

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 貨物駅本体部における調査の経過	5
第3節 整理作業の経過	5

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境	11
第2節 周辺遺跡と歴史的環境	13
第3節 遺跡の層位	16

第Ⅲ章 3区の調査

第1節 3区の調査経過	20
第2節 3区の遺構と遺物	20

第Ⅳ章 8区・5区の調査

第1節 8区・5区の調査経過	64
第2節 8区・5区の遺構と遺物	64

第Ⅴ章 6区の調査

第1節 6区の調査経過	168
第2節 6区の遺構と遺物	168

報告書抄録

奥付

卷頭カラー図版目次

- 図版 1 中原遺跡より浮島沼と愛鷹山を望む
中原遺跡と千本砂礫洲（西から）
- 図版 2 3区東側完掘状況
3区西側完掘状況
- 図版 3 8区完掘状況
5区完掘状況
- 図版 4 6区完掘状況
ガラス小玉鋳型とガラス小玉

挿図目次

第 1 図	試掘坑位置図	3
第 2 図	調査区位置図	8
第 3 図	遺跡位置図	12
第 4 図	周辺地質図	13
第 5 図	周辺遺跡分布図	14
第 6 図	土層断面図	16
第 7 図	調査区位置図	17
第 8 図	3区主軸方位	20
第 9 図	3区遺構配置図・調査区割付図	21
第 10 図	3区第1号住居址実測図	23
第 11 図	3区第1号住居址土層注記	24
第 12 図	3区第1号住居址遺物出土状況図	25
第 13 図	3区第1号住居址出土遺物実測図	26
第 14 図	3区第2号住居址実測図	28
第 15 図	3区第2号住居址出土遺物実測図	28
第 16 図	3区第3号住居址実測図	29
第 17 図	3区第3号住居址土層注記	30
第 18 図	3区第3号住居址出土遺物実測図	30
第 19 図	3区第4号住居址実測図	31
第 20 図	3区第4号住居址出土遺物実測図	32
第 21 図	3区第5号住居址実測図	32
第 22 図	3区第5号住居址土層注記	33
第 23 図	3区第6号住居址実測図（1）	35
第 24 図	3区第6号住居址実測図（2）	37
第 25 図	3区第6号住居址遺物出土状況図（1）	39
第 26 図	3区第6号住居址出土遺物実測図（1）	41
第 27 図	3区第6号住居址出土遺物実測図（2）	42
第 28 図	3区第6号住居址遺物出土状況図（2）	43

第 29 図	3 区第 6 号住居址出土遺物実測図（3）	44
第 30 図	3 区第 6 号住居址遺物出土状況図（3）	45
第 31 図	3 区第 7・8 号住居址実測図（1）	47
第 32 図	3 区第 7 号住居址出土遺物実測図	47
第 33 図	3 区第 7・8 号住居址実測図（2）	48
第 34 図	3 区第 1 号掘立柱建物址実測図	49
第 35 図	3 区溝状遺構分布図	51
第 36 図	3 区第 3 号溝状遺構実測図	52
第 37 図	3 区溝状遺構土層断面図（1）	53
第 38 図	3 区溝状遺構土層断面図（2）	54
第 39 図	3 区第 7 号溝状遺構出土遺物実測図	56
第 40 図	3 区ピット分布図	58
第 41 図	3 区遺構外出土遺物実測図	59
第 42 図	3 区出土土器拓本	59
第 43 図	8 区・5 区遺構配置図	65
第 44 図	5 区調査区割付図	65
第 45 図	8 区主軸方位	65
第 46 図	5 区主軸方位	65
第 47 図	8 区第 3・4 号住居址実測図（1）	68
第 48 図	8 区第 3・4 号住居址実測図（2）	69
第 49 図	8 区第 3・4 号住居址実測図（3）	70
第 50 図	8 区第 3・4 号住居址土層注記（1）	71
第 51 図	8 区第 3・4 号住居址土層注記（2）	72
第 52 図	8 区第 3 号住居址出土遺物実測図	73
第 53 図	8 区第 18 号住居址実測図	75
第 54 図	8 区第 5 号住居址実測図（1）	76
第 55 図	8 区第 5 号住居址出土遺物実測図	76
第 56 図	8 区第 5 号住居址実測図（2）	77
第 57 図	8 区第 6 号住居址実測図（1）	78
第 58 図	8 区第 6 号住居址実測図（2）	79
第 59 図	8 区第 6 号住居址出土遺物実測図	80
第 60 図	8 区第 7 号住居址実測図	81
第 61 図	8 区第 7 号住居址土層注記	82
第 62 図	8 区第 17 号住居址実測図	83
第 63 図	8 区第 17 号住居址土層注記	84
第 64 図	8 区第 7・17 号住居址遺物出土状況図	85
第 65 図	8 区第 7 号住居址出土遺物実測図（1）	87
第 66 図	8 区第 7 号住居址出土遺物実測図（2）	88
第 67 図	8 区第 17 号住居址出土遺物実測図	89
第 68 図	8 区第 8 号住居址実測図（1）	91
第 69 図	8 区第 8 号住居址実測図（2）	92

第 70 図	8 区第 8 号住居址土層注記	93
第 71 図	8 区第 16 号住居址実測図（1）	94
第 72 図	8 区第 16 号住居址実測図（2）	95
第 73 図	8 区第 8・16 号住居址遺物出土状況図	96
第 74 図	8 区第 8 号住居址出土遺物実測図（1）	97
第 75 図	8 区第 8 号住居址出土遺物実測図（2）	98
第 76 図	8 区第 16 号住居址出土遺物実測図	99
第 77 図	8 区第 9 号住居址実測図（1）	100
第 78 図	8 区第 9 号住居址実測図（2）	101
第 79 図	8 区第 9 号住居址出土遺物実測図	102
第 80 図	8 区第 12 号住居址実測図（1）	103
第 81 図	8 区第 12 号住居址実測図（2）	104
第 82 図	8 区第 12 号住居址出土遺物実測図	105
第 83 図	8 区第 10 号住居址実測図	106
第 84 図	8 区第 10 号住居址出土遺物実測図	107
第 85 図	8 区第 11 号住居址実測図（1）	108
第 86 図	8 区第 11 号住居址実測図（2）	109
第 87 図	8 区第 11 号住居址実測図（3）	110
第 88 図	8 区第 11 号住居址出土遺物実測図	110
第 89 図	8 区第 11 号住居址土層注記	111
第 90 図	8 区第 13 号住居址実測図	111
第 91 図	8 区第 14 号住居址実測図	112
第 92 図	8 区第 14 号住居址土層注記	113
第 93 図	8 区第 14 号住居址出土遺物実測図	113
第 94 図	8 区第 15 号住居址実測図	114
第 95 図	5 区第 1 号住居址実測図	115
第 96 図	5 区第 1 号住居址土層注記	116
第 97 図	5 区第 1 号住居址出土遺物実測図	116
第 98 図	5 区第 2 号住居址実測図（1）	118
第 99 図	5 区第 2 号住居址実測図（2）	119
第 100 図	5 区第 2 号住居址遺物出土状況図	120
第 101 図	5 区第 2 号住居址出土遺物実測図	121
第 102 図	5 区第 3 号住居址実測図（1）	122
第 103 図	5 区第 3 号住居址実測図（2）	123
第 104 図	5 区第 3 号住居址出土遺物実測図	124
第 105 図	5 区第 4 号住居址実測図	125
第 106 図	5 区第 4 号住居址出土遺物実測図	126
第 107 図	5 区第 5 号住居址実測図	126
第 108 図	5 区第 5 号住居址土層注記	127
第 109 図	5 区第 5 号住居址出土遺物実測図	127
第 110 図	5 区第 6 号住居址実測図	128

第 111 図	5 区第 6 号住居址出土遺物実測図	128
第 112 図	5 区第 7・9 号住居址実測図	129
第 113 図	5 区第 7・9 号住居址土層記	130
第 114 図	5 区第 7 号住居址出土遺物実測図	130
第 115 図	5 区第 8・10 号住居址実測図	132
第 116 図	5 区第 8 号住居址出土遺物実測図	133
第 117 図	8 区第 1 号掘立柱建物址実測図（1）	135
第 118 図	8 区第 1 号掘立柱建物址模式図	135
第 119 図	8 区第 1 号掘立柱建物址実測図（2）	136
第 120 図	8 区第 1 号掘立柱建物址実測図（3）	137
第 121 図	8 区第 2 号掘立柱建物址実測図	138
第 122 図	8 区第 3 号掘立柱建物址実測図	139
第 123 図	5 区第 1 号掘立柱建物址実測図	140
第 124 図	5 区第 2 号掘立柱建物址実測図	141
第 125 図	5 区第 3 号掘立柱建物址実測図	142
第 126 図	5 区第 4 号掘立柱建物址実測図	142
第 127 図	8 区溝状遺構分布図	143
第 128 図	8 区溝状遺構土層断面図	144
第 129 図	8 区溝状遺構出土遺物実測図	147
第 130 図	5 区溝状遺構分布図	149
第 131 図	5 区第 4 号溝状遺構実測図	150
第 132 図	5 区溝状遺構土層断面図	150
第 133 図	5 区溝状遺構（SD9）出土遺物実測図	151
第 134 図	8 区ピット分布図	152
第 135 図	8 区ピット出土遺物実測図	153
第 136 図	5 区ピット分布図	154
第 137 図	8 区第 1 号不明遺構実測図	155
第 138 図	8 区第 1 号不明遺構出土遺物実測図	155
第 139 図	8 区遺構外出土遺物実測図	156
第 140 図	5 区遺構外出土遺物実測図	156
第 141 図	8 区出土土器拓本	157
第 142 図	5 区出土土器拓本	157
第 143 図	6 区遺構配置図	169
第 144 図	6 区主軸方位	169
第 145 図	6 区第 1 号住居址実測図（1）	171
第 146 図	6 区第 1 号住居址実測図（2）	172
第 147 図	6 区第 1 号住居址出土遺物実測図	172
第 148 図	6 区第 2 号住居址実測図	174
第 149 図	6 区第 2 号住居址出土遺物実測図	175
第 150 図	6 区第 3 号住居址実測図（1）	176
第 151 図	6 区第 3 号住居址実測図（2）	177

第 152 図	6 区第 3 号住居址遺物出土状況図	178
第 153 図	6 区第 3 号住居址出土遺物実測図（1）	179
第 154 図	6 区第 3 号住居址出土遺物実測図（2）	180
第 155 図	6 区第 4 号住居址実測図	181
第 156 図	6 区第 4 号住居址遺物出土状況図（1）	183
第 157 図	6 区第 4 号住居址遺物出土状況図（2）	184
第 158 図	6 区第 4 号住居址出土遺物実測図（1）	185
第 159 図	6 区第 4 号住居址出土遺物実測図（2）	186
第 160 図	6 区第 12 号住居址実測図（1）	187
第 161 図	6 区第 12 号住居址実測図（2）	188
第 162 図	6 区第 12 号住居址出土遺物実測図	189
第 163 図	6 区第 5 号住居址実測図	191
第 164 図	6 区第 5 号住居址遺物出土状況図（1）	192
第 165 図	6 区第 5 号住居址遺物出土状況図（2）	193
第 166 図	6 区第 5 号住居址出土遺物実測図（1）	194
第 167 図	6 区第 5 号住居址出土遺物実測図（2）	195
第 168 図	6 区第 6 号住居址実測図（1）	196
第 169 図	6 区第 6 号住居址実測図（2）	197
第 170 図	6 区第 6 号住居址出土遺物実測図	197
第 171 図	6 区第 7 号住居址実測図（1）	198
第 172 図	6 区第 7 号住居址実測図（2）	199
第 173 図	6 区第 7 号住居址出土遺物実測図	199
第 174 図	6 区第 8 号住居址実測図（1）	200
第 175 図	6 区第 8 号住居址実測図（2）	201
第 176 図	6 区第 8 号住居址遺物出土状況図	202
第 177 図	6 区第 8 号住居址出土遺物実測図	203
第 178 図	6 区第 9・10・11 号住居址実測図	205
第 179 図	6 区第 9・10・11 号住居址土層注記	206
第 180 図	6 区第 9・10・11 号住居址出土遺物実測図	206
第 181 図	6 区第 13 号住居址実測図	207
第 182 図	6 区第 13 号住居址出土遺物実測図	208
第 183 図	6 区第 14 号住居址実測図	209
第 184 図	6 区第 14 号住居址土層注記	210
第 185 図	6 区第 14 号住居址出土遺物実測図	210
第 186 図	6 区第 1 号掘立柱建物址実測図	211
第 187 図	6 区溝状遺構分布図	212
第 188 図	6 区溝状遺構土層断面図	213
第 189 図	6 区溝状遺構出土遺物実測図（1）	216
第 190 図	6 区溝状遺構出土遺物実測図（2）	217
第 191 図	6 区第 1 号土坑実測図	218
第 192 図	6 区ピット分布図	219

第193図	6区ピット出土遺物実測図	219
第194図	6区黄瀬赤土盛土実測図	220
第195図	6区第2号不明遺構実測図	220
第196図	6区遺構外出土遺物実測図(1)	221
第197図	6区遺構外出土遺物実測図(2)	222
第198図	6区出土土器拓本	223

挿表目次

第1表	調査期間	7
第2表	資料整理工程表	7
第3表	3区溝状遺構計測表(1)	53
第4表	3区溝状遺構計測表(2)	54
第5表	3区ピット計測表(1)	60
第6表	3区ピット計測表(2)	61
第7表	3区ピット計測表(3)	62
第8表	8区溝状遺構計測表	144
第9表	5区溝状遺構計測表	150
第10表	8区ピット計測表(1)	158
第11表	8区ピット計測表(2)	159
第12表	8区ピット計測表(3)	160
第13表	8区ピット計測表(4)	161
第14表	8区ピット計測表(5)	162
第15表	8区ピット計測表(6)	163
第16表	8区ピット計測表(7)	164
第17表	5区ピット計測表(1)	164
第18表	5区ピット計測表(2)	165
第19表	5区ピット計測表(3)	166
第20表	6区溝状遺構計測表	213
第21表	6区ピット計測表(1)	223
第22表	6区ピット計測表(2)	224
第23表	6区ピット計測表(3)	225
第24表	6区ピット計測表(4)	226

挿写真目次

写真1 重機による掘削	9	写真10 遺物注記作業	10
写真2 防砂ネット設置	9	写真11 土器接合作業	10
写真3 表土除去	9	写真12 土器復元作業	10
写真4 遺物包含層掘削	9	写真13 出土遺物実測作業	10
写真5 遺構検出作業	9	写真14 写真デジタルスキャン作業	10
写真6 遺構掘削作業	9	写真15 デジタルトレース作業	10
写真7 遺構実測作業	9	写真16 執筆作業	10
写真8 調査区埋戻し完了状況	9	写真17 6区第12号住居址カマド粘土検出状況 および調査状況	189
写真9 遺物洗浄作業	10		

第Ⅰ章 調査の経過

第1節 調査に至る経緯

(1) 試掘調査に至る経緯

沼津市は駿河湾の最奥部東側に位置し、県東部の中心的な街として発展してきた。しかし近年では交通環境や物流システムの変化、郊外への大型店の進出などにより中心市街地の空洞化が進行している。

このような状況の中、沼津市は「人と環境を大切にする県東部広域拠点都市」の実現を目指し、中心市街地の再生を図るため、静岡県とともに沼津駅鉄道高架事業をはじめとする沼津駅周辺総合整備事業を進めている。特に鉄道高架事業は、沼津駅を中心としてJR 東海道本線約 3.7km、JR 御殿場線約 1.6km の高架を計画する大規模事業であり、中心市街地の整備のみにとどまらず、沼津駅の西方に所在する鉄道車両基地および車両貨物駅の施設移転を必要としている¹⁾。本書にて報告する中原遺跡は、新車両貨物駅建設予定地にて確認された遺跡である。

新車両貨物駅の建設事業においては、平成 14 年 12 月 6 日付け沼土都第 24-29 号にて、静岡県沼津土木事務所（以下、県土木）より静岡県教育委員会文化課（現、文化財保護課。以下、県教委）を通じて「沼津駅周辺連続立体交差事業」の関連地点における文化財の所在の有無について照会があった。沼津市教育委員会（以下、市教委）はこの照会に対し、県教委を通じて平成 15 年 1 月 10 日付け沼教文第 449-2 号によって、新貨物基地建設予定地が中原遺跡（当初包蔵地面積：8,510m²）に該当すると回答した。また 10ha にも及ぶ建設予定地内には、これまで開発行為が少なく、埋蔵文化財の所在確認が行われていない箇所が多いため、その取り扱いのために確認調査の実施が必要である旨を併せて通知した。

この結果を元に平成 15 年 8 月には、沼津市教育委員会事務局文化振興課（以下、文化振興課）、県土木、沼津駅周辺整備事務局整備課（以下、整備課）を交えて埋蔵文化財に関する取り扱いの協議を行った。この協議では、県土木より平成 21 年度の使用開始を目指す工事計画が示されたが、これに対し、文化振興課は文化財の所在の有無が確認されていない状況では埋蔵文化財調査の工程表を提示できないことから、平成 21 年度供用開始は困難である見解を示した。そのため、引き続き三者協議を行い、本調査の工程を検討するために平成 18 年度から 2 年間にわたる試掘調査と車両用搬入路箇所の本調査（未報告）を実施した（第 1 図）。なお、対象地の西側（桃里地区）については、用地取得の関係から調査可能箇所が限られていたため、東側（一本松地区）と比べて試掘箇所が少なく、今も埋蔵文化財の分布範囲は完全に把握されてはいない。

(2) 本調査に至る経緯

実施箇所に偏りはあるものの、2 年間で 2m × 2m の試掘坑 119 か所、試掘トレチ 4 か所の調査を実施し、以下の点が明らかになった。

検出された主な遺構はカマド付き竪穴住居址、掘立柱建物址、溝状遺構、柱穴列、配石遺構、土坑などがあり、それらの年代は古墳時代後期～近世にまで及ぶ。試掘調査の範囲内では特殊な建物址や遺物は出土しておらず、古墳時代後期～平安時代を中心とした一般的な集落遺跡と判断されたが、遺構密度は極めて高く、密度 10% 以上～40% 未満の範囲が約 20,000m²、密度 10% 前後の範囲が約 23,000m² と推測される。

この試掘調査成果を元にして、中原遺跡の範囲変更が沼津市教育委員会（以下、市教委）と県教委との間で協議され、平成 19 年 2 月 9 日付け教文第 1967 号にて、当初約 8,500m² であった包蔵地を約 45,000m² に拡大した。なお、この範囲は、試掘調査が十分でない建設予定地の西側を含んでおらず、さらに拡大する可能性もある。

建設予定地西側の分布状況は完全には把握できなかったものの、市教委では平成 19 年 9 月に中原遺

跡の範囲のうち約35,000m²が貨物基地建設予定地に含まれるという所見を県教委および沼津市へ報告した。そして、本事業が県事業であることから同年10月4日付け沼土都第30-16号によって県土木から県教委へ「埋蔵文化財の調査について（依頼）」が提出された。その後、静岡県では35,000m²にもわたる埋蔵文化財調査の体制を翌年度から整えることができないと判断されたため、同月31日付け教文第1480号で、県教委から市教委へ発掘調査を受託できるかの諾否を求める依頼書が送付された。これに対し沼津市では対応が可能であったことから、沼津市が県土木からの受託者となって中原遺跡の本調査を実施することになった。

発掘調査に係る指示書の返書を受けたことで、県土木と沼津市、そして市教委の三者によって「沼津駅付近鉄道高架事業に伴う新貨物駅用地内の埋蔵文化財に関する協定書」の作成が進められた。沼津市から平成20年4月4日教文第19号にて「埋蔵文化財発掘調査の調査計画書」が提出され、これを受けて平成20年4月10日には三者による協定書を締結した。

なお協定書の内容は以下のとおりである（抜粋）。

・業務分担

県土木は、発掘調査に必要な予算措置を行い、発掘調査の実施に支障を来さないよう準備する。沼津市は発掘調査に必要な予算措置を行い、受託契約を締結する。市教委は、県教委の指導のもと、発掘調査計画の作成及び発掘調査を実施する。

・埋蔵文化財の保存措置

市教委は、県土木の予定する「沼津駅付近鉄道高架事業（新貨物駅）」の用地に分布する周知の埋蔵文化財（中原遺跡）について本調査を実施する。市教委は、詳細分布調査の結果を基に、県土木と協議して、年度ごとに本調査の範囲を決定する。

県土木は、市教委との協議によって現状保存すると決定した範囲がある場合は、その範囲の恒久的な保護措置を講ずる義務を負うものとする。

・発掘調査および整理作業の時期

市教委は平成20年度に現地発掘調査を開始し、当該事業の用地取得完了後できるだけ速やかに現場における全体の発掘作業を終了するものとする。遺物の整理と報告書刊行にかかる整理作業は、現地調査終了後に速やかに着手し、3年のうちに報告書を刊行して、発掘調査を全て完了するものとする。

・発掘調査の費用

調査に要する費用は、県土木と市教委が協議の上、市教委が積算し、県土木が負担する。

・委託契約

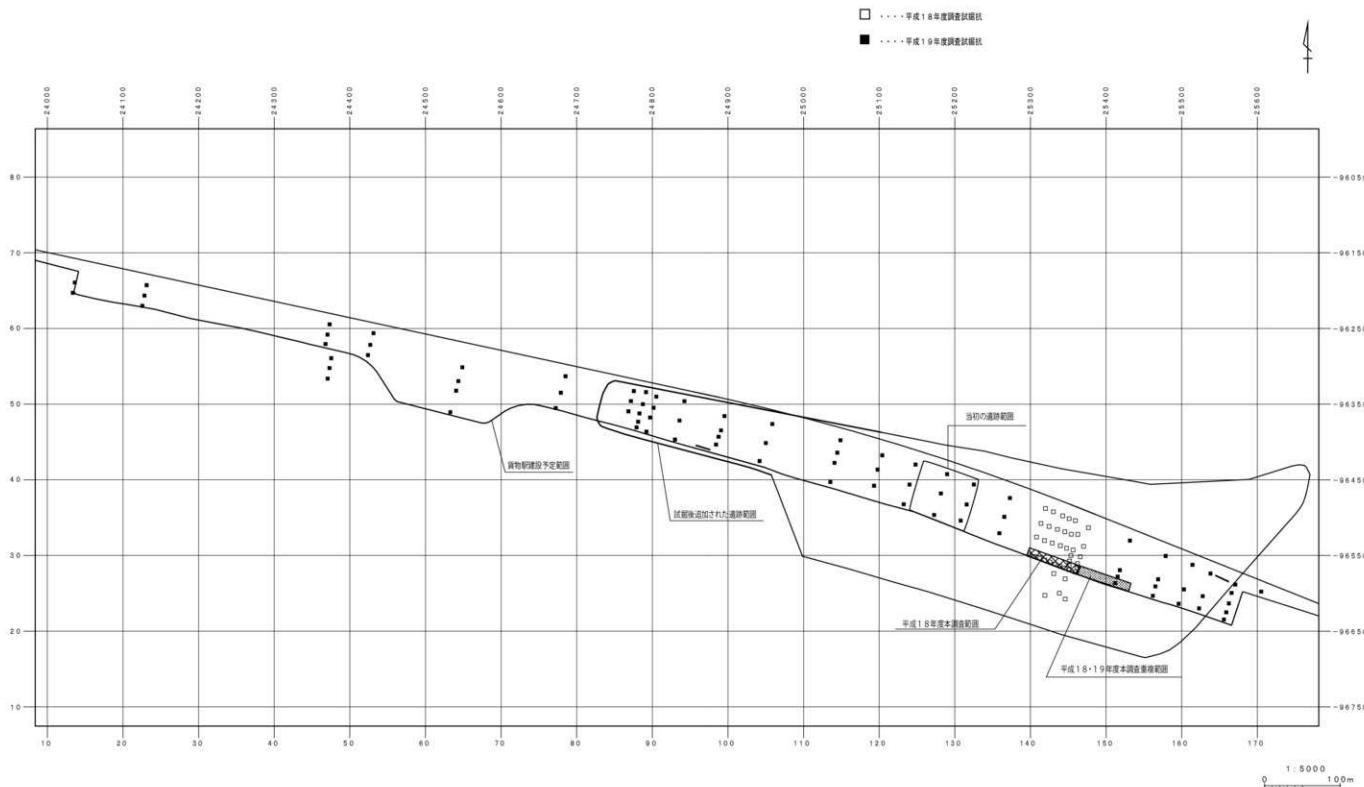
県土木と市教委は、年度ごとに別途協議して年間委託契約を締結するものとする。委託契約は、県土木と沼津市の間で締結するものとする。

・発掘調査の実施

市教委は、年度ごとに県土木に提出する実施計画書に基づき、発掘調査を実施する。市教委は調査の実施に当たっては、県土木が施行する「沼津駅付近鉄道高架事業（新貨物駅）」の円滑な進捗に配慮することとし、県土木の事業スケジュールとの調整を図るものとする。

・不時遺跡発見の場合の取り扱い

協定締結後に試掘調査で把握された以外の遺跡が新たに発見された場合には、事業スケジュール等への影響ができる限り少なくなるように配慮し、県土木と市教委で別途協議して発掘調査期間、費用等を定めるものとする。



左列・下例に示した2～3桁数字はグリッドを示し、上例・右例に示した5桁数字は国土座標値を示す。

第1図 試掘坑位置図

・出土品の取り扱い

出土品の処理については、県土木と市教委が協議のうえ、市教委が県土木に代わって法令の定めるところにより保存等の措置を講ずるものとする。県土木は、出土品についての権利を放棄する。

・その他の事項の取り扱い

この覚書に定めのない事項又は疑義が生じた事項については、三者が協議して定めるものとする。

第2節 貨物駅本体部における調査の経過

(1) 現地調査の経過

協定書締結以後、三者間で発掘調査開始の準備が進められた。平成20年6月2日付け沼土都第30号-4によって、県土木から文化財保護法第94条の発掘通知が提出され、市教委は平成20年6月5日付け沼教文第143号-2で、県教委に連達した。これを受け平成20年6月20日付け教文第606号で、県教委から「土木工事等のための発掘に係る指示について(通知)」が送付され、発掘調査の着手準備が整えられた。

現地調査は用地取得が完了した8区画を対象に平成20年7月2日から開始し、以後平成20～22年度の3か年にわたって、調査を行った(第1表・第2図・写真1～8)。なお、各調査区の調査経過は第Ⅲ章以下、各区の成果の第1節に記した。

(2) 現地調査の中止と現在の状況

3か年にわたって現地調査を実施してきたが、8区を除く調査区が調査完了となった平成21年度末段階でも、新貨物駅建設予定地内の用地取得が予定通りに進んでおらず、そのため次年度以降の新規発掘調査を実施することが困難な状態となった。これによって平成22年度以降における新規調査区の発掘調査は中止し、それまでに調査が完了した地点を対象として整理作業に移行することとした。なお、この決定は平成21年度末に行われたため、この段階で着手開始をしていた8区(平成22年2月12日着手)の調査は予定通り平成22年8月31日まで実施した。

事業予定地の発掘調査が中断したことにより、貨物駅建設事業も中止することになった。そのため発掘調査終了箇所は県土木による検査完了後に速やかに埋戻しが行われ、更地としている。そのため遺跡は現地に残されている状況にある(平成27年度末段階)。

第3節 整理作業の経過

現地調査が中断したため、平成22年度から調査完了地点を対象として資料整理を開始した(第2表)。協定書に基づき、平成22年3月11日付け沼土都第274号にて資料整理の依頼を受け、平成22年6月21日に、県土木と沼津市の間で資料整理の契約書を取り交わした。

なお、当初計画では、本調査と並行しながら、現地事務所にて資料整理を進める予定であったが、計画変更によって現地事務所も撤去することとなったため、整理作業の実務は沼津市文化財センター(沼津市大諭訪46-1)にて実施した(写真9～16)。

(1) 遺構の整理

遺構図版については、平成22年度から現地調査において得られた測量データを沼津市が導入している遺跡管理システムに取り込み、コンピュータによる編集・図化作業を進めた。これらの作業は業務委託により平成26年度末まで継続実施し、編集が完了した遺構図面は土層データ等を加えたのちに「Adobe Illustrator CS5.1」で再編集し、遺構図および遺物分布図等を作成した。

(2) 遺物の整理

出土遺物についても平成22年度から作業を開始した。平成22年度は出土遺物の洗浄・注記作業を

主に進め、平成 23 年度から土器の接合作業を行った。出土遺物が膨大であったことから、遺物注記作業には迅速化を図るために、手書きによる作業に加え、自動注記システムを使用して対応した。

接合作業は平成 25 年度まで継続したが、その間にも接合作業が完了した地区から、図化可能な遺物を抽出し、これらは順次作図作業を実施した。遺物の大半は作業の効率化を図るために、石製品・土製品・銅製品等についてはデジタル実測を、土器類については写真実測を業務委託によって実施した。鉄製品は保存処理や X 線写真撮影後に、作図作業を進めた。その他の遺物については、補足的に文化振興課整理補助員が作図作業を行った。

業務委託による遺物の作図作業は、平成 26 年度まで実施し、原図が完成したものから「Adobe Illustrator CS5.1」を使用して、デジタルトレースを行った。

(3) 報告の方針

協定書では調査終了後から 3 年の内に報告書を刊行することを定めていたが、同時期に沼津駅周辺総合整備事業の一環である新車両基地建設予定地内（西通北遺跡）の現地調査および報告書作成が行われていたことから、現地調査が全て完了していた西通北遺跡の報告書刊行を優先することになった。これにより中原遺跡の報告書刊行は、必ずしも 3 年以内とせず、平成 26 年度末刊行を目標とした。その後、整理作業の遅れから、県土木と市教委との間で協議が行われ、資料整理は平成 26 年度末までに終えるが、報告書執筆作業と印刷は平成 27 年度に実施することを決定した。

整理作業担当者は平成 26 年度から変更となった。引き継ぎを行った後に資料整理を継続実施し、平成 26 年度末から順次執筆作業を開始した。当初は調査を実施した全ての調査区を報告する予定であったが、調査範囲西側地区（1 区・2 区）については、遺跡範囲が想定よりも西側へ広がることが明らかになっていたため、両地区は将来的な調査を待って総合的に報告することとした。また本遺跡では中世・近世遺物が多量に出土しているが、多くが包含層出土であって全体の傾向がつかめない状況にある。そのため、中世および近世の報告も事業予定地全体の調査が完了した後に合わせて報告を行うこととした。

したがって、本報告書では 3 区から 8 区における古墳時代後期～奈良平安時代にかけての遺構・遺物を報告することとした。ただし、中世・近世以後と判断される溝状遺構については、上記の方針のどおり報告から除外すると全体の遺構配置が不明瞭となるため、掲載した。

以上の方針に基づき、報告書の編集は「Adobe InDesign CS5.5」を使用して編集作業を進めた。

1) 新車両基地建設予定地は、すでに埋蔵文化財発掘調査が完了しており、「静岡県埋蔵文化財調査研究所調査報告第 239 集 西通北遺跡」および「沼津市文化財調査報告書第 107 集 西通北遺跡発掘調査報告書」にその成果がまとめられている。

第1表 調査期間

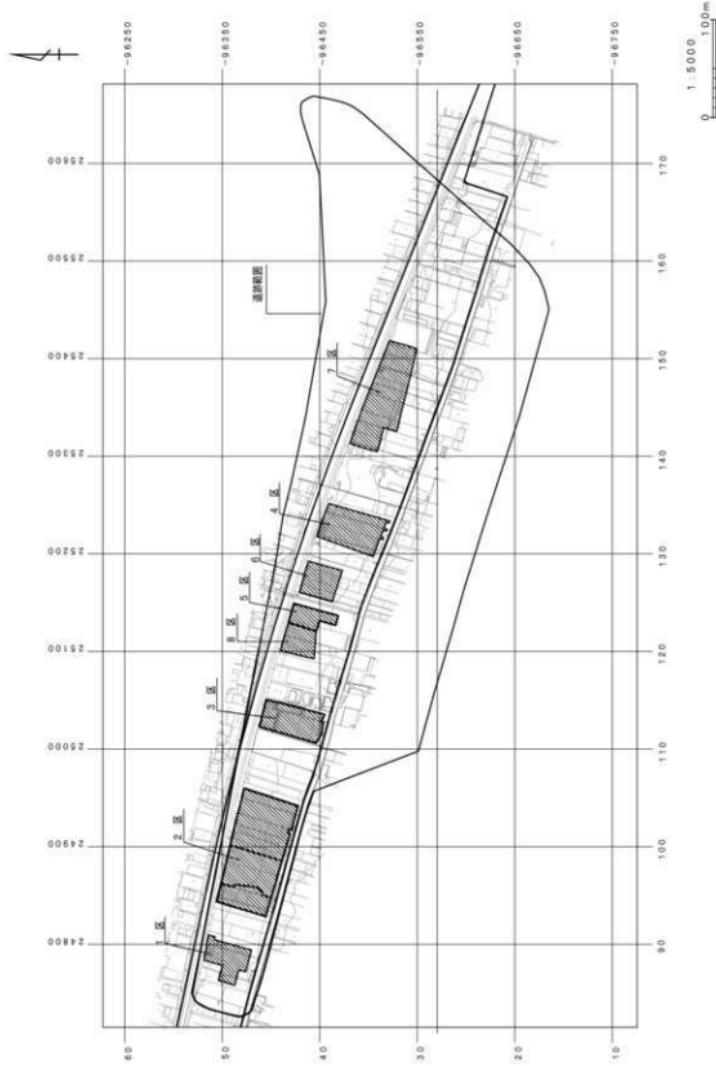
	平成20年度			平成21年度			平成22年度					
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
1区			---									H20. 7. 9 ~ H21. 2. 4
2区		---					---					H20. 9. 26 ~ H22. 3. 23
3区	---	---										H20. 7. 2 ~ H21. 3. 19
4区	---	---										H20. 7. 30 ~ H21. 3. 19
5区		---	---									H21. 4. 1 ~ H21. 12. 15
6区		---	---									H21. 3. 2 ~ H21. 6. 30
7区			---	---								H21. 8. 19 ~ H22. 3. 19
8区				---		---						H22. 2. 12 ~ H22. 8. 31

H: 平成

第2表 資料整理工程表

	平成22年度			平成23年度			平成24年度					
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
遺構図面作成												
遺物分類・整理		-										
遺物洗浄	---	---	-									
遺物注記	-	---		-								
遺物接合・復元			-									
土器写真実測								-				
土製品実測								-				
遺物デジタル実測												
自然科学分析・保存処理								-				
記録写真整理									-			
遺物実測・トレース												
原稿基礎データ作成												
原稿執筆・全体会議集作業												

	平成25年度			平成26年度			平成27年度					
	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月
遺構図面作成			---									
遺物分類・整理						-						
遺物洗浄												
遺物注記												
遺物接合・復元		---	---									
土器写真実測			-									
土製品実測						-						
遺物デジタル実測		---	---									
自然科学分析・保存処理			-									
記録写真整理												
遺物実測・トレース		---										
原稿基礎データ作成												
原稿執筆・全体会議集作業												



第2図 調査区位置図



写真1 重機による掘削



写真2 防砂ネット設置



写真3 表土除去



写真4 遺物包含層掘削



写真5 遺構検出作業



写真6 遺構掘削作業



写真7 遺構実測作業



写真8 調査区埋戻し完了状況



写真9 遺物洗浄作業



写真10 遺物注記作業



写真11 土器接合作業



写真12 土器復元作業



写真13 出土遺物実測作業



写真14 写真デジタルスキャン作業



写真15 デジタルトレース作業



写真16 執筆作業

第Ⅱ章 位置と環境

第1節 遺跡の位置と地理的環境

中原遺跡は、沼津市字一本松および桃里に所在し、JR 東海道本線原駅から西へ約 1.2km の地点より西方向におよそ 900m にわたって東西に長く広がる遺跡である。

中原遺跡が所在する沼津市は、駿河湾に面する伊豆半島西岸の付け根に位置し、江戸時代には現在の中心市街地は東海道宿場町として、さらにその後半は沼津水野藩の城下町としても栄えた。また JR 東海道本線沼津駅が設けられた後は商業都市として発展を遂げており、現在も人口約 20 万人が暮らす県東部の中核的な都市である。

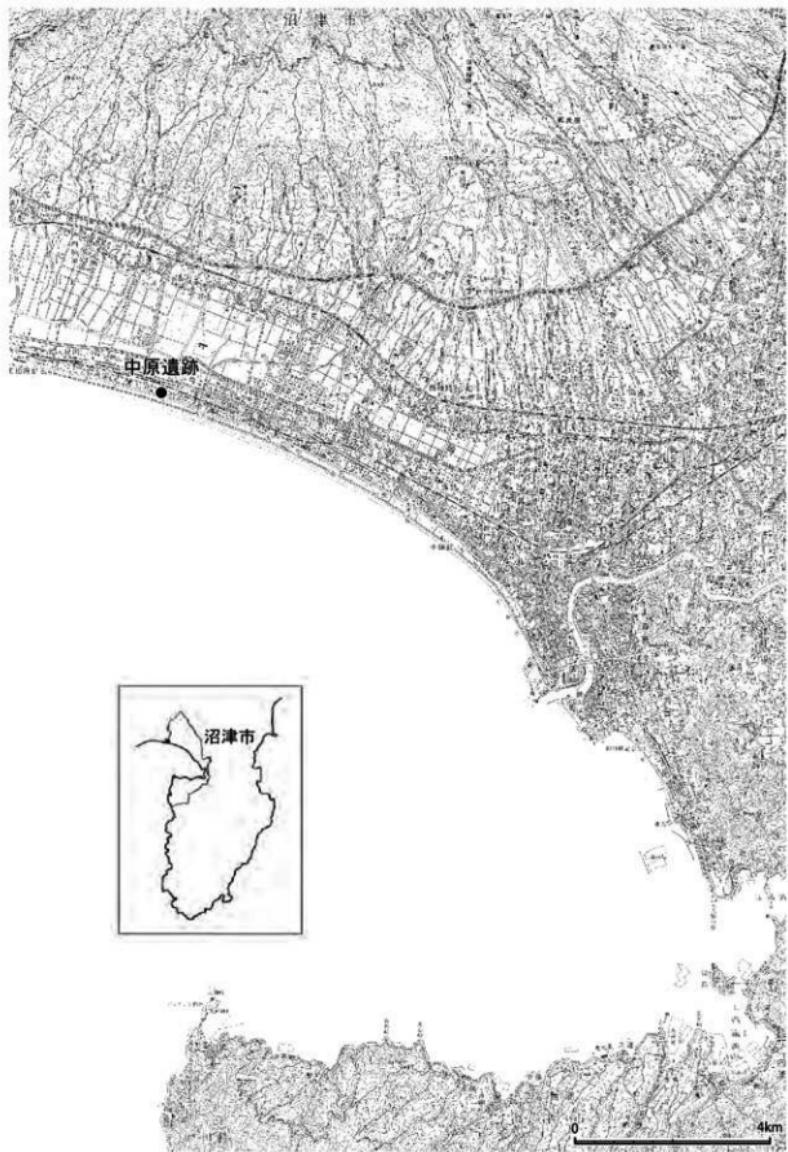
中原遺跡が所在する沼津市域西側は、かつて原町と呼ばれていた地域で、昭和 43 年に合併して沼津市の一部となった。北部地域には愛鷹山から南に向けてなだらかな尾根が広がり、この裾野を東西に走る「静岡県道 22 号三島富士線」通称「根方街道」は、古墳時代前期から中世にかけて多数の遺跡が展開していることが確認されており、このことは根方街道が古くから重要な街道として機能していたことを伺わせる。そして愛鷹山の裾野から海岸に向かっては、浮島ヶ原と呼ばれる低湿地帯や黄瀬川扇状地堆植物による平地となり、そして旧国道 1 号線（旧東海道）や通称「浜通り」を挟んで海岸沿いには松の連なる千本松原へと続いている。

現在の海岸線は愛鷹山の山裾から南に約 2 km の位置に展開するが、かつての駿河湾の海岸線は現在よりもはるか北方に位置しており、相当の深度を持って愛鷹山南麓付近まで海水が入り込み、浮島ヶ原周辺も海中に埋没していたと考えられる。このことは山裾付近で行われたボーリング調査の結果、地表下 44m までは浅海泥底を示し、海棲貝化石層を確認したことからも裏付けられている。貝類が生息するような浅い海を作り上げたのは、愛鷹山を開析する河川等が運搬する土砂や、富士川・狩野川の両河川が運搬した砂礫であり、これらが長い年月をかけて堆積した結果が現在の千本砂礫州である。

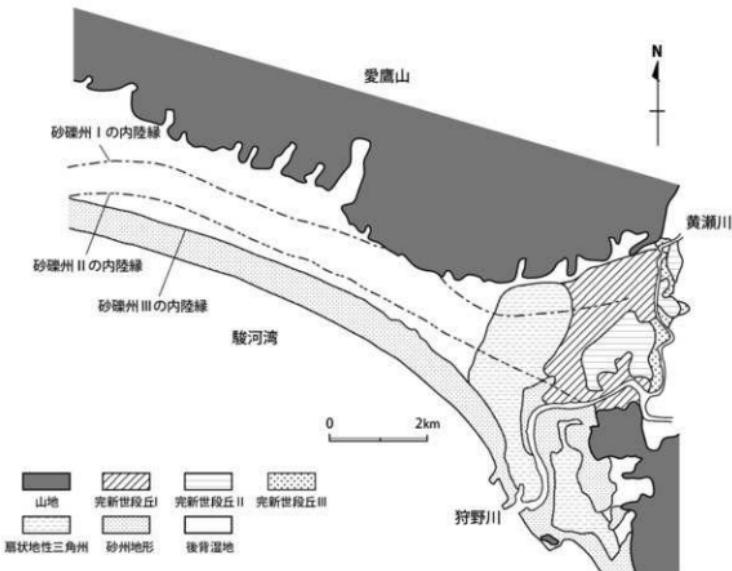
千本砂礫州は現在のものを含めて 3 列の砂礫州から成り立っている（第 4 図）。砂礫州は現在の姿を呈するまでに 3 段階の過程が認められ、内陸側の古い方から順に砂礫州 I・II と呼ばれる砂礫堆が存在する。これらは本地域の北西の傾動により浮島ヶ原の低地の下に埋没しており、現在の千本砂礫州は砂礫州 III に当たるものとされる。

千本砂礫州の発達過程はおおよそ以下のようである。浮島ヶ原では 9000 年前頃には海水の浸食が本格的になり、愛鷹山の山裾まで内湾の形成が始まった。9000～8000 年前は河口水の影響が強まるとともに、陸成堆積物の供給が卓越することになり、8000 年前頃から内湾の奥まで沿岸水・外洋水の影響が及び、砂礫州 I を構成する海成砂礫層の堆積が始まった。これに囲まれた部分は徐々に潟湖環境になり、7000～6000 年前には砂礫州 I の背後に位置する海域が潟湖化したと考えられる。しかし 6000 年前以降になると、砂礫州 I が完全に離水したことに伴い、背後の潟湖は沼沢地・湿地へと変化した。そして 5000～4000 年前には砂礫州 II が砂礫州 I の南側に形成されるようになると、これにより砂礫州 I が閉塞されるようになった。そして 2000 年前頃、すなわち弥生時代中期頃には背後を湿地とした、砂礫州 III が形成され現在に至っている。

低湿地へ人間が進出した時期は縄文時代中期である。砂礫州 I 上に位置する離鹿塚遺跡や砂礫州 II に位置する下道遺跡では縄文時代中期後半の遺物が出土しており、人間活動の場となっていたことが明らかになっている。弥生時代後期には砂礫州 III が離水したことによって、浮島ヶ原中央の湿地帯の環境が安定したためか、湿地帯の中にあって砂礫州 I に相当する微高地に築かれた離鹿塚遺跡には再び集落の形成が認められる。古墳時代以降になると浮島ヶ原中央部から海岸地域へ活動の場が移動し、砂礫州 III 上には集落や古墳群が形成されるようになった。中原遺跡も砂礫州 III 上に形成された遺跡の一つである。



第3図 遺跡位置図



第4図 周辺地質図（松原 2000 を原図に再トレース）

その後現代に至るまで千本砂砾州上は、東西を結ぶ主要な交通路として発展し、江戸時代には東海道の整備により原宿が形成され、現代に至っては、旧国道1号線やJR東海道本線などが通過している。

なお、千本砂砾州の形成過程については松原彰子による検討がある（松原 1995、2000）。

松原彰子 1995 「下道遺跡周辺の自然環境変遷」『沼津市文化財調査報告書第57集 下道遺跡発掘調査報告書』: 101～107 頁

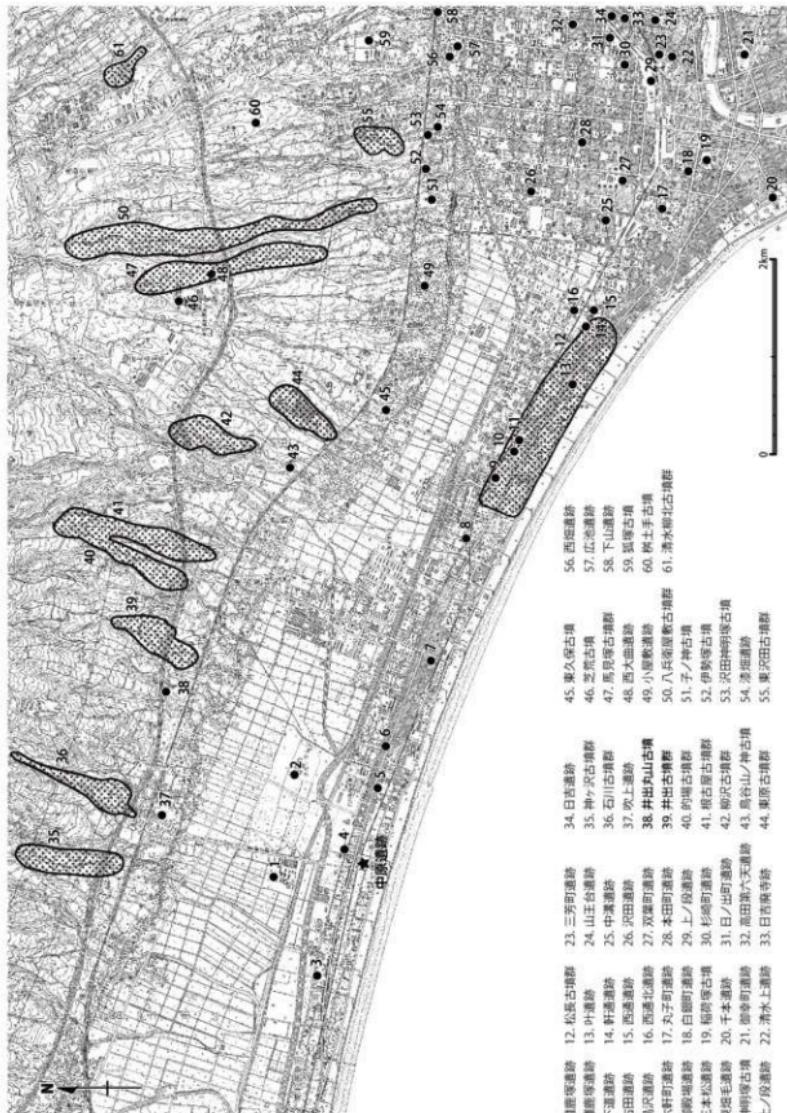
松原彰子 2000 「狩野川下流域における地形環境と遺跡の立地」『沼津市文化財調査報告書第74集 下石田原田遺跡発掘調査報告書』: 217～226 頁

第2節 周辺遺跡と歴史的環境

中原遺跡周辺に分布する遺跡を古墳時代後期から奈良平安時代を中心に、第5図に示した。

旧石器時代、縄文時代の遺構は、中原遺跡が立地する千本砂砾州の背後に広がる愛鷹山南麓の緩斜面に集中している。千本砂砾州では最も古く形成されたと考えられる砂砾州Iが6000～5000年前頃に離水しはじめて陸地化したことから、縄文時代中期以前を遡る遺跡は確認されず、縄文中期以降になつて現在では埋没してしまった砂砾州上に雄鹿塚遺跡（1）・雌鹿塚遺跡（2）・下道遺跡（3）・烏沢遺跡（5）が認められる。いずれも明確な縄文時代の遺構は検出されていないが、縄文時代中期から晩期にかけての遺物が出土している。

弥生時代の千本砂砾州上では弥生時代中・後期の遺跡が分布しているが、その数は少ない。一方、浮島ヶ原東縁に当たる後背湿地では、軒道遺跡（14）・西通遺跡（15）・西通北遺跡（16）などがある。これらは集落遺跡であり、このことから弥生時代中期頃から湿地帯の環境が安定したことで水田稲作が本格的に開始されたと考えられる。弥生時代後期になると愛鷹山南麓にも集落が形成されるようになるが、千本砂砾州上では六軒町遺跡（6）・三本松遺跡（8）などのごく少数の遺跡が確認されているものの、



第5図 周辺遺跡分布図

発掘調査は行われておらず詳細は明らかではない。

古墳時代になると千本砂礫州上、低湿地、狩野川下流域にも遺跡が多く分布するようになる。古墳時代前期の集落は主に愛鷹山南麓から裾部にかけて展開したが、千本砂礫州上においては、集落は確認されておらず、前方後円墳である神明塚古墳（10）が所在するのみである。千本砂礫州上の古墳時代中期から後期前半頃までの様相は明らかでないが、古墳時代後期前半（TK43段階以降）になると松長古墳群（12）が展開する。このころまで海岸沿いは古墳群が展開する地区であったようであるが、後期後半になると活動の場が主に海岸地区近辺へと移動したようで、下道遺跡（3）・古田遺跡（4）・鳥沢遺跡（5）・御殿場遺跡（7）など集落遺跡が展開するようになる。発掘調査が行われていないため詳細が不明な遺跡もあるが、中原遺跡と鳥沢遺跡（5）の間では断続的な土器の散布が認められるため、古墳時代後期後半には中原遺跡から鳥沢遺跡にかけて砂礫州微高地上の東西約1kmにわたって集落が形成されていた可能性が高い。またこの時期も千本砂礫州の北側に位置する浮島ヶ原の低湿地帯中央部の微高地には雄鹿塚遺跡（1）・雌鹿塚遺跡（2）が展開する。一方、このころ愛鷹山麓は居住域から墓域という認識に変化したようで、群集墳を主体とし、これらは開析谷に挟まれた尾根ごとに一群を成し、標高200m付近にまで古墳が分布する。現在のところ古墳群は神ヶ沢古墳群（35）・石川古墳群（36）・井出古墳群（39）・的場古墳群（40）・根古屋古墳群（41）・柳沢古墳群（42）・東原古墳群（44）・馬見塚古墳群（47）・八兵衛屋敷古墳群（50）・東沢田古墳群（55）・清水柳北古墳群（61）などが確認されている。

奈良平安時代の遺跡は千本砂礫州や後背湿地、黄瀬川扇状地などの低地で集落跡が多数確認されている。古代東海道は、富士郡柏原駅から旧国道1号線に沿うように海岸線北側、すなわち砂礫州上を通り、現在の沼津市街地を抜け、黄瀬川沿いに北上したと考えられている。千本砂礫州上の古代東海道沿いには、西から下道遺跡（3）・古田遺跡（4）・鳥沢遺跡（5）・叶遺跡（13）・東烟毛遺跡（9）・千本遺跡（20）が立地する。なかでも東烟毛遺跡や千本遺跡では奈良平安時代に属する住居址が多数検出され、掘立柱建物址などの遺構も認められる。また前者では縁軸陶器碗片や土器の墨書き土器などが出土し、後者では帶金具や縁軸陶器、皇朝十二銭が出土していることから、ともに官衙に関連する集落であった可能性がある。現在のJR東海道本線沼津駅北口付近に所在する上ノ段遺跡（29）も前述した古代東海道のルート上に位置するとされ、この遺跡からは縁軸陶器や唐三彩の陶枕が出土していることから、高位の人物の存在が確実とされる。また上ノ段遺跡から北東約300mの位置には白鳳時代から平安時代初期にかけて存続していた日吉廃寺跡（33）が所在し、いずれも古代東海道と強い関わりを持って成立したと考えられる。さらに東海道のルートからは外れるものの、御幸町遺跡（21）では帶金具、墨書き土器および刻書き土器などが出土している。以上のように、現在の沼津市中心域には、官衙関連集落と推定される遺跡が多数確認されるようになる。

中世になると、駿河・伊豆・相模および甲斐のほぼ境目に位置していた沼津は、政治的、軍事的に重要な地域となる。戦国期には北条氏・武田氏・今川氏といった強大な戦国大名が割拠するようになり、さまざまな軍事的拠点が生み出された。愛鷹山麓の裾部を通る根方街道は東海地方と関東を結ぶ幹線道路となり、根方街道沿いには興國寺城、熊堂砦などが築かれた。また沼津市中心域の大手町・土上町一帯に広がっていた三枚橋城は、江戸時代初頭には一時廃城となるが、その後三枚橋城の跡地を利用して沼津城が築城されることから、沼津市中心域が奈良平安時代から近世に至るまで重要な地であったことがうかがえる。

近世の東海道は廃城となった三枚橋城の城域を通過し、現在の県道柏原沼津線へとつながる。千本砂礫州上に存在した中世・近世の遺跡は東烟毛遺跡（9）・下道遺跡（3）が認められるが、東烟毛遺跡は陶磁器類の出土が確認されているのみで、明確な遺構は検出されていない。下道遺跡（3）では近世の溝状遺構が検出され、それが平行または直交する状態で確認されている。当地域でいうヒトワリ（間

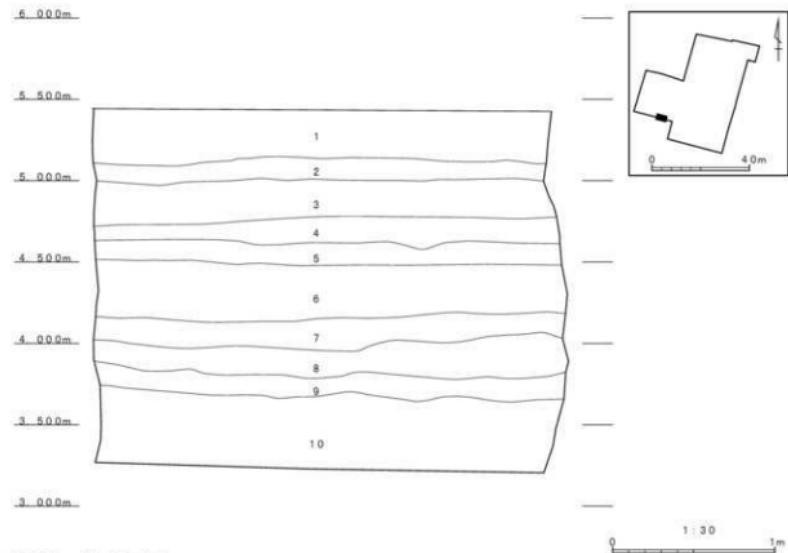
口6間、約10.8m)の間隔が認められることから新田開発が行われた以降のものと考えられる。この地域は近世の東海道に沿る街道筋と推定される。

第3節 遺跡の層位

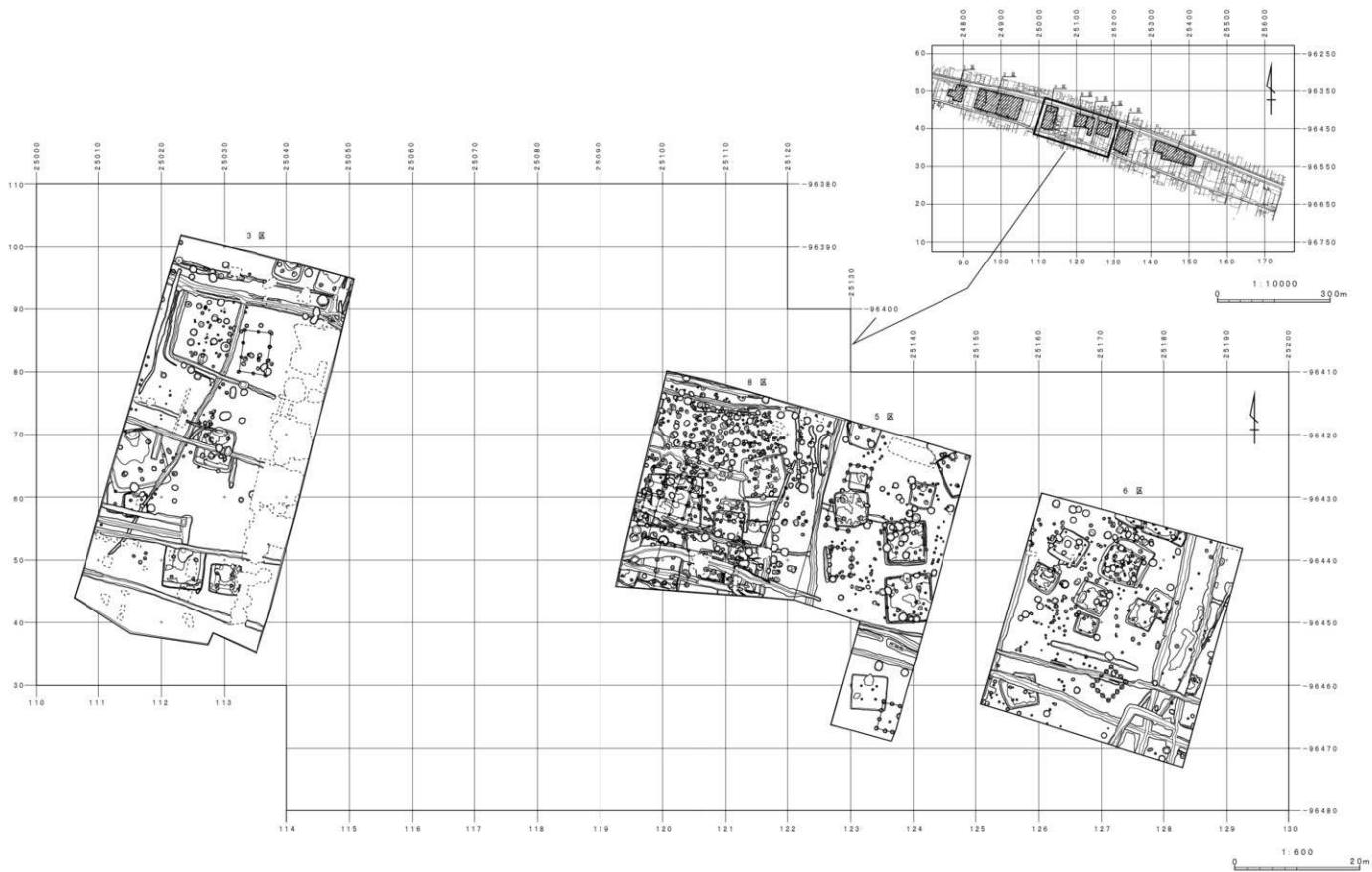
1区の拡張部南側の土層堆積状況を観察した。現地表から深さ約2mの基本土層断面を作成し、土層は10層に分層された(第6図)。

1層は耕作土で、層厚は28~35cmである。黒色を呈するシルト分を主体とし、腐植土混じりで細礫が多く含まれる。2層以下は細礫(径2~4mm)を主体とする。2~8層ではいずれも細砂~微細砂の軽石型火山ガラスが微量に認められる。2層は黒色土で、層厚は13cm前後である。径6mm以下の黒色・褐色のスコリアを含む。シルトが混じりやや腐植質である。3層はスコリア混じり黒褐色土で、層厚は25cmである。径7mm以下の黒色・褐色・灰褐色のスコリア、径1mmの軽石を含む。灰褐色スコリアは発泡が不良である。4層は腐植混じり砂礫層で、層厚は10~20cmである。径9mm以下の黒色・褐色スコリア、径1mmの軽石を含む。径4~8mm以下の礫も含まれる。5層はスコリア混じり黒色土で、層厚は9~15cmである。径10mm以下の黒色・褐色スコリア、径1.2mmの軽石を含み、シルトが混じる。

6層以下は富士川などから供給された砂礫が堆積して形成されたと考えられる。6層は腐植混じり黒褐色砂礫層で、層厚は30~36cmである。径1.8mmの軽石を多量に含む。7層は腐植混じり黄褐色砂礫層で、層厚は13~20cmである。径1.2mmの軽石、極粗砂を含む。8層は黄褐色砂礫層で、層厚は12~26cmである。径1mmの軽石を微量に含む。9層は黄褐色がかった青灰色砂層で、層厚は10~15cmである。黄褐色砂礫層から青灰色砂層への漸移層と思われる。10層は青灰色砂層で、層厚は48cm前後である。なお、本書で報告する古墳時代後期から奈良平安時代の遺構は、5層下部から6層上面で検出されている。



第6図 土層断面図



第7図 調査区位置図（第1分冊報告分）

第Ⅲ章 3区の調査

第Ⅲ章 3区の調査

第1節 3区の調査経過

中原遺跡3区は、全体調査区の中で中央からやや西側に位置し、調査面積は2,044m²である（第9図）。平成20年7月2日から重機による調査区東側の表土掘削を開始した（第9図・①の範囲）。表土掘削と並行して7月10日からは防砂ネット等の資材を搬入し場内整備を行った。人力による掘削作業は7月14日から開始し、8月5日までに遺物包含層までの掘り下げの大部分を完了させたため、8月7日からは残る遺物包含層の掘り下げ作業と並行して遺構面の精査を開始した。その結果、①調査区の南西端部においてSB1が検出されたため、その全体を調査する目的で②の範囲を拡張し、さらに南側における遺構の有無を確認することを目的として調査区を③の範囲にて拡張を行った。だが③の範囲ではSD1が検出されたほかは遺構が確認されなかったため、これ以上の拡張は行わず、①～③の範囲にて遺構検出作業を再開した。大部分の遺構検出が完了した後に、8月19日にグリッドの設定を行い、8月20日から検出遺構の掘り下げに着手した。遺構調査は12月11日まで継続して実施し、これによつて調査区東側の調査が完了したため、12月12日に空中写真撮影を行い、その後は他の調査区の進捗状況に合わせて3区の調査を一時中断した。

12月22日より再開し、東側の調査・埋戻しと並行して西側の表土掘削を④の範囲にて行った。④は、平成21年1月6日から人力による掘削作業を開始し、1月7日には遺物包含層まで掘り下げた。1月13日から遺構検出面の精査に着手し、1月16日から検出遺構の掘り下げを行った。3月15日までに全遺構の掘り下げが完了したことから、3月16日に空中写真撮影を実施し、その後埋め戻し作業を実施した。3月19日には埋め戻しが完了したことから、同日資材の撤去を行い、3区の作業を完了させた。

第2節 3区の遺構と遺物

調査区東端は攪乱を受けているものの、それ以外の箇所ではほぼ全域で遺構が検出された。遺構には古墳時代後期から奈良平安時代にかけての竪穴住居址8軒とこれらと同時期と思われる掘立柱建物址1棟、年代ははっきりしないものの近世以降のものも含まれる溝状遺構19条などがある。また組み合わせの判明しなかったピットは162基検出された。ピットは検出状況や出土遺物から、さまざまな時代に帰属するものが混在しているものと考えられる。

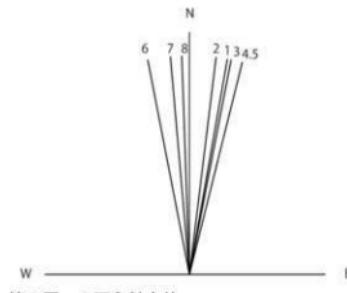
出土遺物は古墳時代後期から奈良平安時代に帰属するものが大部分を占めるが、中世以降の遺物も少量ながら出土している。遺物は遺構から出土したものを中心図示した。

(1) 竪穴住居址 3-SB

調査区北端で2軒、中央で1軒、西端で3軒、南側で2軒検出されている。主軸方位はSB1～5は北北東-南南西軸、SB6～8は北北西-南南東軸に分かれると、主軸方位を大きく異なるSB遺構はなく、おおむね北壁にカマドを有す（第8図）。

3区第1号住居址 (3-SB1 第10図～第13図)

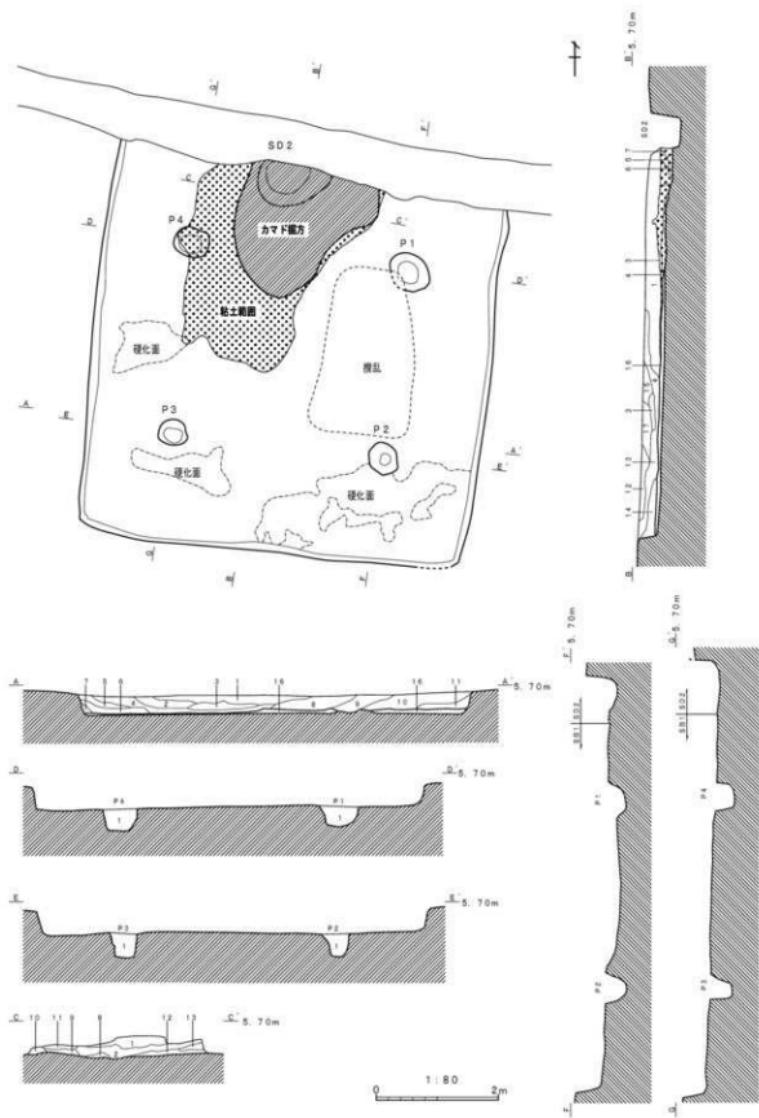
112-40Gr・112-41Grで検出された。北辺をSD2に切られており、また床面に一部攪乱を受けている。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.28mが残存していた。



第8図 3区主軸方位



第9図 3区遺構配置図・3区調査区割付図



第10図 3区第1号住居址実測図

A - B - C	1	7, 5YR3/2	黒 壁 2~4mmの細隙、スクリアを20%。2~4mmの化物を少量。土基片を含み残す。
	2	TOYR3/2	灰 黄色 残性土有り2~6mmの細隙、2mm程度の化物、粘土を微量、2mm以下スクリアを含む。
	3	TOYR3/2	黒 壁 やや黄色有り3~5mmの細隙、スクリアを微量に含む。
	4	TOYR3/1	黒 壁 2~3mmの細隙、土基片、2~3mmの細隙を含むと思われる。
	5	TOYR3/4/1	黒 壁 2~3mmの細隙、土基片、2~3mmの細隙を含むと思われる。
	6	TOYR3/2	黒 壁 2~3mmの細隙、2mm以下スクリアを含むと思われる。
	7	2, 5YR4/2	黒 壁 2~4mmの細隙を含むと思われる。
	8	2, 5YR3/1	黒 壁 2~4mmの細隙、スクリアを含むと思われる。
	9	TOYR3/1	黒 壁 2~4mmの細隙、スクリアを含むと思われる。
	10	TOYR3/1	黒 壁 ワタリ状の2~3mmの細隙、1mmのスクリアを微量に含む。
	11	7, 5YR3/2	灰 黃 2mm程度の細隙、2~10mm程度の化物を少量、3~4mmの細隙を含む。
	12	2, 5YR3/1	黒 壁 2mm程度の細隙を含むと思われる。
	13	TOYR3/2	黒 壁 2~3mmの細隙を含むと思われる。
	14	TOYR1, 7/1	黒 壁 地盤の中に10mm以下円柱とスクリアの粒を含む。
	15	SP2/2	黒 壁 褐色をかったたで見えたと思われるスクリアを含む。
	16	5YR3/5/1	黒 壁 2~4mmの細隙、スクリアを20%。2~4mmの化物を少量。土基片を含み残す。
	17	7, 5YR3/2	黒 壁 2~4mmの細隙、スクリアを20%。2~4mmの化物を少量。土基片を含み残す。

D-E P1, P2, P4 1 TOYR2/1, P3 1 TOYR1, 7/1 黒 1~2mmの細隙を主体とする細隙層
黒 1~2mmの細隙を主体とする細隙層

第11図 3区第1号住居址土層注記

規 模 東西 6.44m × 南北 6.32m (残存部) 重複関係 (古) SB1 → SD2 (新)

主軸方位 N-10°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。径は 0.45 ~ 0.64m、深さは 0.28 ~ 0.35m を測る。

貼 床 細縫を含む黒褐色土を使って床面としている。また住居址南東隅および西側において硬化面がまばらに認められる。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土の広がりとカマド構築時の掘方が認められた。

遺 物 多量の土器片が出土しているが、床面直上からの出土したものは少ない。ここでは比較的形を復元できた土器 25 点と石製品 2 点を図示した。1 ~ 19 は土器師、20 ~ 25 は須恵器である。

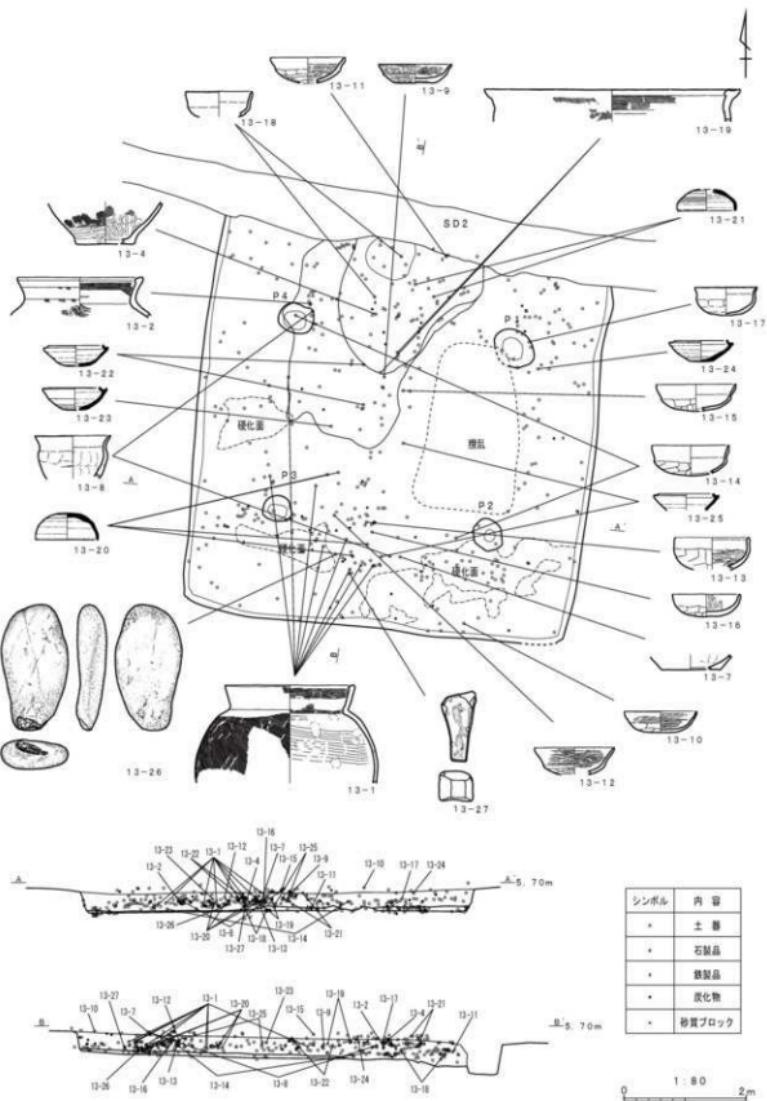
1 ~ 8 は甕である。1 は球胴を呈し、外面と内面で異なる工具によるハケメ調整が施される。2 は胴部の一部にミガキ調整が施される。3 は 2 と同じ残存状況であるが、ミガキは観察できない。4 は内外面ともにミガキのような光沢を持つ丁寧な調整が認められるが、同じく底部片の 5 ~ 7 はナデのみである。8 は小型甕で、胴部に指頭圧痕が明瞭に残る。

9 ~ 18 は壺である。9 は平底で、口縁部が外反し、内面には丁寧なミガキ調整が施される。また底部は他の資料と比べて厚みがあり、糸切り痕が残る。10 と 11 は口唇部が内傾し、外面体部下半はケズリ調整である。11・12 は内外面ともに黒色処理が施される。13・14・15 は体部下半をヘラケズリし、その後ミガキを施しているが、14・15 は摩耗しておりミガキの痕跡は明瞭ではない。13 は口縁部が内傾し、14・15 は体部下半に稜を持ち、口縁部は外に向かって開く。16 も同じく外面はヘラケズリであるが、内面はタテ方向のミガキが観察できる。稜は明確ではなく、丸みを持って立ち上がる。17・18 は胎土に黒色粒を含んだ粗製の壺で、17 は口唇部が外反し、18 は真っ直ぐに立ち上がる。19 は壺である。ハケメ調整を施し、ミガキ調整は認められない。11 と 14 は床面直上付近、18 はカマド掘方から出土した。

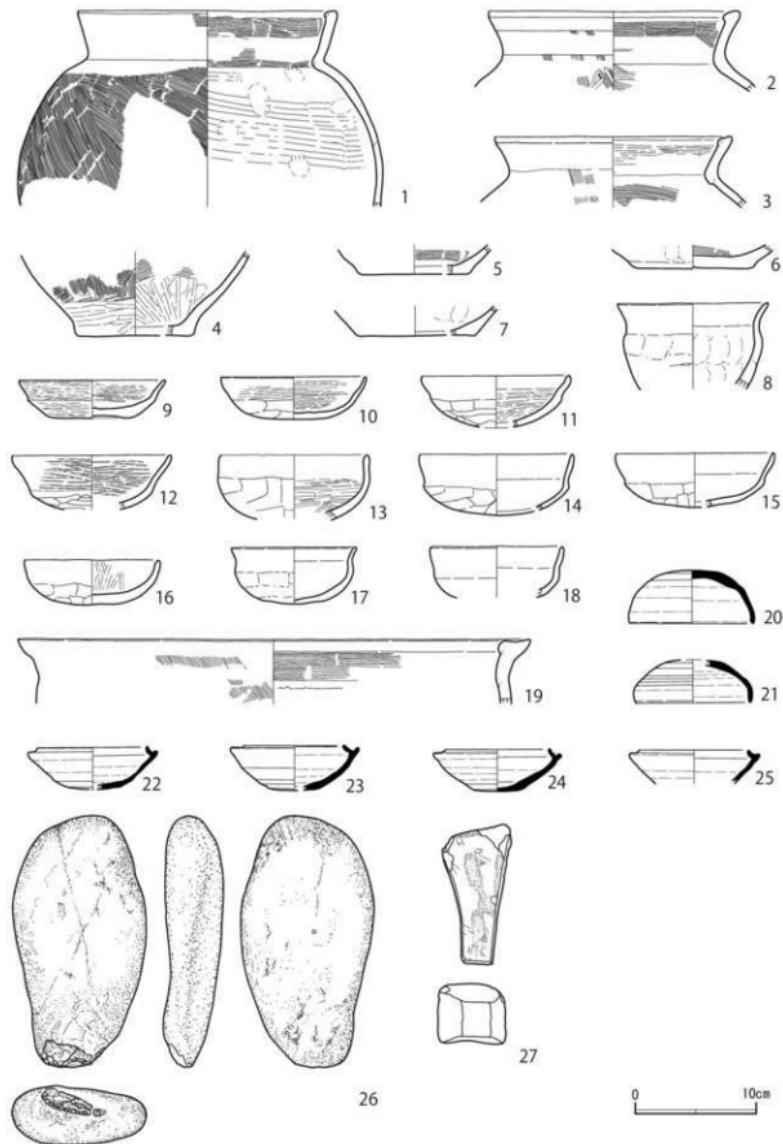
20 ~ 25 は須恵器壺蓋および壺身である。20 は遠江IV期前葉頃、21 はそれよりやや小さく遠江IV期前葉～後葉頃にそれぞれ位置づけられる。22・23 は 20 とほぼ同サイズの壺身であるため、20 と同時期、24・25 は 22・23 よりもやや小型化しているため、21 と同時期であろう。

石製品は床面で出土した 2 点を図示した。26 は礫石斧、27 は砥石で、26 の石材は泥岩、27 の石材は砂岩である。26 は最大長 20.4cm の扁平楕円礫で、端部に打撃痕を残す。27 は上面を除いて全ての面に使用された痕が残る。

時 期 ミガキを伴わない土器師甕や比較的下層から出土した 20 を根拠とすれば、7 世紀前半頃と考えられるが、須恵器にやや年代幅があるため、7 世紀の範囲内にて位置づけておきたい。



第12図 3区第1号住居址遺物出土状況図



第13図 3区第1号住居址出土遺物実測図

3区第2号住居址（3-SB2 第14図・第15図）

112-40Gr・113-40Grで検出された。北辺と東辺の一部に現代の擾乱を受けている。平面形はほぼ正方形を呈し、立ち上がりは深さ0.32mが残存していた。住居址中央がやや盛り上がっており、その範囲を細い実線で示した。

規 模 東西4.80m×南北4.64m 重複関係 なし

主軸方位 N-7°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。径は0.45～0.55m、深さ0.39～0.51mである。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は住居址中央のほか、南東・南西部に認められる。

カマド カマドの構築土と思われる粘土の広がりが住居址北辺から中央にまで認められた。このことからカマドは北辺中央に位置していたものと考えられるが、崩壊していたため形状は確認できなかった。粘土範囲内で少量の土器と礫がまとまって出土している。

遺 物 土器は破片資料が多く、図示できたものは1点のみである。1は甕の底部片で、木葉痕が残る。なお、図示ができなかった小片にはミガキ調整を伴わない土師器甕、内面黒色処理を施した須恵器模倣壺、小型化が進行した須恵器壺身などがある。

時 期 小型化した須恵器壺身から7世紀代と考えられる。

3区第3号住居址（3-SB3 第16図～第18図）

112-42Gr・112-43Gr・113-42Gr・113-43Grで検出された。調査区①と④にまたがって検出されたため、東側と西側は別々に調査し、図面上で合成した。SD5・SD13・SD14・ピット等に上端を切られる。平面形は南北方向に長軸を持つ長方形を呈し、立ち上がりは深さ0.50mが残存していた。

規 模 東西6.06m×南北6.65m 重複関係（古）SB3→SD14→SD13→SD5（新）

主軸方位 N-11°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 6基検出。P1～P4が主柱穴と考えられる。P1・P2と比べ、P3・P4はやや大形で、P1・P2は径0.56～0.58m・深さ0.32～0.50m、P3・P4は径0.82～0.85m・深さ0.33～0.36mである。P5とP6はそれぞれ径0.74m・深さ0.27m、径0.96m・深さ0.22mを測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面はまばらに検出されている。

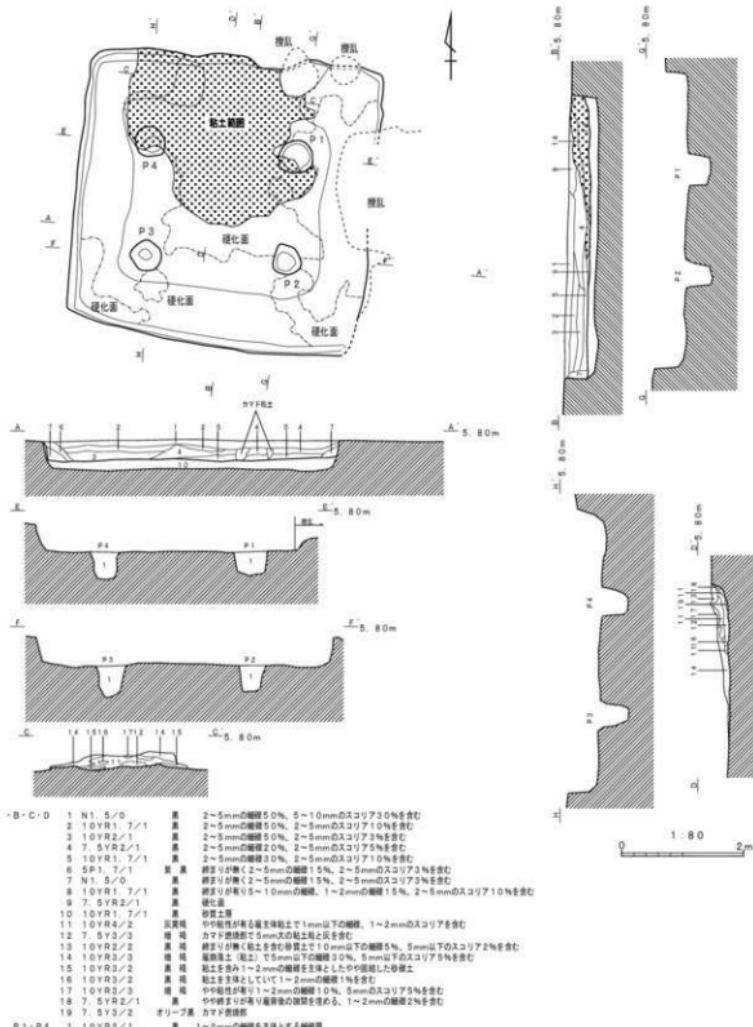
カマド 崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土の広がりと掘方が認められた。のことより、カマドは北辺に据えられていたと考えられる。

遺 物 土器は覆土中から多量に出土しているが、破片資料が多く、図示できたものは土器5点のみである。1～3は土師器、4・5は須恵器である。

1は小型甕で、口縁部から胴部が残存している。頸部に若干の光沢が認められる。2は甕の底部片で、ハケメの後に丁寧なヘラナデがなされ、やや光沢を持つ。3は甕もしくは壺の底部である。外面は摩耗が激しく調整は不明瞭である。

4は返り蓋、5は壺身で、それぞれ床面直上から出土している。遠江Ⅲ期末葉～Ⅳ期前葉頃に位置づけられる。なお、砂岩製の砥石も出土しているが、小片のため図示できなかった。

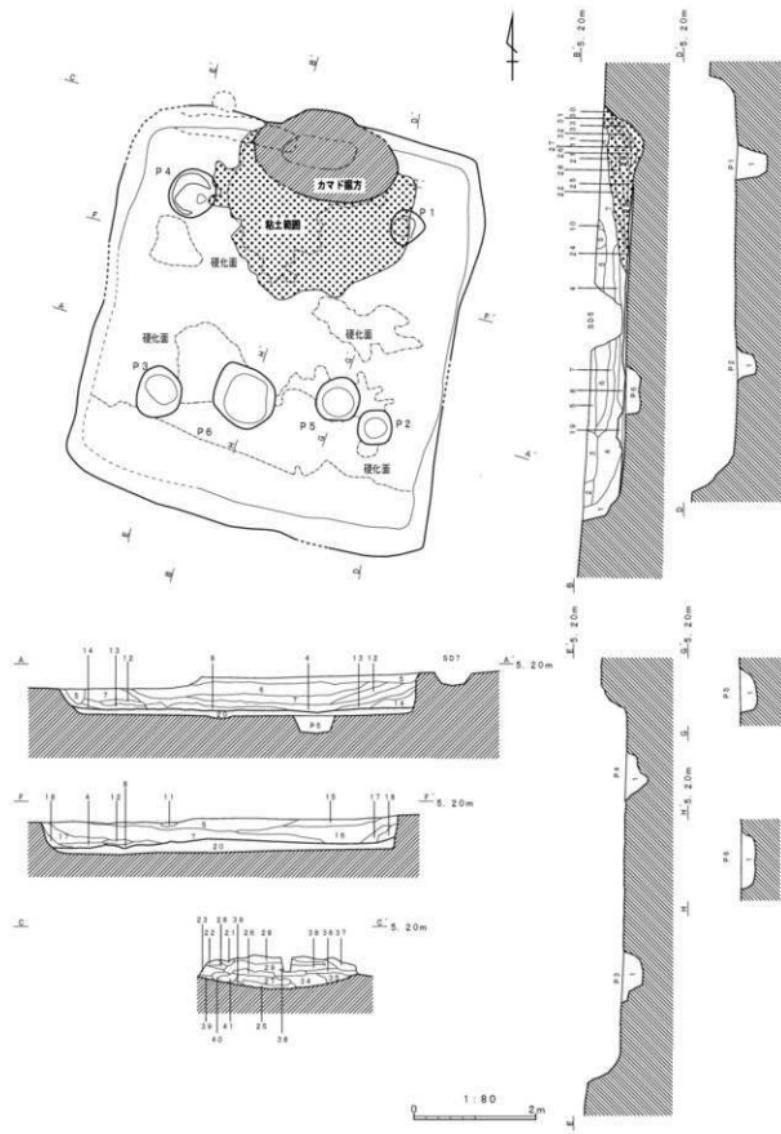
時 期 床面直上より出土した4・5を根拠として、7世紀前半に位置づけられる。



第14図 3区第2号住居址実測図



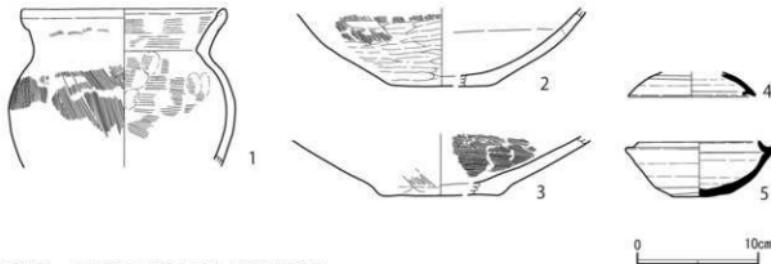
第15図 3区第2号住居址出土遺物実測図



第16図 3区第3号住居址実測図

A・B・C・F	1 N3/0	堆・灰	やや粘性があり1mm以下の凹面、1~5mmの細縫を含む
2 N4/0	堆・灰	2~7mmの細縫を含む	
3 N4/0	灰	2~10mmの細縫、2~3mmのスコリアを少量含む	
4 N3/0	堆・灰	サラサラしている2~10mmの細縫、1~2mmのスコリアを少量含む	
5 N2/0	堆・灰	2~9mmの細縫、2mm以下のスコリアを少量含む	
6 S2/0	堆・灰	2~9mmの細縫、2mm以下のスコリアを少量含む	
7 S2/0	堆・灰	1~5mmの細縫、スコリアを少量含む	
8 10YR3/1	真・褐	1~5mmの細縫、2~3mmのスコリアを少量含む	
9 5G3/1	褐色灰	2~4mmの細縫、2mmのスコリアを少量含む	
10 2・5Y2/1	褐	1~10mmの細縫を含む	
11 5Y2/1	褐	やや粘性があり1~2mmの細縫、スコリアを少量含む	
12 10YR2/1	真	やや粘性があり2~7mmの細縫、2mm以下のスコリアを少量含む	
13 5Y2/2	オリーブ	2~5mmの細縫、1mm以下のスコリアを少量含む	
14 5Y2/1	真	粘性があり2~3mmの細縫を多く含むスコリアを少量含む	
15 2・5Y2/1	真	サラサラしてV1~2mmの細縫、特に7~8mmの細縫を含む	
16 2・5Y2/1	褐	2~6mmの細縫、2mm以下のスコリアを少量含む	
17 2・5Y2/1	真	1~5mmの細縫、2~3mmのスコリアが混在し、土砂片を1個含む	
18 10YR2/1	真	やや粘性があり2~5mmの細縫、スコリアを微量に含む	
19 5PB3/1	褐色灰	粘性有り	
20 2・5Y2/1	褐	2~5mmの細縫、1~2mmのスコリアを少量含む	
21 10YR2/1	真・褐	2~5mmの細縫、3~4mmのスコリアを含む	
22 5Y2/2	褐	粘性があり2~3mmの細縫、5~6mmの土砂片を含む	
23 10YR3/2	真・褐	粘性があり2~3mmの細縫、3~4mmのスコリアを含む	
24 7・5YR2/2	真・褐	1~5mmの細縫、2~3mmのスコリアが混在し、土砂片を1個含む	
25 7・5YR2/2	真	1~3mmの細縫を多く含む土を含む	
26 5Y2/3	褐色灰	粘性があり2~3mmの細縫を多く含む	
27 5Y2/2	褐	粘性があり2~3mmの細縫を多く含む	
28 10YR3/2	真・褐	やや粘性があり1~2~3mmの土砂片が混在し、5mm以下の凹面を微量、2~3mmの細縫を含む	
29 10YR2/3	褐	粘性があり2~3mmの細縫、5mm以下の土砂片を含む	
30 10YR3/3	褐	粘性と粘性と有り凹面を2%、2mm以下の細縫15%、3mm以下のスコリア3%を含む	
31 7・5YR2/3	褐	粘性と粘性と有り1mm以下の細縫15%、5mm以下のスコリア75%を含む	
32 10YR2/3	褐	粘性と粘性と有り1mm以下の細縫15%、5mm以下のスコリア75%を含む	
33 10YR2/3	褐	粘性と粘性と有り5mm以下の凹面を微量、5mm以下の細縫2%、8~10mmのスコリア7%を含む	
34 7・5YR2/2	褐	粘性と粘性と有り5mm以下の凹面を微量、5mm以下の細縫2%、8~10mmのスコリア7%を含む	
35 10YR2/1	真	1~4mmの細縫を含む漂白土	
36 10YR2/1	真	細縫の間に小石の砂礫と塊状の鐵物を含む漂白土	
37 10YR2/1	真	2~5mmの細縫、スコリアを微量含む	
38 10YR2/1	真	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
39 10YR2/1	真	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
40 10YR2/1	真	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
41 10YR1.7/1	真	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
D-E-G-H P1-P2-P4	1 10YR2/1	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
P3-P5	1 10YR2/1	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	
P6	1 10YR1.7/1	1~2mmの細縫を多く含む漂白土	

第17図 3区第3号住居址土層注記



第18図 3区第3号住居址出土遺物実測図

3区第4号住居址(3-SB4 第19図・第20図)

113-45Gr・114-45Grで検出された。北半が調査区外へ広がっているため全容は明らかではないが、北側においてカマド構築土と考えられる粘土の広がりが検出されていることから、平面形は主軸を南北に持ち、南辺がやや弧状を呈す方形と推定される。立ち上がりは深さ0.67mが残存していた。

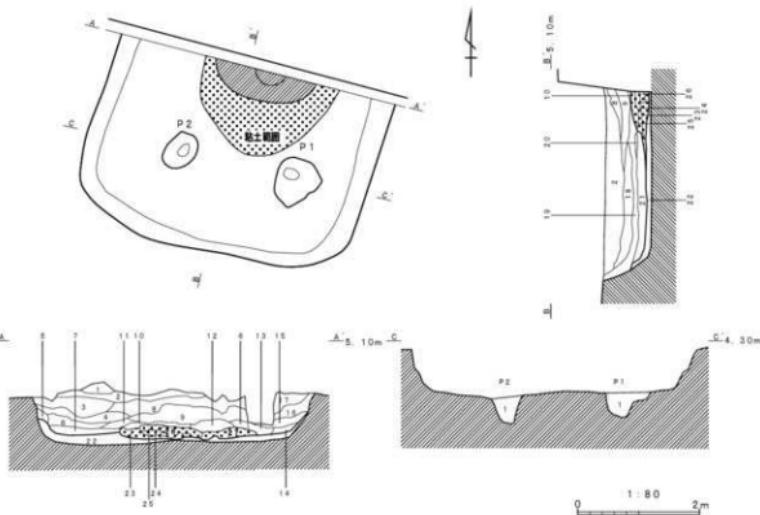
規模 東西4.48m×南北3.08m(検出部) 重複関係 なし

主軸方位 N-14°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 2基検出。P1は径0.73m・深さ0.41m、P2は径0.51m・深さ0.44mである。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北側でカマドの構築土と思われる粘土の広がりが認められることから、調査区外における北壁に位置していると推測される。



A (古マド)	1 N2/0	黒 紗ラウラとして10mm程度の隙間がある1.2~7mmの細隙。複数のスクリアを含む悪い土
2 10YR 2/1	黒 紗ラウラとして1.2~5mmの細隙。1mm以下スクリア15%を含む	
3 2 5YR 2/1	黒 紗ラウラとして1.2~5mmの細隙。3~4mmのスクリアを含む	
4 N2/0	黒 1~5mmの細隙。1~2mmのスクリアを含む	
5 N3/0	緑・灰 2mm以下の隙間。1~2mmのスクリアを含む悪い土	
6 10YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~7mmの細隙。1mm以下のスクリアを少量含む	
7 10YR 2/1	黒 2~10mmの細隙。2~3mmのスクリアを含む	
8 10YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~7mmの細隙。1mm以下のスクリアを少量含む	
9 10YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~7mmの細隙。2~5mmのスクリアを含む	
10 10YR 2/1	黒 サララとして1.2~3mmの細隙。1mm以下スクリアを含む	
11 7.5YR 2/1	黒 1.5~2mmの隙間がある。1~5mmの細隙。2~5mmのスクリア10%を含む	
12 10YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~7mmの細隙。1mm以下のスクリアを含む	
13 10YR 2/1	黒 中等堅性(有)1.2~7mmの細隙。1~2mmのスクリアを含む	
14 10YR 2/1	黒 2~5mmの細隙。スクリアを含む	
15 10YR 2/1	黒 2~5mmの細隙。2~3mmのスクリア30%を含む	
16 5YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~5mmの細隙。1~3mmのスクリアを少量含む	
17 10YR 2/1	黒 サララとして1.2~5mmの細隙。1~3mmのスクリアを少量含む	
18 N2/0	黒 やや堅性(有)1.2~5mmの細隙。2~3mmのスクリアを含む	
19 N2/0	黒 1~5mmの細隙。5mm以下のスクリアを含む	
20 10YR 2/1	黒 やや堅性(有)1.2~4mmの細隙。1~2mmのスクリアを含む	
21 7.5YR 2/1	黒 1.0mm程度の隙間。2~5mmの細隙。1~2mmのスクリア20%を含む	
22 5YR 2/1	黒 变質土	
A (古マド)	23 10YR 1.7/1	黒 2~5mmの細隙。1~2mmのスクリアを含む
24 10YR 1.7/1	黒 やや堅性(有)1.2~5mmの細隙。1~2mmのスクリアを含む	
25 7.5YR 2/1	黒 多少堅性(有)1.2~5mmの細隙。2~3mmの細隙。スクリアを少量に含む	
26 10YR 2/1	黒 2~5mmの細隙。スクリアを含む	
27 10YR 2/1	黒 1~2mmの細隙を含む	
C P1	SYR 1.7/1	細隙を主とする隙間層5~7mmの細隙10%、1~2mmの細隙を含む
P2	SYR 1.7/1	細隙を主とする隙間層5~10mmの細隙10%、1~2mmの細隙を含む

第19図 3区第4号住居址実測図

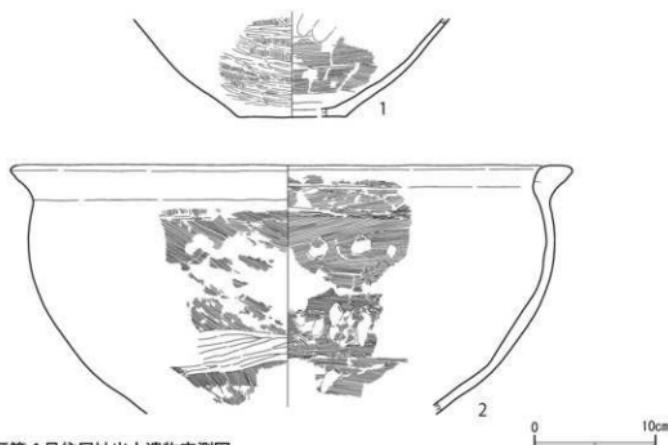
遺 物 土師器2点を図化した。1は甕で、胴部下位から底部が残存し、胴部にはハケメ調整の後にミガキ調整が施される。2は壺で、口縁部から胴部下位が残存する。胴部下半に丁寧な横位方向のナデもしくはミガキ調整が認められる。

時 期 ミガキを伴う甕と壺から、7世紀後半~8世紀前半頃に位置づけられる。

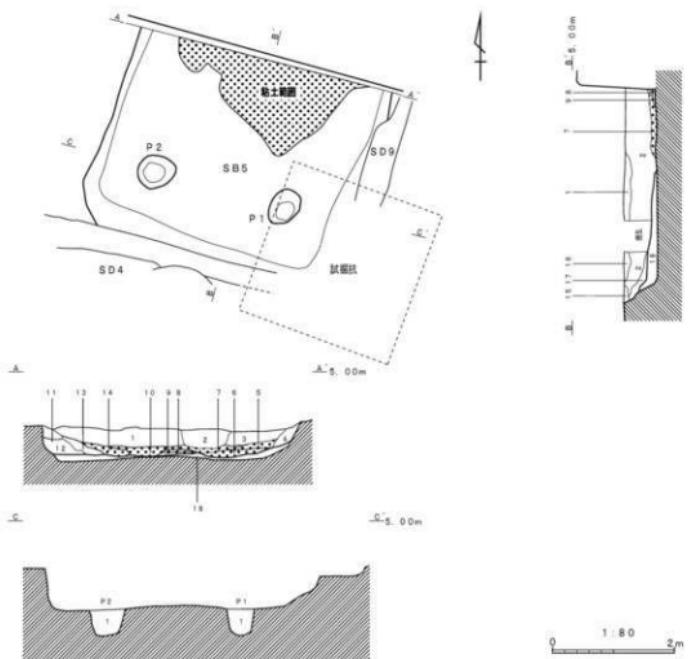
3区第5号住居址 (3-SB5 第21図・第22図)

114-45Grで検出された。北半は調査区外へ広がっており、全容は明らかではない。しかし北側でカマドの構築土となる粘土の広がりが検出されていることから、カマドを北辺に持ち、平面形は方形を呈すると推定される。立ち上がりは深さ0.42mが残存していた。

規 模 東西4.45m×南北3.53m(検出部) 重複関係 (古) SB5→SD4・SD9(新)



第20図 3区第4号住居址出土遺物実測図



第21図 3区第5号住居址実測図

A-B	1 2. SYR2/1	黒	跡まりが無い層自落土で10~30mmの円錐、1~8mmの細縫35%、5mm以下のスコリア3%を含む
	2 TOYR1. 7/1	黒	黒色として下部ほど細縫が多く、2~5mmのスコリア5%を含む
	3 TOYR2/1	黒	やや跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ1%を含む
	4 TOYR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ1%を含む
	5 TOYR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で1~2mmの細縫30%、2~5mmのスコリヤ1%を含む
	6 TOYR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ1%を含む
	7 TOYR2/1	黒	やや跡まりが有る黒色土で細縫とスコリヤ3%を含む
	8 TOYR2/1	黒	やや跡まりが有る黒色土で細縫とスコリヤ1%を含む
	9 TOYR2/1	黒	黒色として下部ほど細縫が多く、2~5mmのスコリヤ1%を含む
	10 2. SYR2/1	黒	跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ5%を含む
	11 N2-YR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で1~2mmの細縫30%、1~2mmのスコリヤ1%を含む
	12 2. SYR2/1	黒	黒色細縫土で1~2mmの細縫を含む
	13 TOYR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で1~2mmの細縫30%、1~2mmのスコリヤ1%を含む
	14 2. SYR2/1	黒	跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ1%を含む
	15 SYR1. 7/1	黒	跡まりが無い層自落土で細縫とスコリヤ1%を含む
	16 5 SYR1. 7/1	黒	跡まりが無い30mm以下の円錐、5mmのセメント1kg、2~5mmの細縫30%、5mm以下のスコリヤ1%を含む
	17 7. SYR1. 7/1	黒	跡まりが無い1~5mmの細縫35%、3mm以下のスコリヤ7%を含む
C P1	10 YR2/2	砂	砂質土層
C P2	10 YR2/1	黒	1~2mmの細縫を主体とする細縫土で10~50mmの円錐を含む

第22図 3区第5号住居址土層注記

主軸方位 N-14°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 2基検出。P1の径は0.60m・深さ0.42m、P2の径は0.46m・深さ0.43mである。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド 北側でカマドの構築土と思われる粘土が認められることから、調査区外の北辺に位置する可能性がある。

遺 物 砕と土器の破片資料が出土したのみで、図示できるものはなかった。

時 期 不明。主軸方位が西側のSB4と同じことからSB4と同時期か。

3区第6号住居址(3-SB6 第23図~第30図)

111-42Gr・111-43Gr・112-42Grで検出された。北西角は調査区外へ広がる。SDや攪乱により上端の一部が切られているが、その範囲は浅かったため、SB6の下部は残存していた。残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.53mが残存していた。3区における最大の住居址であり、遺物も多量に出土している。

規 模 東西9.20m×南北9.43m 重複関係 (古) SB8→SB6→SD5・SD15・SD16(新)

主軸方位 N-11°-W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 5基検出。P1は径0.78m・深さ0.63m、P2・P4・P5の径は0.53~0.68m、深さ0.45~0.58m、P3の径0.96m、深さ0.60mである。P1~P4が主柱穴と考えられる。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。カマド周辺において硬化面が認められた。

カマド 北辺中央に位置していたと考えられるが、崩壊しているため形状は確認できなかった。調査では、カマドの構築土と思われる粘土とカマドの掘方を検出した。

遺 物 覆土中から多量の土器が出土している。ここでは土器74点、石器1点、銅製品1点の計76点を図示した。1~53が土師器、54~74が須恵器である。

1~30は土師器裏で、これらの出土平面位置は第25図に、断面位置は第30図の①・②に示した。1~5は球形腰で、1・2は最大径を胴部中位からやや上位に持つ。3は最大径が1・2よりも高く肩部にある。一方、4は最大径が中位からやや下位にある。6は遠江系の水平口縁長胴腰である。胎土に白雲母を含み、粗いハケメ調整が施される。7~15は口縁部から頸部もしくは胴部上位のみ残存している個体である。8~12は外面にハケメ調整を施した後、頸部はナデによって仕上げる。12は他の個体と比べ、外面のハケメ調整も粗い。13~15は頸部にミガキ調整が認められ、15のみ口縁部において縦方向に暗文のようなミガキ調整が施される。16~30は胴部下半から底部が残存する個体である。16は胴部中位における接合部に丁寧なヘラナデを施す。その他は、底部にミガキ調整を施す個体もあるが、基本的にはハケメ調整および底部ナデである。

31~47は壺である。これらの出土平面位置は第28図に、断面位置は第30図③・④に示した。須

患器模倣環と内傾しながら立ち上がるタイプの2種が認められる。31～44・47は体部から底部にかけてヘラケズリによって調整がなされるほか、31～34には黒色処理が施される。31～41までは胎土は密であるが、42～47は粗製の胎土で、黒色粒がまばらに含まれる。また44・46・47の底面には木葉痕が残る。48～53は塊である。48～51は胎土が密な個体で、52のみ黒色粒を含む粗い胎土の個体である。48は黒色処理が施されている。52の底部には木葉痕が残る。53の外面は粗いケズリ調整が施される一方で、内面には丁寧なミガキ調整が観察できる。

54以降は、出土平面位置を第30図に、断面位置を同図の⑤・⑥に示した。54～61は須恵器蓋である。61のみ摘みを有する。62～68は环身である。69は判断に迷うが同じく环身であろう。いずれも口縁部の立ち上がりが短く、小型である。70～72も同じく环身で受部を持たない。73は高环の环部、74は高环の脚部である。出土した須恵器は54を除き、おおむね遠江III期末葉～IV期後葉頃であり、年代にはやや幅がある。

75は砥石で、下半は失われているが、凝灰岩質で正面および左側面に使用された痕が残る。掘方より出土した。76は銅製耳環で、鍍金には銀が認められる。縦1.6cm、横1.8cmで、重量は5.44gと小型である。床面より出土した。

時 期 遺物に年代幅があるが、ミガキを伴わない土師器甕、土師器环の稜が緩い個体や小型化した須恵器环身が床面もしくは掘方から出土していることを評価すると、7世紀中葉～後葉頃に位置づけられる。やや年代の古い遠江III期末葉の遺物は、出土位置でSB8とやや離れるものの、切り合い関係を持つSB8からの混入であろうか。

3区第7・8号住居址（3-SB7・3-SB8 第31図～第33図）

SB7は111-41Gr・111-42Grで検出された。SD16・SD18・ピット・攪乱等に上端の一部が切られるが、その深度は浅く、ほぼ全容を捉えることができた。平面形は東西に長軸を持つ方形で、SB8を切っている。立ち上がりは深さ0.70m残存していた。SB6との切り合い関係は重複箇所にPT118が入っているため明らかではない。

SB8は111-41Gr・111-42Grで検出された。遺構の半分以上が切られているため、全容は明らかではないが、残存部分から北側がやや弧状を呈す方形と推定される。立ち上がりは深さ0.37mが残存していた。

規 模 SB7 東西3.75m×南北4.09m SB8 東西4.75m×南北4.09m（残存部）

重複関係（古）SB8→SB7・SB6→SD16→SD18（新）

主軸方位 SB7 N-5°-W SB8 N-2°-W（推定）

壁 溝 SB7 幅0.04～0.24m、深さ0.04～0.08mを測る。カマドを除く壁際で確認された。
SB8 検出されない。

柱 穴 SB7 5基検出。P1～P4は径0.38～0.45m・深さ0.22～0.36mを測る。P5は径0.60m・深さ0.40mである。P1～P4が主柱穴と考えられる。

SB8 2基検出。P1・P2は径0.40～0.43m・深さ0.36～0.43mを測る。

貼 床 SB7 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

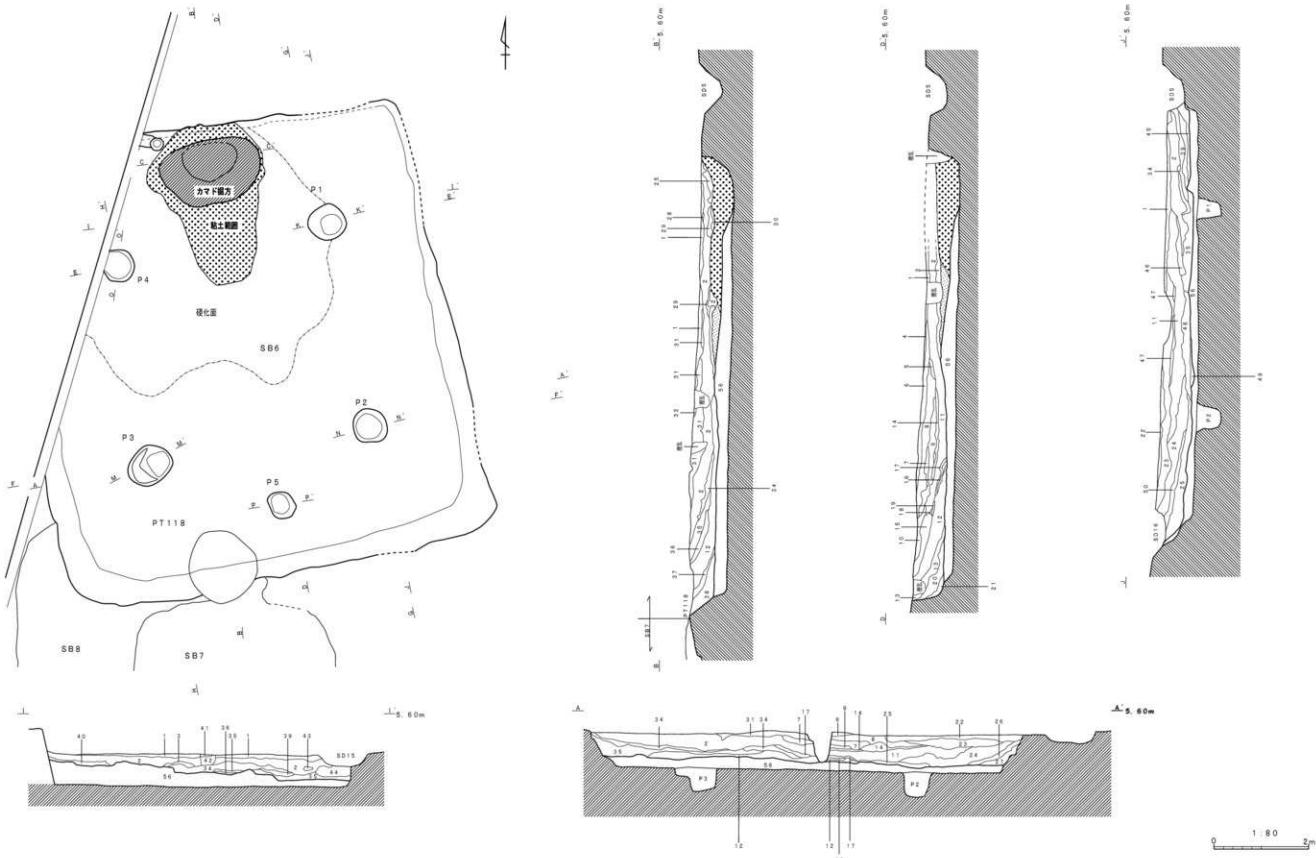
SB8 掘方を床面としている。硬化面は認められない。

カマド SB7 北辺中央に位置する。崩壊していることに加え、東側が攪乱を受けているため、形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土と掘方が認められた。

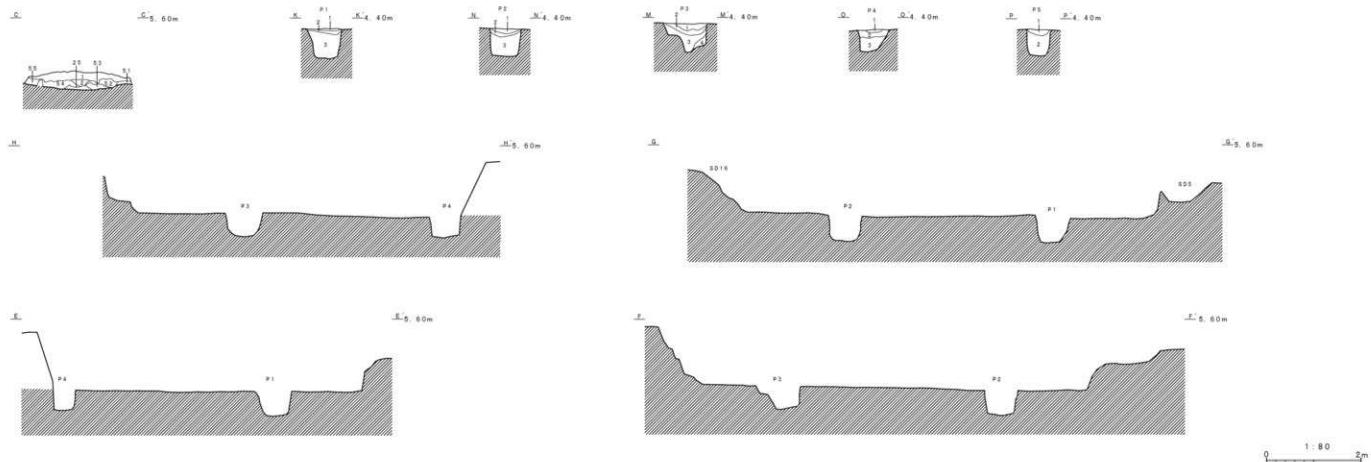
SB8 検出されない。

遺 物 SB7は土器は破片資料が多く、図示できたものは2点のみである。1は土師器の环で、黒色処理が施される。2は須恵器の环蓋で、遠江IV期頃と判断される。

SB8は図化可能な遺物は出土していない。



第23図 3区第6号住居址実測図（1）

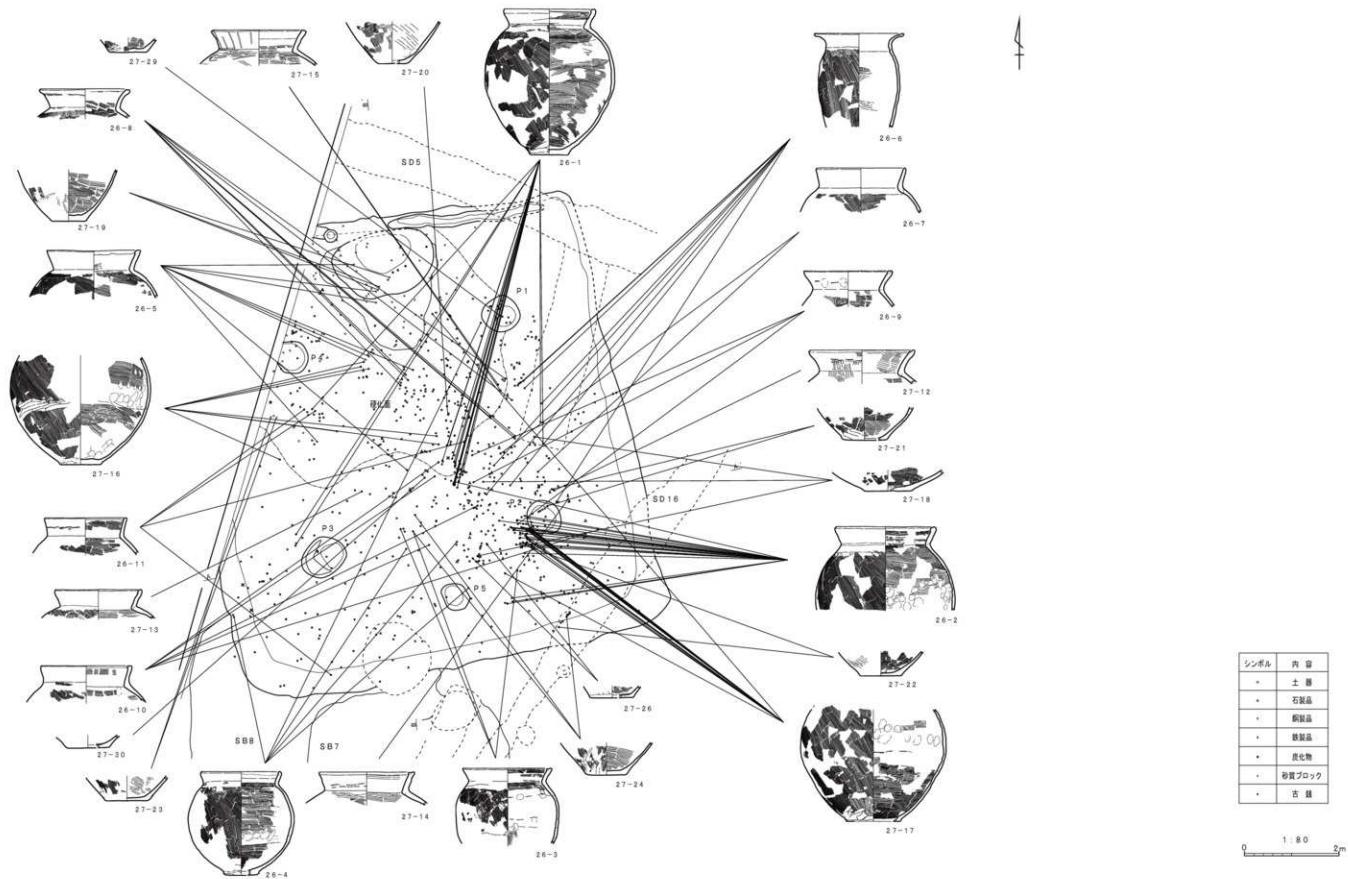


A-B・C-D・I-J	
1. 10YR1. 7/1	黒 やや緑土と粘性が混じる。1-2mmのスコットアラカ合む
2. 10YR1. 7/1	やや緑土と粘性が混じる。(1-2mmのスコットアラカ合む)
3. 5Y2/2	オーライアルブ
4. 10YR2/3	緑 裂け目から水を含む。
5. 10YR1. 7/1	緑 緑土と粘性が混じる。
6. 5Y2/2	緑 緑土と粘性が混じる。(1-2mmのスコットアラカ合む)
7. 10YR3/3	緑 緑土と粘性が混じる。
8. 5Y2/2	緑 緑土と粘性が混じる。
9. 10YR2/1	緑 緑土と粘性が混じる。
10. 2. 5Y2/1	緑 緑土と粘性が混じる。
11. 10YR1. 7/1	緑 緑土と粘性が混じる。
12. 10YR1. 7/1	緑 緑土と粘性が混じる。0.1-1mmのスコットアラカ合む。
13. 10YR1. 7/1	緑 やや緑土と粘性が混じる。0.1-1mmのスコットアラカ合む。
14. 10YR1. 7/1	緑 緑土と粘性が混じる。
15. 2. 5Y2/1	緑 緑土と粘性が混じる。
16. N1. 5/0	緑 粘土ブロック間に混じっている。
17. 10YR2/2	緑 緑土と粘性が混じる。
18. 10YR3/2	緑 緑土と粘性が混じる。粘土ブロックになっている。
19. 2. 5Y2/3	緑 緑土と粘性が混じる。
20. N1. 5/0	緑 やや緑土と粘性が混じる。0.1-1mmのスコットアラカ合む。
21. 10YR2/1	緑 緑土と粘性が混じる。
22. 5Y2/2	緑 緑土と粘性が混じる。
23. 5Y2/2	緑 緑土と粘性が混じる。
24. 5Y2/2	緑 緑土と粘性が混じる。
25. Z. 5Y2/1	黒 やや緑土と粘性が混じる。0.1-1mmのスコットアラカ合む

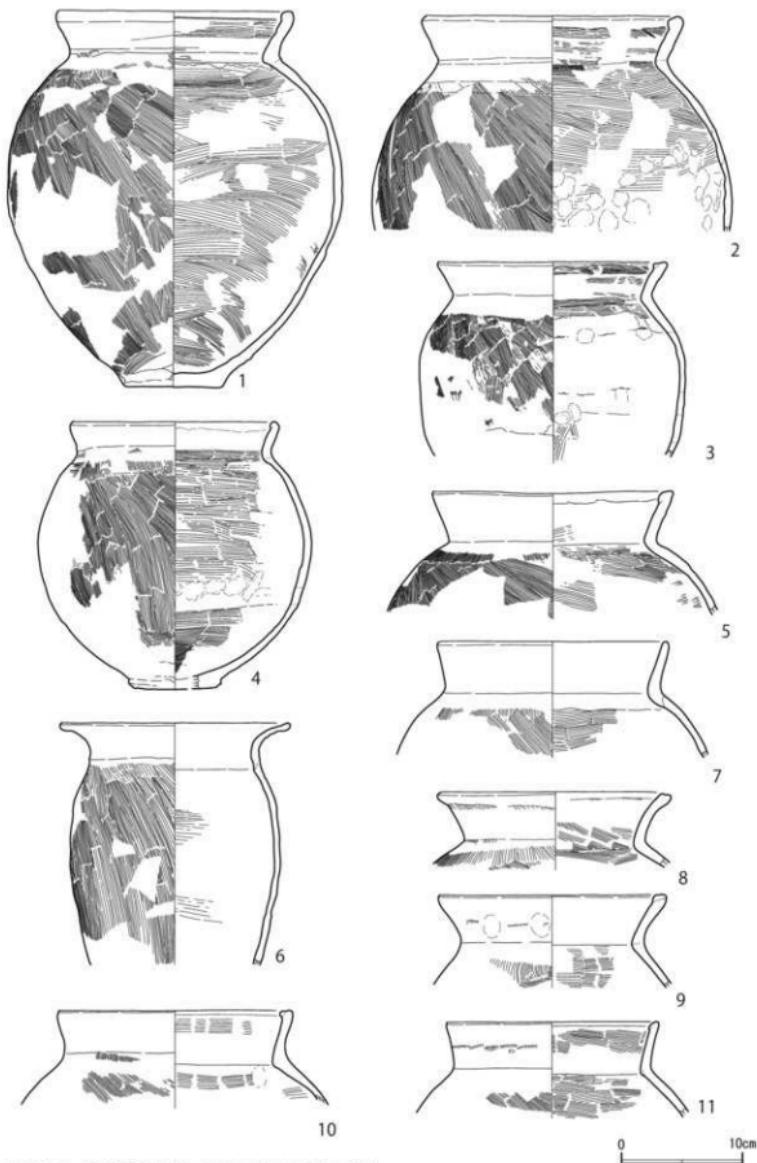
26. Z. 5Y2/1	黒 緑土が多めで粘性が混じる。縫隙と3.0mmの褐色色(?)を含む
27. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
28. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
29. 2. 5Y2/1	黒 やや緑土と粘性が混じる。縫隙と3.0mmの褐色色(?)を含む。1mmのカドマツの根が混じり1-2mmの根土を含む
30. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
31. 2. 5Y2/1	黒 緑土と粘性が混じる。
32. 7. 5Y2/1	オーライアルブ
33. 2. 5Y2/1	オーライアルブ
34. 2. 5Y2/1	オーライアルブ
35. 2. 5Y2/1	オーライアルブ
36. 2. 5Y2/1	オーライアルブ
37. N2/0	黒 緑土が多めで粘性が混じる。1-2mmの褐色色スコットアラカ合む。
38. 7. 5Y2/1	黒 緑土が多めで粘性が混じる。1-2mmの褐色色スコットアラカ合む。
39. 2. 5Y2/1	黒 緑土が多めで粘性が混じる。1-2mmの褐色色スコットアラカ合む。
40. 10YR3/1	黒 緑
41. 10YR3/1	黒 緑
42. 5Y2/1	黒 緑土が多めで粘性が混じる。
43. 7. 5Y2/1	黒 緑土が多めで粘性が混じる。
44. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
45. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
46. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
47. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
48. 10YR1. 7/1	黒 緑土と粘性が混じる。
49. N1. 5/1	黒 緑土と粘性が混じる。

51. 5Y2/2	オーライアルブ
52. N2/0	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
53. 10YR3/2	黒 5.2mmの縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
54. 10YR3/2	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
55. 5Y2/2	オーライアルブ
56. 10YR1. 7/1	黒 田植土
K. P1	1. 10YR2/1
N. P2	1. 2. 5Y2/2/1
2. N2/0	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
3. 2. 5Y2/2/1	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
M. P3	1. 2. 5Y3/3
2. 10YR1. 7/1	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
3. 2. 5Y2/2/1	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
4. 2. 5Y2/2/1	黒 土壌じりの縫隙でも1mmのカドマツの根が混じる。
O. P4	1. 5Y2/1
2. N2/0	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
3. 2. 5Y2/2/1	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。
P. P5	1. 5Y2/1
2. 5Y2/1	黒 綿毛状の縫隙があり、1mmのカドマツの根が混じる。

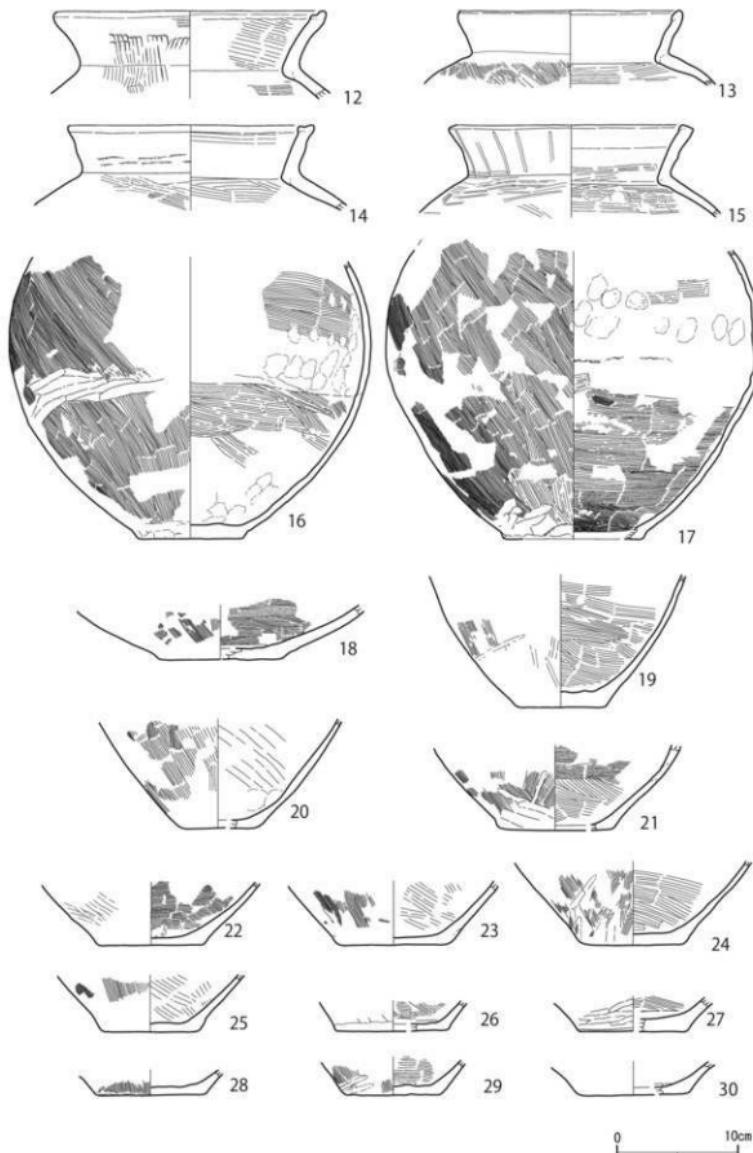
第24図 3区第6号住居址実測図（2）



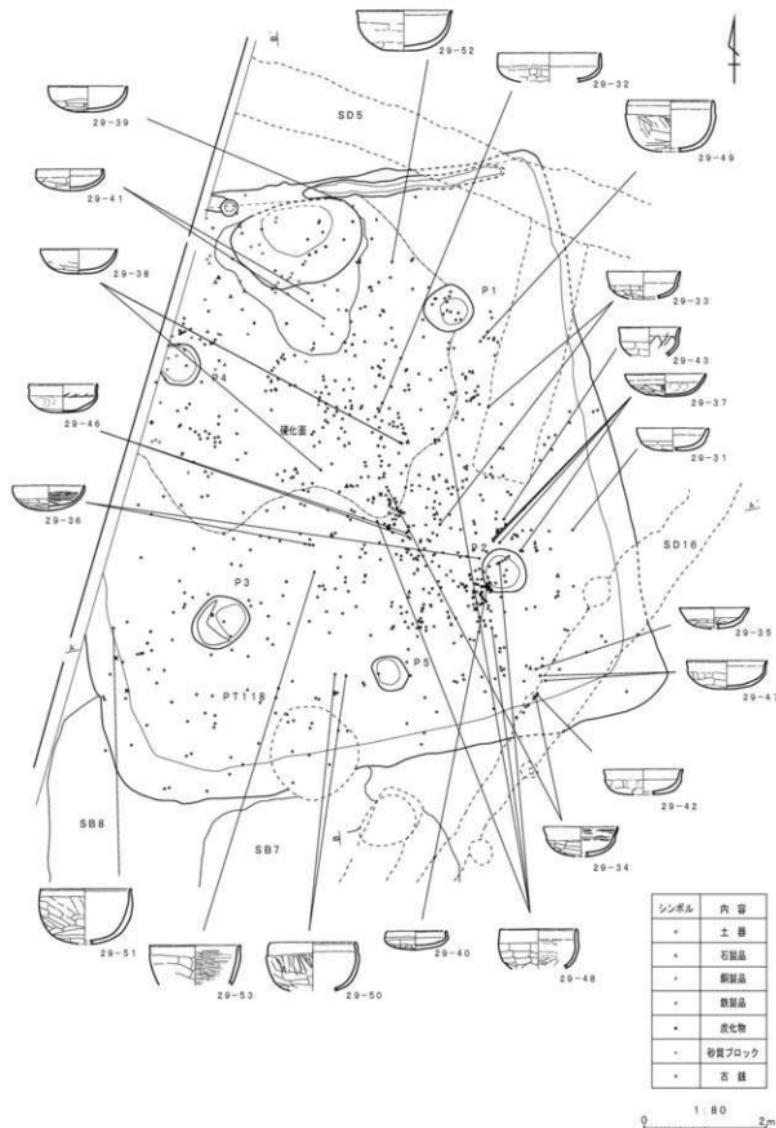
第25図 3区第6号住居址遺物出土状況図(1)



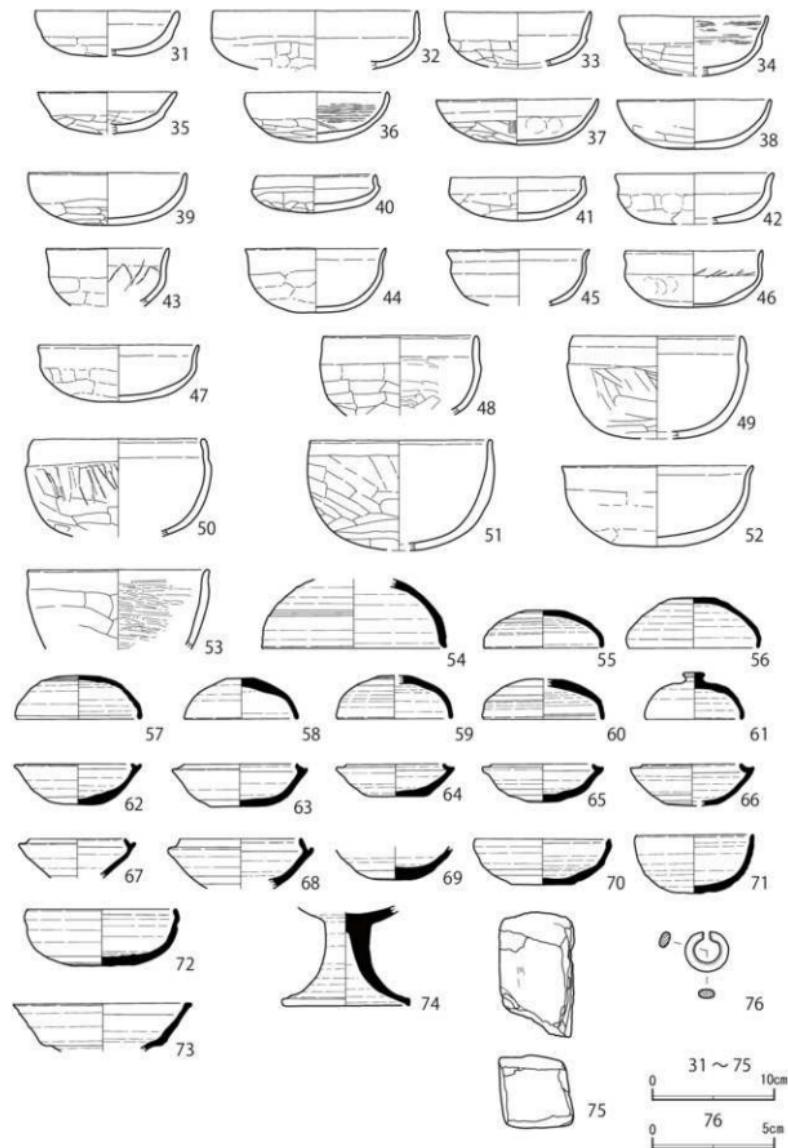
第26図 3区第6号住居址出土遺物実測図（1）



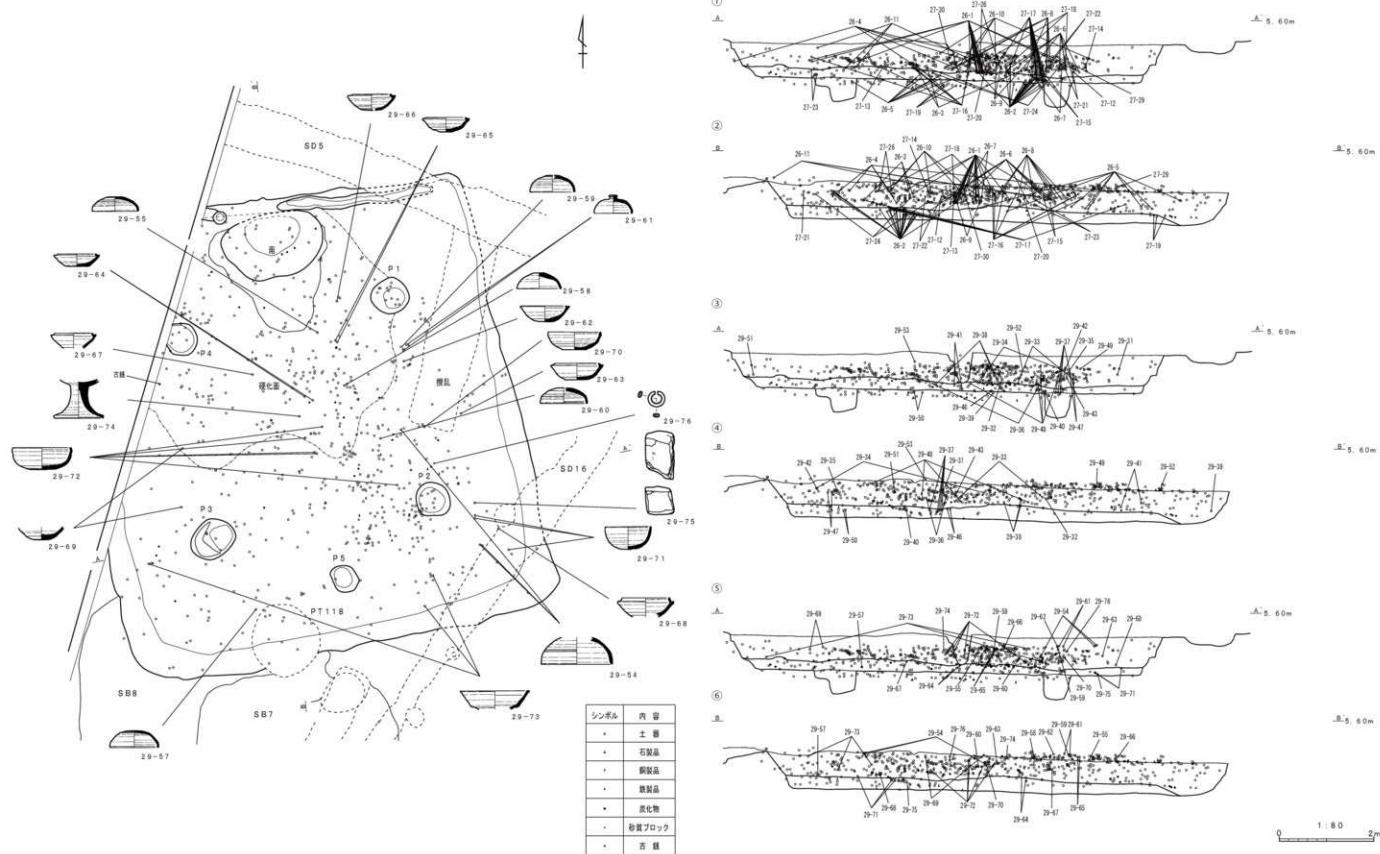
第27図 3区第6号住居址出土遺物実測図（2）



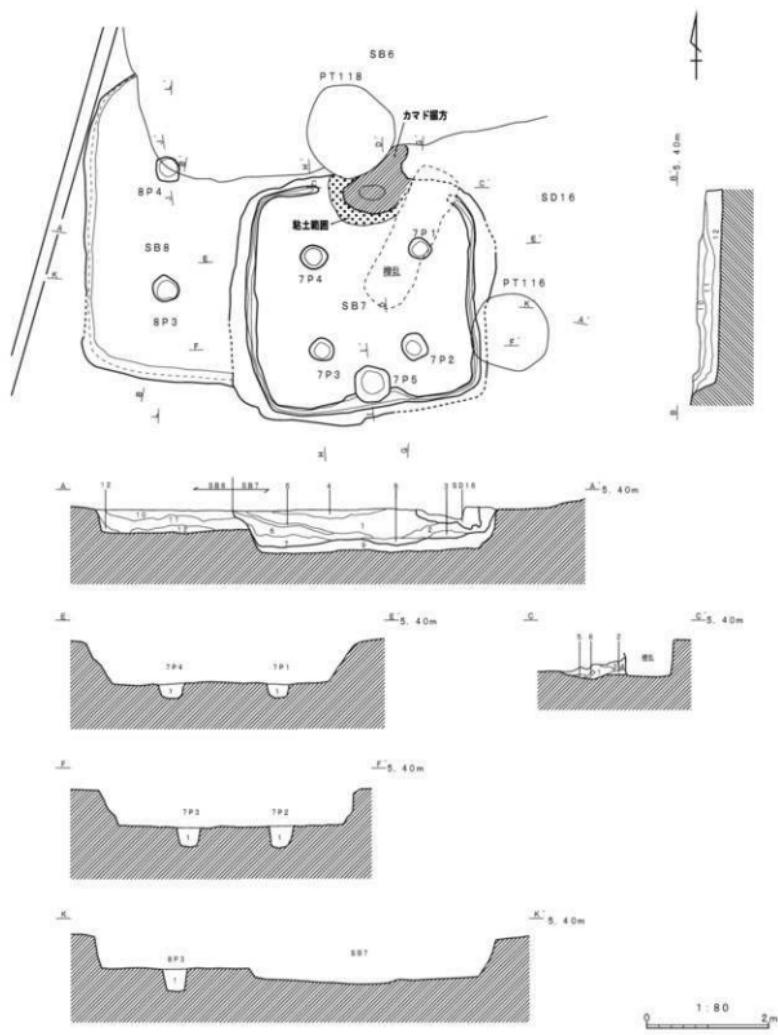
第28図 3区第6号住居址遺物出土状況図（2）



第29図 3区第6号住居址出土遺物実測図（3）



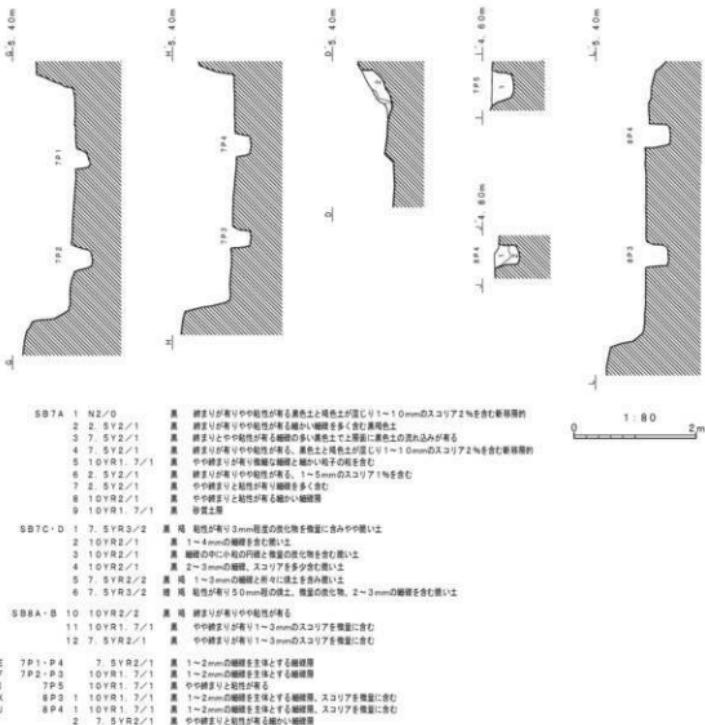
第30図 3区第6号住居址遺物出土状況図（3）



第31図 3区第7・8号住居址実測図(1)



第32図 3区第7号住居址出土遺物実測図



第33図 3区第7・8号住居址実測図（2）

時 期 SB7は出土遺物に乏しいが、SB6出土のものよりも小形の須恵器壺蓋が出土していることから、7世紀後半頃と考えられる。SB8はSB6に切られていることから、7世紀中葉～後葉以前であり、SB6で報告した遠江III期後段階の遺物はSB8の遺物であった可能性がある。

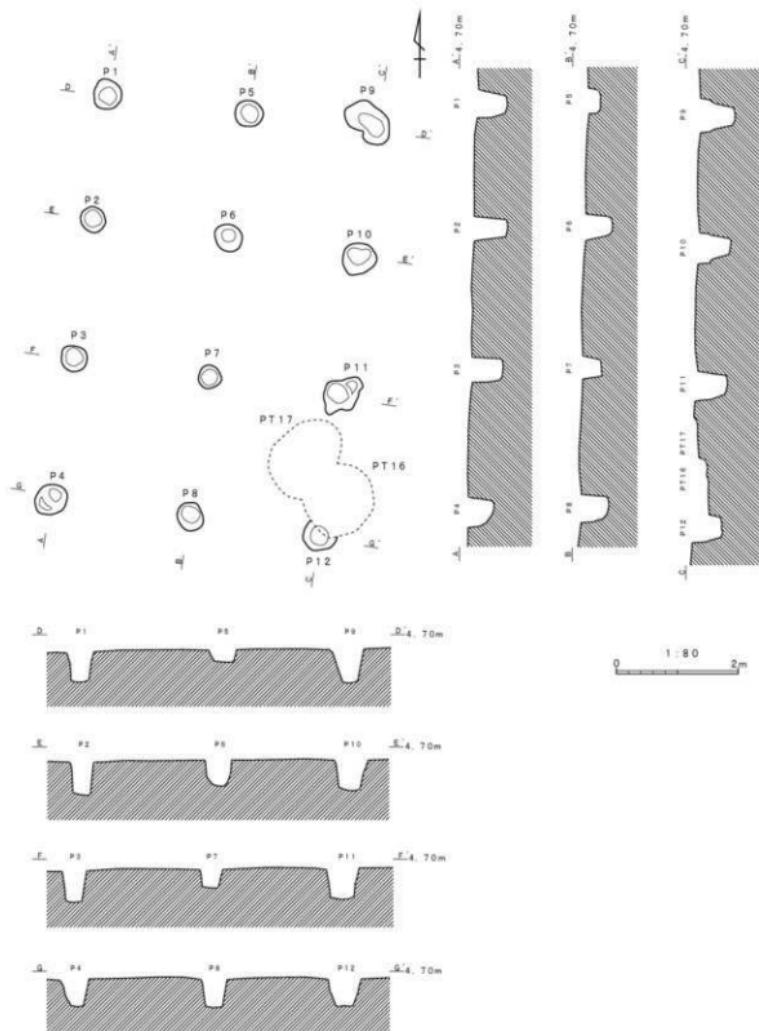
(2) 堀立柱建物址 3-SH

3区第1号堀立柱建物址 (3-SH1 第34図)

113-43Gr・113-44Grで検出された。桁行（南北）3間、梁行（東西）2間の総柱建物址で、平面形は長方形を呈する。3区における唯一のSHであり、SBとも重複しない単独の建物址である。

規 模 6.80m(南北) × 4.35m(東西) 重複関係 なし 主軸方位 N 8°-E

柱 穴 平面形は多くが円形あるいは楕円形で、不整形を呈するものもある。P1は径0.45m・深さ0.49m、P2は径0.42m・深さ0.54m、P3は径0.42m・深さ0.51m、P4は長径0.57m×短径0.48m・深さ0.44m、P5は径0.46m・深さ0.19m、P6は径0.45m・深さ0.43m、P7は径0.38m・深さ0.30m、P8は径0.43m・深さ0.46m、P9は長径0.83m×短径0.46m・深さ0.55m、P10は径0.55m・深さ0.50m、P11は長径0.77m×短径0.56m・深さ0.50m、P12はPT16に切られており、残存部の値は径0.53m・



第34図 3区第1号掘立柱建物址実測図

深さ 0.50m である。

桁 間 北から 2.16m、2.27m、2.39m。 梁 間 西から 2.32m、2.03m。

遺 物 杖穴より須恵器片が出土しているが、図示できる遺物はなかった。

時 期 不明。SB1・SB2の主軸方位との類似性から7世紀代か。

(3) 溝状遺構 3-SD

攪乱を受けている東端部を除いた調査区全域で検出された。多くの溝からは古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、SBとの軸方位とは一致せず、また切り合い関係を持つことから、SBとは異なる時期のSDも混在しているものと考えられる。年代の決定は困難であるが、中原遺跡に近接する下道遺跡において近世区画溝は10.8mを単位とすることが報告されており、SD3・SD6およびSD12・SD16はこの単位に合致する。近世と判断するための遺物はSD3を除いては出土していないが、SD3と軸が並行するもしくは直交するもの、および遺構の切り合い関係から各SDの年代を推定した。

なお、類推によって時期を判断したSDも多いため、SDの覆土や時代別の出土遺物の有無は土層注記とともに一覧で示した。多くのSDで奈良平安時代に位置づけられる小片遺物が出土しているが、図化可能であった遺物はSD7出土の1点のみであった(第39図)。

3区第1号溝状遺構(3-SD1 第35図・第37図、第3表)

110-40Gr・111-40Gr・112-40Gr・113-39Gr・113-40Grで検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びているため総延長は不明である。SD2・SD17・SD18と並行しており、SD2と関係から道状遺構に伴うSDの可能性も想定される。

規模 延長(調査区内) 30.18m × 幅 0.81 ~ 1.12m × 深さ 0.16 ~ 0.39m

重複関係 なし

時期 不明。SD2との関係から近世以後か。

3区第2号溝状遺構(3-SD2 第35図・第37図、第3表)

110-41Gr・111-41Gr・112-41Gr・113-41Gr・113-40Grで検出された。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。

規模 延長(調査区内) 30.18m × 幅 0.57 ~ 0.98m × 深さ 0.41 ~ 0.55m

重複関係 (古) SD16・SD19 → SD2(新)

時期 不明。近世と判断したSD3と並行していることから近世以後か。

3区第3号溝状遺構(3-SD3 第35図・第36図、第3表)

112-45Gr・113-45Gr・114-44Gr・114-45Grで検出された。東西方向に走り、調査区東端付近で南北に弧を描き、軸を変える。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。

規模 延長(調査区内) 28.83m × 幅 1.68 ~ 1.98m × 深さ 0.62 ~ 0.65m

重複関係 (古) SD6・SD16 → SD3 → SD9・SD10・SD12(新)

時期 近世遺物(擂鉢片)が出土していることから近世に位置づけられる。

3区第4号溝状遺構(3-SD4 第35図・第37図、第3表)

112-45Gr・113-45Gr・114-45Grで検出された。東西方向に走りSD3と並行する。東端はSD10に切られる。西端は二又に分岐しており、分岐した北側の西端はPT85に切られる。分岐南側の西端は調査区外へ延びるため総延長は不明である。113-45Gr付近が最も深く、西端部は浅い皿状を呈す。

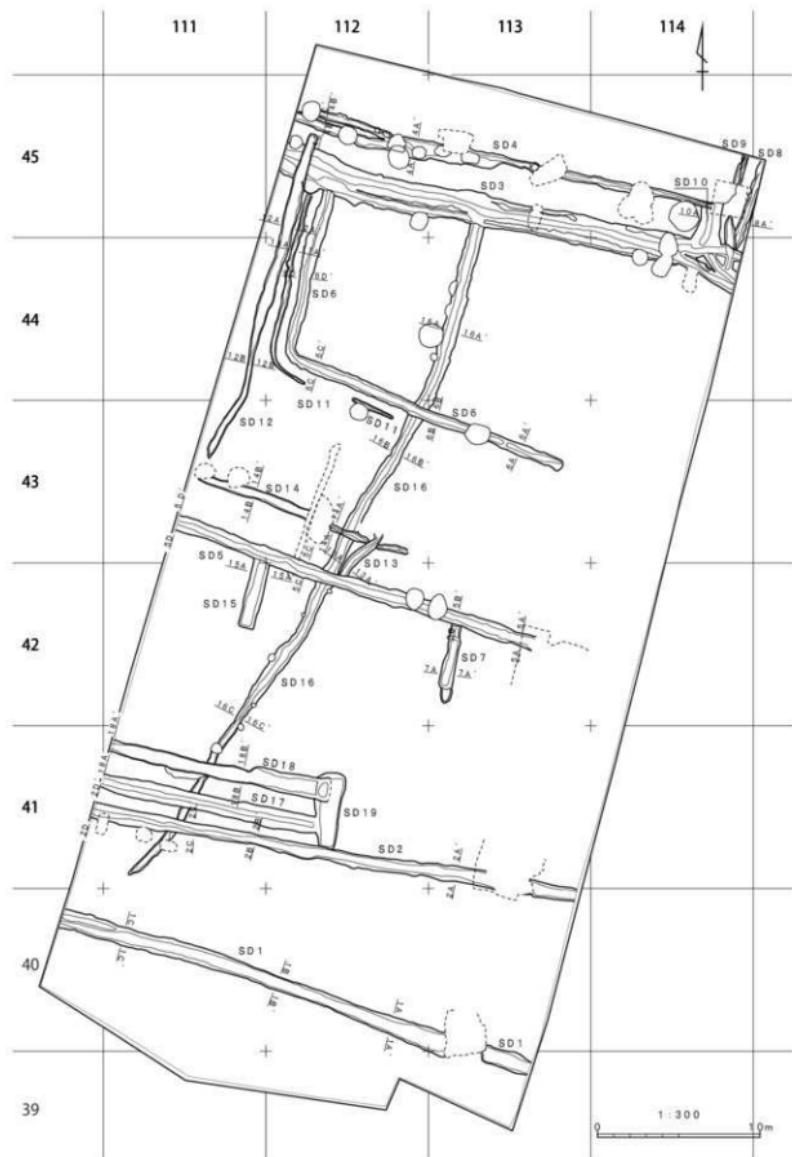
規模 延長(調査区内) 25.55m × 幅 0.49 ~ 1.22m × 深さ 0.17 ~ 0.58m

重複関係 (古) SB5 → SD4 → SD10(新)

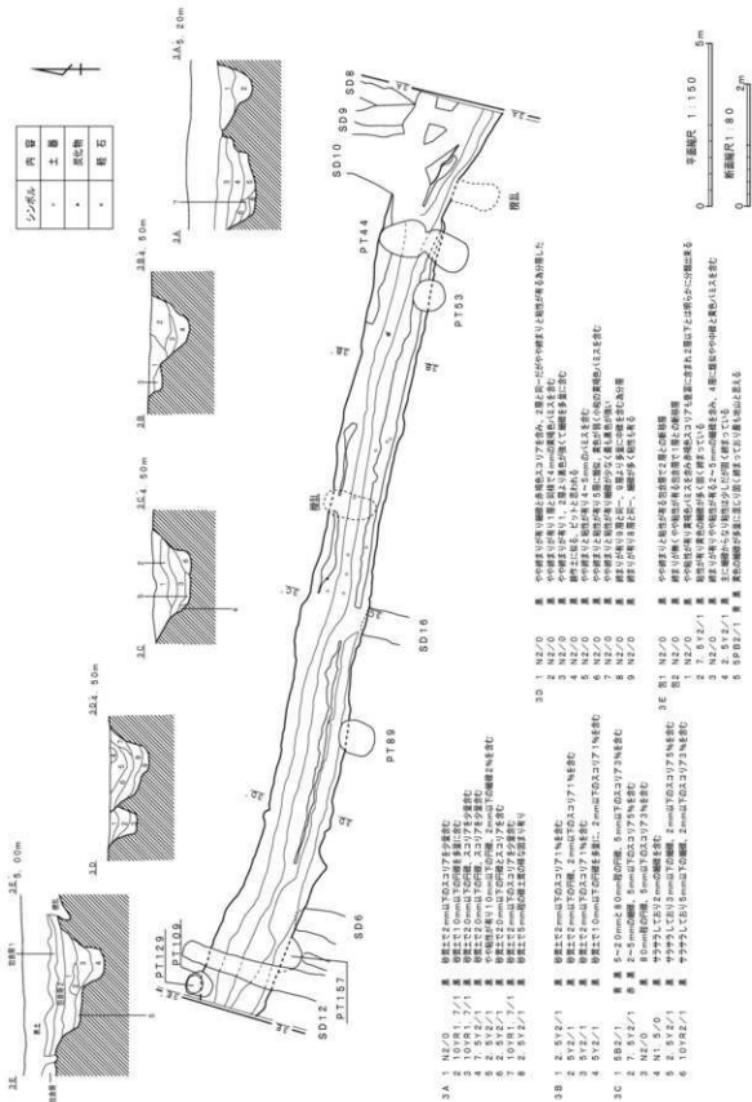
時期 不明。SD3と並行することから近世以後か。

3区第5号溝状遺構(3-SD5 第35図・第37図、第3表)

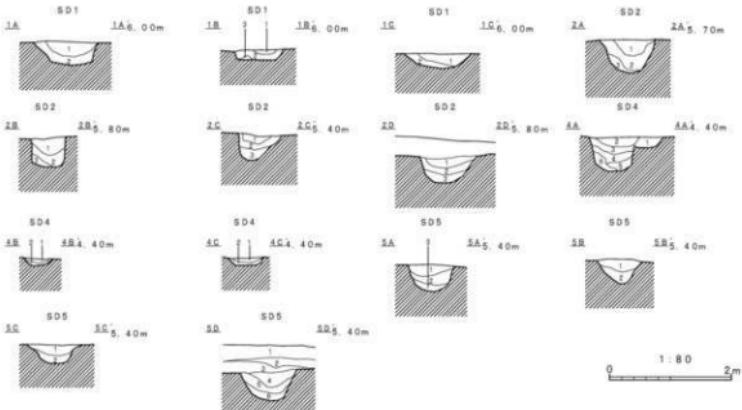
111-43Gr・112-42Gr・112-43Gr・113-42Grで検出された。東西方向に軸を持つ。東端は攪乱に切られ、西端は調査区外へ延びているため総延長は不明である。SB3・SB6・SD7・SD13・SD15・SD16を切っている。



第35図 3区溝状遺構分布図



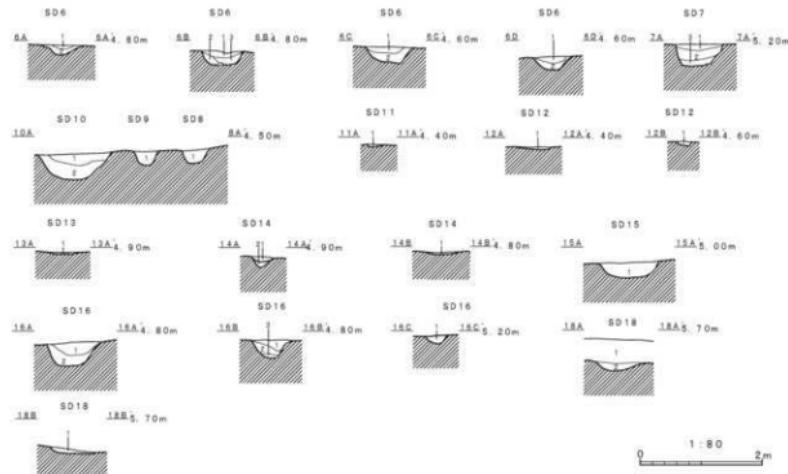
第36図 3区第3号溝状遺構実測図



第37図 3区溝状構造土層断面図(1)

第3表 3区溝状構造計測表(1)

透視名	層	色	土	断面形	透物/古代	透物/中世	透物/近世
SD1	A 1	10W1.7/1	細緻を多量と50mm以下の円錐を含み粘土に混じる(複屈曲堆積の粘土)	箱形			
	2	10W1.7/1	5mm以下の角錐を多量に含む				
B 1	N1.5/1	細まりと粘性が無く黒褐色土の中に5mm以下の角錐を多量に含む					
2	N1.5/1	細まりと粘性が無く黒褐色土の中に10mm以下の角錐を多量に含む					
3	N1.7/1	細まりと粘性が無く赤褐色に細かい輪郭からなる					
C 1	N1.5/1	細まりが無く粘性は少なく1～2mmの角錐1%，1～2mmの細孔30%，2～5mmのスコリア1%を含む	深い丸形				
2	N2.0/1	細まりが有り粘性は多く1～10mmの角錐1%，1～2mmの細孔10%，5～10mmのスコリア1%を含む					
SD2	A 1	10W1.7/1	黒褐色土の中に10mm以下の角錐を含み黄土				
	2	10W1.7/1	黒褐色土の中に10mm以下の角錐を少量含み黄土				
B 1	N1.5/1	5mm以下の角錐からなる	箱形	○			
2	10W2.1/1	やや細まりと有り細かい輪郭の中に20mm以下の角錐、土器片を含む					
3	N2.0/1	細まりが無く輪郭からなる					
C 1	2.5W2.1/1	細まりが無く粘性があり20mmの角錐1%，5～10mmの角錐、2～5mmのスコリア1%を含む					
2	2.5W2.1/1	細まりが無く粘性があり5～10mmの角錐、2～5mmのスコリア1%を含む	深い丸形				
3	2.5W2.1/1	細まりが無くやや粘性があり1～5mmの角錐を含みスコリアは含まれない					
D 1	N2.0/1	細まりとやや粘性があり10mmの角錐1%，1～2mmの角錐20%					
2	N2.0/1	細まりとやや粘性があり1～2mmの角錐10%，1～2mmのスコリア1%を含む	深い丸形				
3	N2.0/1	やや細まりと粘性があり1～2mmの角錐10%，1～2mmのスコリア1%を含む					
SD3			第36表		○	○	
SD4	A 1	N1.5/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐30%，1～2mmの角錐以下にスコリア1%，1～2mmの白色スコリア1%を含む				
2	10W2.1/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐30%，1～2mmのスコリア3%，1～2mmの白色スコリア3%を含む					
3	5W2.1/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐30%，1～2mmのスコリア3%，1～2mmの白色スコリア3%を含む					
4	7.5W2.1/1	細まりと粘性があり2～5mmの角錐10%，2～5mmのスコリア1%，1～2mmの白色スコリア3%を含む	箱形				
5	10W1.7/1	細まりが無くやや粘性があり1～2mmの角錐10%，1～2mmの白色スコリア1%を含む					
6	5W2.1/1	細まりは全く無く粘性があるが水っぽく1～2mmの角錐10%，1～2mmスコリア1%，1～2mmの白色スコリア1%を含む					
B 1	N1.5/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐10%，2～5mmのスコリア1%を含む	深い丸形				
2	N2.0/1	やや細まりと粘性があり1～2mmの角錐10%，1～2mmのスコリア1%，1～2mmの白色スコリア1%を含む					
C 1	N1.5/1	やや細まりと粘性があり10mmの角錐1%，2～5mmの角錐10%，1～2mmのスコリア1%を含む	箱形				
2	N2.0/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐10%，1～2mmの角錐10%，1～2mmの白色スコリア3%を含む					
SD5	A 1	10W1.7/1	やや細まりと粘性があり、輪郭、10mm以下の角錐、褐色スコリアを少量含む				
2	N1.5/1	やや細まりと粘性があり、輪郭、10mm以下の角錐、褐色スコリアを少量含む	深い丸形				
3	N1.5/1	やや細まりと粘性があり、輪郭、10mm以下の角錐、褐色スコリアを少量含む					
B 1	N1.5/1	やや細まりと粘性があり、輪郭、10mm以下の角錐、褐色スコリアをまばらと40mm以下の角錐を含む	葉筋形				
2	N1.5/1	やや細まりと粘性があり、輪郭、10mm以下の角錐、褐色スコリアを少量、20mm以下の土器片を含む					
C 1	N2.0/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐30%，1～5mmのスコリア1%，10mmの褐色スコリア1%を含む	深い丸形				
2	N2.0/1	やや細まりと粘性があり2～5mmの角錐10%，1～2mmの角錐30%，1～2mmの白色スコリア1%を含む					
9 1	10W2.1/1	細まりとやや粘性があり1～2mmの角錐10%，2～5mmの角錐30%，1～2mmの褐色スコリア1%を含む、土器の跡					
2	10W2.1/1	細まりとやや粘性があり2～5mmの角錐30%，1～2mmの褐色スコリア1%を含む					
3	N2.0/1	細まりと粘性があり20mmの角錐1%，2～5mmの角錐30%，2～5mmの褐色スコリア1%を含む					
4	N2.0/1	やや細まりと粘性があり20mmの角錐1%，2～5mmの角錐20%，2～5mmの褐色スコリア1%を含む					
5	N2.0/1	やや細まりと粘性があり50mmの角錐1%，2～5mmの角錐10%，2～5mmの褐色スコリア1%を含む					
6	10W2.1/1	やや細まりと粘性があり1～2mmの角錐10%，1～2mmの褐色スコリア1%，2～5mmの白色スコリア1%を含む	深い丸形				



第38図 3区溝状遺構土層断面図（2）

第4表 3区溝状遺構計測表（2）

遺構名	用色	標 本	断面形		古物/古代		遺物/中世		遺物/近世	
			直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜	直立	傾斜
SD6	A 1 1	TOYRI 7/1 縫まりが無く黒色土の中に10mm以下の円錐。褐色スコリアを少量含みカクカしている	浅い丸形							
	2 10YRI 7/1	縫まりが無く黒色土の中に細かい褐色スコリアの粒を少量含む								
B 1	2 5Y2/1	縫まりが無く黒色土の中に細かい褐色と10mm以下の円錐。褐色スコリアを少量含みカクカしている	箱形							
	2 7 5Y2/1	縫まりが無く黒色土の中に5mm以下の細かい褐色と多量、褐色スコリアを少量含む								
3 10YRI 7/1	やや縫まりがあり、細かい褐色と5mmの褐色スコリアの粒をまばらに含む									
G 1	N2/0	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、2~5mmの白色スコリア3%、2~5mmの白色スコリア1%を含む	箱形	○						
2	N2/0	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 30%、2~5mmの褐色スコリア3%、2~5mmの白色スコリア3%を含む								
D 1	10YRI 7/1	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、2~5mmの褐色スコリア5%を含む	浅い丸形							
2	N2/0	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 20%、2~5mmの褐色スコリア1%、2~5mmの白色スコリア1%を含む								
SD7	A 1 1	TOYRI 7/1 縫緻と20mm以下の円錐を含み非常に直立	深い丸形							
	2 10YRI 7/1	縫まりが無く黒色土の中に細かい褐色の粒を含む								
3 10YRI 7/1	やや縫まりがあり、縫緻、10mm以下の細緻と褐色スコリアを少量含む									
SD8	A 1 1	NI 5/0 やや縫まりがあり黒色土で2~5mmの細緻 10%、1~2mmのスコリア3%を含む	浅い丸形							
D 1	1 1 NI 5/0	縫まりが有り2~5mmの細緻 10%、1~2mmのスコリア5%を含む	浅い丸形	○						
SD10	A 1 1	NI 5/0 下部にやや直線化しており1~2mmの細緻 10%、2~5mmのスコリア7%を含む	深い丸形	○						
	2 NI 5/0									
SD11	A 1 1	SYRI 7/1 やや縫まりと粘性があり5~10mm以下の細緻 1%、1~2mmの細緻 30%、1~2mmの褐色スコリア 1%、1~2mmの白色スコリア 1%を含む	浅い丸形	○						
SD12	A 1 1	SYRI 7/1 2~5mmの細緻 30%、1~10mmの細緻 5%を含む	浅い丸形							
B 1	N2/0	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、1~2mmの細緻 30%、1~2mmのスコリア 1%を含む	箱形	○						
SD13	A 1 1	SYR2/1 やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、1~22mmの褐色スコリア 1%を含む	浅い丸形							
	2 10YRI 7/1	縫まりとやや粘性があり、地山の黄色細緻が固まっている層 1mmのスコリア 1%、褐色スコリアを微量に含む								
B 1 10YRI 7/1	やや縫まりと粘性があり、2~5mmの細緻 30%、10mmの細緻 2%、2~5mmの細緻 30%、2~5mmの褐色スコリア 1%、1~2mmの細緻 1%を含む									
SD15	A 1 1	N2/0 やや縫まりと粘性があり、2~5mmの細緻 30%、2~5mmの褐色スコリア 1%、1~2mmの細緻 1%を含む	箱形							
SD16	A 1 1	N1 5/0 やや縫まりと粘性があり木の皮 5%、2~5mmの細緻 20%、2~5mmの褐色スコリア 5%、2~5mmの白色スコリア 1%を含む	深い丸形							
	2 N2/0	やや縫まりと粘性があり木の皮 5%、2~5mmの細緻 30%、2~5mmの褐色スコリア 1%、2~5mmの白色スコリア 1%を含む								
B 1 2 5Y2/1	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、2~5mmの褐色スコリア 5%を含む									
B 2	N2/0	縫まりとやや粘性があり10mmの細緻 1%、2~5mmの細緻 20%、2~5mmの褐色スコリア 10%、2~5mmの白色スコリア 5%を含む								
3 2 5Y2/1	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 10%、1~2mmの褐色スコリアを含み地山の黄色細緻が固まっている層 1mmのスコリア 1%を含む									
C 1 10YRI 7/1	やや縫まりと粘性があり1~5mmの細緻 2%、赤褐色スコリアを含み、下部は地山の黄色細緻が固まっている層 1mmのスコリア 1%を含む									
SD17		断面無し								
SD18	A 1 1	表 土								
	2 10YRI 7/1	やや粘性がある	浅い丸形	○						
B 1 10YRI 7/1	やや縫まりと粘性があり2~5mmの細緻 2%、赤褐色スコリアを含む		浅い丸形	○						
SD19		断面無し								

規 模 延長（調査区内）23.17m × 幅 0.75 ~ 0.95m × 深さ 0.30 ~ 0.46m

重複関係 （古）SB3・SB6・SD7・SD13・SD15・SD16 → SD5（新）

時 期 不明。破片資料は奈良平安時代のものが多くあるが、SD3と並行することから近世以後か。

3区第6号溝状遺構（3-SD6 第35図・第38図、第4表）

112-43Gr・112-44Gr・112-45Gr・113-43Grで検出された。南北方向に10mほど延びたところで東に向けて屈曲する。SD5と約10.8mの間隔が認められることから区画溝と推測される。またSD11と並行している。

規 模 延長（調査区内）南北 10.78m・東西 17.82m × 幅 0.65 ~ 0.72m × 深さ 0.17 ~ 0.22m

重複関係 （古）SD16 → SD3 → SD6（新）

時 期 不明。土器破片資料は奈良平安時代のものが多くあるが、SD12・SD14と並行し、SD12がSD3を切ることから近世以後か。

3区第7号溝状遺構（3-SD7 第35図・第38図・第39図、第4表）

113-42Grで検出された。南北方向に走る。北端がSD5に切られていることから、総延長は不明である。南北端で掘り込みがやや浅い。土器破片が出土し、第39図に図示した。

規 模 延長（残存部）4.9m × 幅 0.66 ~ 0.80m × 深さ 0.35m

重複関係 （古）SD7 → SD5（新）

時 期 不明。出土遺物から7世紀代の可能性がある。

3区第8・9・10号溝状遺構（3-SD8・3-SD9・3-SD10 第35図・第38図、第4表）

114-44Gr・114-45Gr・115-45Grで検出された。いずれも南北方向に走る。SD8は北端が調査区外に延び、南端はSD9に切られる。SD9は北端が調査区外に延び、南端はSD10に切られる。SD10は南北方向におよそ2.5m延びた後、東へ向けて屈曲する。北端はSB5に切られ、東端は調査区外に延びている。これらからいずれも総延長は不明である。

規 模 SD8 延長（調査区内）5.67m × 幅 0.49m × 深さ 0.21m

SD9 延長（調査区内）7.20m × 幅 0.41m × 深さ 0.22m

SD10 延長（調査区内）南北 2.27m・東西 2.36m × 幅 1.21m × 深さ 0.42m

重複関係 （古）SD3 → SD8 → SD9 → SD10（新）

時 期 土器破片資料は奈良平安時代のものが多いが、SD3を切ることから近世以後に位置づけられる。

3区第11号溝状遺構（3-SD11 第35図・第38図、第4表）

112-43Gr・112-44Gr・112-45Grで検出された。南北方向に延びた後、10mほど延びたところで東に向けて屈曲する。屈曲部からおよそ2mのところで2.97m途切れ、再び東西方向へ延びる。SD6と並行するが、SD6と比べて掘り込みが非常に浅い。

規 模 延長 南北 10.52m・東西 2.33 ~ 2.80m × 幅 0.29m × 深さ 0.04m

重複関係 なし

時 期 不明。土器破片資料は奈良平安時代のものが多いが、SD6とほぼ同時期と想定されるため、近世以後か。

3区第12号溝状遺構（3-SD12 第35図・第38図、第4表）

111-43Gr・111-44Gr・112-44Gr・112-45Grで検出された。SD16と並行し、南北方向に延びた後、南西方向に向かってやや屈曲する。この点もSD16との類似性が認められる。

規 模 延長 20.91m × 幅 0.25 ~ 0.63m × 深さ 0.06m

重複関係 (古) SD3 → SD12 (新)

時期 SD3 を切ることから近世以後に位置づけられる。

3区第13号溝状遺構 (3-SD13 第35図・第38図、第4表)

112-42Gr・112-43Grで検出された。北東方向に延び、端部は北に屈曲する。南端はSD5に切られるため総延長は不明である。掘り込みが0.04mと非常に浅いが、SDとして扱った。

規模 延長(残存部) 3.90m × 幅 0.54m × 深さ 0.04m

重複関係 (古) SD14 → SD13 → SD5 (新)

遺物 堀底に礫が集中して出土している。

時期 SD14 を切ることから近世以後に位置づけられる。

3区第14号溝状遺構 (3-SD14 第35図・第38図、第4表)

111-43Gr・112-43Grで検出された。東西方向に走る。SD13・擾乱に切られる箇所がある。SD6やSD11と同様に、SD12と組み合わさせてL字形を呈す。

規模 延長(残存部) 13.62m × 幅 0.37 ~ 0.55m × 深さ 0.03 ~ 0.18m

重複関係 (古) SB3 → SD16 → SD14 → SD13 (新)

時期 SD12と組み合わせて、SD6やSD11と類似性を持つことから、区画溝と考えられる。したがって、近世以後であろう。

3区第15号溝状遺構 (3-SD15 第35図・第38図、第4表)

111-42Gr・111-43Grで検出された。南北方向に走る。北端がSD5に切られるため、総延長は不明である。

規模 延長(調査区内) 4.27m × 幅 1.00m × 深さ 0.25m

重複関係 (古) SB6 → SD15 → SD5 (新)

時期 不明。

3区第16号溝状遺構 (3-SD16 第35図・第38図、第4表)

111-41Gr・111-42Gr・112-42Gr・112-43Gr・112-44Gr・113-44Gr・113-45Grで検出された。南西方向へ延びる。SD12と並行し、SD3と直交する。

規模 延長 45.53m × 幅 0.38 ~ 1.09m × 深さ 0.13 ~ 0.39m

重複関係 (古) SB6・SB7 → SD16 → SD2・SD3・SD5・SD6・SD14・SD17・SD18 (新)

時期 不明。SD3やSD12との位置関係から近世以後か。

3区第17号溝状遺構 (3-SD17 第35図、第4表)

111-41Gr・112-41Grで検出された。東西方向に走り、東端がSD19に切られる。SD2・SD18と並行する。

規模 延長(調査区内) 13.5m × 幅 1.17m × 深さ 0.40m

重複関係 (古) SD16・SD17 → SD19 (新)

時期 不明。SD2と並行することから、近世以後か。



第39図 3区第7号溝状遺構出土遺物実測図

3区第18号溝状遺構（3-SD18 第35図・第38図、第4表）

111-41Gr・112-41Grで検出された。SD17と同じく、東西方向に走る。SD2・SD17と並行する。

規 模 延長（調査区内）13.8m×幅0.74～1.20m×深さ0.08～0.12m

重複関係（古）SB7・SB8→SD16・SD19→SD18（新）

時 期 不明。SD2・SD17との関係から近世以後か。

3区第19号溝状遺構（3-SD19 第35図、第4表）

112-41Grで検出された。南北方向に走り、SD17・SD18と直交する。南端をSD2に切られている。

規 模 延長（残存部）4.76m×幅1.12～1.79m×深さ0.43m

重複関係（古）SD17→SD19→SD2・SD18（新）

時 期 不明。SD17・SD18との関係から近世以後か。

3区溝状遺構出土遺物（第39図）

溝状遺構では、奈良平安時代から近世にかけての破片資料が出土しているが、その中で図化が可能であったのはSD7の土師器の壙1点のみであった。壙は口唇部が肥大化しており、内外面ともにハケメによる調整が観察できる。

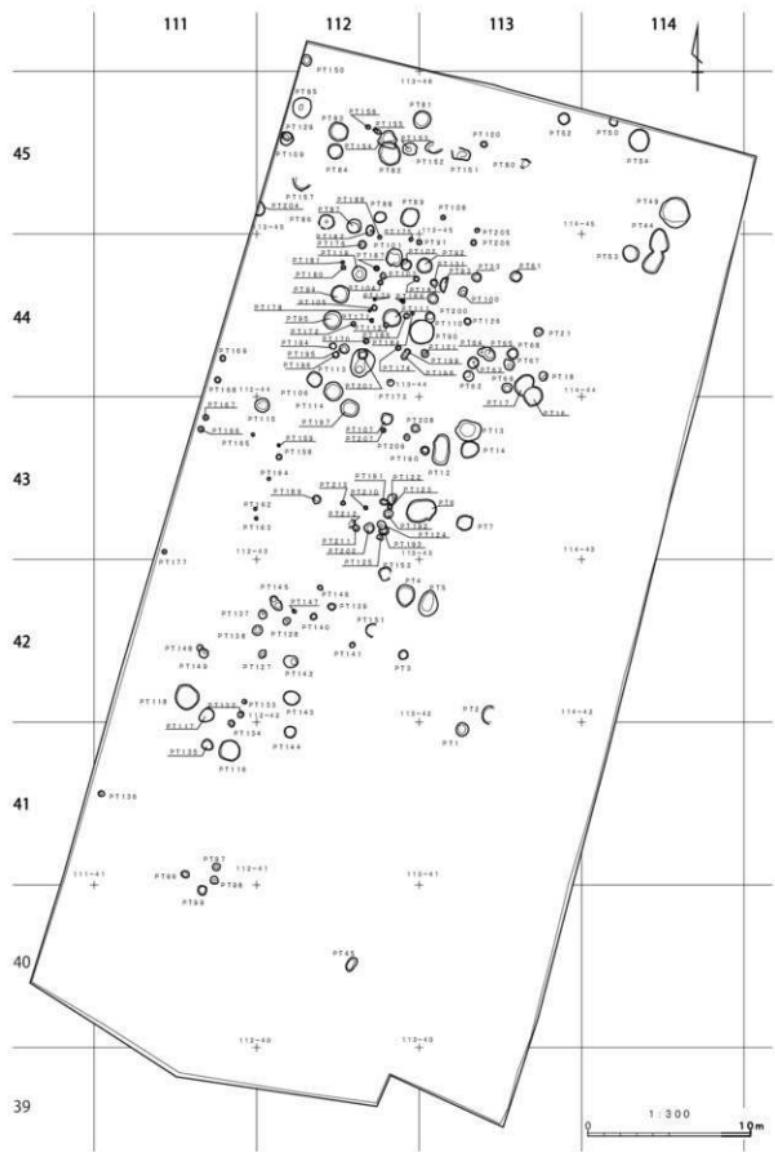
（4）ピット（3-PT 第40図、第5表～第7表）

ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区のほぼ全域で検出されているが、南側の検出はわずかであり、中央から北側にかけて集中する。特に北西部の112-44Gr・113-44Grが密である。

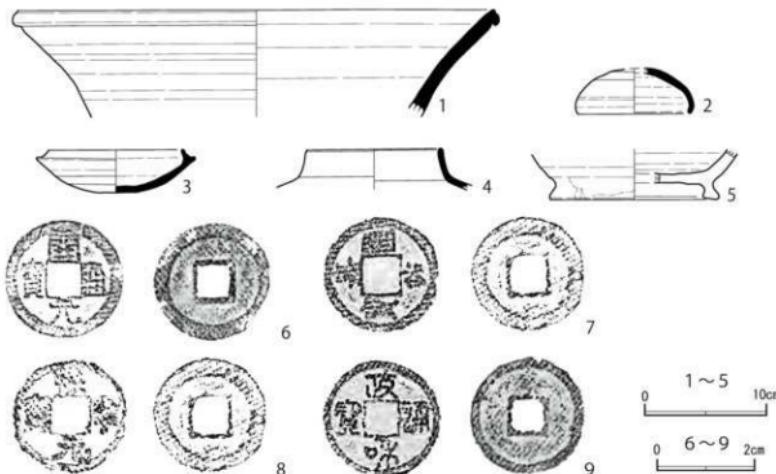
PTの平面形は円形ないし椭円形である。直径は0.15～1.84m・深さは0.03～0.71mと幅があるが、形状では時期の判断はできなかった。また出土土器は破片資料が多く、遺物からも遺構の時期決定は困難である。ただし他の遺構との切り合い関係や深さなどから古墳時代後期から奈良平安時代、中世、近代以後とさまざまな時代に帰属するものが混在していると推測される。ここでは、年代の推定は行わず、計測値と遺物の有無を一覧で示した。ピットの覆土のほとんどは細謫・スコリアを含む黒色土である。なお欠番があるため、遺構番号は連続しない。

（5）遺構外出土遺物（第41図）

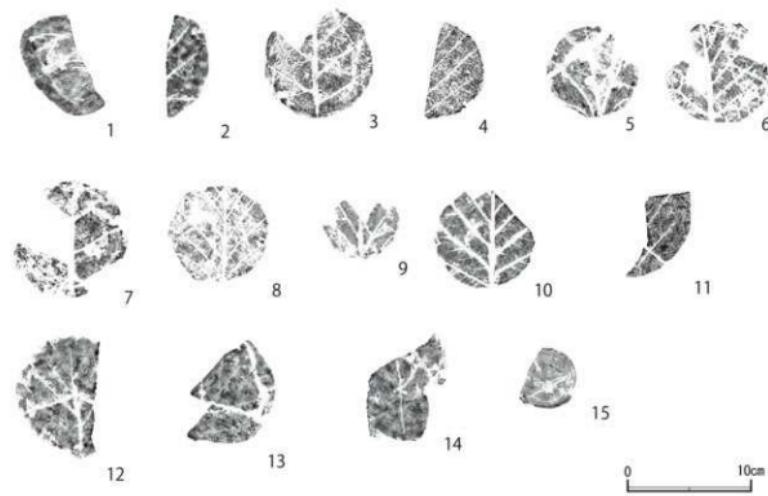
遺構外出土遺物を5点図化した。1は須恵器系の壺である。外面に褐色釉がかかる。平安後期頃と考えられる。2は出土位置不明の須恵器の壺蓋である。小型化しており、遠江IV期後葉頃であろう。3は111-41Grから出土した須恵器の壺身である。遠江III期末葉頃に位置づけられる。遺構として当該期のものはSB8のみであるが、本資料はSB8と同一のグリッドからの出土である。4は出土位置不明の須恵器の短頸壺である。焼成は悪く、全体的に白色である。遠江V期頃と考えられ、8世紀代に位置づけられる。5は灰釉陶器の壺もしくは瓶類の底部である。高台にまで自然釉が垂れている。同じく平安後期頃と考えられる。6～9は古銭である。調査所見によれば、SB6において4枚が調査区西壁の床面付近にて一括で出土したとされるが、SB6で想定した年代と異なるため、遺構外遺物に掲載した（調査時の出土位置は第30図の★シンボルに記した）。6は開元通寶、7は淳祐通寶、8は熙寧元寶で、9は政和通寶である。



第40図 3区ピット分布図



第41図 3区遺構外出土遺物実測図



1.SB1-9	2.SB1-17	3.SB6-1	4.SB6-16	5.SB6-19	6.SB6-22	7.SB6-23
8.SB6-24	9.SB6-25	10.SB6-29	11.SB6-42	12.SB6-46	13.SB6-47	14.SB6-52
15.SB6-70						

第42図 3区出土土器拓本

第5表 3区ピット計測表（1）

透構名	平面形	断面形	縁 (m)	深さ (m)	基 土	色	固土地質/古地	古物/中層	古物/浅層
PT001	円形	深い丸形	0.75	0.10	黒色土と細砂の混成土	N1 5/0	やや有り	○	
PT002	(円形)	範野	1.09	0.29	20mm以下の円鏡、15mm以下の土器片、15mm以下の輕石、褐色スコリアを少量含む	N1 5/0	—		
PT003	円形	範野	0.57	0.12	20mm以下の円鏡、土器片と40mm以下の輕石、5mm以下の褐色スコリアが混在する	N1 5/0	—		
PT004	楕円形	深い丸形	1.21 × 1.1	0.08	—	—	—	○	
PT005	楕円形	深い丸形	1.61 × 1.15	0.19	—	—	—		
PT006	楕円形	範野	1.86 × 1.37	0.28	30mm以下の円鏡。土器片、5mm以下の褐色スコリアを少量含む	[0]R1.7/1	無し	○	
PT007	円形	範野	0.91	0.13	20mm以下の円鏡、土器片有り	SP02/1	無し		
PT012	楕円形	深い丸形	1.87 × 0.96	0.20	50mm以下の円鏡、褐色スコリア含む 土器片有り	N1 5/0	—	○	○
PT013	円形	薬研形	1.60 × 1.23	0.35	30mm以下の円鏡、5mm以下の褐色スコリアを少量含む 上層に15mmの膠含む	[0]R1.7/1	無し	○	
PT014	円形	深い丸形	1.07	0.11	10mm以下の円鏡、褐色スコリアを少量含む 塗装物を含み無い	[0]R1.7/1	無し		
PT016	円形	範野	1.17	0.25	10mm以下の円鏡、褐色スコリアの粒を少量含む 土器片有り	[0]R1.7/1	やや有り	○	
PT017	楕円形	範野	1.36	0.09	20mm以下の円鏡、褐色スコリアを少量含む	[0]R1.7/1	無し	○	
PT018	円形	深い丸形	0.50	0.37	—	—	—		
PT023	円形	深い丸形	0.57	0.44	1～8mmの細砂。7mm以下のスコリア10%を含む	[0]R1.7/1	やや有り	○	
PT044	不整形	深い丸形	2.79 × 1.17	0.03	20mm以下の円鏡、褐色スコリアを少量含む 土器片有り	SP02/1	無し		
PT045	楕円形	深い丸形	0.91 × 0.5	0.12	—	—	—	○	
PT049	円形	深い丸形	1.84	0.18	10mm以下の円鏡含む 土器片有り	N1 5/0	やや有り	○	
PT050	不明	深い丸形	0.51	0.29	20mm以下の円鏡を含む 下層に褐色スコリアを少量含み無い	[0]R1.7/1 2 SY2/1	無し	○	
PT052	円形	薬研形	0.71	0.18	10mm以下の褐色スコリア含む無い	[0]R1.7/1	無し		
PT053	円形	深い丸形	0.98	0.19	黒色土と細砂の混成土	N1 5/0	無し		
PT054	円形	範野	1.24	0.27	20mm以下の円鏡含む 土器片有り	N1 5/0	やや有り	○	
PT061	円形	深い丸形	0.66	0.50	30mm以下の円鏡を1%，1～3mmの細砂20%、3mm以下のスコリア10%を含む	N1 5/0	やや有り		
PT062	円形	深い丸形	0.62	0.41	20mmの円鏡を1%，1～8mmの細砂30%、5mm以下のスコリア15%を含む	N1 5/0	やや有り	○	
PT063	円形	深い丸形	0.65	0.41	30mm以下の円鏡を1%，1～5mmの細砂25%、3mm以下のスコリア10%を含む	SYR1.7/1	やや有り	○	
PT064	円形	深い丸形	0.53	0.42	1～5mmの細砂20%、5mm以下のスコリア10%を含む	[0]R1.7/1	やや有り	○	
PT065	楕円形	深い丸形	0.74	0.47	20mm以下の円鏡を1%，1～8mmの細砂20%、2mm以下のスコリア10%を含む	SYR1.7/1	やや有り		
PT066	円形	深い丸形	0.62	0.39	1～5mmの細砂25～35%、3mm以下のスコリア10%を含む	[0]R1.7/1	有り	○	
PT067	楕円形	深い丸形	0.73 × 0.61	0.37	40mm以下の円鏡を1%、1～3mmの細砂20%、5mm以下のスコリア15%を含む	[0]R1.7/1	やや有り	○	
PT068	円形	深い丸形	0.67	0.47	1～8mmの細砂25%、5mm以下のスコリア15%を含む	[0]R1.7/1	やや有り	○	
PT061	円形	深い丸形	1.04	0.09	2～5mmの細砂30%、1mm以下の褐色スコリアとバミスを1%含む 脂肪性有り	[0]R2/1	やや有り		
PT082	円形	深い丸形	1.48 × 1.29	0.15	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコリアを5%、1～2mmの白色スコリアを2%含む 黏性有り	N2/0	やや有り	○	
PT083	円形	深い丸形	1.15	0.18	1～2mmの褐色スコリア10%、1～3mmの細砂20%、1mm以下の白色スコリア1%を含む 黏性有り	N2/0	有り		
PT084	円形	深い丸形	0.92	0.07	2～5mmの細砂20%、1～2mmの褐色スコリア3%、1～2mmの白色スコリア1%を含む 黏性有り	N2/0	やや有り		
PT085	円形	薬研形	1.12	0.47	2～5mmの細砂30%、2～5mmの褐色スコリア1%、1～5mmの白色スコリア5%を含む 黏性有り	N2/0	下層にやや練まり有り	○	
PT086	円形	深い丸形	0.92	0.48	1～3mmのスコリア3%、赤褐色スコリアを含む	N2/0	やや有り		
PT087	円形	深い丸形	0.66	0.10	—	—	—		
PT088	円形	深い丸形	0.72	0.08	1～5mmのスコリア5%、赤褐色スコリアを含む。地山の一部を研磨した細砂性有り 黏性有り	7 SYR2/2 [0]R1.7/1	無し		
PT089	方型	深い丸形	1.14 × 1.02	0.12	2～5mmの細砂30%、1mm以下の褐色スコリア5%、1～2mmの白色スコリア5%を含む やや粘性有り	10R2/1	やや有り		
PT090	円形	深い丸形	1.50	0.04	2～5mmの細砂30%、2～5mmの褐色スコリア2%，1～2mmの白色スコリア1%を含む やや粘性有り	2 SY2/1	やや有り		
PT091	円形	深い丸形	0.31	0.23	20mmの円鏡、2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコリア3%を含む 黏性有り	10R2/1	やや有り		
PT092	円形	深い丸形	0.92	0.11	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコリア2%，2～5mmの白色スコリア10%を含む 黏性有り	N2/0	やや有り	○	
PT093	半円形	深い丸形	0.94 × 0.41	0.30	1mm以下の白色スコア1%，2～5mmの褐色スコア2%を含む やや粘性有り	7 SY2/1	やや有り		
PT094	円形	深い丸形	1.06	0.12	2～5mmの細砂10%、1～2mmの褐色スコア1%，2～5mmの白色スコア2%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	○	
PT095	円形	深い丸形	1.09	0.17	2～5mmの細砂10%、1～2mmの褐色スコア1%，1～2mmの白色スコア1%を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	○	
PT096	円形	深い丸形	0.42	0.24	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコア2%，土器を含む 黏性有り	N1 5/0	有り		
PT097	円形	深い丸形	0.46	0.32	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコア1%，薄緑の粉を含む やや粘性有り	N2/0	やや有り	○	
PT098	円形	深い丸形	0.48	0.36	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコア3%、1～2mmの白色スコア2%，2～5mmの褐色スコア2%を含む やや粘性有り	N1 5/0	有り	○	
PT099	方型	深い丸形	0.52	0.06	(0)ndmの褐色30%、2～5mmの褐色スコア2%を含む やや粘性有り	7 SY2/1	やや有り		
PT100	楕円形	深い丸形	0.58	0.26	2～5mmの細砂30%、1～2mmの褐色スコア1%，1～2mmの白色スコア1%を含む 黏性有り	10R2/1	やや有り		
PT101	不整形	深い丸形	0.99	0.14	自らが5%、草の根5%、草の根5%、2～5mmの細砂30%を含む やや粘性有り	5 SY2/1	無し	○	
PT102	円形	深い丸形	0.63	0.03	2～5mmの細砂10%、2～5mmの褐色スコア1%，2～5mmの白色スコア5%を含む やや粘性有り	10R2/1	やや有り	○	
PT103	円形	深い丸形	0.36	0.18	20mmの細砂1個、2～5mmの褐色10%、1～2mmの白色スコア4%を含む	N2/0	有り	○	
PT104	円形	深い丸形	0.30	0.23	40mmの褐色物、2～5mmの細砂10%、1～2mmの白色スコア1%を含む	[0]R1.7/1	有り	○	

第6表 3区ピット計測表（2）

透構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	土 壤	色	透土跡まり	透物/古代	透物/中世	透物/近世
PT105	円形	箱形	0.33	0.11	10mmの細根 1%, 2~5mmの細根 10%, 2~5mmの褐色スコリア 5%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む 脂性有り	N2/0	有り			
PT106	円形	深い丸形	0.90	0.03	~2mmの細根 10%, 1~5mmの褐色スコリア 1%, 2~5mmの褐色スコリア 1%を含む 脂性有り	2.5YR2/1	やや有り			
PT107	円形	深い丸形	0.67	0.05	2~5mmの細根 10%, 1~5mmの褐色スコリア 1%, 2~5mmの褐色スコリア 1%を含む 脂性有り	10YR2/1	やや有り			
PT108	円形	深い丸形	0.28	0.13	1~2mmの細根 20%, 1mm以下の白色スコリア 1%を含む 脂性有り	N2/0	無し			
PT109	不整形	箱形	0.82	0.11	2~5mmの細根 30%, 1~2mmの褐色スコリア 2%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	○		
PT110	楕円形	深い丸形	0.56	0.48	2~5mmの細根 30%, 1~2mmの褐色スコリア 2%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む	N1.5/0	やや有り	○		
PT111	円形	箱形	1.09	0.24	2~5mmの細根 10%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む 下層の脂性有り 10mmの細根 1%を含む	N1.5/0	有り	○		
PT112	円形	深い丸形	0.30	0.47	2~5mmの細根 10%, 1~2mmの白色スコリア 5%を含み土が多い	10YR1.7/1	無し			
PT113	楕円形	深い丸形	1.76 × 1.35	0.09	10mmの細根 1%, 2~5mmの細根 20%, 2~5mmの褐色スコリア 2%を含む	10YR1.7/1	無し	○		
PT114	円形	箱形	1.15	0.33	湖苔の粉を含む細根 5%, 2~5mmの細根 20%, 2~5mmの褐色スコリア 10%を含む 少しへき	N2/0	やや有り	○		
PT115	円形	深い丸形	0.90	0.18	2~5mmの細根 30%, 1~5mmの褐色スコリア 10%を含む	10YR2/1	やや有り	○		
PT116	円形	深い丸形	1.26	0.05	10mmの細根 1%, 2~5mmの細根 30%, 1mm以下の白色スコリア 3%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む	10YR2/1	やや有り	○		
PT117	楕円形	深い丸形	0.97	0.09	1mm以下の白色スコリア 1%を含む 脂性有り	N2/0	無し	○		
PT118	円形	深い丸形	1.43	0.11	2~5mmの細根 50%, 1~2mmの褐色スコリア 1%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む 脂性有り	N2/0	やや有り	○		
PT119	円形	深い丸形	0.87	0.25	2~5mmの細根 20%, 1~2mmの褐色スコリア 5%, 1~2mmの白色スコリア 5%を含む 脂性有り	N2/0	有り			
PT120	円形	深い丸形	0.41	0.26	1~2mmの細根 10%, 1mm以下の白色スコリア 1%を含む 下層の脂性有り	10YR1.7/1	やや有り			
PT121	円形	深い丸形	0.43	0.27	1~2mmの白色スコリアを5%以上含む 下層にやや脂性有り	7.5YR2/1 10YR2/1	有り	○		
PT122	不整形	薬研形	0.64 × 0.47	0.30	10mmの細根 10%, 褐色スコリア 1%, 1~2mmの白色スコリア 5%を含む 下層に少しへき	7.5YR2/1 N1.5/0	有り	○		
PT123	円形	深い丸形	0.28	0.22	50mmの細根 1%, 1~2mmの白色スコリアを5%含む やや脂性有り	N1.5/0	やや有り			
PT124	円形	薬研形	0.52	0.35	2~5mmの細根 10%, 1~2mmの白色スコリア 1%を含む 下層の1~2mmの褐色スコリア 1%を含む 脂性有り	N1.5/0 7.5YR2/1	やや有り	○		
PT125	楕円形	深い丸形	0.40	0.35	2~5mmの細根 20%, 1~2mmの褐色スコリア 1%, 褐色スコリア 50%を含む	5YR2/1	有り	○		
PT126	円形	箱形	0.43	0.18	2~5mmの細根 50%, 1~2mmの褐色スコリア 5%を含む 脂性有り	7.5YR2/1	有り			
PT127	円形	深い丸形	0.45	0.27	2~5mmの細根 10%, 1~2mmの白色スコリア 7%, 1~2mmの白色スコリア 2%を含む 脂性有り	10YR1.7/1	有り			
PT128	不要形	深い丸形	0.57 × 0.43	0.17	2~5mmの細根 30%, 1~2mmの褐色スコリア 3%, 1~2mmの白色スコリア 6%を含む 脂性有り	N1.5/0 7.5YR2/1	有り	○		
PT129	円形	深い丸形	0.54	0.15	1~2mmの褐色スコリア 1%, 10mmの細根 1%を含む 脂性有り	7.5YR2/1	有り			
PT130	楕円形	箱形	0.84	0.19	2~5mmの細根 30%, 10mmの褐色スコリア 1%, 2~5mmの白色スコリア 1%, 色の褪せ 3%を含む 脂性有り	N2/0	やや有り	○		
PT131	円形	深い丸形	0.44	0.14	2~5mmの褐色スコリア 1%, 赤褐色スコリアを微量に含む	N2/0	有り			
PT132	円形	深い丸形	0.27	0.30	上層に 2~5mmの褐色スコリア 3%, 下層に 2~5mmの白色スコリア 1%を含む	10YR1.7/1 SY2/1	有り	○		
PT133	円形	薬研形	0.37	0.24	2~5mmの細根 10%, 2~5mmの褐色スコリア 1%, 2~5mmの白色スコリア 1%を含む	SY2/1	やや有り	○		
PT134	楕円形	深い丸形	0.38	0.10	2~5mmの細根 30%, 10mmの褐色スコリア 1%を1個づつ、 10mmの褐色スコリア 1%を含む	N2/0	やや有り			
PT135	円形	箱形	0.70	0.34	10mmの褐色スコリア 1%, 1~20mmの褐色スコリア 20%, 2~5mmの褐色スコリア 20%を含む 上層に褐色の粉、 2~5mmの細根 20%を含む	N2/0 2.5YR2/1	有り			
PT136	円形	薬研形	0.39	0.23	20mmの大さと緑の石、 2~5mmの細根 10%, 2~5mmの褐色スコリア 2%, 褐褐色スコリア 1%を含む	2.5YR2/1	有り			
PT137	円形	深い丸形	0.51	0.25	1~5mmの褐色スコリア 1%, 赤褐色スコリアを含み細根が混じる 下層に 10mmの褐色物 2%を含む 脂性有り	N1.5/0 10YR1.7/1	有り	○		
PT138	円形	深い丸形	0.59	0.49	2mm以下の褐色スコリア 2%を含む 脂性有り	N1.5/0 10YR1.7/1	有り	○		
PT139	楕円形	深い丸形	0.49	0.26	1~3mmの褐色スコリア 3%, 赤褐色スコリアを含む やや脂性有り	N1.5/0	有り			
PT140	円形	深い丸形	0.37	0.32	2mmの褐色スコリア 2%, 褐褐色スコリア 1%を含む	N1.5/0	無し	○		
PT141	円形	深い丸形	0.30	0.31	2~5mmの褐色スコリア 1%, 赤褐色スコリアを含む 脂性有り	10YR1.7/1	無し			
PT142	楕円形	薬研形	0.87 × 0.74	0.42	1~5mmの褐色スコリア 2%, 赤褐色スコリアを含む 脂性有り	10YR1.7/1	無し	○		
PT143	円形	深い丸形	0.99 × 0.84	0.10	1~5mmの褐色スコリア 5%, 赤褐色スコリアを含む 地山は褐色の粉、 脂性有り	10YR1.7/1	有り			
PT144	円形	深い丸形	0.69	0.04	1~5mmの褐色スコリア 2%, 赤褐色スコリアを含む 脂性有り	10YR1.7/1	有り	○		
PT145	不整形	箱形	0.98 × 0.57	0.33	2mmの褐色スコリア 2%, 褐褐色スコリアを微量含む 脂性有り	10YR1.7/1	有り	○		
PT146	不整形	深い丸形	0.30	0.36	1~2mmの褐色スコリア 2%, 赤褐色スコリアを微量含む 脂性有り	10YR1.7/1	無し	○		
PT147	楕円形	深い丸形	0.27	0.14	2mmの褐色スコリア 1%, 褐褐色スコリアを含む 地山は褐色の粉、 脂性有り	10YR1.7/1	有り			
PT148	楕円形	深い丸形	0.37	0.20	2mmの褐色スコリア 1%, 褐褐色スコリアを含む 1~5mmの褐色スコリア 2%, 10点の土玉を含み、 5×10mmの炭化物出土	N2/0	有り			
PT149	円形	深い丸形	0.56	0.17	2mmの褐色スコリア 3%, 褐褐色スコリアを含む 脂性有り	10YR1.7/1	無し	○		
PT150	円形	箱形	0.63	0.15	やや脂性有り	10YR1.7/1	無し	○		
PT151	不明	深い丸形	0.81	0.10	—	—	—	—	—	○
PT152	不整形	箱形	0.80	0.33	—	—	—	—	—	○

第7表 3区ビット計測表（3）

造機名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	基 土	色	墨土跡	古物/古代	遺物/中世	遺物/近世
PT153	不整形	浅い丸形	0.89	0.26	—	—	—	—	—	—
PT154	不整形	—	1.10	0.40	—	—	—	○	—	—
PT155	不整形	薬研形	0.5 × 0.24	0.16	—	—	—	—	—	—
PT156	円形	深い丸形	0.29	0.26	—	—	—	—	—	—
PT157	不明	浅い丸形	1.01	0.18	—	—	—	—	—	—
PT158	円形	深い丸形	0.33	0.26	—	—	—	—	—	—
PT159	円形	浅い丸形	0.17	0.29	—	—	—	—	—	—
PT160	円形	深い丸形	0.36	0.26	—	—	—	—	—	—
PT161	円形	浅い丸形	0.28	0.20	—	—	—	—	—	—
PT162	円形	深い丸形	0.29	0.19	—	—	—	—	—	—
PT163	円形	浅い丸形	0.21	0.14	—	—	—	—	—	—
PT164	円形	深い丸形	0.21	0.25	—	—	—	—	—	—
PT165	円形	深い丸形	0.20	0.30	—	—	—	—	—	—
PT166	円形	浅い丸形	0.35	0.18	—	—	—	—	—	—
PT167	円形	深い丸形	0.33	0.24	—	—	—	—	—	—
PT168	円形	浅い丸形	0.37	0.25	—	—	—	—	—	—
PT169	円形	薬形	0.33	0.30	—	—	—	—	—	—
PT170	円形	浅い丸形	0.34	0.18	—	—	—	—	—	—
PT171	円形	薬形	0.21	0.13	—	—	—	—	—	—
PT172	円形	浅い丸形	0.28	0.19	—	—	—	—	—	—
PT173	円形	薬研形	0.41	0.37	—	—	—	—	—	—
PT174	円形	浅い丸形	0.31	0.16	—	—	—	—	—	—
PT175	円形	深い丸形	0.23	0.24	—	—	—	—	—	—
PT176	円形	浅い丸形	0.48	0.18	—	—	—	—	—	—
PT177	円形	深い丸形	0.28	0.13	—	—	—	—	—	—
PT178	円形	浅い丸形	0.16	0.16	—	—	—	—	—	—
PT179	円形	深い丸形	0.15	0.10	—	—	—	—	○	—
PT180	円形	浅い丸形	0.37	0.27	—	—	—	—	—	—
PT181	円形	薬形	0.20	0.14	—	—	—	—	—	—
PT182	楕円形	薬研形	0.63 × 0.47	0.19	—	—	—	—	—	—
PT183	方形	薬形	0.33	0.24	—	—	—	—	—	—
PT184	円形	深い丸形	0.20	0.35	—	—	—	—	—	—
PT185	円形	薬形	0.38	0.20	—	—	—	—	—	—
PT186	不整形	深い丸形	0.29 × 0.19	0.71	—	—	—	—	○	—
PT187	円形	深い丸形	0.31	0.66	—	—	—	—	—	—
PT188	楕円形	薬研形	0.63 × 0.48	0.19	—	—	—	—	—	—
PT189	円形	薬形	0.48	0.24	—	—	—	—	○	—
PT190	円形	薬形	0.51	0.24	—	—	—	○	—	—
PT191	楕円形	薬形	0.54 × 0.35	0.23	—	—	—	—	—	—
PT192	円形	深い丸形	0.55	0.37	—	—	—	○	—	—
PT193	円形	深い丸形	0.56	0.42	—	—	—	—	—	—
PT194	円形	薬形	0.43	0.23	—	—	—	—	—	—
PT195	円形	深い丸形	0.58	0.47	—	—	—	—	—	—
PT196	円形	薬形	0.38	0.30	—	—	—	—	—	—
PT197	円形	薬形	1.12	0.45	—	—	—	—	—	—
PT198	円形	薬形	0.37	0.27	—	—	—	—	—	—
PT199	円形	深い丸形	0.33	0.30	—	—	—	—	—	—
PT200	円形	薬形	0.65	0.39	—	—	—	—	—	—
PT201	円形	薬形	0.57	0.51	—	—	—	—	—	—
PT202	円形	薬形	0.61	0.42	—	—	—	○	—	—
PT203	不明	深い丸形	1.23	0.09	—	—	—	—	—	—
PT204	不明	深い丸形	0.82	0.10	—	—	—	—	—	—
PT205	円形	深い丸形	0.28	0.33	—	—	—	—	—	—
PT206	円形	薬形	0.34	0.16	—	—	—	—	—	—
PT207	円形	薬形	0.28	0.17	—	—	—	—	—	—
PT208	円形	薬形	0.50	0.23	—	—	—	○	—	—
PT209	円形	薬形	0.36	0.28	—	—	—	—	—	—
PT210	円形	薬形	0.23	0.14	—	—	—	—	—	—
PT211	円形	薬形	0.37	0.20	—	—	—	—	—	—
PT212	楕円形	薬形	0.51	0.28	—	—	—	—	—	—
PT213	円形	薬形	0.28	0.10	—	—	—	—	—	—

第IV章 8区・5区の調査

第IV章 8区・5区の調査

第1節 8区・5区の調査経過

(1) 8区

中原遺跡8区は、全体調査区の中でほぼ中央に位置する950m²の調査区である。東側は5区と隣接する。平成21・22年度にかけて調査を実施した。

8区の調査は平成22年2月12日に範囲の確認作業から開始した。2月17日より重機による表土掘削を始め、これを2月26日に完了させた。3月3日から人力による遺物包含層の掘り下げを行い、4月13日から掘り下げを完了した地点を対象として、順次遺構検出面の精査を開始した。そして4月21日から検出した遺構の掘り下げを行った。

7月末までにおおよその遺構調査を完了させ、8月からは残った住居址の調査と並行しながら、空中写真撮影や実測等の記録化作業を行った。8月19日に空中写真撮影を実施し、8月20日からは重機による埋め戻し作業と資材の撤去などの片付け作業を並行して行った。そして8月31日には全ての作業が完了した。

(2) 5区

中原遺跡5区は、全体調査区のほぼ中央に位置する調査区である。本調査区は、当初は第44図①の範囲にて調査区が設定されていたが、南端にてSB1が検出されたことから、②の範囲にて拡張を行った。このことから最終的に5区は740m²の調査区となった。

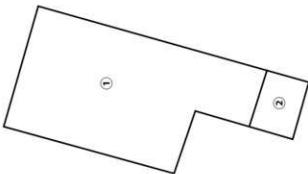
5区の調査は、平成21年4月1日から開始した。休憩所、トイレ設置など調査環境の整備を行った後に、4月7日から重機による表土掘削を開始し、4月10日には調査区にグリッド杭を設定した。そして4月13日から調査区北側より遺物包含層の掘り下げに着手し、遺物包含層の掘削が完了した地点から順次遺構検出を行った。そして先述したようにSB1が調査区①の南端部で検出され、調査範囲外へ広がることが判明したため、4月22日より②の範囲を拡張することとした。5月25日には調査区内全域の遺物包含層の掘り下げと遺構検出を完了させたため、この時点で調査を一時中断させた。

その後、5区と並行して調査を実施していた2区と7月から着手予定であった7区の調査を優先させるため、5区の調査は9月まで中断した。調査の再開は、平成21年9月1日を初日とし、5月末までに検出を完了させていた遺構の掘り下げから着手した。9月10日までに全てのSB床面までの掘り下げが完了したことから、同日空中写真撮影を行った。以後、主にSBのカマドおよび掘方面的の調査を進め、実測作業を含め12月9日まで調査を実施した。

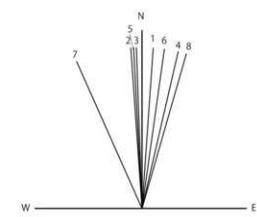
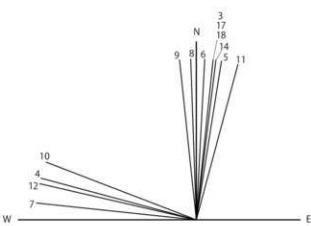
12月10日から重機による埋め戻し作業を開始し、これと並行して資材の撤去を行った。そして12月15日には5区の全ての作業を完了させた。

第2節 8区・5区の遺構と遺物

遺構は調査区全域で検出されており、特に8区南側の密度が濃い。検出された遺構は、2つの調査区の合計数で、古墳時代後期～奈良平安時代に位置づけられる竪穴住居址26軒（8区：16軒、5区：10軒）と、さまざまな時期が混在すると考えられる掘立柱建物址7棟（8区：3棟、5区：4棟）、溝状遺構23条（8区：17条、5区：8条）、土坑1基、不明遺構1基がある。また組み合わせの判明しなかつたピットは603基（8区：438基、5区：165基）検出された。溝状遺構の合計数が一致しないのは、8区と5区は隣接しているものの、調査時間が異なるため、同一の溝状遺構にもそれぞれ別の名称が付けられているためである（8-SD13と5-SD9、8-SD7と5-SD7は同一遺構）。なお、これらは本格的な整理作業が開始する前に、すでに出土遺物への注記作業が完了していたため、混乱を避けるためにも報



第44図 5区調査区割付図



告では新しく名称を振り直すことはせず、調査段階の名称をそのまま用いた。

出土遺物は遺構から出土したもののはか、遺物包含層でもまとまった量が確認できた。出土遺物は古墳時代後期～奈良平安時代に帰属するものが大半を占める。中世以降の遺物も少量であるが認められるものの、他区と比較すると数量は少ない。

(1) 8区検出の竪穴住居址 8-SB

8区のSB遺構は調査区中央付近から南側にかけて主に検出されている。切り合い関係は非常に密であり、全容を捉えることができるSB遺構は少数であった。カマドを検出できなかったSB遺構も多数あるが、おおむね主軸方位は3つのグループに分かれる。すなわち、北北東に軸を持つグループ（SB3・SB5・SB6・SB11・SB14・SB17・SB18）、北北西のグループ（SB8・SB9）、そして西北西のグループ（SB4・SB7・SB10・SB12）である。ただし北北東グループと北北西グループにはそれほど大きな振れ幅はない（第45図）。なお、検出時には切り合い関係が複雑で判断が難しく、調査中に遺構名称の変更があったため、SB1・SB2は欠番となっている。これらも遺物注記の関係から新しく番号を振り直すことはしなかった。

8区第3・4号住居址（8-SB3・8-SB4 第47図～第52図）

SB3・SB4は119-41Gr・119-42Gr・120-41Gr・120-42Grで検出された。SB4がSB3を切っている。SB3は8区の中で最大規模のSBであるが、遺構検出時は1軒の住居址ではなく、欠番となったSB2とSB3が重なり合う2軒の住居址と判断していた。北側をSB3、南側をSB2として番号を振って掘削を進めたが、掘削を進めるうちに1軒の住居址であることが判明したため、大部分の掘削および図示作業が進行していた北側、すなわちSB3を正式な遺構名称とし、SB2を欠番とした。

また調査時にSB3とSB4の切り合い関係を誤認していたため、SB3を調査し完了させた後に、SB4の調査に着手した。そのためSB4東半部はSB3調査時に掘削してしまっている。なおSB3の下端は、SB4のそれよりも深く掘られていたことから、検出することができた。そのため、SB3の下端は実線で示したが、掘削してしまったSB4の東側に関しては、推定を含むため破線で示した。

SB3はSB4・SD1・攢乱などにより切られているが、平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.45mが残存していた。SB4は、SB3の調査時に大部分を掘削してしまったため、東側の様相は明らかではないが、方形を呈していたと考えられる。立ち上がりは深さ0.45mが残存していた。

規模 SB3 東西8.36m×南北8.20m SB4 東西2.93m（推定）×南北2.79m

重複関係（古）SB18・SX1→SB3→SB4・SH1→SD1（新）

主軸方位 SB3 N-6°-E SB4 N-75°-W

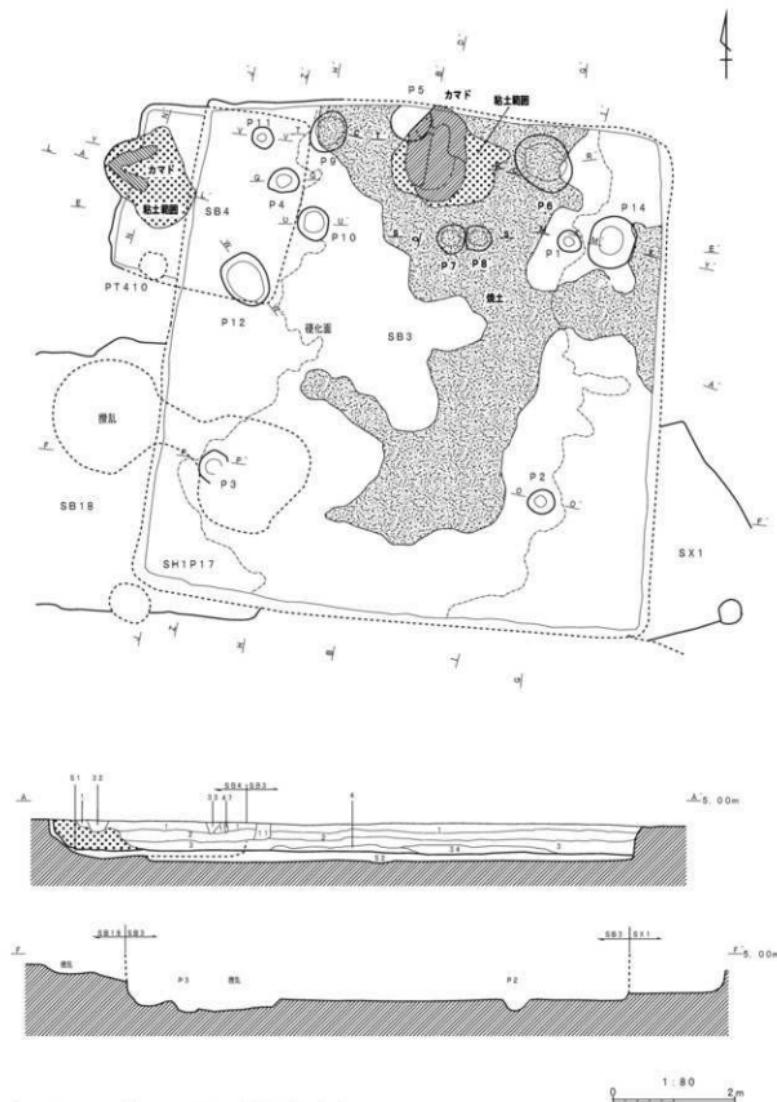
壁溝 いずれも検出されない。

柱穴 SB3では13基検出された。主柱穴はP1～P3・P10と考えられる。またカマドの両脇および正面にP6～P9が配される。なお、調査時の遺構名称をそのまま用い、全ての柱穴をSB3にて記載したが、SB3北西部のP4やP11はSB4に帰属していた可能性もある。P5は整理作業の結果、カマドを掘り込む遺構と判明したため、SB3とは異なる時期の遺構と考えられるが、ここに掲載した。

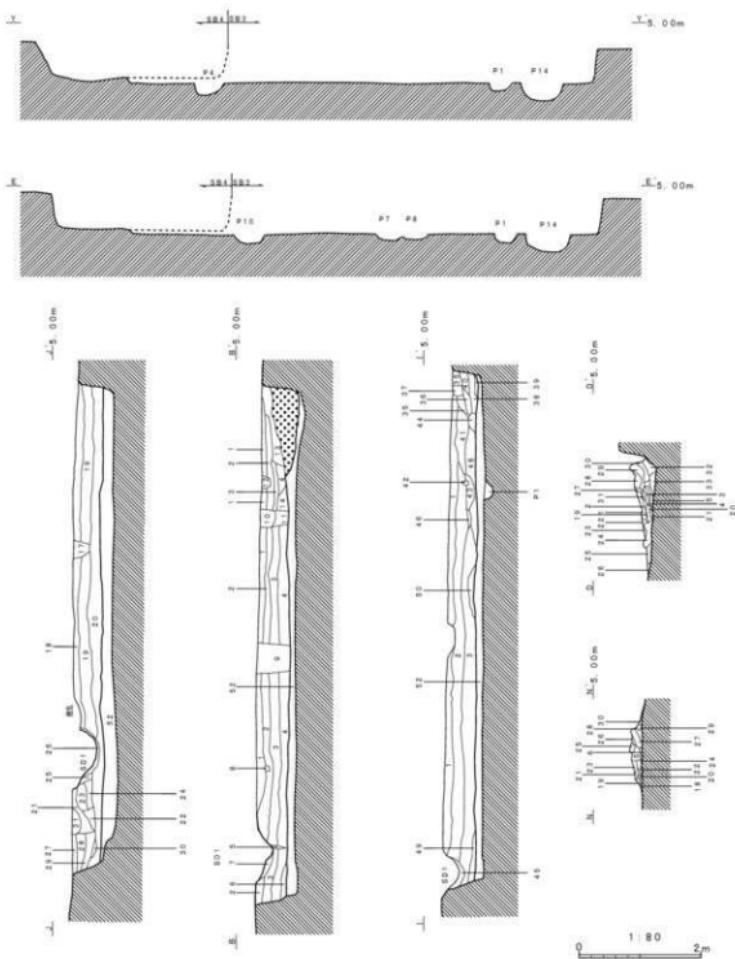
P1は径0.39m・深さ0.22m、P2は径0.45m・深さ0.24m、P3は径0.50m・深さ0.17m、P4は径0.51m・深さ0.20m、P5は径0.32m×0.26m・深さ0.14m、P6は径1.02m・深さ0.35m、P7は径0.48m・深さ0.10m、P8は径0.40m・深さ0.10m、P9は0.71m×0.57m・深さ0.17m、P10は径0.56m・深さ0.11m、P11は径0.37m・深さ0.15m、P12は径0.88m×0.69m・深さ0.36m、P13は欠番、P14は0.87m・深さ0.30mを測る。

SB4 検出されない（ただしP4・P11はSB4に帰属する可能性がある）。

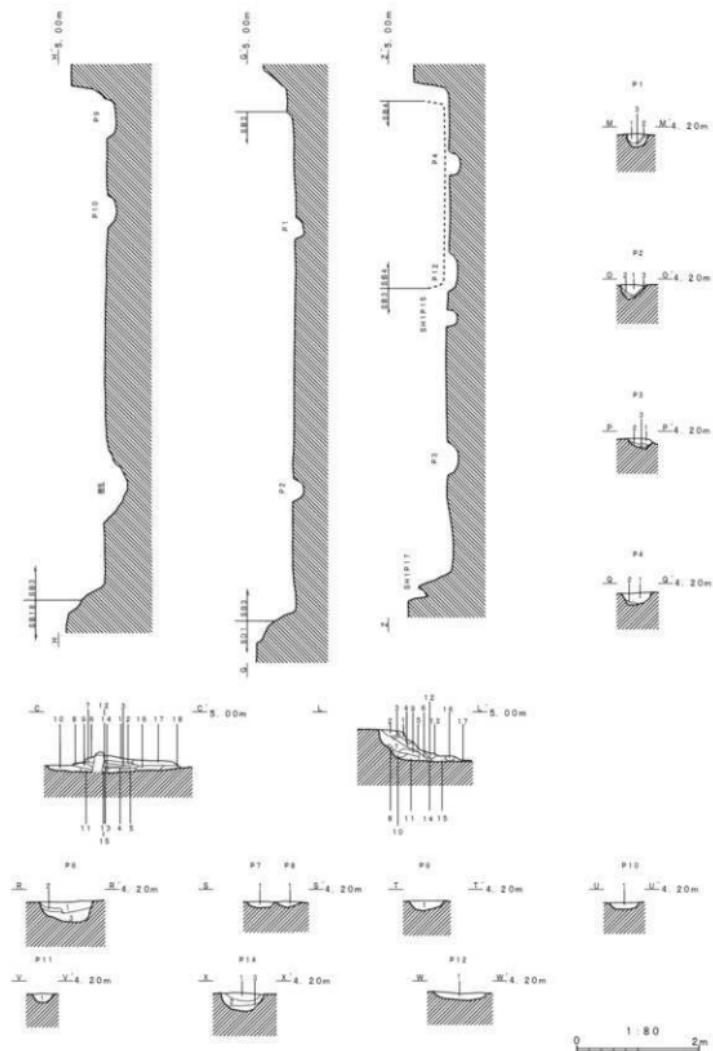
貼床 SB3 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全域に硬化面が残っていた。



第47図 8区第3・4号住居址実測図（1）



第48図 8区第3・4号住居址実測図（2）



第49図 8区第3・4号住居実測図(3)

A+B+J	1 N2/0	黒	やや網よりがれり5~8mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	2 S5R2/1	黒	やや網よりがれり6mmの細胞を少量と2~3mmのスコリア1%を含む
	3 S5P2/1	黒	やや網よりがれり5~8mmの細胞3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	4 2 SYR2/1	黒	やや網よりがれり5mmの細胞2~3mmのスコリア1%を含む
	5 S5R1, 7/1	黒	5~8mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	6 S5R2/2, 7/1	黒	10~12mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	7 S5R2/1	黒	1~10mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	8 10YR2/2	黒	網より土体を含む2~3mmの細胞を含む
	9 S5R2/2	黒	10mmの細胞3%, 2~5mmのスコリア1%を含む
	10 10YR2/1	黒	5mmの細胞3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	11 N2/0	黒	5~8mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	12 N2/0	黒	5mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	13 S5R2/2, 1	黒	砂土を多く含む5~8mmの細胞1%を含む
	14 2 SYR2/1	黒	網よりがれり5mmの細胞3%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	15 S5R2/1	黒	私毛を少々と1~2mmの細胞3%, 土層を含む
	16 SYR2/1	黒	やや網よりがれりで土を多く含む5~8mmの細胞1%を含む
	17 N3/0	黒	網よりがれりで土を多く含む5~8mmの細胞3%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	18 10YR2/1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞3%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	19 2 SYR2/1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	20 N3/0	黒	10mmの細胞3%, 2~5mmのスコリア1%を含む
	21 N2/0	黒	10mmの細胞3%, 2~5mmのスコリア1%を含む
	22 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり5~10mmの細胞を量と1~2mmのスコリア1%を含む
	23 2 SGY2/1	黒	8~10mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	24 SGY2/2, 1	オリーブ	8mmの細胞3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	25 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり5mmの細胞3%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	26 N3/0	黒	10~15mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	27 7 SYR2/1	黒	10~20mmの細胞1%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	28 10YR2/2, 1	黒	8~10mmの細胞1%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	29 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり5~10mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	30 N2/0	黒	網よりがれりで2~5mmのスコリア1%を含む
	31 7 SYR2/1	黒	8~10mmの細胞3%, 2~5mmのスコリア1%を含む
	32 SYR2/1	黒	網よりがれり5mmの細胞を量と1~2mmのスコリア1%を含む
	33 N2/0	黒	5mmの細胞3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	34 2 SYR2/1	黒	やや網よりがれり5~8mmの細胞3%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	35 SGY2/2, 1	オリーブ	網が全体で2~5mmのスコリア1%を含む
	36 10GYR2/1	黒	網よりがれり1~2mmのスコリア1%を含む
	37 10GYR2/1	黒	網よりがれり, 物質で土壌を多く含む
	38 10YR2/1	黒	10mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	39 2 SGY2/1	オリーブ	網よりがれり1~2mmの細胞多量と1~2mmのスコリア1%を含む
	40 N2/0	黒	網から土を多く含む5~10mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	41 SG3/1	暗緑	網よりがれり5~10mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	42 2 SYR3/1	黒	やや網よりがれり5mmの細胞, 1~2mmの細胞1%を含む
	43 10GY2/1	黒	5mmの細胞を多くと1~2mmのスコリア1%を含む
	44 10YR2/2, 1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	45 SG2/1	黒	網よりがれり5mmの細胞1%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	46 SY3/1	オリーブ	網よりがれり5mmの細胞1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	47 SYR2/2, 1	黒	網よりがれり細胞を量と5~10mmの細胞1%を含む
	48 SY3/1	オリーブ	私毛の土質を含む, 8~10mmの細胞, 5mmのスコリア3%を含む
	49 2 SGY2/1	黒	網よりがれり1~2mmの細胞1%を含む
	50 SYR2/2	黒	網よりがれり, 色と異なった私毛多量に含む
	51 N2/0	黒	砂の土層
	52 SYR2/1	黒	砂の土層
SB3P1M	1 10GY2/1	緑	網よりがれり5~15mmの細胞10%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	2 SBG2/2	青	底に砂と5~10mmの細胞1%を含む
P2O	3 N2/0	黒	網よりがれり5~10mmの細胞1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	4 10GY2/1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞2%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	5 SG2/2	黒	網よりがれり5~10mmの細胞2%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P3P	3 10Y2/1	黒	網よりがれり10~20mmの細胞20%, 1~3mmのスコリア1%を含む
	1 SG2/2, 1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞10%, 1~5mmのスコリア1%を含む
	2 N2/0	黒	網よりがれり5~1~10mmの細胞20%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	3 10GY2/2, 1	黒	網よりがれり5~1~10mmの細胞30%, 1~3mmのスコリア1%を含む
P4Q	1 N2/0	黒	網よりがれり5~1~10mmの細胞5%, 1~3mmのスコリア1%を含む
	2 10GY2/1	黒	網よりがれり5~1~10mmの細胞30%, 1~3mmのスコリア1%を含む
P6R	1 7 SYR2/1	黒	網よりがれり1~10mmの細胞10%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	2 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり1~10mmの細胞10%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	3 2 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり3~5mmの細胞20%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P7S	1 10Y3/1	オリーブ	やや乾燥がれり5~10mmの細胞5%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P8S	SY3/1	オリーブ	やや網よりがれり3~5mmの細胞10%, 3~5mmのスコリア1%を含む
P9T	5GY2/2, 1	オリーブ	底に砂, 1~5mmの細胞20%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P10U	5GY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり1~5mmの細胞30%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P11V	7 SGY2/2, 1	黒	やや網よりがれり1~2mmの細胞20%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P12W	SGY2/2, 1	オリーブ	やや網よりがれり1~2mmの細胞20%, 1~2mmのスコリア1%を含む
P14X	1 10GY2/1	黒	網よりがれり1~2mmの細胞30%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	2 SGY2/2, 1	オリーブ	網よりがれり1~2mmの細胞30%, 3~5mmのスコリア1%を含む
	3 10GY2/2, 1	黒	網よりがれり5~15~20mmの細胞20%, 1~3mmのスコリア1%を含む

第50図 8区第3・4号住居址土層附記(1)

C-D	1	7. SYR4/1	場	泥	堆土片と2~3-mmの細縫2%を含む
2	7. SYR4/2	場	泥	堆土片と2~3-mmの細縫2%を含む	
3	SYR4/3	(リ)リーフ	粘	粘土が堆土と混じて少量を含む	
4	7. SYR4/2	場	泥	堆土と、砂、礫類5%を含む	
5	TOYR3/2	場	泥	堆土片と2~3-mmの細縫2%を含む	
6	7. SYR4/2	場	泥	堆土片と2~3-mmの細縫2%を含む	
7	TOYR3/2	場	泥	堆土片と2-mmの細縫1%を含む	
8	TOYR3/2	泥	泥	泥の状態でおり1-mmの細縫1%を含む	
9	7. SYR4/2	場	泥	堆土を少量と2~3-mmの細縫1%を含む	
10	SYR4/2	堆土反	泥	堆土片、灰土、砂、灰、2~3-mmの細縫10%を含む	
11	SYR3/1	場	泥	粘土が堆土と混じて少量を含む	
12	7. SYR3/1	場	泥	粘土が堆土と混じて少量を含む	
13	TOYR3/2	場	泥	粘土が堆土と混じて少量を含む	
14	TOYR3/2	場	泥	泥の状態で少しきずく~3-mmの細縫1%を含む	
15	7. TR3/1	場	泥	1~2-mmの細縫1%を含む	
16	TOYR4/2	場	泥	堆土片と少しきずく、灰土物、1~2-mmの細縫1%を含む	
17	TOYR4/2	反夷頭	泥	堆土片と少しきずくと3~5-mmの細縫2%を含む	
18	2. SY4/1	泥	泥	粘土や少しきずくと2~3-mmの細縫10%を含む	
19	7. SYR4/2	場	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫1%を含む	
20	TOYR3/2	場	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫5%を含む	
21	7. SYR3/1	場	泥	2-mmの細縫5%を含む	
22	TOYR4/2	場	泥	2~3-mmの細縫2%を含む	
23	2. SY5/3	泥	泥	堆土片と2~3-mmの細縫10%を含む	
24	TOYR4/2	堆土反	泥	堆土片と2~3-mmの細縫2%を含む	
25	2. SY4/2	堆土反	泥	粘土や少しきずくと2~5-mmの細縫5%を含む	
26	2. SY4/1	泥	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの谷縫7%を含む	
27	TOYR3/2	泥	泥	粘土が堆土と少しきずくと2~3-mmの谷縫5%を含む	
28	7. SYR4/4	泥	泥	粘土層で堆土が堆り細縫が少く、大きな堆土片と多量に混じる	
29	7. SYR4/4	泥	泥	粘土層と2層に離れており細縫と3~5-mmの堆土片と多量に混じる	
30	TOYR4/4	泥	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫5%を含む	
31	7. SYR4/4	泥	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫5%を含む	
32	TOYR3/4	泥	泥	粘土層で堆土が堆り細縫を少量と大きな堆土片と多量に含む	
33	2. SY3/3	堆土リーフ	泥	粘土層で堆土と混じて少しきずく	
L-N	1	2. SYR2/1	赤	泥	堆土土と3~5-mmの細縫と堆積物を含む。粘土と炭化物を多量に含む
	2	7. SYR2/1	赤	泥	堆土と粘土が混じる粘土層で1~2-mmの堆積物と粘土の混合を少量含む
	3	SYR2/1	赤	泥	堆土と粘土が混じる粘土層で2~5-mmの細縫を多量と堆積物を含む。粘土と少しきずく含む
	4	2. SYR2/2	赤	泥	堆土と粘土が混じる粘土層で2~5-mmの細縫を多量と堆積物を含む。粘土と少しきずく含む
	5	7. SYR3/1	赤	泥	堆土と粘土が混じる粘土層で5-mmの細縫を多量と堆積物を含む
	6	1. TOYR3/2	赤	泥	堆土と粘土が混じる粘土層で7~8-mmの細縫を多量と堆積物を含む
	7	2. SY3/2	赤	泥	粘土層で5~8-mmの細縫を少量含む
	8	SY3/1	リーフ	泥	粘土層で細縫と岩質物を多量に含み、堆積物を含む
	9	2. SY3/2	リーフ	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	10	2. SY3/1	泥	粘土層で細縫を多量に含み、炭化物と堆積物を少量含む	
	11	TOYR4/2	反夷頭	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	12	7. SY2/2	リーフ	泥	堆土と少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	13	2. SY3/1	赤	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	14	1. TOY3/1	堆土反	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	15	SBG3/1	堆土反	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	16	1. OG3/1	堆土反	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	17	N.O.	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む	
	18	SBG3/1	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む	
	19	SY3/1	リーフ	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	20	SY3/1	リーフ	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	21	SBP4/4/1	堆土反	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	22	5GY2/1	リーフ	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	23	5Y3/1	リーフ	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	24	2. SY3/1	赤	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	25	SG3/1	堆土反	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	26	TOY3/1	リーフ	泥	粘土層で細縫を少しきずくと2~3-mmの細縫と堆積物を少量含む
	27	10GY2/1	泥	泥	1~3-mmのスコア1%を含む
	28	NG2/0	泥	泥	1~3-mmのスコア1%を含む
	29	SY3/1	リーフ	泥	粘性がある
	30	SBG3/1	堆土反	泥	粘性がある
	31	注記不規			

第51図 8区第3・4号住居址土層目録(2)

また住居址中央から東半にかけて床面には焼土が広がり、P6～P9を覆っている。またP1・P2・P6・P9の覆土中に炭化物層が検出されている。なお北東隅において南北方向に硬化面が途切れているが、これはSB4との重複によって失われたためと推測される。

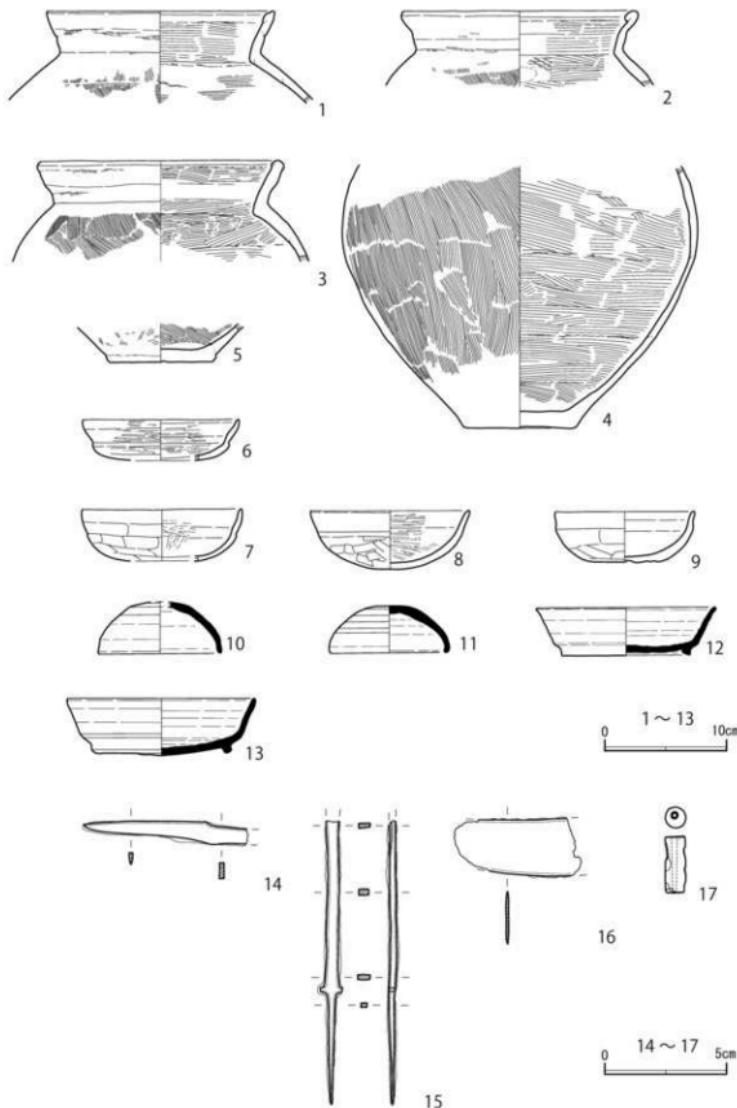
SB4 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド SB3 北辺の中央に位置する。やや崩壊していたが、両袖部と燃焼部が残存していた。袖部では、砂質ブロックが検出されており、これが芯材であったと考えられる。

SB4 西辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部と燃焼部が認められた。

遺物 SB3では土器を13点、鉄製品を3点、管玉1点の計17点を図示した。土器は1～9が土師器、10～13が須恵器である。

1～5は甕である。どの個体でもミガキ調整は認められない。3の口縁部は特に器壁が厚い。6～9は环である。6・7は体部中段に稜を持つ。一方、8の稜は緩やかで、全体的に丸みを持って立ち上がる。



第52図 8区第3号住居址出土遺物実測図

9は胎土が粗製の坏で、底部には木葉痕が残る。SB16出土片と接合した。4はカマド周辺から出土した。

10・11は坏蓋、12・13は有台坏身で、前者は遠江IV期頃、後者はV期前半頃に位置づけられる。12はSB7出土片と接合した。13は底部が高台よりも張り出している。11は床面から出土した。

14～16は鉄製品である。14は刀子で、刃部から茎部が残存する。棟側は撫間であるが、刃部側ははつきりとしない。15は尖根式の鉄鎌で、頭部から茎部が残存する。棘間と考えられるが、鋒の付着が激しく、X線撮影も判然としない。16は不明鉄製品とした。非常に薄く、鎌先もしくは鉄素材の可能性が考えられる。

17は片面穿孔の管玉で、いわゆる「縁玉繭」製である。最大長2.31cm、最大幅0.83cm、最大厚0.83cm、重量は2.41gを測る。

SB4は遺物が少なく、図示が可能な遺物はなかった。

時 期 SB3はミガキ調整を伴わない土器器表や床面出土の須恵器坏蓋などから、7世紀に位置づけられる。SB4はSB3と切り合い関係を持ち、SB3よりも新しいことに加え、発掘手順を考慮すると、SB3の13・14など遠江V期前半に位置づけられるような比較的新しい年代の遺物はSB4からの混入した可能性がある。したがってSB4は8世紀前半頃を想定しておきたい。

8区第18号住居址（8-SB18 第53図）

119-41GrにてSB3と重複して検出された。近世以後と考えられるPTや攪乱に上面を大きく乱されていたため、当初の構造検出段階では認識できておらず、空中写真撮影後に改めて確認された構造である。SB3により、東半分が失われているが、残存部分から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.40mが残存していた。

規 模 東西4.22m×南北4.07m（残存部） 重複関係：（古）SB18→SB3→SD1（新）

主軸方位 N-6°-E 壁溝 検出されない。

柱 穴 住居址中央付近で2基検出された。P1は径0.75m×0.61m・深さ0.39mである。P2はSK1と重複し、P1よりも小さい。残存部で径0.30m・深さ0.05mを測る。主柱穴は不明である。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。住居址中央部で硬化面が広がっていた。また床面では土坑（SK1）が1基検出された。ただしSK1は近世以後のPTと重複するため、床面よりも上層から掘り込んでいた可能性がある。SK1は径1.21m×0.83m・深さ0.25mを測る。

カマド 北辺の中央付近に位置する。崩壊しているが、袖部と西側の袖石が残存していた。

遺 物 土器はカマドおよびその周辺と、南側で出土したが、破片資料が多く図示できたものはなかった。小片では小型化した須恵器坏身が出土している。

時 期 SB3に切られることから、7世紀以前である。

8区第5号住居址（8-SB5 第54図～第56図）

121-41Grで検出された。南側をSB14に、北側をSB17にそれぞれ切られている。しかしSB17の掘削がSB5のカマドにまで及んでおらず、SB5のカマド袖部が残存していた。平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.34mが残存していた。

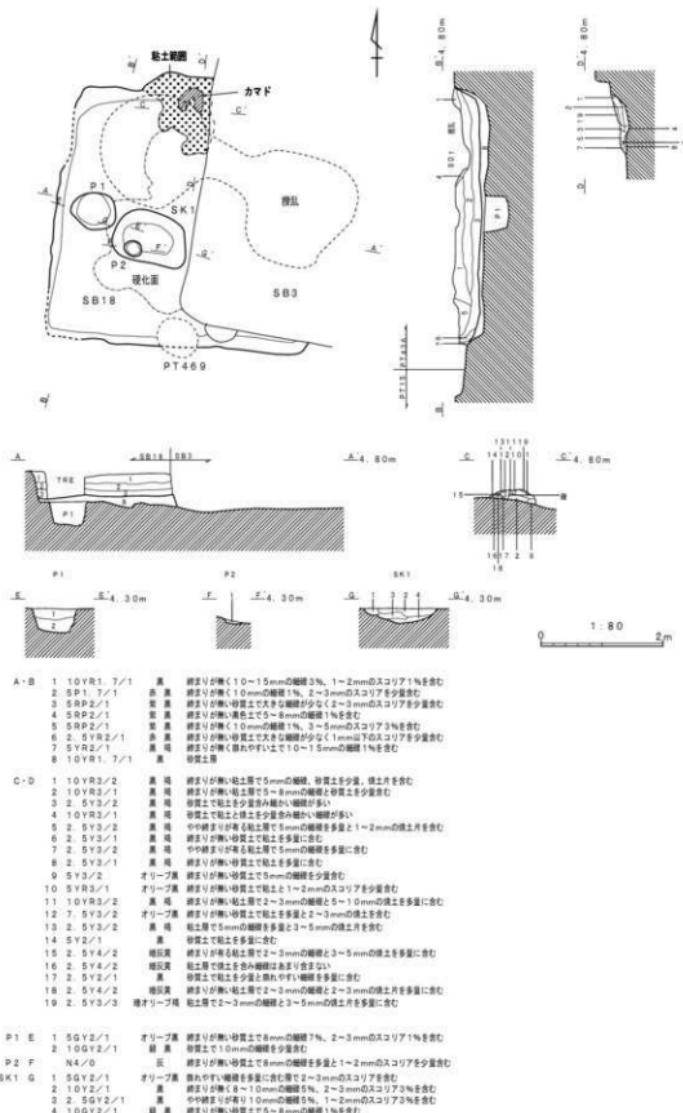
規 模 東西3.45m×南北3.10m（残存部） 重複関係：（古）SB6→SB5→SB14・SB17（新）

主軸方位 N-9°-E 壁溝 検出されない。

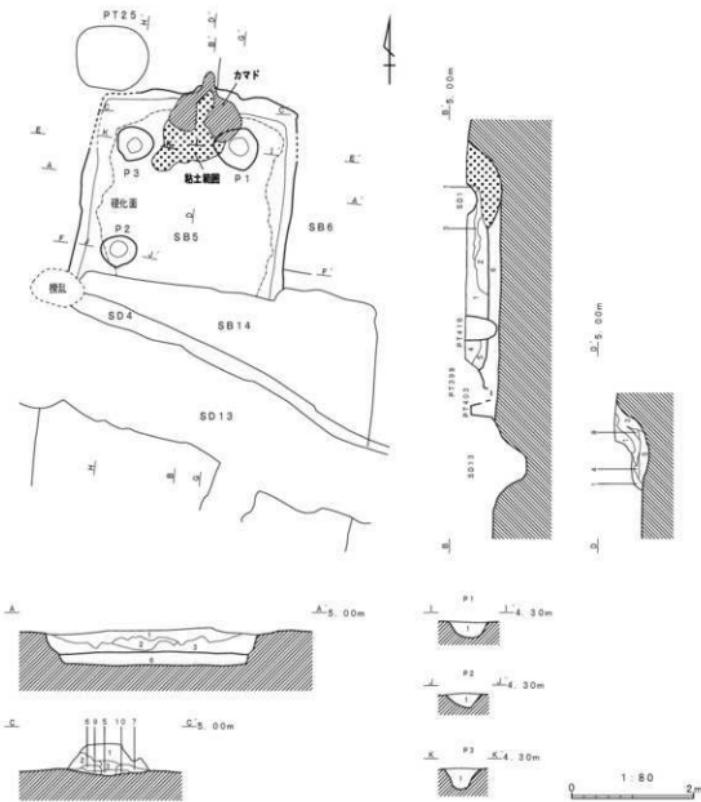
柱 穴 3基検出。P1～P3は径0.59～0.73m・深さ0.23～0.35mを測る。いずれも主柱穴と考えられる。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全面に硬化面が認められた。

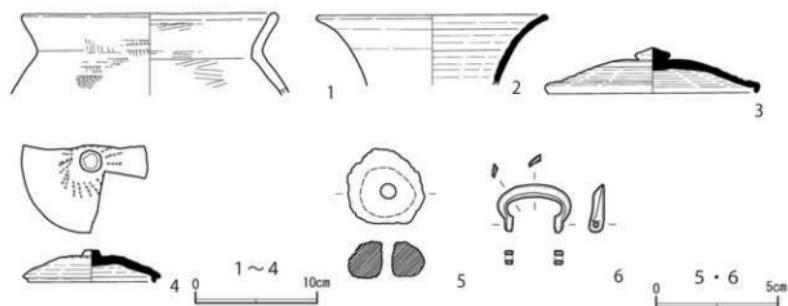
カマド 北辺の中央に位置する。袖部と燃焼部、煙道の一部が残存している。カマド周辺には構築上と思われる粘土の広がりが認められた。



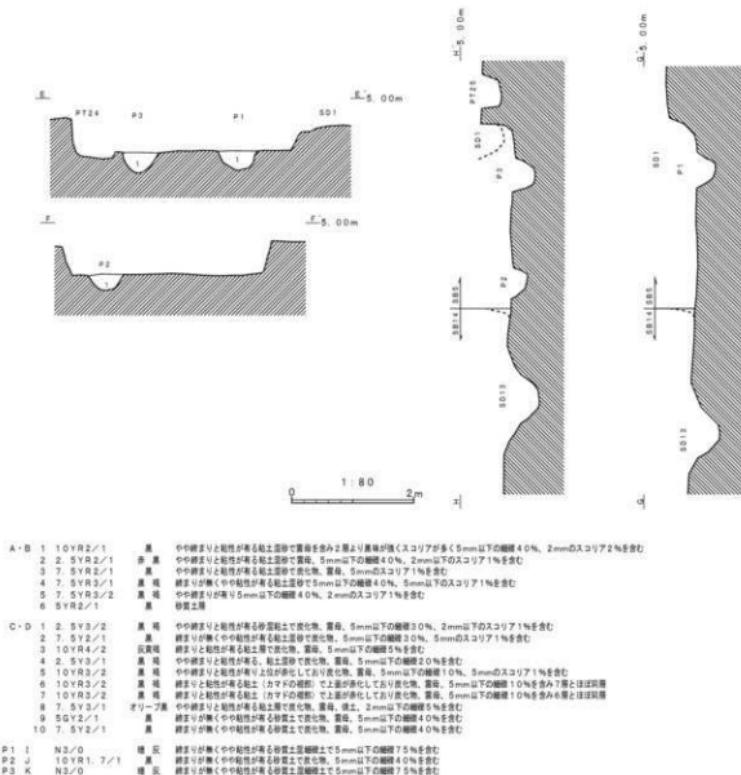
第53図 8区第18号住居址実測図



第54図 8区第5号住居址実測図(1)



第55図 8区第5号住居址出土遺物実測図



第56図 8区第5号住居址実測図(2)

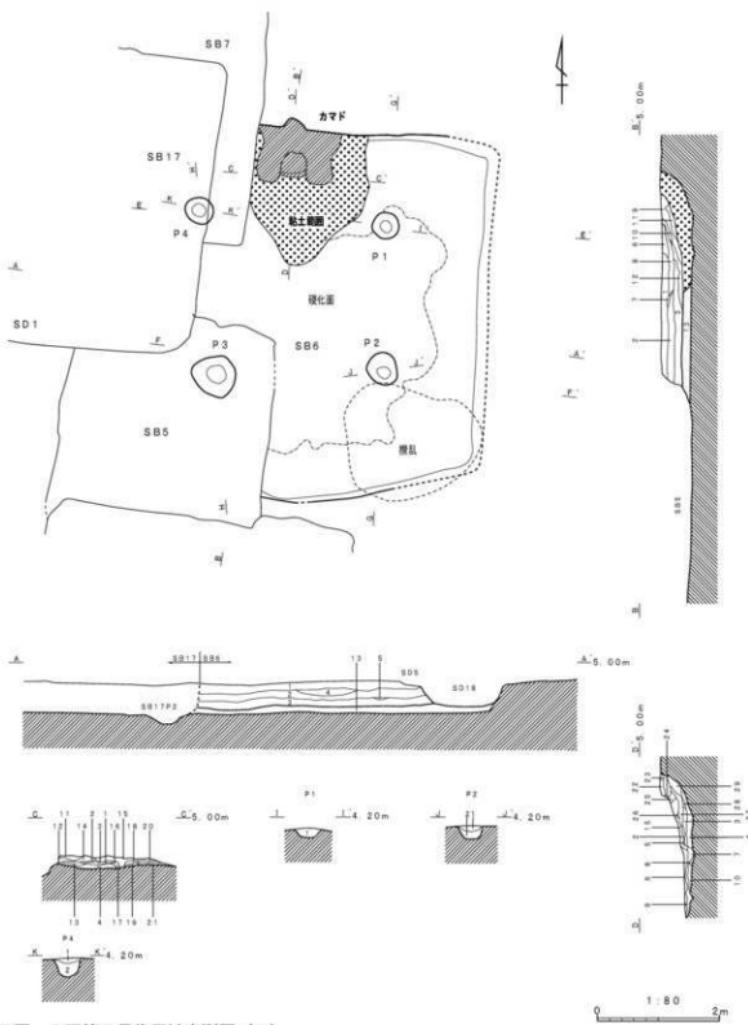
遺 物 土器4点、石製品1点、銅製品1点の計6点を示した。土器は1のみ土師器で、2~4は須恵器である。

1は壺で、ハケメ調整のみでミガキ調整は認められない。2は壺もしくは瓶類の口縁部で、外面に自然釉が付着する。3は摘み蓋、4は返り蓋である。3はSB13出土片と、4はSB6出土片とそれぞれ接合した。4は摘みが小型化し、上面に4もしくは5単位の刺突が施される。須恵器は遠江IV期後葉~V期初頭に位置づけられる。4はカマドから、2は床面から出土した。

5は紡錘車である。砂岩製で、大きさは径3.15cm、厚さ1.5cmを測る。形態は不整な円形で、断面形は台形を呈し、表面・裏面ともに面取りがなされている。穿孔の径は表面0.6cm、裏面0.1cmである。重さは11.1gを測る。

6は銅製の鉢具である。縦1.9cm、横3.1cm、厚さ0.6cmと非常に小型で、重量は5.38gを測る。覆土の上層(A-A'断面 第1層)から出土した。

時 期 出土須恵器の年代は7世紀末~8世紀初頭に位置づけられる。切り合い関係からもSB5は8世紀前葉頃と考えられるSB14に切られ、7世紀後半~末葉に位置づけられるSB6を切るという関

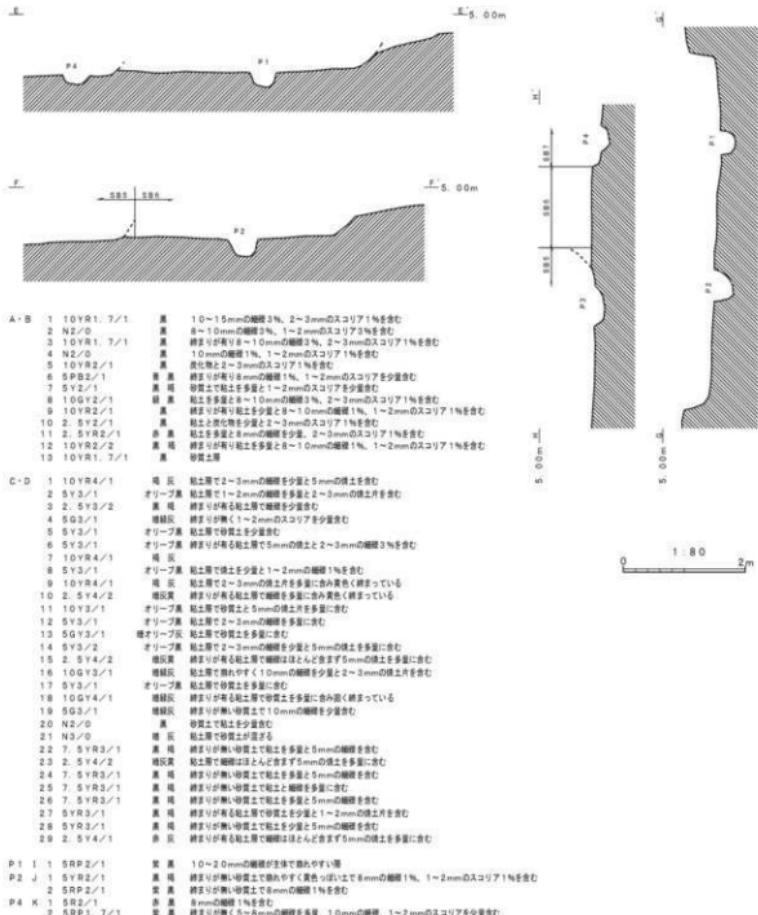


第57図 8区第6号住居址実測図（1）

係にあることから、この間の年代に位置づけられる。

8区第6号住居址（8-SB6 第57図～第59図）

121-41Grで検出された。西側をSB5・SB7・SB17に切られ、東側の上端をSD18に切られている。切り合い関係において、8区南側のSB群の中で最も古いSBとなる。残存部分から南辺が弧状に張り出す五角形と推定される。立ち上がりは残存部分で深さ0.33mが残存していた。



第58図 8区第6号住居址実測図（2）

規模 東西 6.21m × 南北 6.08m (残存部)

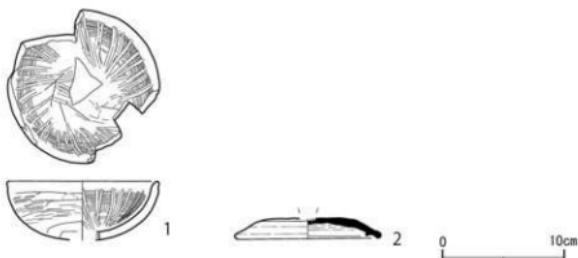
重複関係 (古) SB6 → SB5・SB7 → SB17 → SD1・SD5・SD18 (新)

主軸方位 N・3°・E (残存部) 壁 溝 検出されない。

柱穴 4基検出。P1・P2・P4は径 0.44～0.54m・深さ 0.16～0.31m、P3は径 0.73m・深さ 0.16m を測る。

貼床 黒色の砂質土を埋土とし、床面としている。住居址中央部に硬化面が認められた。

カマド 北辺の中央に位置する。袖部、燃焼部を検出した。芯材等は確認されていない。



第59図 8区第6号住居址出土遺物実測図

遺物 2点を図示した。1は土器師の丸底環で、SB7出土片と接合した。口縁は内傾しながら立ち上がり、口唇部がわずかに外へ開く。内面には横ミガキの後に、縦方向に放射状の暗文ミガキを施す。掘方より出土した。2は須恵器の返り蓋で、SB8出土片と接合した。天井部は扁平で、摘みは失われている。遼江IV期後葉～末葉頃に位置づけられる。

時期 7世紀後半～末葉頃に位置づけられる。

8区第7・17号住居址 (8-SB7・8-SB17 第60図～第67図)

SB7は120-41Gr・121-41Grで検出された。SB17に切られているため、西側・南側の上端は検出されていない。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.50m残存していた。なお、南北断面図は作成されていない。

SB17はSB7の南側の120-41Gr・121-41Grで検出された。SB17は北辺にカマドを持つが、西壁にカマドを構築するSB7を切っている。南辺はSD1・SB5に切られているため全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.29mが残存していた。なお、東西・南北断面図は作成されていない。

規模 SB7 東西4.79m×南北5.03m SB17 東西4.65m×南北4.77m（残存部）

重複関係 (古) SB6・SB16→SB7→SB17→SB5・SD1・SX1(新)

主軸方位 SB7 N-84°-W SB17 N-6°-E

壁溝 SB7・SB17ともに検出されない。

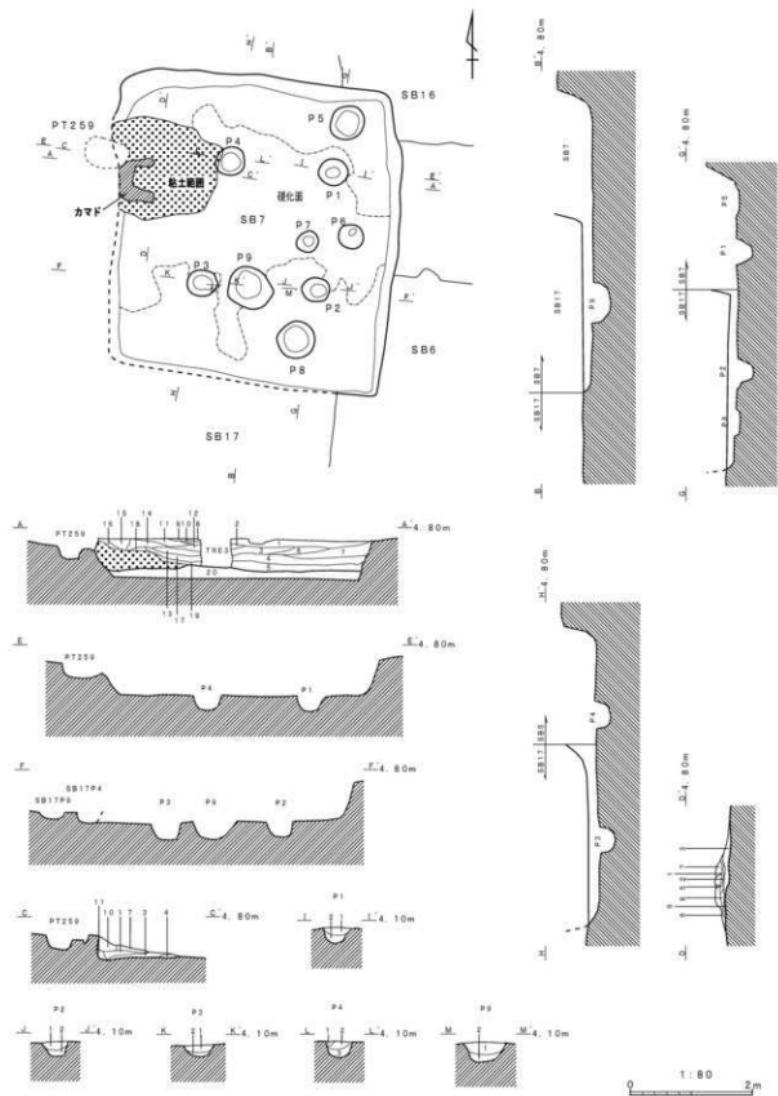
柱穴 SB7 9基検出。P1～P4は径0.45～0.51m・深さは0.19～0.27mを測る。P5は径0.59m・深さ0.05m、P6は径0.41m・深さ0.16m、P7は径0.37m・深さ0.10m、P8は径0.62m・深さ0.08m、P9は径0.74m×0.66m・深さ0.32mを測る。P1～P4が主柱穴と考えられる。

SB17 9基検出。P1は径0.49m・深さ0.22m、P2は径0.57m・深さ0.10m、P3は径0.47m・深さ0.17m、P4は径0.43m・深さ0.20m、P5は径0.37m・深さ0.14m、P6は径0.60m・深さ0.14m、P7は径0.27m・深さ0.13m、P8は径0.64m・深さ0.44m、P9は径0.43m・深さ0.22mを測る。主柱穴はP1～P3・P9と考えられる。

貼床 SB7は黒色の砂質土を使って床面としている。床面のレベルがSB17の掘方面よりも下位にあったため、SBの中央部を中心に硬化面が残存していた。SB17は図示されていないが、写真で判断する限り、SB7と同じく、黒色砂質土を使って床面を形成していると考えられる。硬化面は東端を除き、SBのほぼ全面で確認した。

カマド SB7 西辺のやや北寄りに位置し、SBの中心軸から外れる。袖部、燃焼部が残存していた。掘方は浅く、床面とほぼ同レベルである。カマド周辺には崩壊に伴う粘土の広がりが認められた。

SB17 北辺中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部、支脚が残存しており、土器破片



第60図 8区第7号住居址実測図

A	1 N3/0	黒 砂	縫まりがなく0mmの範囲5%, 3~5mmのスコア1%を含む
	2 10G3/1	褐色灰	透かし紋がなく0mmの範囲7%, 2~3mmのスコア1%を含む
	3 10G3/1	褐色灰	粘土質で少々多く10mmの範囲1%, 1~2mmのスコア1%を含む
	4 5B3/1	褐色灰	繊維状で粘土質で少々多く8mmの範囲5%, 1~2mmのスコア1%を含む
	5 SY4/1	灰	織れやすい細孔の内で1~2mmのスコア1%を含む
	6 N2/0	黒	8mmの範囲5%, 2~3mmのスコア1%を含む
	7 N3/0	黒 砂	1~0mmの範囲3%, 2~3mmのスコア1%を含む
	8 5Y3/1	オーラー黒	縫まりがなく土色非常に多く合せ5mmの範囲を多量に含む
	9 N3/0	黒 砂	粘土質で少々多く1~2mmの範囲を含む
	10 G3/1	オーラー黒	縫まりがなく土色非常に多く合せ5mmの範囲を多量に含む
	11 5G3/1	オーラー黒	8mmの範囲1%, 1~2mmのスコア1%を含む
	12 5G3/1	褐色灰	8mmの範囲10%, 1~2mmのスコア1%を含む
	13 2. 5G2/1	褐色灰	8~10mmの範囲3%, 1~2mmのスコア1%を含む
	14 N3/0	黒 砂	10mmの範囲3%, 1~2mmのスコア1%を含む
	15 2. 5G2/1	黒	8~10mmの範囲3%, 1~2mmのスコア1%を含む
	16 SY3/1	オーラー黒	縫まりがなく土色非常に多く合せ5mmの範囲を多量に含む
	17 N3/0	黒 砂	1~0mmの範囲5%, 1~2mmのスコア1%を含む
	18 SY3/1	オーラー黒	縫まりがなく土色非常に多く合せ5mmの範囲を多量に含む
	19 5G3/1	黒	土色多く且土色を含む、5mmの範囲10%を含む
	20 N2/0	黒	粘土質
C-D	1 10YR3/2	黒 砂	縫まりがなく土色で5mmの範囲と1~2mmの砂土を少量含む
	2 10YR3/2	黒 砂	縫まりがなく土色で黑っぽい粘土を含む
	3 10YR3/2	黒 砂	粘土質で少々多く1~2mmの範囲と2~3mmの砂土を多量に含む
	4 5G3/2	黒 砂	縫まりが無い土色で1~2mmの砂土を多量に含む
	5 2. 5Y3/2	黒 砂	砂土質で少々多く1~2mmの砂土を多量に含む
	6. 2. 5Y3/1	黒 砂	砂土質で少々多く1~2mmの砂土を多量に含む
	7. 2. 5Y3/1	黒 砂	砂土質で少々多く1~2mmの砂土を多量に含む
	8. 2. 5Y3/2	黒 砂	砂土質で少々多く1~2mmの砂土を多量に含む
	9 SY3/1	オーラー黒	縫まりがなく土色で織縫をほとんど見ない
	10 10YR3/2	黒 砂	縫まりがなく土色で織縫をほとんど見ない
	11 10YR3/1	黒 砂	縫まりがなく土色で5~8mmの織縫を多量に含む
I P1	1 10Y3/2	黒 砂	縫まりがなく土色で5mmの範囲と1~2mmの砂土を少量含む
	2 5G3/1	オーラー黒	砂質で織縫を多く含み砂土や少々10~15mmの範囲10%, 1~2mmのスコア1%を含む
J P2	1 5G2/1	オーラー黒	砂質で織縫を多く含み砂土や少々10mmの範囲5%, 2~3mmのスコア1%を含む
	2 10Y2/1	黒 砂	砂質で織縫を多く含み砂土や少々10~15mmの範囲15%, 1~2mmのスコア1%を含む
K P3	1 10Y3/1	オーラー黒	縫まりがなく1~10mmの範囲8%, 1~2mmのスコア1%を含む
	2 2. 5Y3/1	黒 砂	縫まりがなく土色で織縫をほとんど見ない
L P4	1 2. 5Y3/2	黒 砂	縫まりがなく1~10mmの範囲8%, 1~2mmのスコア1%を含む
	2 5G3/1	褐色灰	砂質で織縫を多く含み土色を含む
	3 2. 5Y3/1	黒	1~0mmの織縫を多量に含む
M P9	1 5G3/1	褐色灰	縫まりがなく10mmの範囲5%, 1~2mmのスコア1%を含む
	2 2. 5Y2/1	黒	縫まりがなく8~10mmの範囲10%, 1~2mmのスコア1%を含む

第61図 8区第7号住居址土層注記

も多数出土している。周辺にはカマドの構築土とみられる粘土の広がりも認められた。

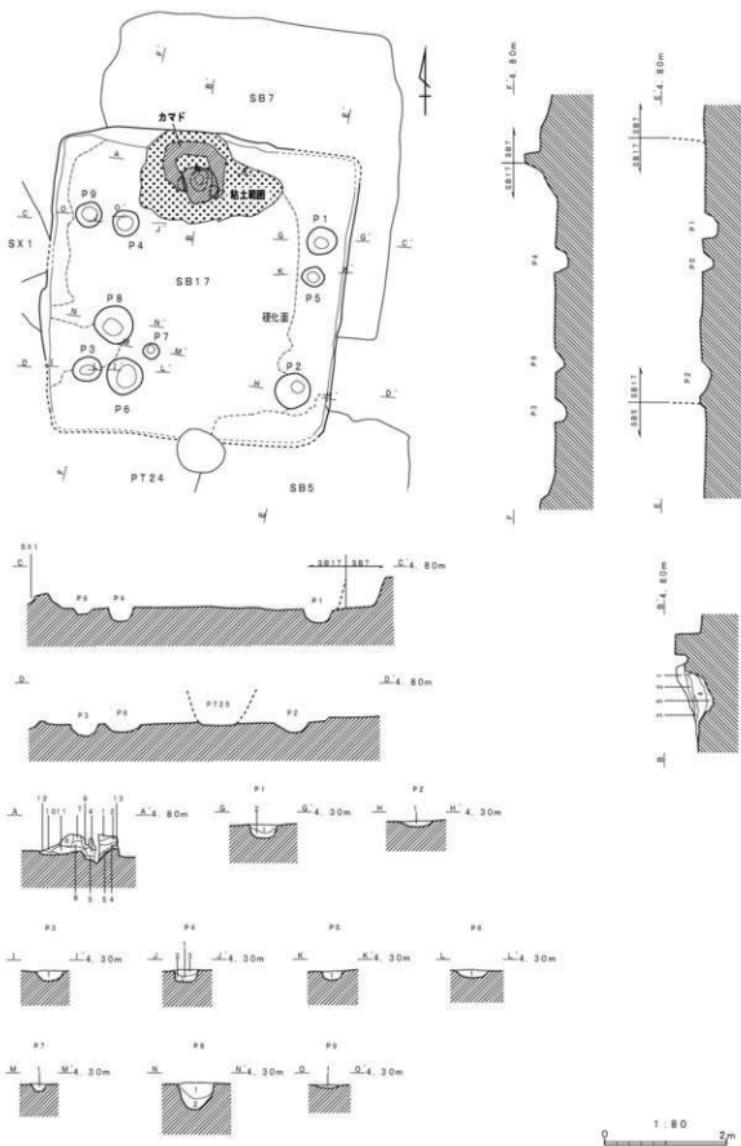
遺物 SB7は小規模なSBであるが、出土遺物は多量である。これはSB17の遺物が、相当数混入した可能性が高い。SB17の遺物はカマドで出土したもの以外、全てSB7で取り上げがなされており、遺物への注記作業も全てSB7で行われて、両遺構の遺物は混在してしまっている。そのため、混入の可能性を承知しつつも、ここでは確実にSB17と判断できる遺物以外はSB7の項目で扱った。

SB7からは土器26点と鉄製品3点を図示した。土器は1~16は土師器、17~26が須恵器である。

1~8は甕である。1・2は長胴甕で、口縁部が「く」の字に屈曲する。3も同じく長胴甕であるが、口縁部の屈曲は1と比べて緩やかである。4・5は1~3と比べて小型であるが、長胴甕とほぼ同じ色調の胎土を持つ。6は底部片で、色調や復元された器形から長胴甕であろう。7・8のみ駿東型球胴甕で、7は頸部にミガキ調整が施される。

9はてづくねミニチュア土器である。环形を呈し、底部には指頭圧痕が明瞭に残る。10は壺の底部片である。底面はスノコ状の切り離しが見られ、ロクロによる成形である。底部にも釉薬がかかり、一部還元で炭を引っ張っている。おそらく年代の異なるものであろうが、SB7として取り上げがなされていたため、ここに掲載した。11~13は壺で、11は丸底、12・13は平底である。12の胎土には雲母が多量に含まれている。13は内面に放射状暗文を持つ甲斐型壺で、口唇部にまで暗文が及ぶ。おおむね甲斐編年V~VII期頃に比定される。14~16は壺の口縁部片で、いずれも口縁部が肥厚化しており、ハケメのみの調整である。

17~19は壺蓋で、17・18の天井部は平頂である。19のみ摘み部が残存するが、17・18も本来は摘み部を有していたと考えられる。18はSB12で出土した小片と接合した。19は焼成が悪く、色調は乳白色で、全体的に軟質である。20は壺身、受部が口縁部よりも大きめに張り出す。21は箱形壺身



第62図 8区第17号住居址実測図

A・B	1	7・5Y4/1	灰	強く締まりがる胎土層で2~3mmの多色鉢と5mmの細縫5%を含む
	2	10Y4/3	にじみ青褐	強く締まりがる胎土層で5mmの細縫5%を含む
	3	10Y4/2	灰	強めに締まりがる胎土層で細縫はほとんど無く(底土を多量に含む)
	4	10Y4/3/2	灰	強めに締まれた胎土層で1~2mmの細縫を多量に含む。底土を多量に含む
	5	N2/0	灰	強めに締まれた胎土層で5mmの細縫と底土を少量含む
	6	10Y4/2	にじみ青褐	強く締まれた胎土層で5mmの細縫5%を含む
	7	7・5Y4/1	灰	強めに締まれた胎土層で2~3mmの細縫5%を含む
	8	10Y4/2	灰	強めに締まれた胎土層で2~3mmの細縫5%を含む
	9	10Y4/3	にじみ青褐	強めに締まれた胎土層で細縫はほとんど不含む
	10	N2/0	灰	強めに締まれた胎土層で5mmの細縫を多量に含む
	11	10Y4/2	灰	強めに締まれた胎土層で2~3mmの細縫を多量に含む
	12	10Y4/3	にじみ青褐	強めに締まれた胎土層で5mmの細縫5%を含む
	13	N2/0	灰	強めに締まれた胎土層で5mmの細縫5%を含む

G P1	1	10G2/1	緑	強めに締まれた胎土層(内1.0mmの細縫5%)と2~3mmのスコリア1%を含む
	2	5RP2/1	黄	強
H P2	1	10Y2/1	緑	強
I P3	1	N2/0	黒	弱めで2~3mmの細縫とスコリアを多量に含む
J P4	1	5Y3/1	オリーブ	強めに締まれた胎土層で5mmの細縫5%を含む
	2	5GY2/1	オリーブ	強めに締まれた胎土層と8mmの細縫5%を含む
K P5	1	5GY2/1	オリーブ	強めに締まれた胎土層と2~3mmのスコリア1%を含む
L P6	1	N2/0	黒	弱めで2~3mmの細縫5%を含む
M P7	1	10G2/1	緑	弱めで2~3mmの細縫5%を含む
N P8	1	N2/0	黒	弱めに締まれた胎土層と2~3mmの細縫5%を含む
O P9	1	5GY2/1	オリーブ	強めに締まれた胎土層と2~3mmの細縫5%を含む

第63図 8区第17号住居址土層注記図

で口縁部が内傾する。22も同じく箱形環身であるが外反する。ともに底部はケズリ調整である。23・24は有台环杯で、ともに底部ケズリ調整を施す。23は底面に回転系切り痕が残る。25は有台环身で、26は須恵器系の壺もしくは瓶類の底部片である。外面に灰褐色の釉がかかる。20のように年代がやや古くに位置づけられるものも出土しているが、須恵器は全体として遠江V期前半頃に位置づけられる。

27~29は鉄製品である。27は刀子で、完形品である。刃部側の関節部が鋸に覆われており、形状が明らかではないが、おそらく両側ともに直角闊と考えられる。茎は茎尻に向かってやや先細る。28は頭部~茎が残存する棘闊の鉄鎌である。先端部に向けてやや曲がっている。29は小片ではあるが、鎌と考えられる。

SB7の出土遺物は、1・3・4・5・6・11・12・13・17・23・27はカマドから出土し、21・24・25は床面から出土した。

SB17の出土遺物は土器11点を図示した。1~9は土師器で、10・11が須恵器である。

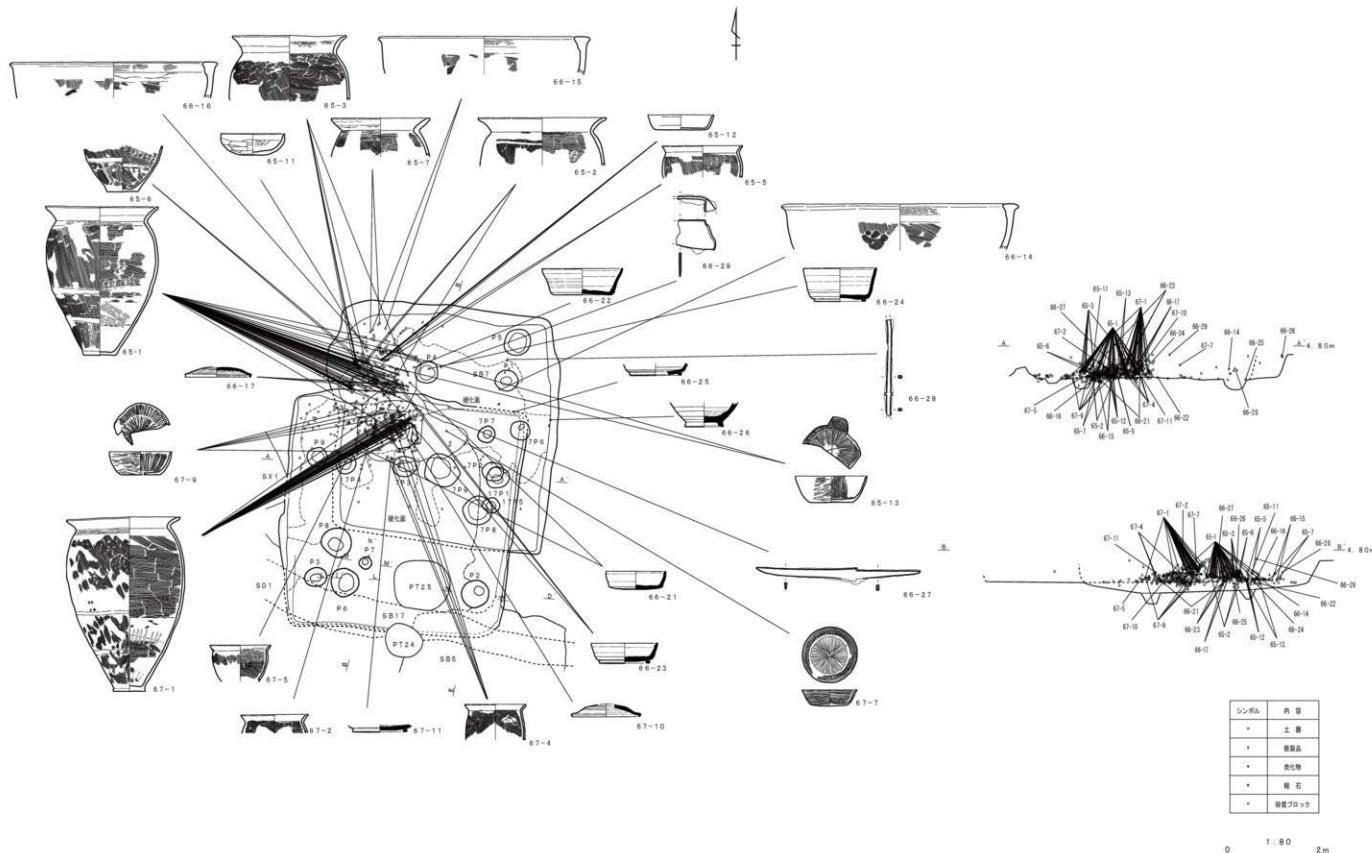
1~5は甕で、1は口縁部が「く」の字に屈曲する長胴甕、2~5は小型甕である。4は胴部の張りは弱く、胴部は直線的である。6~9は平底の甕で、6は口縁部に向けて外反しながら立ち上がる。調整は外面底部へラケズリののち、内外面とともにミガキ調整を施す。いわゆる「駿東型甕」である。7~9は内面に放射状暗文を持つ甲斐型甕である。7はヘラケズリが弱く、底部はやや丸みを持つ。また8・9には胎土に雲母が含まれるが、7には観察できない。さらに7の暗文は見込み部のみで口縁部まで達していないなど、7と8・9には差異がある。なお8は甲斐編年V~VI期頃に、9はおおむね甲斐編年V~VII期頃に位置づけられる。

10は陣笠形の蓋で、本来は摘みを有していたと考えられる。11は体部が残存していないが、有台环身の底部片であろう。

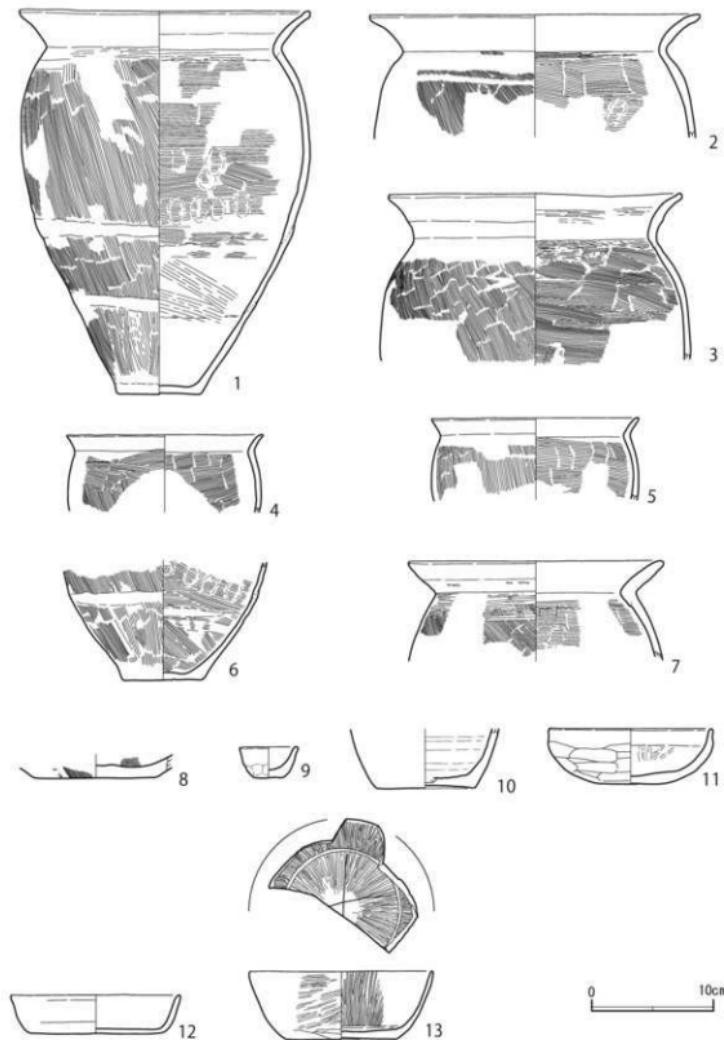
これらの遺物の内、1・4・9はカマドから、5は掘方面からそれぞれ出土した。

時期 SB7出土の須恵器有台环杯は8世紀中頃にのみ出現する型式で、その他の須恵器もおおむね遠江V期前半、すなわち8世紀前葉~中葉頃に位置づけられる。一方、甲斐型甕からみると、SB7の13は8世紀後半~9世紀前葉までに位置づけられる。そのため、SB7は8世紀前葉頃~9世紀前葉の範囲までに収まるものと考えられる。

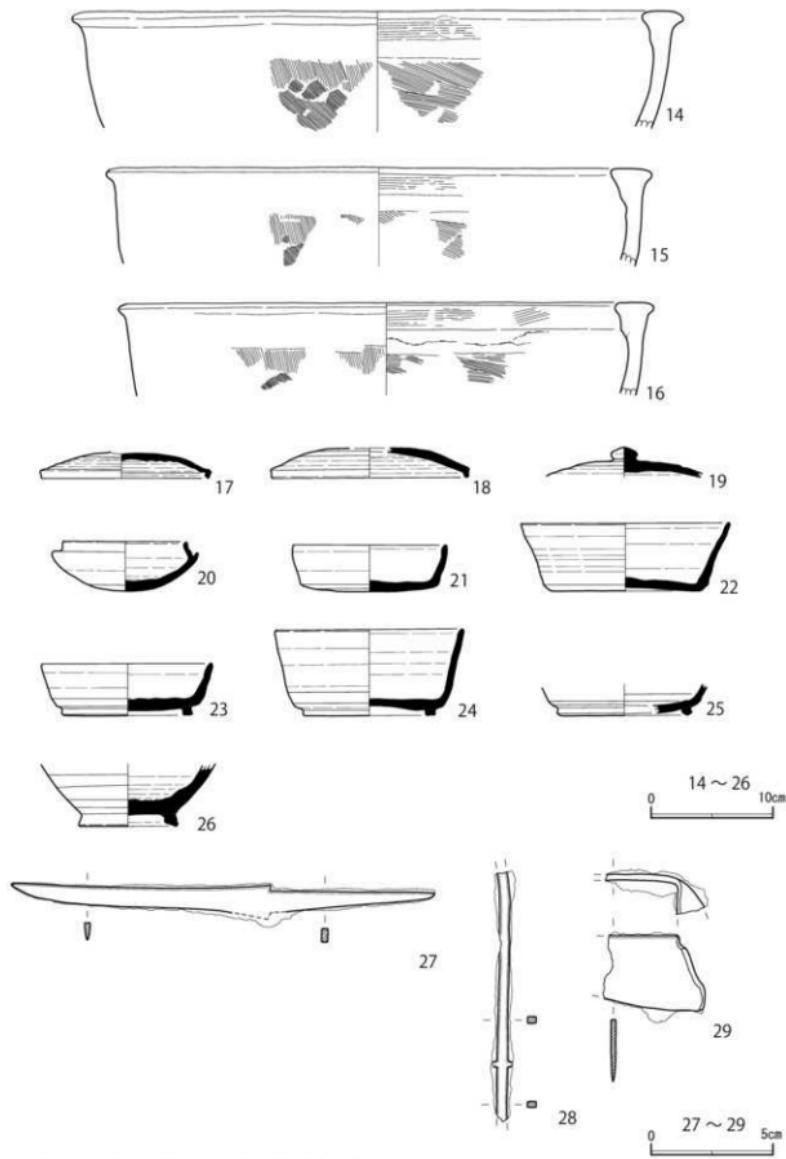
一方、SB17は駿東型甕や甲斐型甕から8世紀後半に位置づけられる。だが、切り合ひ関係を考慮すると、SB17はSB7を切る関係にあるため、SB7の年代の新しい遺物、すなわち9世紀初頭頃に位置づ



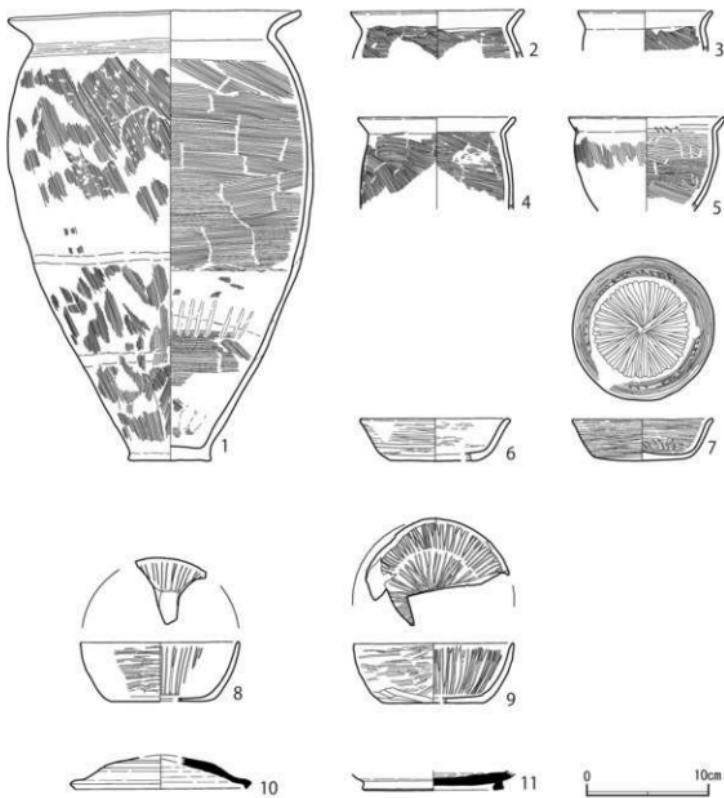
第64図 8区第7・17号住居址遺物出土状況図



第65図 8区第7号住居址出土遺物実測図（1）



第66図 8区第7号住居址出土遺物実測図（2）



第67図 8区第17号住居址出土遺物実測図

けられる遺物は、本来SB17に帰属していた可能性がある。このような状況を考えると、SB7は8世紀代、SB17は8世紀後半～9世紀前葉頃と想定しておきたい。

ただし通常では西壁にカマドを構築するSBの方が後出するが、ここでは北壁にカマドを持つSB17が西壁にカマドを持つSB7を切っており、通常とは逆転の状況がみられる。この関係の背景は、両遺構の年代にそれほど大きな差がなかったことを反映していた可能性が高い。

8区第8・16号住居址（8-SB8・8-SB16 第68図～第76図）

SB8は121-42Gで検出された。東辺の中央がやや張り出しており、西辺より東辺の方がやや長い。そのため、平面形は不整な方形となっている。立ち上がりは深さ0.59mが残存していた。

SB16は121-41Gr・121-42Grで検出された。SB8とはほぼ重複しており、当初は1軒のSBとして認識していたが、調査が進展するにつれて別遺構であることが判明した。全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.49mが残存していた。

規模や軸方位が近似することからSB8はSB16の建て替えの可能性がある。

規模 SB8 東西 7.06m × 南北 6.45m SB16 東西 6.28m × 南北 1.38m (残存部)

重複関係 SB8 (古) SB16 → SB8 → SD5・SD16 (新)

SB16 (古) SB16 → SB7・SB8・SD5・SD18 (新)

主軸方位 SB8 N- 2°-W SB16 不明 (残存部から: N- 3°-Wか)

壁 溝 SB8・SB16 ともに検出されない。

柱 穴 SB8 9基検出。P1～P4は径 0.56～0.73m・深さは 0.33～0.51m を測る。P5は径 0.72m・深さ 0.27m、P6は径 0.56m・深さ 0.19m、P7は径 0.66m・深さ 0.30m、P8は径 0.51m・深さ 0.24m、P9は径 0.45m・深さ 0.14m を測る。P1～P4が主柱穴と考えられる。

SB16 5基検出。P1～P4は径 0.46～0.54m・深さ 0.09～0.21m、P5は径 0.95m・深さ 0.20m を測る。P1～P4は主柱穴と考えられる。

貼 床 SB8は黒色の砂質土を使って床面としている。SB16は図面がないが、写真から判断する限り、SB8と同じく黒色の砂質土を使って床面としている。

カマド SB8 北辺の中央に位置するが、ほぼ崩壊しており、袖部の最下部のみを検出した。カマドの前面には構築土と考えられる粘土が広がっていた。SB16ではカマドは検出されなかった。

遺 物 SB8では多量の土器が出土している。このうち土器を45点、鉄製品7点、計52点を図示した。土器は、1～21が上師器、22～45が須恵器である。

1～12は甕で、いずれも球胴甕と考えられる。2・3・4の頸部にはミガキ調整が施される。5は頸部に稜が認められる。6は底部から大きく開いて立ち上がるため、壠の可能性もある。8は小型甕で内面のハケメが胴部と底部で単位が異なる。9～12は底部片で、いずれもハケメ調整で、底部には木葉痕が残る。13は器形が通常の小型甕とは異なるものの、内面にハケメ調整が施されることから小型甕と判断した。口縁部の器壁は厚みがある。なお図示した土師器甕の中で、カマドもしくは床面から出土したものはなかった。

14～20は壺で、14のみ床面からの出土である。14～17は壺で、いずれも体部外面はケズリ調整、内面にはミガキ調整を施す。18は黒色粒を含んだ粗製の胎土で、内面はナデ調整である。19は内面に放射状暗文を施す。19の外表面は摩耗しており底部のヘラケズリ痕などの調整痕は確認できない。一方、内面は見込み部のみ放射状暗文で、体部は横ミガキである。20は駿東型壺で、外表面はヘラケズリ、内面は口縁部まで放射状暗文が施される。21は壺で、内面に縦方向のミガキ調整がなされる。

22～31は蓋である。22～26は返り蓋、27・28は折り返しがそれぞれ認められる。31は小片であるため、摘み蓋であるかは判断がつかない。28のみ床面出土で、その他は覆土中からの出土である。また31はSB9出土の破片と接合した。

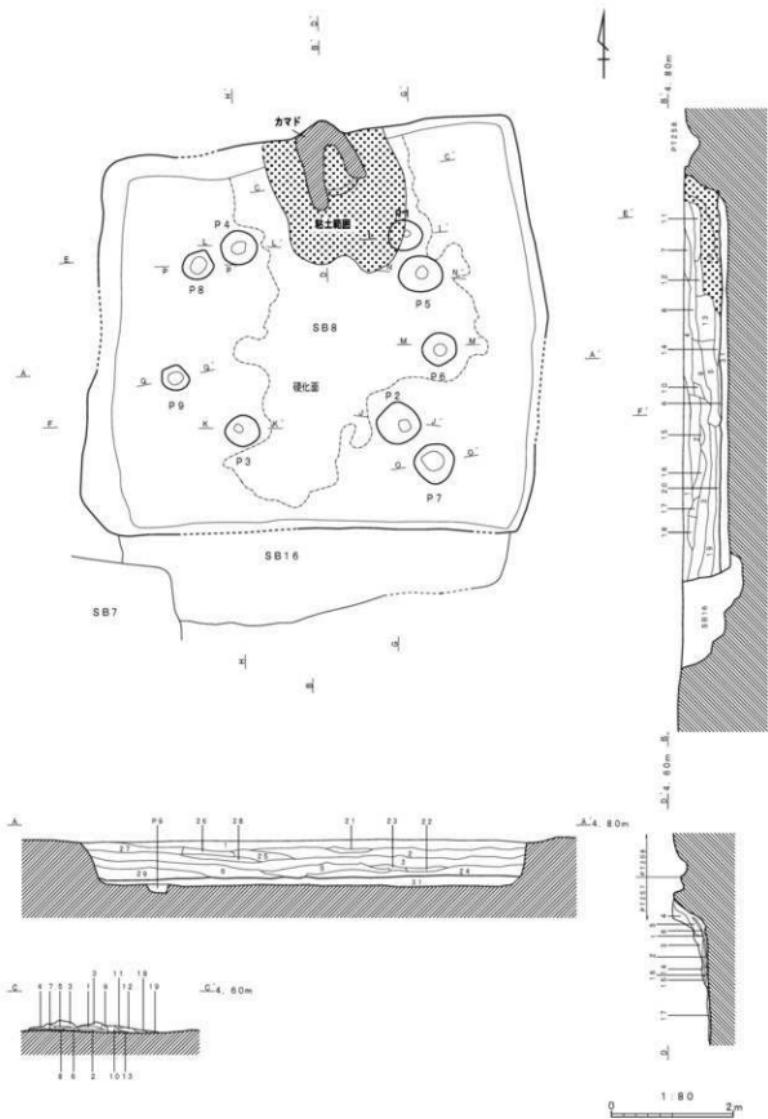
32～40は壺身である。32は遠江IV期前葉頃に位置づけられるが、33以降は、遠江IV期後葉～V期前半である。33・34は無台の(箱形)壺身で、33は床面、34は掘方面からの出土である。35～40は丸底の有台壺身で、36以降は底部と高台がほぼ同じ高さ、もしくは底部が張り出している。

41～45は壺もしくは瓶類の口縁部であるが、いずれも残存率が悪く、どちらか判断できない。

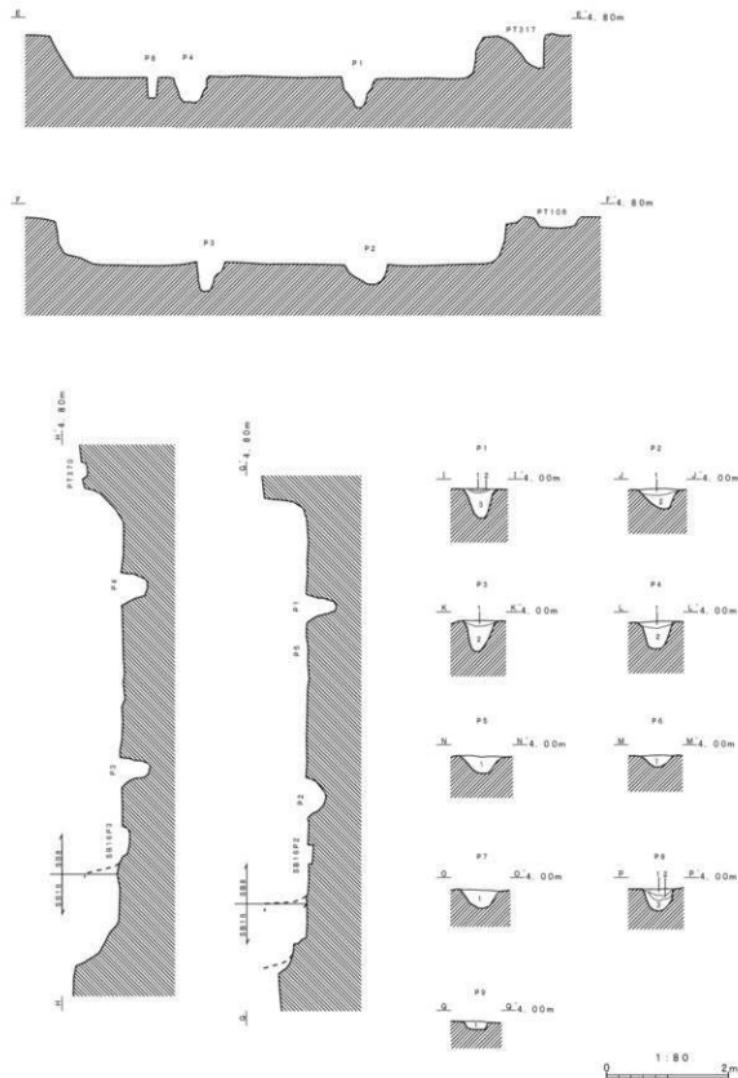
46～48は刀子である。46は両直角刃で、茎尻に向けて先細る。茎部に比べ、刃部が短い。47は刃部の先端部が欠けているが、刃部から茎部が残存する。46と比べて刃の角度がやや緩い。48は刃部の先端部である。

49・50は鉄鏪で、ともに頸部～茎部が残存する。ともに棘闇で、49は両先端に向けて曲がっている。

51は鎧形の吊金具である。SB16からも鎧形吊金具は出土しているが、断面形に違いがある。52は薄手の板状鉄製品としたが、鎧吊金具の可能性もある。1か所穿孔が施されるが、X線写真には、下部



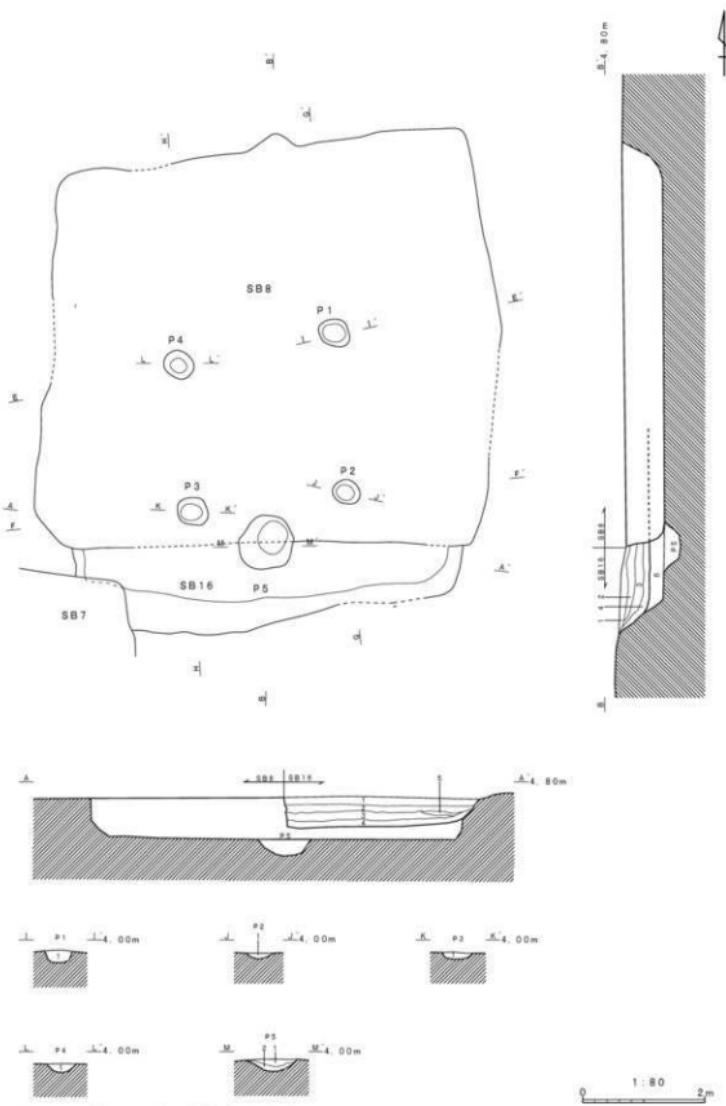
第68図 8区第8号住居址実測図（1）



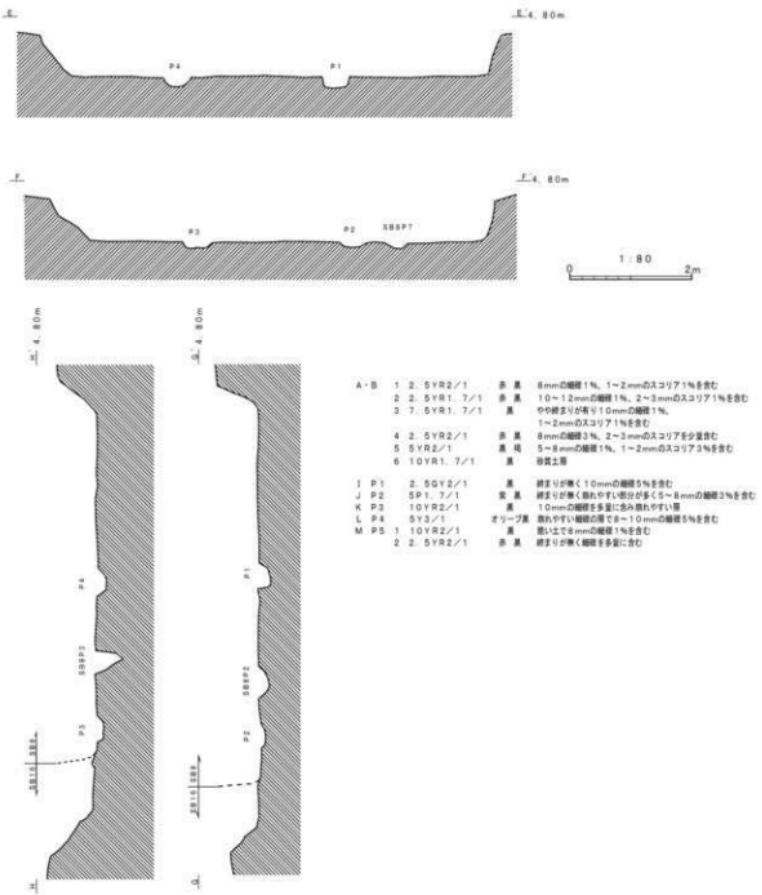
第69図 8区第8号住居址実測図（2）

A-B	1 N3/0	暗 灰	やや緑色があり8~10mmの細根3%、2~3mmのスコリア3%を含む
	2 N2/0	暗 灰	粘土少々と8~10mmの細根3%、1~2mmのスコリア2%を含む
	3 S3/0	茶 黒	褐色化する。砂が多めに、1~2mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	4 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	5 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	6 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	7 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	8 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	9 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	10 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	11 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	12 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	13 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	14 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	15 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	16 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	17 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	18 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	19 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmのスコリア1%を含む
	20 N2/0	黑	
	21 S 2 YR2/1	茶 黑	粘土少々と8~10mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	22 S 2 YR2/1	茶 黑	粘土少々と8~10mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	23 S 2 YR2/1	茶 黑	8mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	24 S 2 YR2/1	茶 黑	8mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	25 S 2 YR2/1	茶 黑	粘土少々と10mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	26 S 2 YR2/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	27 S 2 P1/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	28 S 2 P1/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	29 S 2 P1/1	茶 黑	砂が多めに、1~2mmの細根3%、3~5mmの細根3%、1~2mmのスコリア1%を含む
	30 10YR3/2	黑 灰	砂質土質
	31 N2/0	黑	
C-D	1 S 2 YR4/2	灰 灰	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	2 S 2 P1/1	灰 灰	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	3 10YR4/2	灰 灰	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	4 S 2 Y3/0	オリーブ黒	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	5 S 2 Y4/2	褐色灰	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	6 S 2 Y3/2	褐色灰	砂質土で黄褐色を帯びてやや細みをひびいて粘土を含む
	7 10YR3/2	灰 灰	やや細みをひびいて粘土を含む
	8 10YR3/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	9 10YR4/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	10 S 2 Y3/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	11 10YR3/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	12 S 2 Y3/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	13 S 2 Y2/1	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	14 10YR5/3	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	15 10YR5/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	16 10YR4/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	17 10YR3/2	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	18 S 2 Y2/1	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
	19 S 2 Y3/1	灰 灰	8~10mmの細根1%、1~2mmのスコリア1%を含む
P1	1 1 10Y3/0	オリーブ黒	3mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
	2 10YR4/2	灰 灰	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
	3 S 3 Y3/1	オリーブ黒	8mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P2	J 1 10GY2/1	絶 黑	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
	2 S 3 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P3	K 1 10GY2/1	絶 黑	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
	2 S 3 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P4	L 1 10GY2/1	絶 黑	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
	2 S 3 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P5	N 5 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P6	M 5 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P7	O 5 Y3/1	オリーブ黒	8~10mmの細根5%、2~3mmのスコリア1%を含む
P8	P 1 N2/0	黑	10mmの細根10%、2~3mmのスコリア1%を含む
	2 S 2 P2/1	黑	やや細みがあり5~10mmの細根3%を含む
	3 S 2 P1/1	黑	8~10mmの細根3%を含む
P9	Q 10YR2/1	黑	10mmの細根を多く含みれています

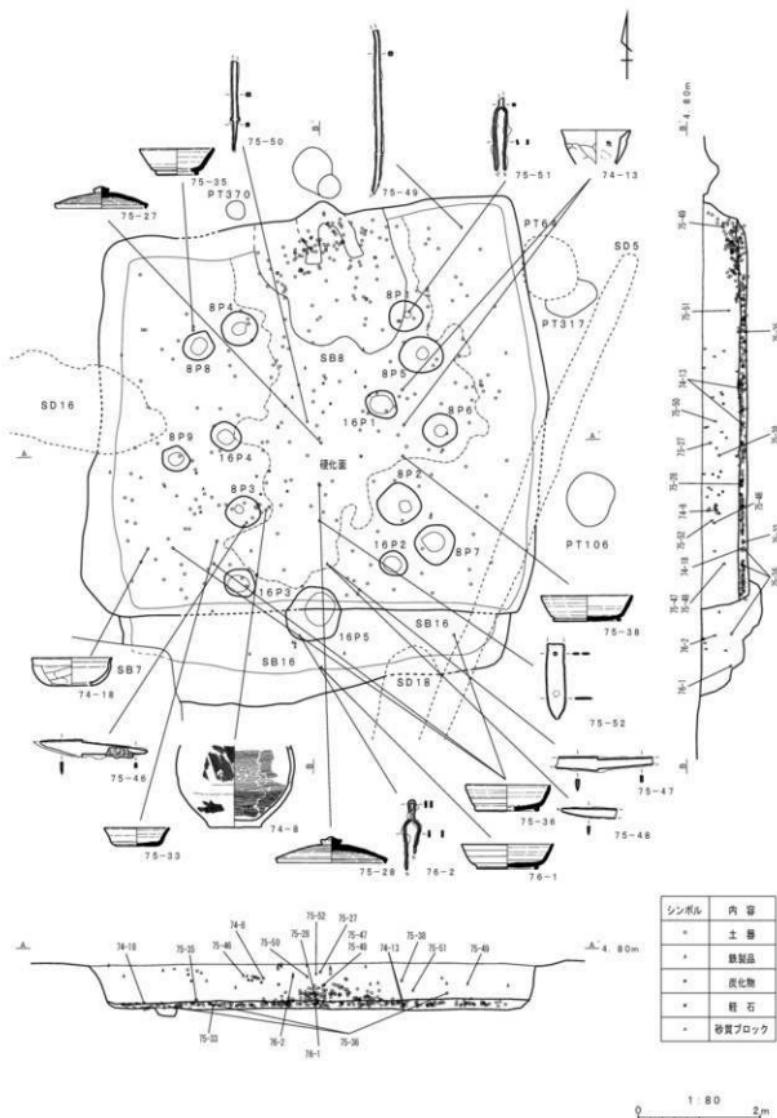
第70図 8区第8号住居址土層付記



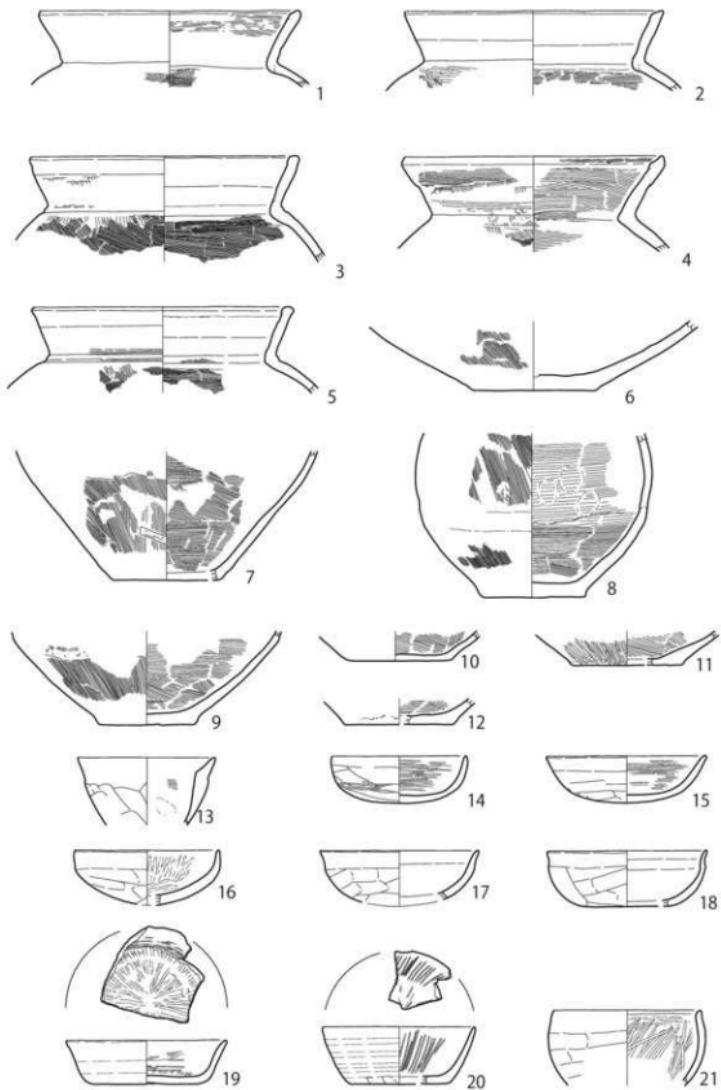
第71図 8区第16号住居址実測図（1）



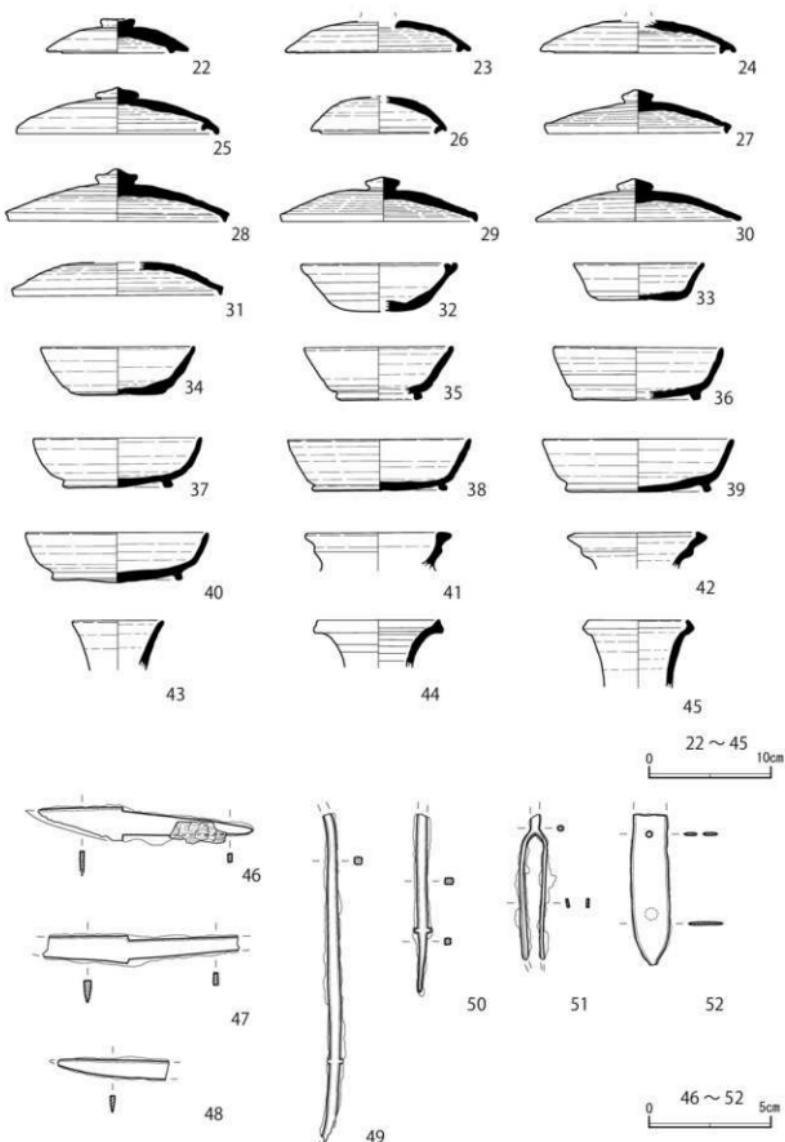
第72図 8区第16号住居址実測図（2）



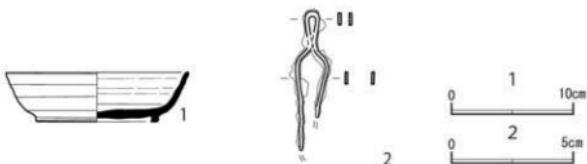
第73図 8区第8・16号住居址遺物出土状況図



第74図 8区第8号住居址出土遺物実測図（1）



第75図 8区第8号住居址出土遺物実測図（2）



第76図 8区第16号住居址出土遺物実測図

にも貫通しないくぼみがある。

SB16として取り上げが行われ、かつ図示が可能であった遺物は2点のみである。1は須恵器有台环身で、腰部は緩やかに屈曲し、底部は高台より下には突出しない。遠江V期前半頃に位置づけられる。2は先端部が欠損するが、鉄製の鑑形吊金具である。

時期 SB8は土師器の長胴甕が見られないことや須恵器が遠江IV期後葉～V期前半（古段階頃）であることから、7世紀後半～8世紀前半頃に位置づけられる。一方、SB8に切られるSB16は出土遺物が少なく、時期の決定は困難であるが、SB16出土須恵器が遠江V期前半頃の遺物であり、SB8との年代差は認められない。SB8-32のような須恵器环身の存在をSB16からの混入と想定すれば、SB16は7世紀前半にまで遡る可能性はあるがSB8がSB16の建て替えとなる可能性を考慮すれば、SB8とSB16にはそれほど年代差ではなく、両者ともに7世紀後半～8世紀前半の範囲で位置づけられる。

8区第9号住居址（8-SB9 第77図～第79図）

120-41Grで検出された。北側をSD1、北東端をSB17、南側をSB12・SD13にそれぞれ切られている。特に南側のSD13は掘削が深く、SB9の掘方面まで失われている。このことから全容は明らかではないが、平面形は残存部分から方形と推定される。立ち上がりは深さ0.37mが残存していた。

規模 東西5.08m×南北4.86m(残存部) 重複関係 (古)SB9→SB12・SB17→SD1・SD13(新)
主軸方位 N. 6° -W 壁溝 検出されない。

柱穴 4基検出。P1～P4の径は0.49～0.61m・深さは0.10～0.24mを測る。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められなかった。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部と燃焼部が残存していた。袖部からは芯材と思われる礫が出土している。

遺物 土器を9点図示した。9のみ須恵器で、その他は土師器である。

1～7はいずれも球胴甕で、ミガキ調整が施されている。8は平底環で、胎土は粗製であり、底部には木葉痕が残る。9は底部が高台よりも張り出す須恵器の有台环身である。遠江V期前半に位置づけられる。1はカマド出土の破片と床面出土の破片が接合した。3・5・6・9はカマドから、4・8は床面から出土している。

時期 ミガキ調整が施される甕や須恵器环身から、8世紀前半に位置づけられる。

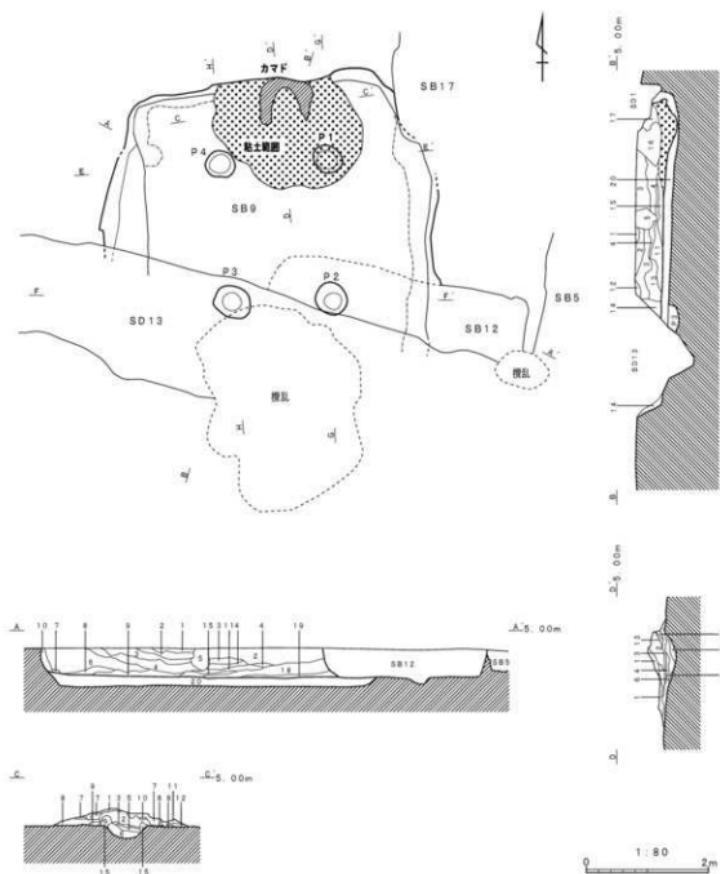
8区第12号住居址（8-SB12 第80図～第82図）

120-40Gr・120-41Gr・121-41Grで検出された。SB9を大きく切っており、住居址中央がSD13によって切られている。残存部より平面形は方形と考えられ、壁面に沿って柱穴が並ぶ。立ち上がりは深さ0.24mが残存していた。

規模 東西4.35m×南北4.65m(残存部) 重複関係 (古) SB9→SB12→SD13(新)

主軸方位 N.77° -W

壁溝 検出されない。

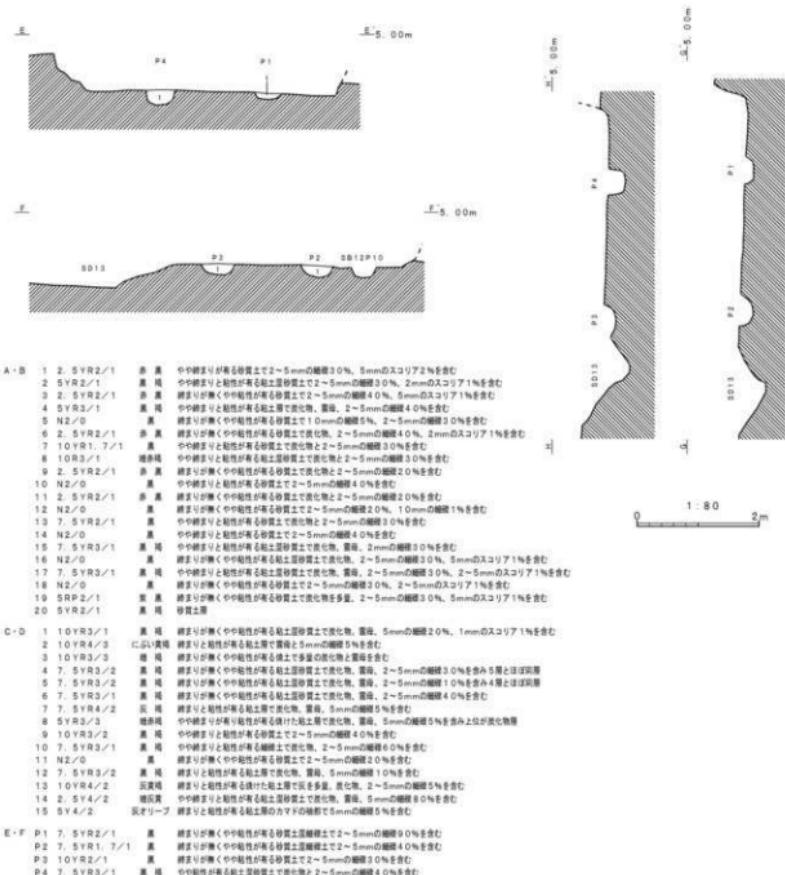


第77図 8区第9号住居址実測図（1）

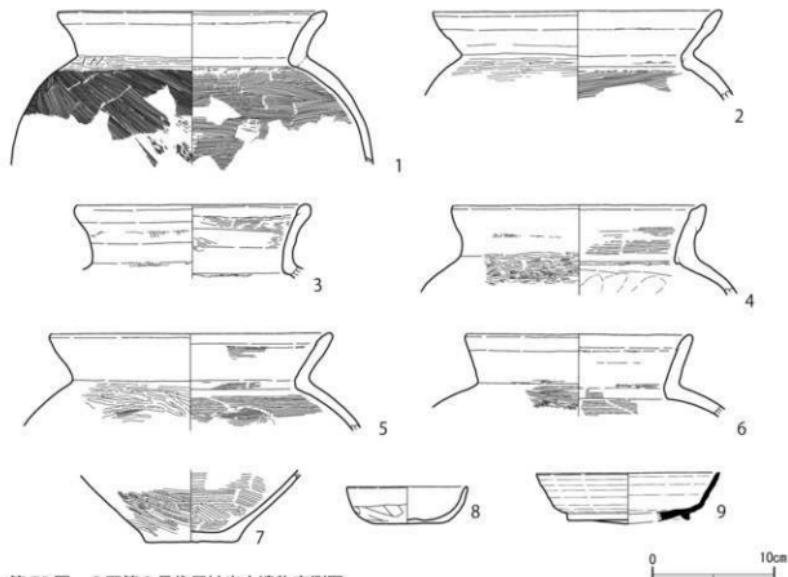
柱穴 壁面に沿って柱穴が11基検出された。柱穴間の距離は1.00～1.30mで、P7とP11の間のみ1.70mとやや離れている。主柱穴は確認されていない。

P1は径0.44m・深さ0.19m、P2は径0.48m・深さ0.16m、P3は径0.39m・深さ0.11m、P4は径0.46m・深さ0.18m、P5は径0.43m・深さ0.11m、P6は径0.45m・深さ0.37m、P7は径0.38m・深さ0.29m、P8は径0.50m・深さ0.12m、P9は径0.29m・深さ0.07m、P10は径0.53m・深さ0.25m、P11は径0.34m・深さ0.12mを測る。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。SD13との重複箇所を除き、全域が硬化面である。



第78図 8区第9号住居址実測図（2）



第79図 8区第9号住居址出土遺物実測図

カマド 西辺のやや南寄りに位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部の一部、燃焼部を検出した。芯材等は確認されていない。カマド周辺には粘土の広がりが認められ、さらに南側にも焼土の広がりが確認された。

遺物 土器5点、鉄製品1点の計6点を図示した。1は駿東型長胴壺、2は小型壺の底部片である。3は内面に放射状暗文を持つ甲斐型壺で、甲斐編年VI期頃に位置づけられる。4・5は須恵器の有台壺身で、4は底部が高台よりも張り出す。SB13・SB14出土片と接合した。5は箱型で、底部の器壁は厚い。1はカマドから、5は床面から出土した。なお、3の破片の大部分はSD13から出土となっているが、底部片のみSB12からの出土である。

6は不明鉄製品としたが、刀子もしくは鉄素材と考えられる。全体的に丸みを帯びており、中央の断面形は三角形を呈す。

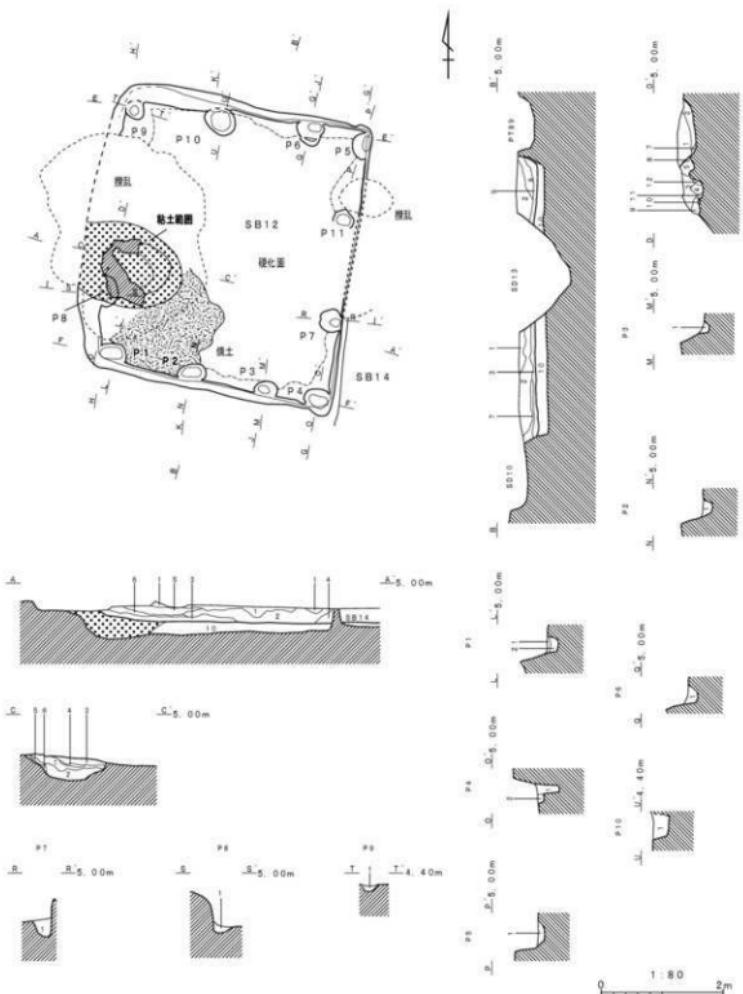
時期 須恵器からは8世紀前葉～中葉、長胴壺や甲斐型壺からは8世紀中葉～後葉に位置づけられるため、年代幅を広く見積もり、8世紀代としておきたい。

8区第10号住居址（8-SB10 第83図・第84図）

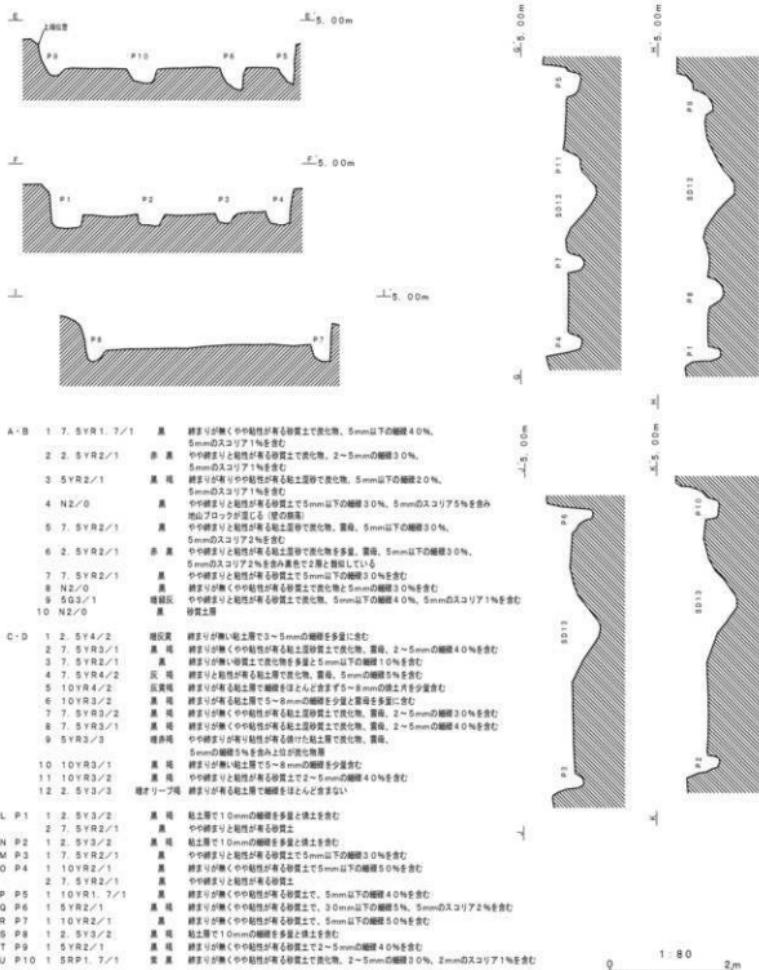
調査区南西隅の119-40Gr・119-41Grで検出された。西壁は調査区外へと続くが、調査区西壁にカマドの裾部が検出されている。平面形は南北中央がやや張り出しており、西壁にカマドを有するが、全体は南北方向に長軸を持つ長方形を呈す。SD10・SD13に切られており北辺はほぼ失われている。立ち上がりは残存部分で深さ0.52mが残存していた。

規模 東西3.07m×南北4.91m（残存部） **重複関係**（古）SB11→SB10→SD10・SD13（新）
主軸方位 N-69°-W **壁溝** 検出されない。

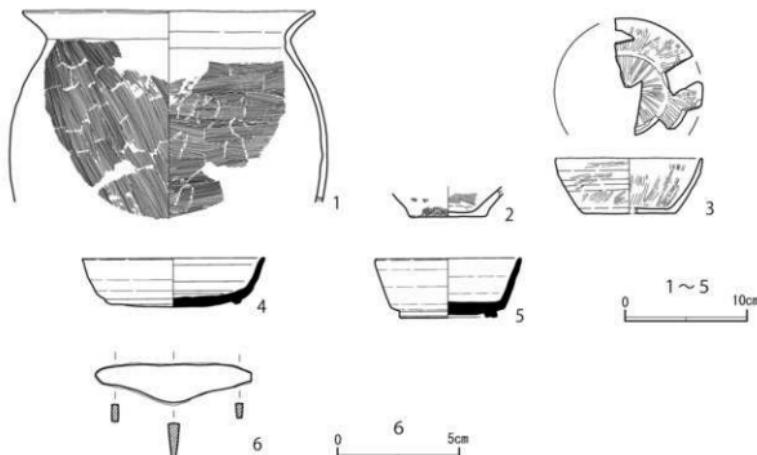
柱穴 4基検出。P1～P4は径0.33～0.44m・深さ0.13～0.18mである。



第80図 8区第12号住居址実測図(1)



第81図 8区第12号住居址実測図(2)



第82図 8区第12号住居址出土遺物実測図

貼 床 赤黒色の砂質土を使って床面としている。また検出された床面のほぼ全域で、硬化面が認められた。

カマド 西辺のほぼ中央に位置する。煙道や燃焼部の一部は調査区外に広がり、袖部のみが検出された。芯材等は確認されず、粘土のみの構築であると思われる。カマド周辺には構築上と思われる粘土の広がりが認められた。

遺 物 土器を5点、鉄製品1点の計6点を図示した。1～4は土師器甕、5は須恵器蓋である。1・2は、口縁部が「く」の字に曲がる駿東型長胴甕で、1には頸部から胴部上半にかけてミガキ調整が施されている。3はハケメ調整のみを施す小型甕で、4もおそらく同様であろう。5は摘み蓋で、断面形は傘状を呈し、口縁部を折り返す。遠江V期に位置づけられる。1・5はカマドから、4は床面から出土した。

6は貴金属である。大きさから刀子のものであろう。図上右側は左側と比べ、やや薄くなっている。

時 期 長胴甕や須恵器蓋から、8世紀に位置づけられる。

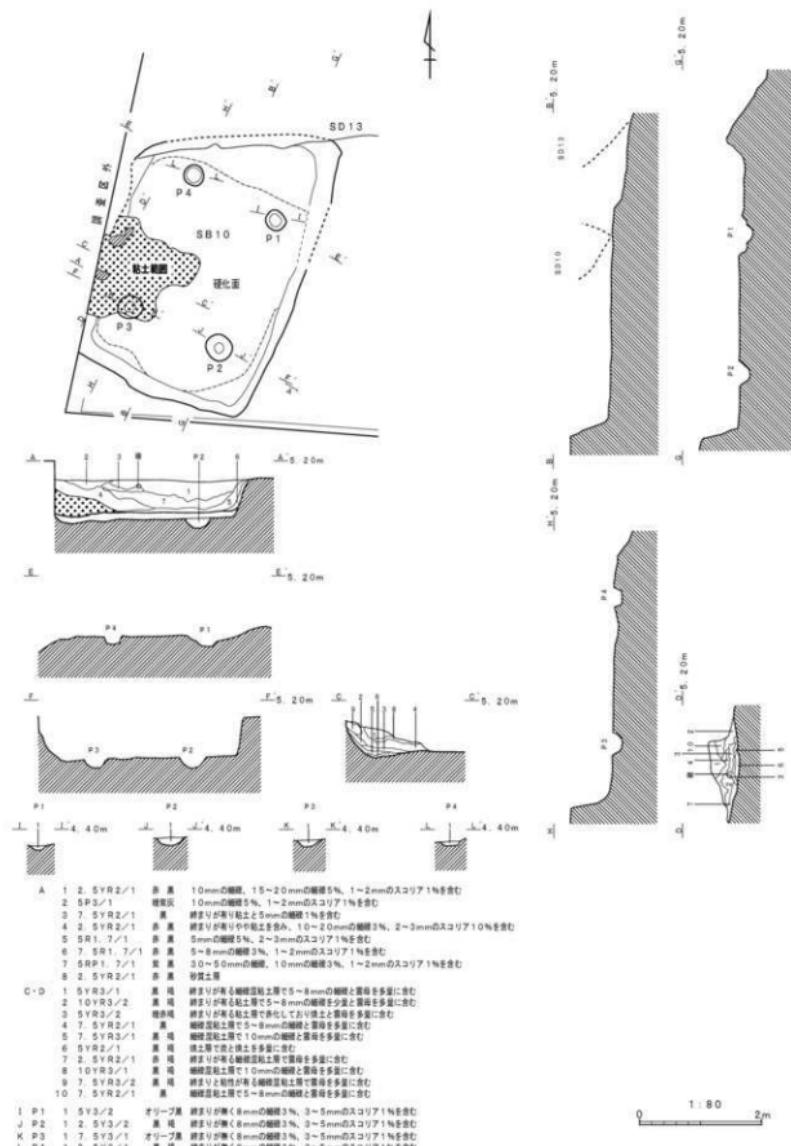
8区第11号住居址（8-SB11 第85図～第89図）

119-40Gr・119-41Gr・120-40Gr・120-41Grで検出された。SB10・SD10・SH3・SD13等に切られており、さらに南東隅が調査区域外へと広がる。平面形は方形と推定され、立ち上がりは深さ0.37mが残存していた。

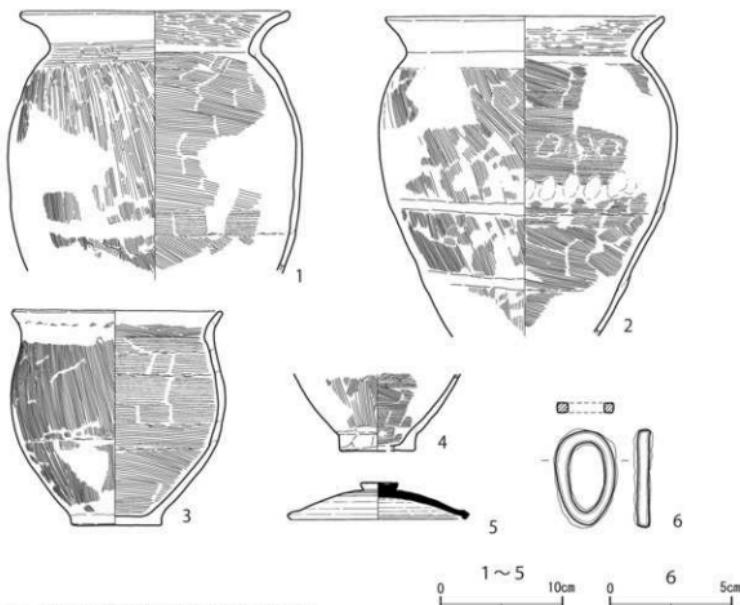
規 模 東西7.60m×南北7.51m（残存部） **重複関係**（古）SB11→SB10→SD10・SD13（新）
主軸方位 N-15°-E

壁 溝 挖方面の掘削を終えた段階で、東辺と北西角において壁溝を認識した。幅0.20～0.43m・深さ0.09～0.20mを測る。一方、南側ではSB内側（北側）に張り出す幅0.80m・深さ0.04mの落ち込みが確認された。この落ち込みを調査時はSB11に伴う壁溝としたが、東辺との規模の違いや周辺部に炭化物が散っていることから、壁溝ではなく、別の遺構がSB11と重複している可能性がある。

柱 穴 6基検出。P1は径0.71m・深さ0.16m、P2は径0.65m・深さ0.17mである。P3は径0.79m



第83図 8区第10号住居址実測図



第84図 8区第10号住居址出土遺物実測図

× 0.69m・深さ 0.16m、P4は径 0.70m・深さ 0.16m、P5は径 0.79m・深さ 0.21m、P6は径 0.91m × 0.66m・深さ 0.21mである。主柱穴はP3～P6と考えられる。

貼床 黒褐色土の砂質土を使って床面としている。また南端部では土師器表の小片を伴って、炭化物のまとまりが7か所認められた。

カマド 北辺の中央に位置する。カマドの北側をPT397に切られているため形状は確認できなかつたが、カマド周辺にカマドの構築土とみられる粘土の広がりが認められた。

遺物 3点の土師器を図示した。1は球胴表で、ハケメのみの調整である。床面から出土した。2は环であるが、器高は低く、皿状を呈す。3は須恵器模倣の环であるが、稜は弱く、緩やかに外反しながら立ち上がる。内外面ともに黒色処理で、カマドから出土した。

時期 カマド出土の須恵器模倣環から7世紀に位置づけられる。

8区第13号住居址（8-SB13 第90図）

120-40Gr・121-40Grで検出された。南半が調査区外へ広がる。立ち上がりは深さ 0.46m が残存していた。

規模 東西 6.54m × 南北 0.93m（残存部） 重複関係（古）SB14 → SB13 → SD10・SD14（新）

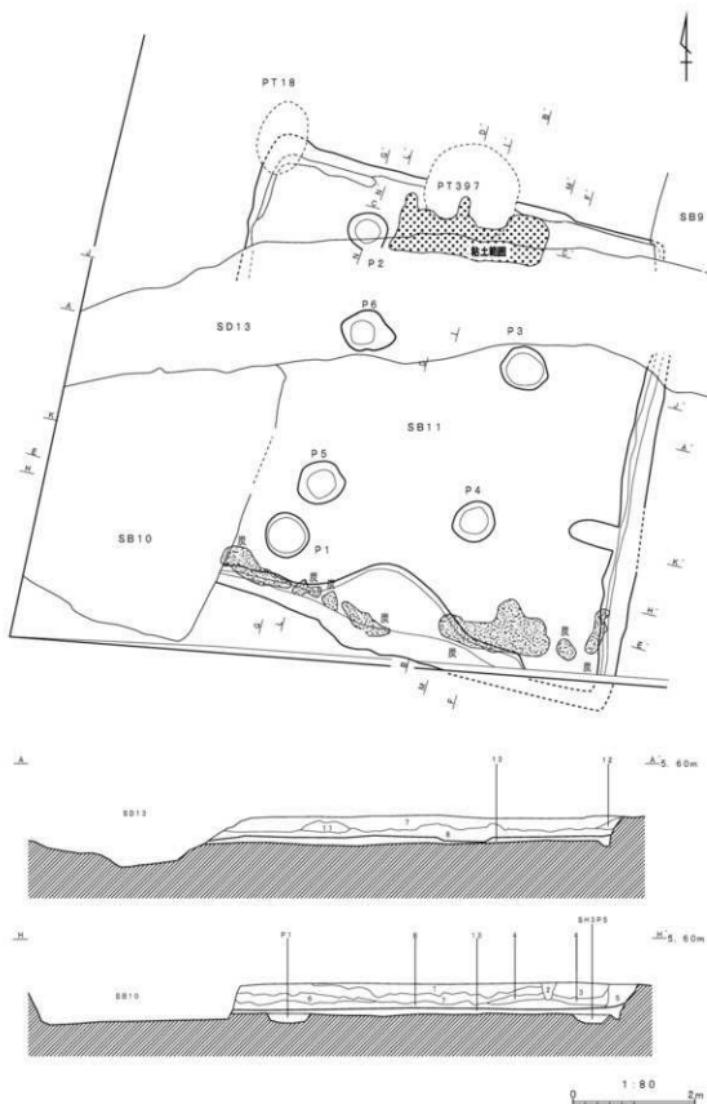
主軸方位 N-5°-E（推定） 壁 溝 検出されない。

柱穴 検出されない。

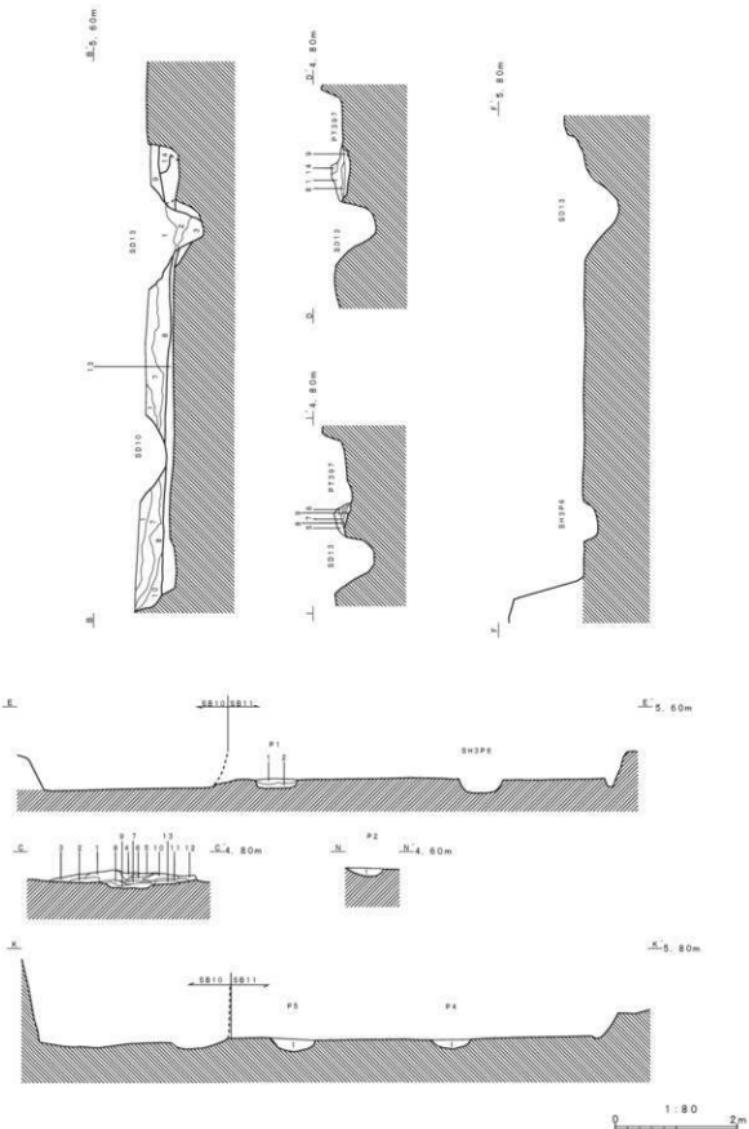
貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

カマド 北辺のやや西寄りに位置するが、ほぼ崩壊しており、形状等は確認できなかつた。

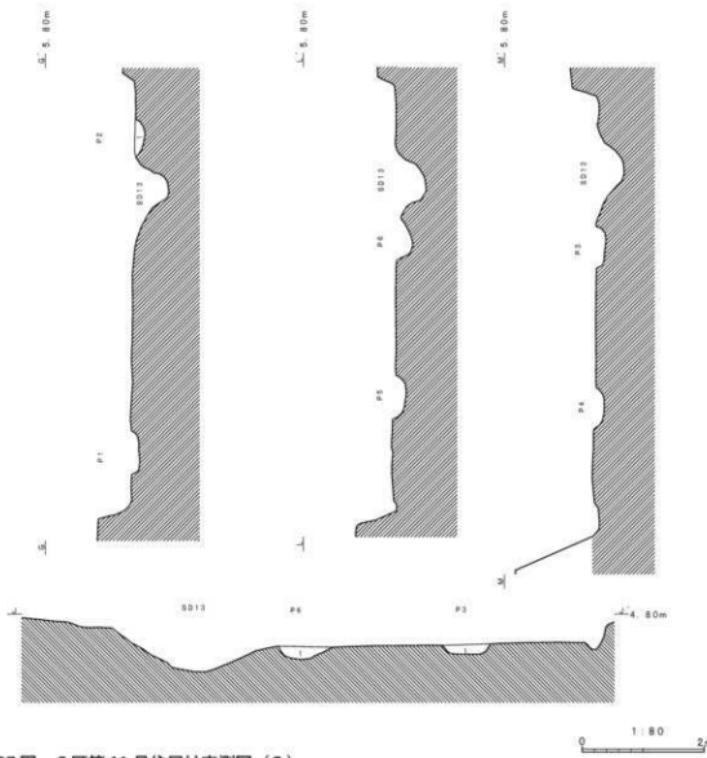
遺物 カマドおよびその周辺で出土したが、破片資料が多く、図示できるものはなかつた。小片遺物には、ミガキ調整を施す土師器球胴表や須恵器有台环身が出土している。



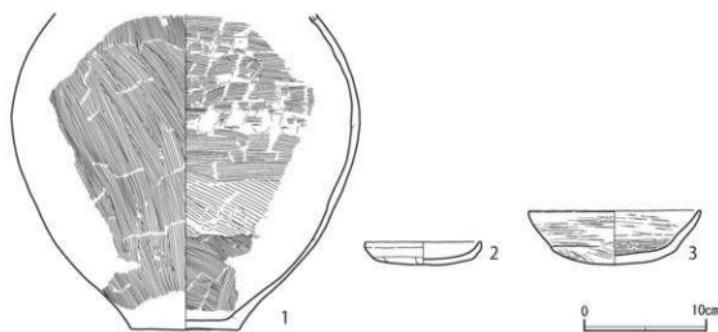
第85図 8区第11号住居址実測図(1)



第86図 8区第11号住居址実測図（2）



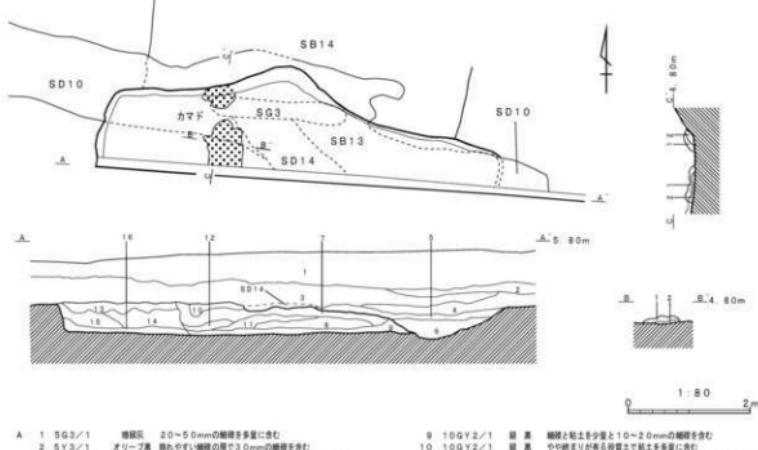
第87図 8区第11号住居址実測図（3）



第88図 8区第11号住居址出土遺物実測図

A・B・H	1 2. SY3/1	基 地	被まりが最も10mmの範囲1%、1~2mmのスコリア1%を含む。
	2 N3/0	堆 灰	10~15mmの範囲1%、1~2mmのスコリア1%を含む。
	3 5G Y3/1	オーリーブ岩	やや被まりがあり10~20mmの範囲1%、3~5mmのスコリアを少量化する。
	4 S8Z/1	緑 基	被まりが最も10~20mmの範囲1%、3~5mmのスコリアを少量化する。
	5 10G Y2/1	緑 基	被まりが最も5~10mmの範囲1%、1~2mmのスコリア1%を含む。
	6 8Y3/1	オーリーブ岩	被まりが最も5~10mmの範囲5%、1~2mmのスコリア1%を含む。
	7 5G Z/1	緑 基	被まりが最も5~10mmの範囲5%、1~2mmのスコリア1%を含む。
	8 7. S8I/1	赤 基	被土部分が少く8~10mmの範囲3%を含む。
	9 5PB2/1	赤 基	8~10mmの範囲を多量と2~3mmのスコリア1%を含む。
	10 5RP2/1	赤 基	8~10mmの範囲1%を含む。
	11 N2/0	基	被まりが少ない砂質で10mmの範囲を多量と1mm以下のスコリアを少量化する。
	12 SG2/1	緑 基	被まりが少ない砂質で10mmの範囲を多量と1~2mmのスコリアを含む。
	13 10YR3/1	砂質層	砂質層
	14		カマド
C-D-E	1 T. SYR4/2	灰 基	被まりと特徴がある薄い土層で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%、2mmのスコリア1%を含む。 下位から順にしている。
	2 T. SYR3/1	基 地	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲20%、5mmのスコリア2%を含む。
	3 10YR3/2	基 地	やや被まりと特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲20%、5mmのスコリア2%を含む。
	4 10YR2/2	基 地	2層で最も多く多くなる。
	5 T. SYR3/2	基 地	被まりが少ない砂質で10mmの範囲を多量と1mm以下のスコリアを少量化する。
	6 T. SYR2/1	基 地	被まりが少ない砂質で10mmの範囲10%を含む。
	7 10YR2/2	基 地	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%を含み1層と違がはっきりしない。
	8 T. SYR3/1	基 地	下位の一層が赤色している。他の同じ一層
	9 10YR2/2	基 地	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%を含み、露頭化した時にかけており。
	10 10YR3/3	基 地	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%を含み、露頭化した時にかけており。
	11 T. SYR3/2	基 地	被まりと特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%、5mmのスコリア1%を含む。
	12 10YR2/2	基 地	被まりと特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲5%、2mmのスコリア2%を含む。
	13 10YR2/2	基 地	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲7.5%、2mmのスコリア1%を含む。
	14 10YR2/2	基 地	被まりが最も特徴ある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲2%を含む。
P1	1 5GY2/1	オーリーブ岩	被まりが最もやや被りがある砂質土で5mm以下の範囲20%、5mmのスコリア1%を含む。
	2 10G Y2/1	緑 基	被まりが最も特徴がある露頭で化石化、露頭、5mm以下の範囲2~5mmの範囲0%を含む。
	3 5G Y3/1	オーリーブ岩	被まりが最もやや被りがある砂質土で5mm以下の範囲20%、5mmのスコリア1%を含む。
	4 SG3/1	緑 基	被まりが最もやや被りがある砂質土で5mm以下の範囲7.5%を含む。
	5 10GY2/1	緑 基	被まりが最もやや被りがある砂質土で5mm以下の範囲7.5%を含む。
	6 N2/0	基	被まりが最もやや被りがある砂質土で5mm以下の範囲5%を含む。

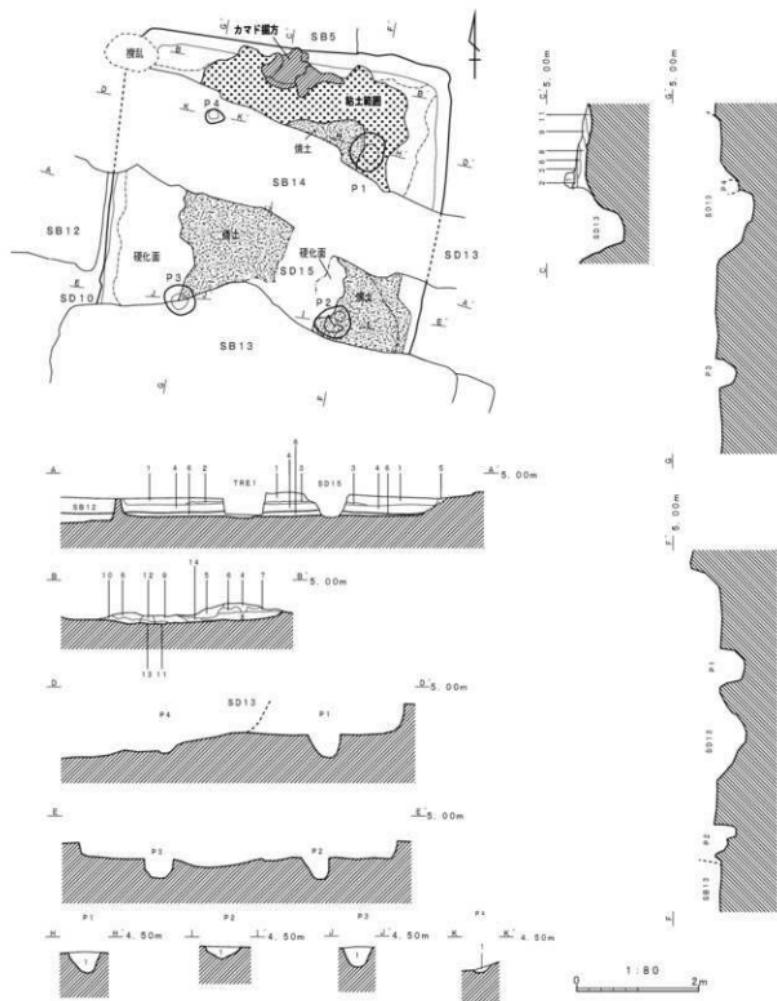
第89図 8区第11号住居址土層記注



A	1 5G2/1	堆積灰	2.0~5.0mmの範囲を多量に含む。	9 10GY2/1	基 地	被土と粘土を少量化して1~2mmの範囲を含む。
	2 5Y3/1	オーリーブ岩	被れやすい。被る際の底に2~3mmの範囲を含む。	10 10GY2/1	基 地	やや被りがある砂質土で5mm以下の範囲1%を含む。
	3 5GY2/1	オーリーブ岩	10mmの範囲1%、1~2mmのスコリア1%を含む。	11 N2/0	堆 灰	やや被りがある砂質土で5mm以下の範囲1%を含む。
	4 N2/0	基	1.5~2.0mmの範囲3%、1~2mmのスコリア1%を含む。	12 N2/0	基	やや被りがあり10mmの範囲1%を含む。
	5 10GY2/1	基	2.0mmの範囲1%、2~3mmのスコリア1%を含む(SD10)	13 5GY2/1	オーリーブ岩	5~8mmの範囲1%、2~3mmのスコリア1%を含む。
	6 N2/0	基	1.5~2.0mmの範囲1%、2~3mmのスコリア1%を含む(SD10)	14 SG3/1	堆積灰	やや被りがあり10mmの範囲1%を含む。
	7 N2/0	基	1.5~2.0mmの範囲1%、2~3mmのスコリア1%を含む。	15 N2/0	基	10~15mmの範囲3%、2~3mmのスコリア1%を含む。
	8 5BG2/1	基	粘土と5.0mmの範囲を多量に含む。	16 N2/0	基	砂質土と1~2mmのスコリアを少量化する。

B-C 1 10YR3/2 基 地 やや被りがある砂質土粘土層で2~3mmの赤色を多量に含む
2 2. SYR2/1 基 地 被まりが最も薄い被りが多い被りが多く粘土を少量化

第90図 8区第13号住居址実測図



第91図 8区第14号住居址実測図

A	1. 5YS2/1	標準土	標準より細かい骨質を多く含む地層 3%, 1~2mmのスコリヤ 1%を含む
2.	10Y2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 5%を含む
3.	7. BY2/2	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 5%を含む
4.	5GY2/2	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 5%を含む
5.	2. 5YS2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 1~2mmのスコリヤ 1%を含む
6.	5YR2/1	素 地	標準土
B+C	1. 2. 5YS2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 2mmのスコリヤ 1%を含む
2.	10Y2/2	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 1mmと比較して古い地層に露出する骨質混在で中間に新しい褐色土を挟む
3.	2. 5YS2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 1mmと比較して古い地層に露出する骨質混在で中間に新しい褐色土を挟む
4.	3YS2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 1%を含む
5.	2. 5YS2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 1%を含む
6.	10YR2/2	反黄土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 5%を含む
7.	5YS2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 4%を含む
8.	5YS2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 2%を含む
9.	7. BYR2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 1mmのスコリヤ 1%を含む
10.	5YS2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 1%を含む
11.	5YS2/1	オーリー土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 20%, 1mmのスコリヤ 1%を含む
12.	5YR4/3	標準土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 2mm以下の細砂 10%を含む
13.	5YR3/2	標準土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 1%を含む
14.	5YR4/2	反黄土	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 5%を含む
H P1	1. 5YS2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 10mm以下の細砂 10%, 2mm以下の細砂 40%を含む
I P2	1. 2. 5YR2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 20%を含む
J P3	1. 10YR2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mm以下の細砂 5%を含む
P4	7. BYR2/1	素 地	標準より細かい骨質を多く含む地層を多く含む地層 30%, 5mmのスコリヤ 1%を含む

第92図 8区第14号住居址土層注記



第93図 8区第14号住居址出土遺物実測図

時 期 北辺にカマドを有し、ミガキ調整の球洞甌が出土することから、8世紀の中でも前半の可能性が高い。

8区第14号住居址（8-SB14 第91図～第93図）

120-40Gr・121-40Gr・121-41Grで検出された。南側をSB13やSD10に、中央をSD13に切られている。残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ 0.23m が残存していた。

規 模 東西 5.23m × 南北 4.75m (残存部)

重複関係 (古) SB5 → SB14 → SB13 → SD10・SD13・SD15 (新)

主軸方位 N. 7° E (残存部) 壁 溝 検出されない。

柱 穴 いずれも主柱穴と考えられる 4 基を検出。P1 は径 0.64m・深さ 0.35m、P2 は径 0.60m・深さ 0.15m、P3 は径 0.51m・深さ 0.33m、P4 は径 0.31m・深さ 0.08m を測る。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面中央に焼土が広がり、壁際では硬化面が認められる。広範囲に焼土が広がっていることから焼失住居の可能性がある。

カマド 北辺の中央で検出された。ほぼ崩壊していたが、袖部の基底部が残存していた。

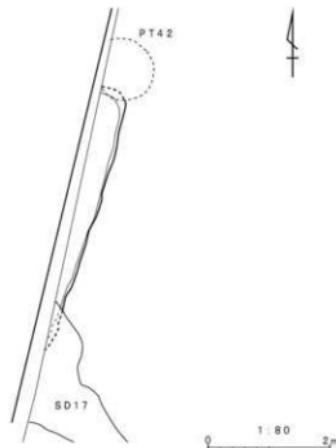
遺 物 須恵器蓋を 1 点図示した。本来は摘みを有していたと考えられる。口縁部は垂直に折り返す。遠江V期前半頃に位置づけられる。

時 期 遺物が少なく、時期の限定は困難であるが、8世紀前半に位置づけられる。

8区第15号住居址（8-SB15 第94図）

調査区北西部の 119-43Gr・120-43Gr で検出された。大部分が調査区外へ広がる。立ち上がりは深さ 0.35m が残存していた。調査範囲を広げて確認を行う予定だったが、期間満了に伴い作業を中断したため、土層注記については残されていない。

規 模 東西 0.29m × 南北 4.51m (残存部)



第94図 8区第15号住居址実測図

重複関係 (古) SB15 → SD16・SD17 (新)
 主軸方位 不明
 壁溝 検出されない。
 柱穴 検出されない。貼床 不明
 カマド 検出されない。
 遺物 図示できる遺物は出土しなかった。
 時期 遺物が出土していないため、時期不明。

(2) 5区検出の竪穴住居址 5-SB

調査区北側で8軒と中央付近に1軒、南側で1軒検出されている。主軸方位は北北東・南南西軸のグループ (SB1・SB4・SB6・SB8)、北北西・南南東軸のグループ (SB2・SB3・SB5)、北西・南東軸のグループ (SB7) に分かれる (第46図)。前者2グループはおおよそ8区のグループとも対応する。カマドが確認された住居址については、いずれも北壁にカマドを有し、西壁では検出されなかった。

5区第1号住居址 (5-SB1 第95図～第97図)

123-38Gr・123-39Grで検出された。南東隅上端が5-SH1と重複する。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.42mが残存していた。

規模 東西5.62m×南北5.41m 重複関係 (古) SB1 → SH1 (新)

主軸方位 N-4°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 4基検出。P1～P4は径0.27～0.30m・深さ0.22～0.28mを測る。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としているが、硬化面は認められなかった。また西側の床面直上において焼土の広がりが検出された。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかつたが、構築土とみられる粘土の広がりが認められた。芯材等は確認されていない。

遺物 土師器表2点と鉄製品1点を図示した。1は逆涙滴形を呈し、肩部がやや張り出す。2はやや小型な球胴表で、カマドから出土した。ともにミガキ調整は認められない。

3は腸抉長三角(もしくは五角か)形式の鉄鏃である。腸抉の先端と茎尻が欠損している。鏃が付着しているため、明確ではないが、棘闘と考えられる。

時期 ミガキ調整を伴わない逆涙滴形の土師器表から7世紀代に位置づけられる。

5区第2号住居址 (5-SB2 第98図～第101図)

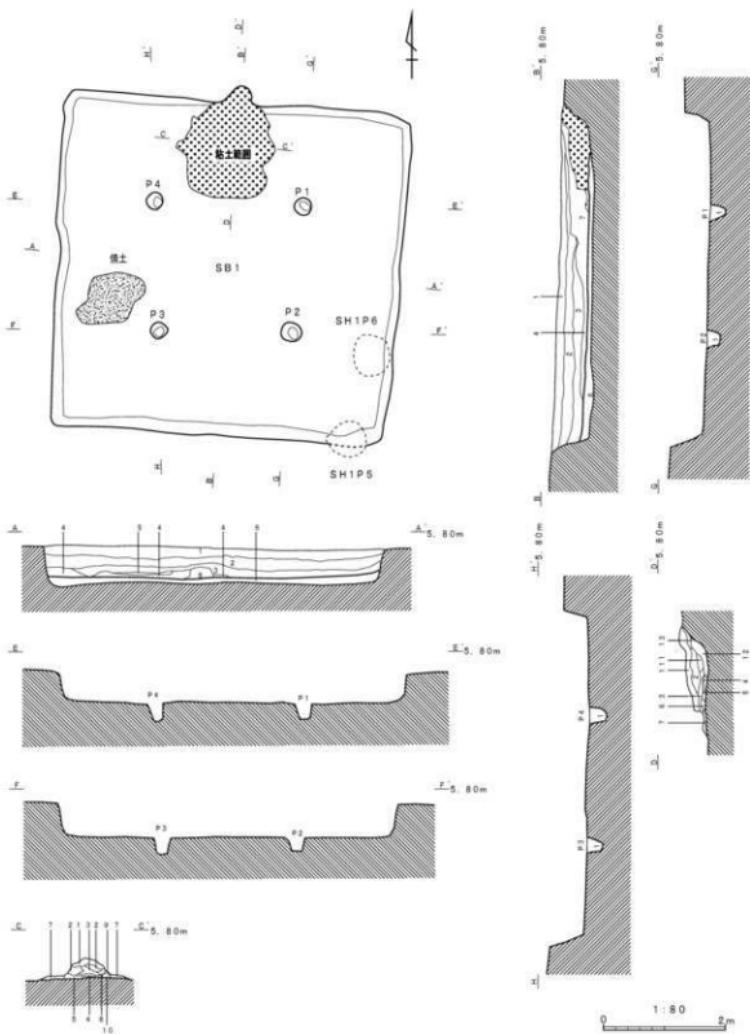
123-39Gr・123-40Gr・124-40Grで検出された。東南部が調査区外へ広がる。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.40mが残存していた。

規模 東西7.34m×南北7.34m(残存部) 重複関係 なし

主軸方位 N-4°-W

壁溝 4面ともに検出された。幅0.15～0.20m・深さ0.10～0.15mを測る。

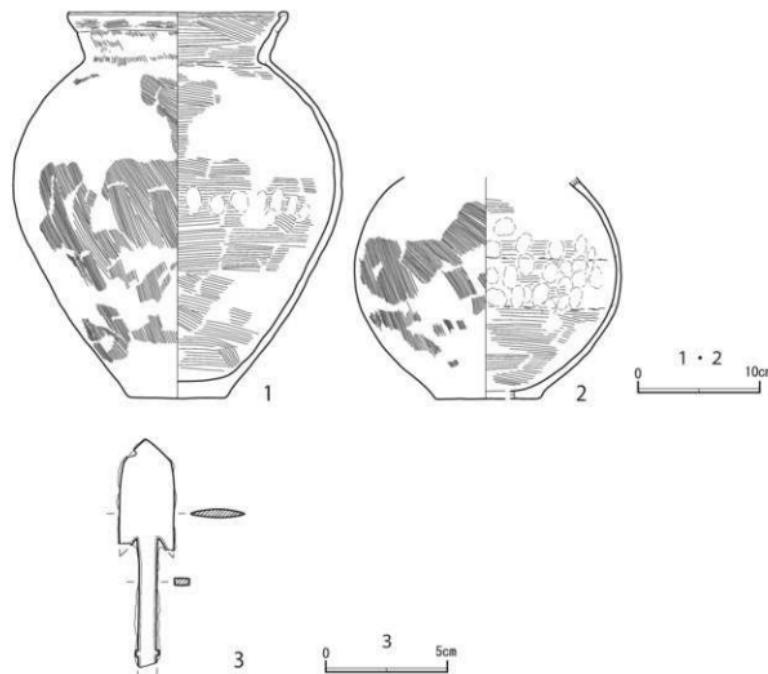
柱穴 5基検出。P1～P4は径0.57～0.75m・深さ0.23～0.34m、P5は径0.53m・深さ0.33mを測る。主柱穴はP1～P4と考えられる。



第95図 5区第1号住居址実測図

A・B:	1 10YR 2/1	黒	縫まりが無く8~10mmの細縫7%, 5~8mmのスコリア10%を含む
2	2: 5YR 2/1	黒	縫まりが無く10~15mmの細縫7%, 5~8mmのスコリア10%を含む
3	2: 5YR 2/1	黒	縫まりが無く10~15mmの細縫7%, 5~8mmのスコリア10%を含む
4	10YR 2/2	黒 線	縫まりが無く8~10mmの細縫9%, 8~10mmのスコリア7%を含む
5	2: 5Y 3/1	黒	縫まりが無く10~15mmの細縫5%, 5~10mmのスコリア5%を含む
6	10YR 2/1	黒	縫まりが無く10~15mmの細縫5%, 5~10mmのスコリア5%を含む
7		カマド鉢土	
8		計測大便器	
C・D:	1 5Y 4/1	灰	中和性を有する細縫混粘土層で、10mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコリア2%を含む
2	5G 3/1	赤オリーブ灰	縫まりが無い黄土まで5mm以下の細縫20%, 5mm以下のスコリア1%を含む
3	2: 5Y 4/2	暗赤	縫みの有る細縫土層で、1~2mmの細縫1%, 5mm以下のスコリア1%を含む
4	5Y 4/1	灰	縫みの有る細縫土まで5mm以下の細縫20%, 5mm以下のスコリア1%を含む
5	2: 5Y 4/1	青 灰	縫みの有る細縫土まで5mm以下の細縫1%, 5~10mmのスコリア1%を含む
6		計測大便器	
7	2: 5Y 3/2	オリーブ	やや縫みと粗粒化が見られる粘土まで10mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコリア2%を含む
8	2: 5Y 4/2	赤オリーブ	やや縫みと粗粒化が見られる5mm以下の細縫5%を含む
9	2: 5G 4/1	赤オリーブ	やや縫みが見られ、粘土質じしの骨質まで5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコリア1%を含む
10	2: 5Y 4/1	青 灰	やや縫みが有り、1~2mmの細縫1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
11	2: 5Y 3/1	黒 線	やや縫みが有り、粘土砂質土まで5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコリア1%を含む
12	10YR 2/1	黒 線	縫まりと粗粒化が見られ、粘土まで7mm以下の細縫3%, 黄土、10mm以下の細縫3%を含む
13	10YR 2/1	黒 線	やや縫みと粗粒化が有り、砂質土まで、5mm以下の細縫3%, 5mm以下のスコリア1%を含む
P1	1 10YR 2/1	黒	縫まりが無い黄土まで5mm以下の細縫3%, 5mm以下のスコリア5%を含む
P2	10YR 2/1	黒	縫まりが無い黄土まで5mm以下の細縫3%, 10mm以下のスコリア5%を含む
P3	2: 5YR 2/1	黒 線	縫まりが無い黄土までやや黄土まで多く粗粒化、10mm以下の細縫3%, 10mm以下のスコリア3%を含む
P4	2: 5YR 2/1	黒	縫まりが無い黄土まで20mmの大粒化灰、5mm以下の細縫3%, 5mm以下のスコリア5%を含む

第96図 5区第1号住居址土層注記



第97図 5区第1号住居址出土遺物実測図

貼床 挖方面を床面とし、ほぼ全域で硬化面が確認された。また床面中央では焼土が、床面南側では朱が検出されている。ただし朱に関しては未分析であるため、詳細は不明である。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが両袖部の基部と掘方が確認された。東袖部から砂質ブロックが検出していることから、これを芯材として利用していたものと考えられる。

遺物 土器 6点、石製品 1点、玉製品 2点の計 9点を図示した。土器は全て土師器である。

1はカマド周辺から出土した球胴甕で、頸部はナデ調整である。口縁部が肥厚化している。2~4も同じく甕で、2は底部に不定方向のミガキ調整が施される。5~6は壙で、ともにカマドから出土した。ハケメ調整のみで、ミガキ調整は認められない。

7は床面から出土した砥石で、石材は凝灰岩である。表裏面、両側面の4面に使用された痕跡がある。

8は床面から出土した勾玉で、下半部は失われている。橙色のメノウ製で、最大長 2.03cm、最大幅 1.71 cm、最大厚 0.91cm、重量は 3.50g を測る。両面穿孔であるが、両面の孔の径に違いがある。

9は丸玉で、8と同じく床面から出土している。外面には鉄分が付着しているが、付着していない箇所を観察する限り、玉髓製と考えられる。上面・下面とともに穿孔部の周りが面取りされている。最大長は 0.97cm、最小径は 1.15cm、最大径は 1.18cm、重量は 1.81g を測る。

時期 ミガキ調整を作った土師器甕から、7世紀後半~8世紀前半に位置づけられる。

5区第3号住居址（5-SB3 第102図~第104図）

123-40Gr・123-41Gr・124-40Gr・124-41Gr で検出された。SB2 とほぼ同軸で、規模も SB2 に次ぐ大型の SB である。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.48m が残存していた。なお調査時には SD8 を切っていると判断されたが、切り合い関係を誤認している可能性がある。

規模 東西 6.68m × 南北 7.10m 重複関係（古）SD8 → SB3 ?（新）

主軸方位 N- 2° -W

壁溝 ほぼ全周するが、東南隅が切れている。幅 0.20 ~ 0.42m、深さ 0.05 ~ 0.12m を測る。

柱穴 4基検出。北側の P1・P4 は径 0.65 ~ 0.72m・深さ 0.27 ~ 0.38m、南側の P2・P3 は径 0.36 ~ 0.55m・深さ 0.33 ~ 0.36m と、規模にやや違いがある。また P4 の覆土中から多量の礫が検出されている。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また南東部隅を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。

カマド 北辺のほぼ中央に位置する。崩壊しているため形状は確認できなかったが、カマドの構築土とみられる粘土の広がりが認められた。カマドの芯材は確認されないが、カマド周辺で軽石等が多量に出土しており、これらが芯材として利用されていた可能性がある。

遺物 土器 13点、石製品 1点の計 14点を図示した。土器はいずれも土師器である。

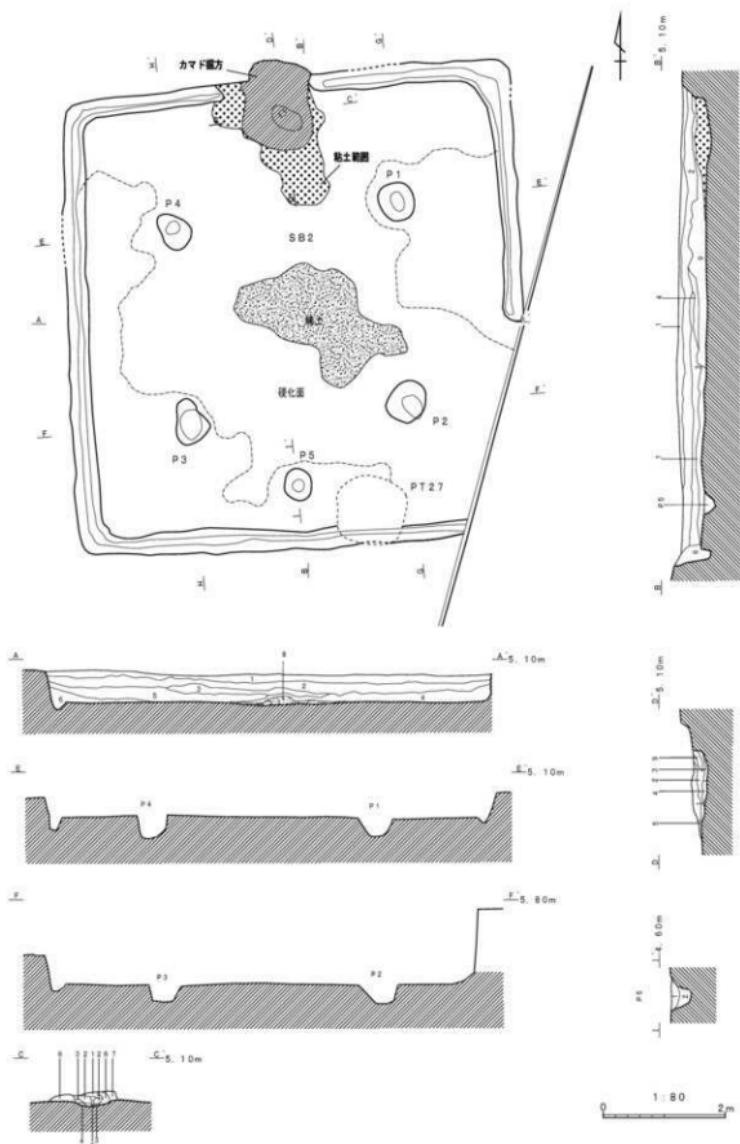
1~8は甕、9~11は壙、12・13は甌である。甕や壙にはミガキ調整は認められず、ハケメ調整のみである。1の口縁部は薄手で、肥大化していない。甌は 12 がケズリの後に細かなミガキ調整を施す。一方 13 はケズリ調整のみである。

14 は砥石で、石材は砂岩である。表面・両側面の3面に使用した痕跡が残り、背面には線状痕がある。床面から出土した。

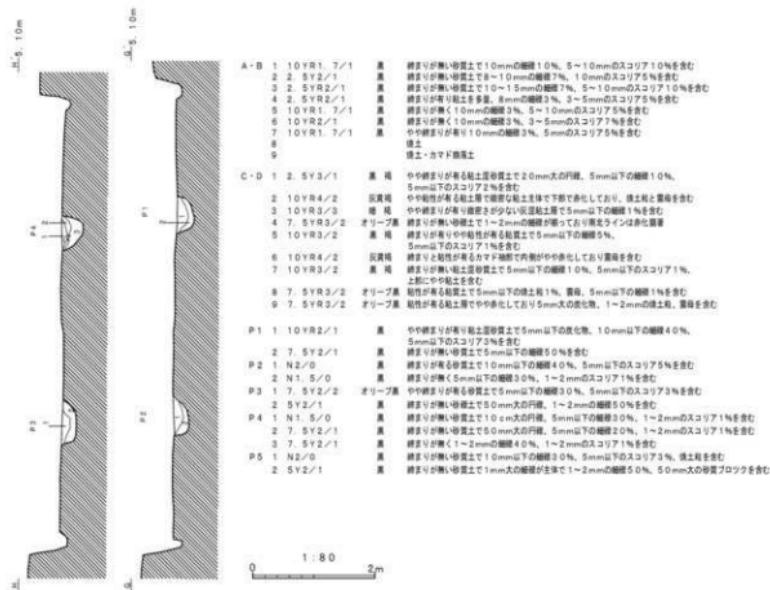
時期 時期の限定は難しいが、7世紀代と推測される。

5区第4号住居址（5-SB4 第105図・第106図）

123-41Gr・123-42Gr・124-41Gr・124-42Gr で検出された。上端の一部がピットに切られている箇所もあるが、全容を捉えることができた。平面形は南辺がやや弧状となる方形を呈し、立ち上がりは深さ 0.40m が残存していた。



第98図 5区第2号住居址実測図（1）



第99図 5区第2号住居址実測図(2)

規 模 東西 3.71m × 南北 3.98m 重複関係 なし

主軸方位 N-13°-E 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。P1・P3・P4は径 0.44 ~ 0.52m・深さ 0.19 ~ 0.28m、P2はやや規模が大きく、径 0.63m・深さ 0.32mを測る。

貼 床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北辺の中央に位置する。両袖部、燃焼部が残存している。芯材等は確認されず、粘土のみの構築であると思われる。カマドの南側には崩壊に伴う構築土と思われる粘土の広がりが認められた。

遺 物 出土遺物は少なく、土師器1点と磁石1点のみが図示可能であった。1は口縁部が肥厚しているが、外面部はハケメ調整のみでミガキ調整は認められない。

2は凝灰岩製の砥石で、表面・両側面の3面に擦痕があり、背面には線状痕が観察できる。

時 期 7世紀代に位置づけられる。

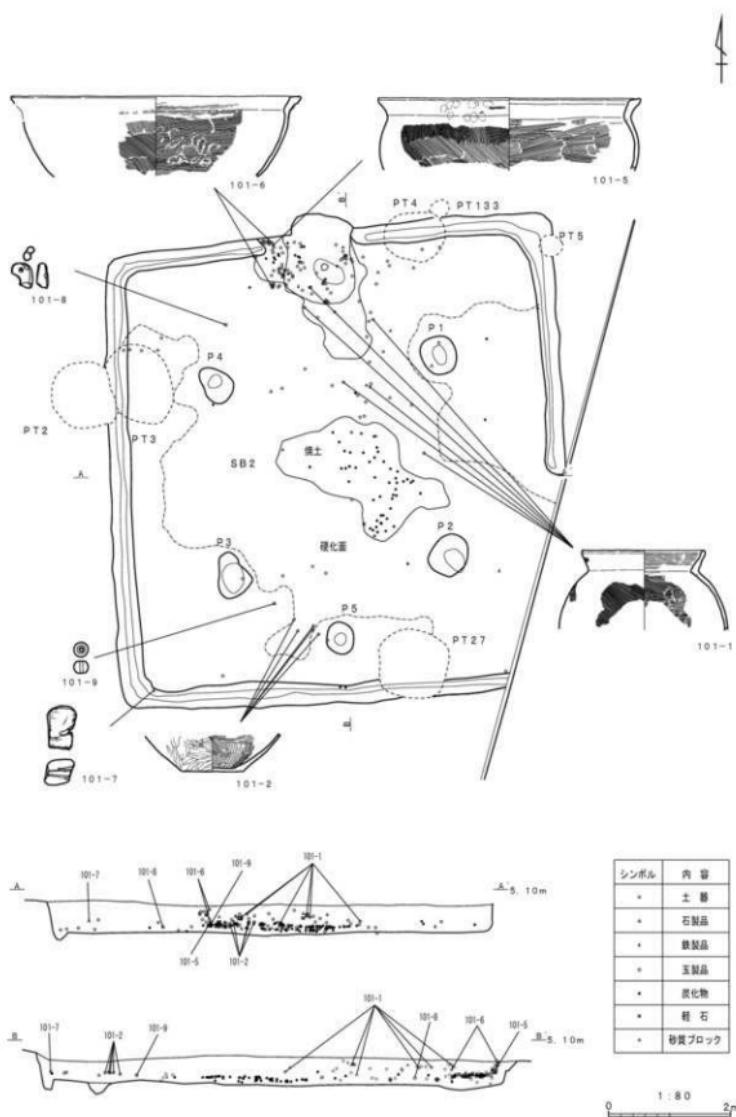
5区第5号住居址 (5-SB5 第107図~第109図)

122-41Gr・122-42Gr・123-41Gr・123-42Grで検出された。平面形は南辺の中央に若干の張り出しを持つ五角形である。また西辺においてステップが認められる。立ち上がりは深さ 0.53m が残存していた。なお調査時には SD8 を切っていると判断されたが、切り合ひ関係を認証している可能性がある。

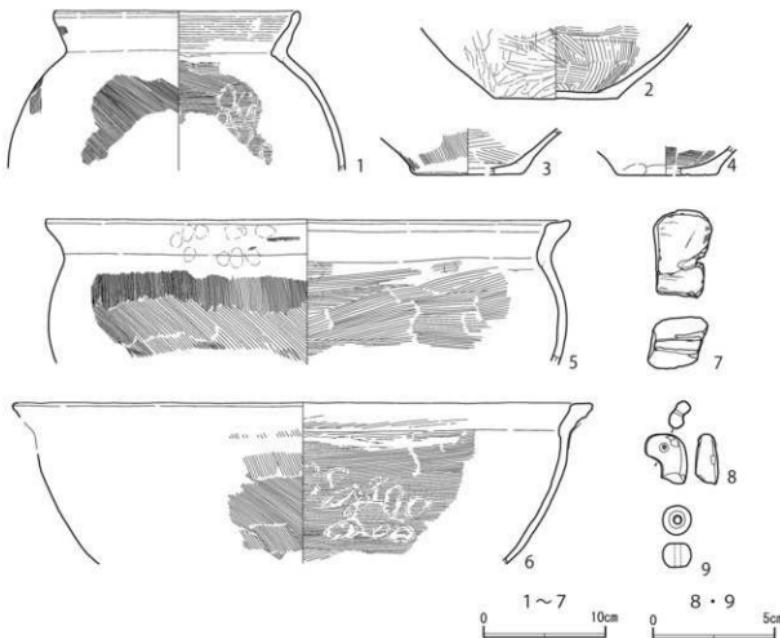
規 模 東西 5.17m × 南北 5.39m 重複関係 (古) SD8 → SB5 ? (新)

主軸方位 N-3°-W 壁 溝 検出されない。

柱 穴 4基検出。P1 ~ P4 は径 0.61 ~ 0.73m・深さは 0.33 ~ 0.40m を測る。いずれも主柱穴であろう。



第100図 5区第2号住居址遺物出土状況図



第101図 5区第2号住居址出土遺物実測図

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また、ほぼ全面で硬化面が検出された。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊に伴う粘土の広がりと掘方のみを検出した。芯材等は確認されていない。

遺物 土器5点と鉄製品7点の計12点を図示した。1～5に示した土器はいずれも土師器で、球胴甕と考えられる。甕はいずれもハケメ調整のみであり、ミガキ調整は認められない。1はSB8の小破片と接合した。4の外側ハケメは斜格子状になっている。

6は刃部～茎部が残存する両撫闇の刀子片である。刃部の先端部まで残存するが、3.0cmと短い。7は片刃箭式の鉄鏃である。鏃身闇は撫闇もしくは抉りの浅い角闇で、茎闇は棘闇である。8は鉄鏃の頭部で、側面からみると直線的ではなく、中央部で屈曲している。9は残存状況が悪いが、両刃の鑿箭式であろう。

10・11は貴金属である。10の全長は3.6cm、11の全長は2.9cmと小形である。11は図上右側が左側と比べてやや細くなっている。

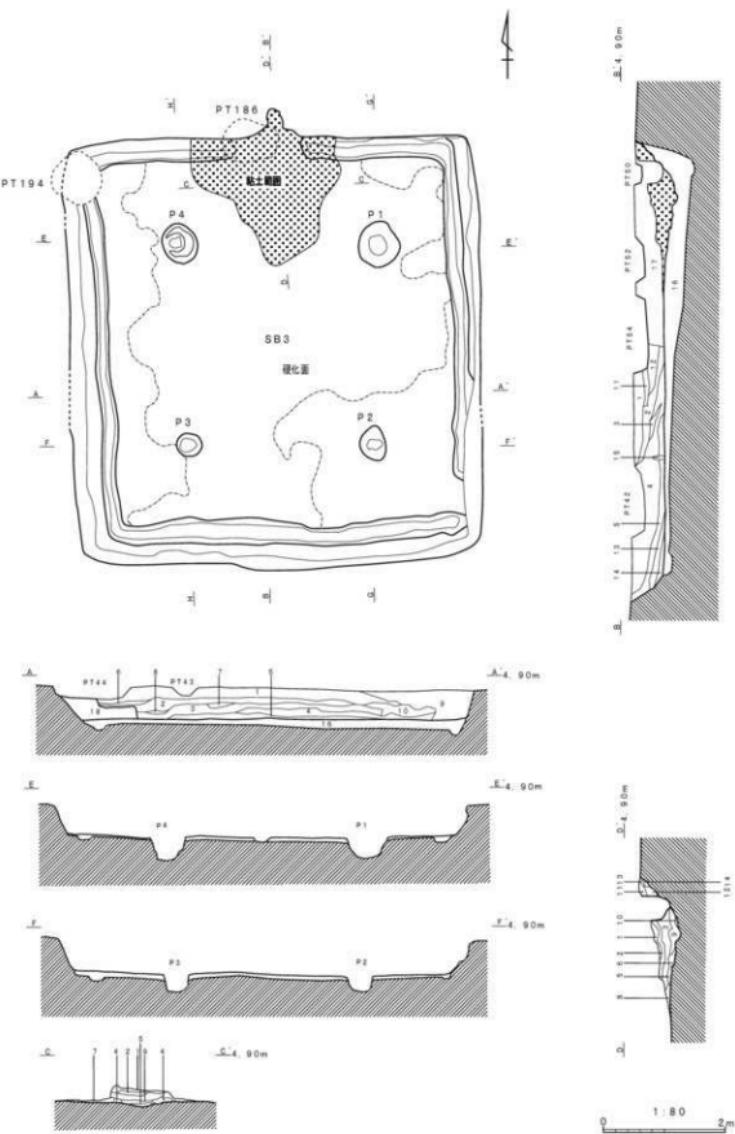
12は釣針で、アグの先端部が欠損する。断面形は四角形である。

時期 ミガキ調整を施す甕が出土したことから7世紀代であろう。

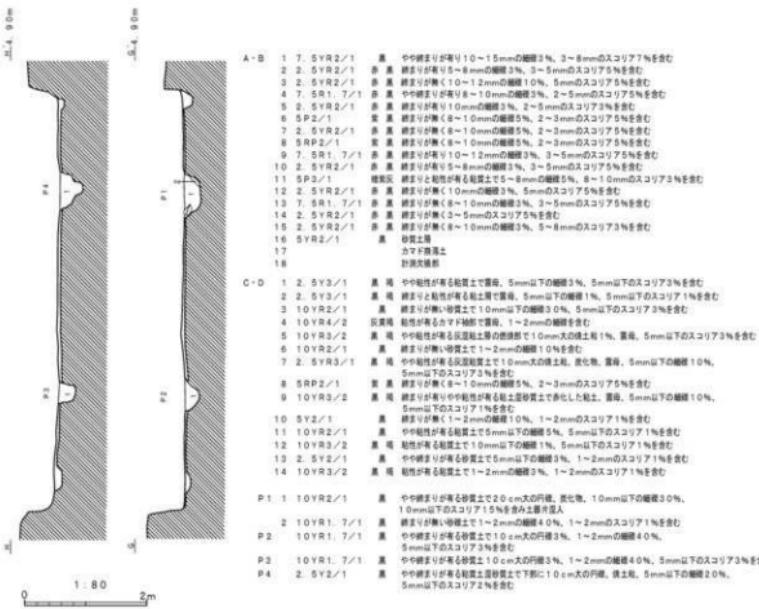
5区第6号住居址 (5-SB6 第110図・第111図)

122-42Gr・123-42Grで検出された。平面形は正方形を呈し、立ち上がりは深さ0.18mが残存していた。5区の中では小規模かつ、掘り込みの浅いSBで、柱穴も検出されなかった。

規模 東西2.68m×南北2.68m 重複関係 (古) SH3→SB6(新)



第102図 5区第3号住居址実測図（1）



第103図 5区第3号住居址実測図（2）

主軸方位 N-8°-E 壁溝 検出されない。柱穴 検出されない。

貼床 紫黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は検出されていない。

カマド 北辺の中央に位置する。SB自体の掘り込みが浅いため、カマドは遺構確認面にてすでに粘土が散っている状態で検出された。カマド周辺では土器片と礫が多量に出土している。西側袖部の基部と考えられる高まりを確認したが、図示がなされていないため、ここでは粘土の広がりの範囲を示した。

遺物 土師器2点を図示した。1は壺、2は壺である。ともにハケメ調整のみで、ミガキ調整は認められない。2の口縁部の器壁は比較的薄手である。

時期 7世紀代に位置づけられる。

5区第7・9号住居址(5-SB7・5-SB9 第112図～第114図)

SB7は124-41Gr・124-42Gr、SB9は124-42Grでそれぞれ検出された。SB7の東側は調査区外に広がる。一方SB9は西壁に大きく攪乱を受け、北辺と東辺が調査区外に延びる。このことから、いずれも全容は明らかではないが、残存部分からともに平面形は方形と推定される。立ち上がりはSB7の深さが0.31m、SB9の深さが0.54m残存していた。

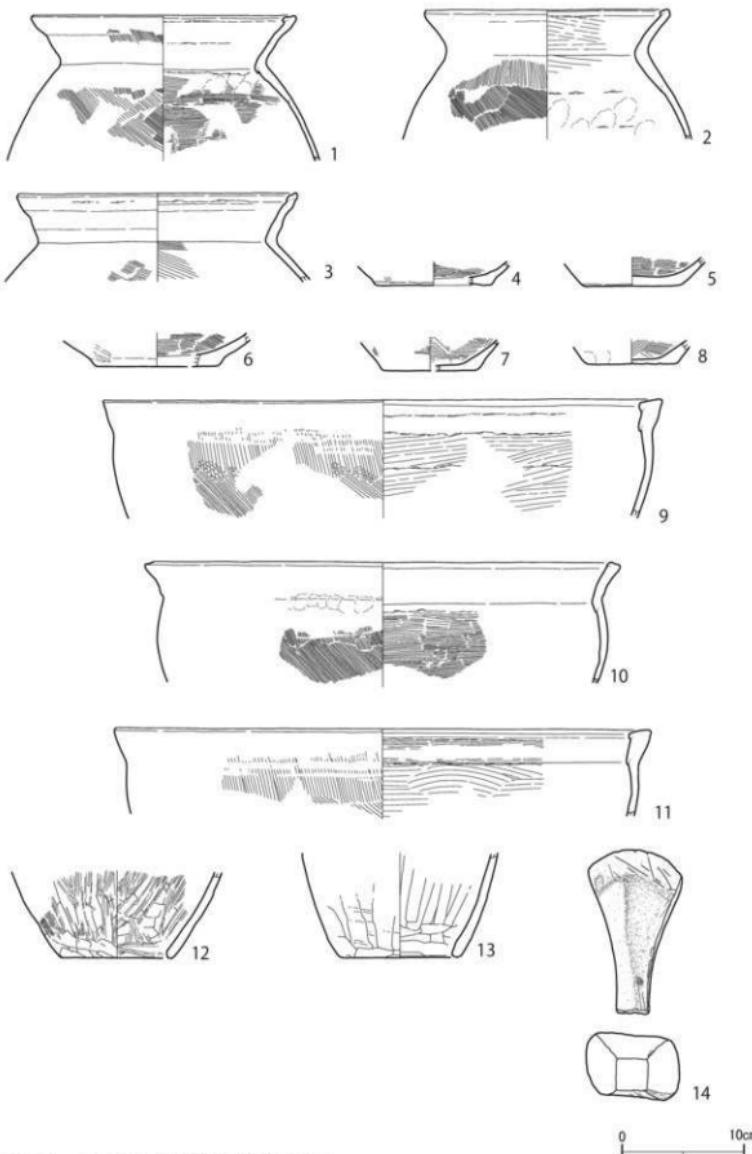
規模 SB7 東西4.25m×南北6.68m(残存部)

SB9 東西3.32m×南北2.24m(残存部)

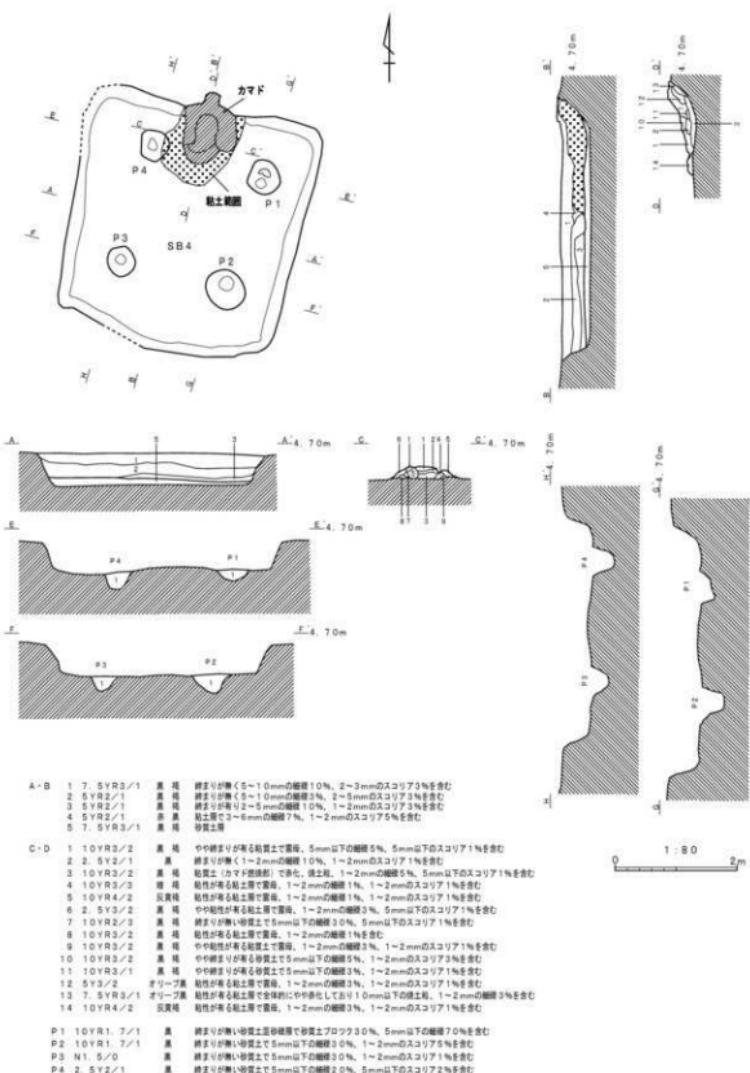
重複関係(古) SB9→SB7(新)

主軸方位 SB7 N-24°-W SB9 不明

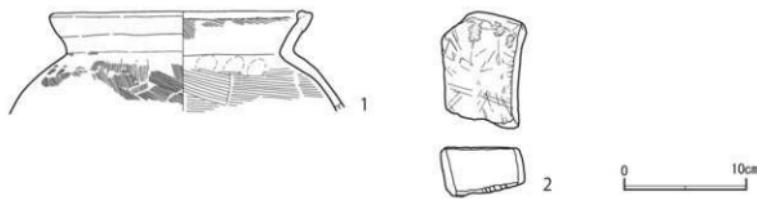
壁溝 SB7 掘方面まで掘削した段階で、カマド部分を除き、全周する形で確認された。幅0.16



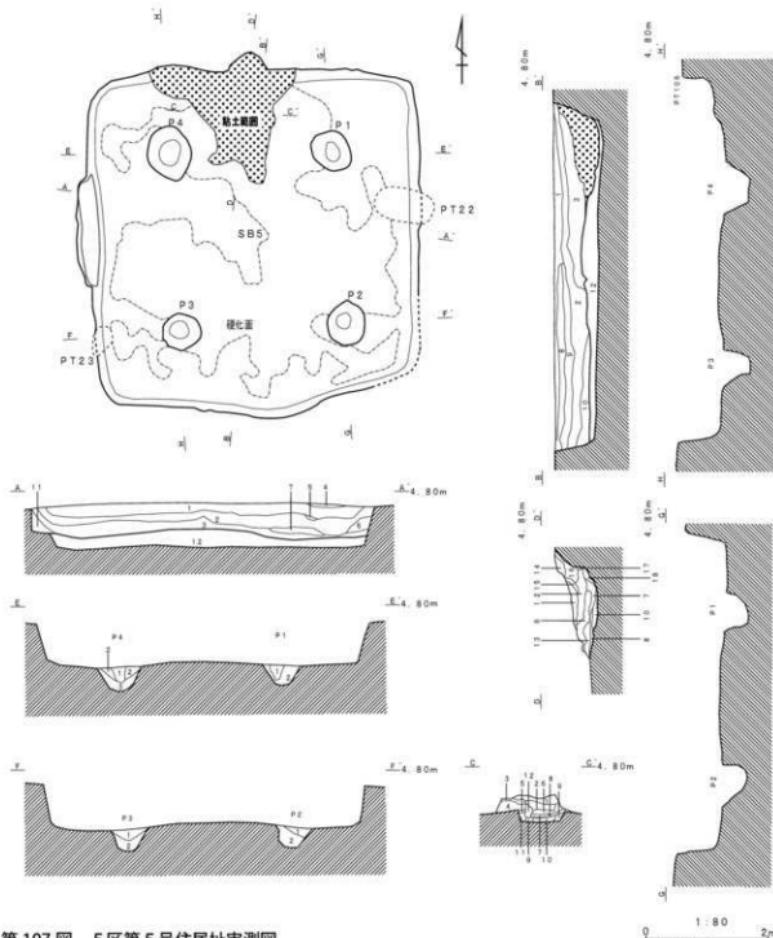
第104図 5区第3号住居址出土遺物実測図



第105図 5区第4号住居址実測図



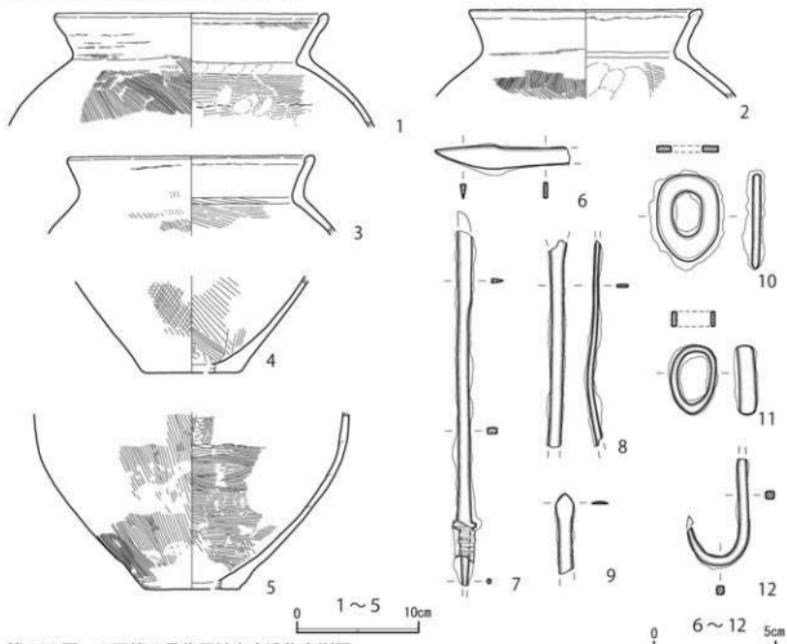
第106図 5区第4号住居址出土遺物実測図



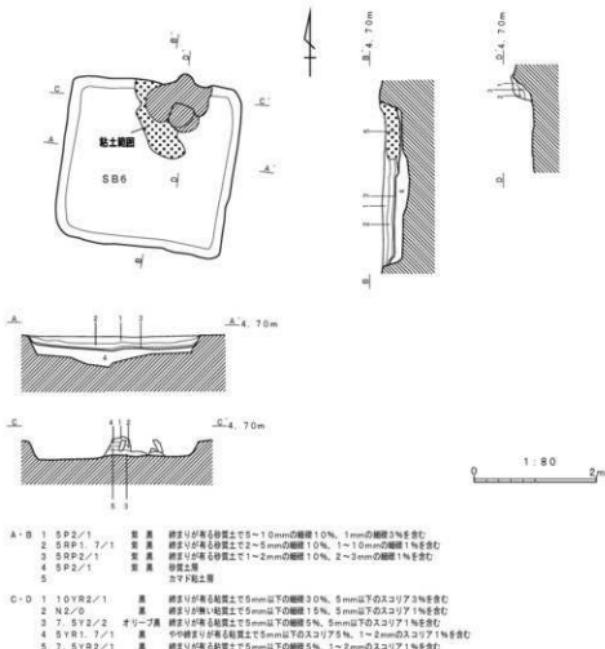
第107図 5区第5号住居址実測図

A・B	1. 10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く1~2mmの細縫7%, 5~8mmのスコア10%を含む
2.	2. SY3/-2	黒	やや絞りがある幅く1~2mmの細縫10%, 3~5mmのスコア10%を含む
3.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く1~2mmの細縫10%, 3~5mmのスコア10%を含む
4.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く1~2mmの細縫7%, 3~5mmのスコア5%を含む
5.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く8mmの細縫3%, 3~8mmのスコア5%を含む
6.	SY2/-1	黒	絞りが無い幅く10mmの細縫5%, 3~5mmのスコア5%を含む
7.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く10~12mmの細縫10%, 3~8mmのスコア7%を含む
8.	SY2/-1	黒	絞りが無い幅く10~12mmの細縫7%, 3~8mmのスコア7%を含む
9.	SY2/-2	オーブ	絞りが無い幅く10~12mmの細縫10%, 3~8mmのスコア7%を含む
10.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く1~2mmの細縫7%, 3~8mmのスコア5%を含む
11.	N2/-0	黒	やや絞りがある幅員まで5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコア5%を含む
12.	N2/-0	黒	谷筋用
C・D	1. 2. SY3/-2	黒	やや絞りがある幅員まで5mm以下の細縫3%, 5mm以下のスコア1%を含む
2.	10YR 2/-1	黒	絞りが無い幅く5mmの細縫2%, 5mm以下のスコア5%を含む
3.	SY3/-2	黒	やや絞りがある幅く5mmの細縫2%, 5mm以下のスコア5%を含む
4.	2. SY3/-1	黒	やや絞りがある幅く5mmの細縫2%, 5mm以下のスコア5%を含む
5.	10YR 2/-2	黒	絞りが無い幅く1~2mmの細縫1%
6.	10YR 2/-2	黒	粘土質で10mm以上の土質で、5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコア1%を含む
7.	7. SYR 2/-2	黒	粘土質で10mm以上の土質で、5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコア1%を含む
8.	10YR 2/-1	黒	砂利地帯で10mm以上の土質で、1~2mmの細縫3%を含む
9.	10YR 2/-1	黒	粘土質が発達する土質で、1~2mmの細縫1%, 1~2mmのスコア1%を含む
10.	10YR 2/-2	黒	粘土質で10mm以上の土質で、1~2mmの細縫1%
11.	10YR 2/-2	黒	砂利地帯で10mm以上の土質で、5mm以下の細縫10%, 5mm以下のスコア1%を含む
12.	10YR 4/-2	ひじ青	粘土質で10mm以上の土質で、5mm以下の細縫3%を含む
13.	5RP3/-1	褐色	絞りが無い2.0mm以上の粘土プロック, 5mm以下の細縫2%, 5mm以下のスコア2%を含む
14.	2. SY3/-1	黒	やや絞りがある幅員まで5mm以下の細縫3%を含む
15.	10YR 2/-3	黒	やや絞りがある幅員まで5mm以下の細縫5%, 5mm以下のスコア3%を含む
16.	2. SY3/-2	黒	粘土質で10mm以上の土質、谷筋、1~2mmのスコア7%を含む
17.	10YR 2/-2	黒	粘土質で10mm以上の土質、谷筋、1~2mmのスコア7%を含む
18.	2. SY2/-1	黒	粘土質で5mmの粘土プロック10%, 谷筋、1~2mmの細縫5%, 5mmのスコア2%を含む

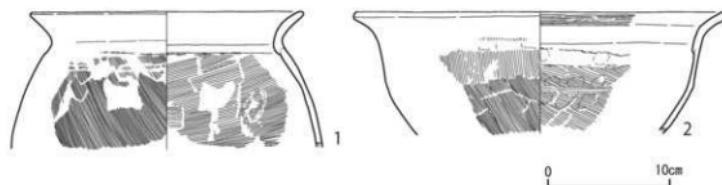
第108図 5区第5号住居址土層記



第109図 5区第5号住居址出土遺物実測図



第110図 5区第6号住居址実測図



第111図 5区第6号住居址出土遺物実測図

~0.24m、深さ 0.06 ~ 0.07m を測る。

SB9 検出されない。

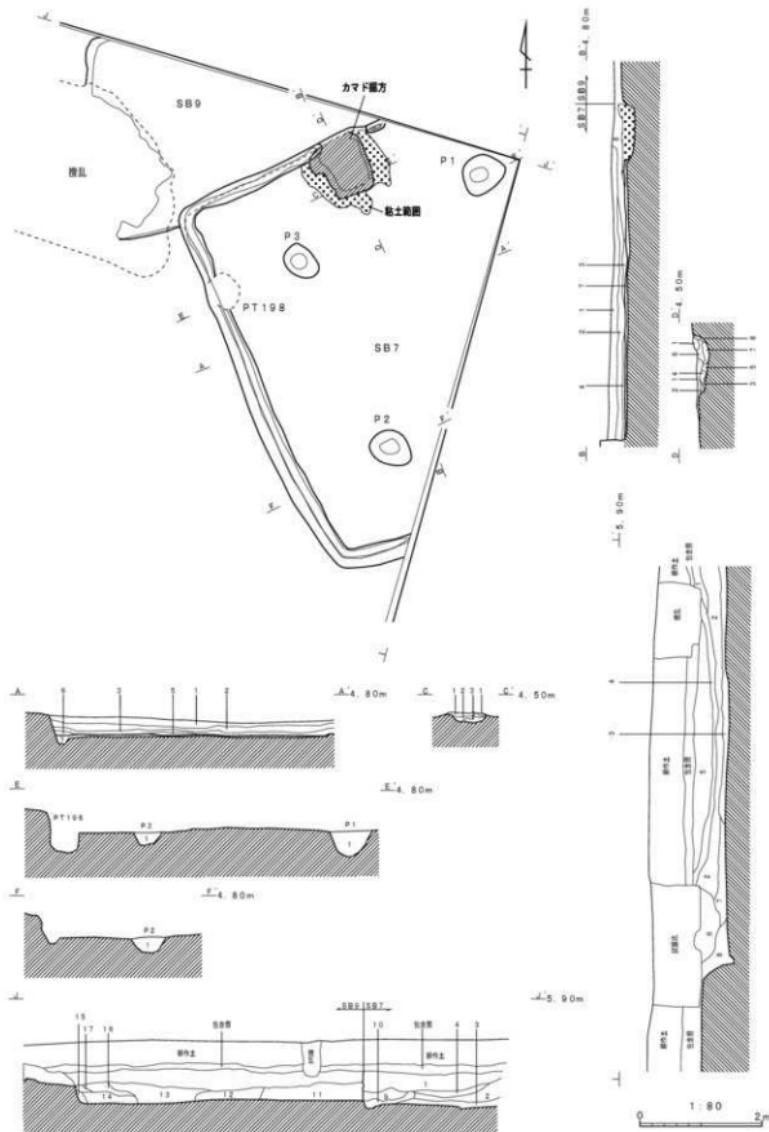
柱穴 SB7 3基検出。P1は径0.71m・深さ0.42m、P2・P3は径0.47 ~ 0.58m・深さ0.21 ~ 0.26mを測る。いずれも主柱穴と考えられる。

SB9 検出されない。

貼床 SB7 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

SB9 黒色の砂質土を使って床面としている。硬化面は認められない。

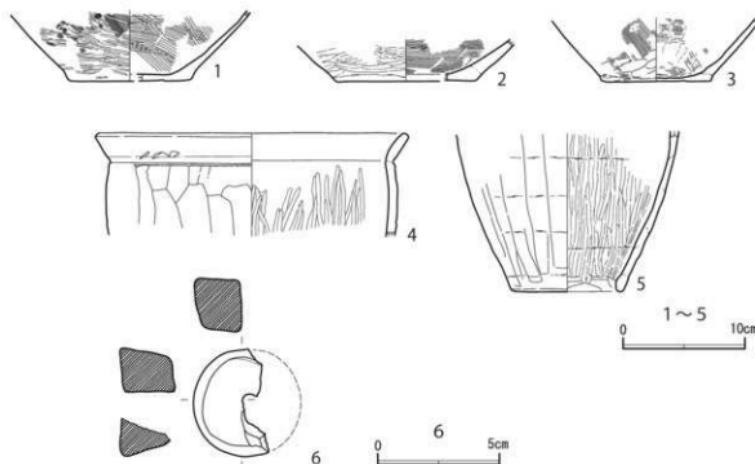
カマド SB7 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土と思われる粘土の広がりと掘方が認められた。芯材等は確認されない。



第112図 5区第7・9号住居址実測図

A - B	1	7. SYR2/1	黒	細まりが粗く5~10mmの細胞10%, 2~5mmのスコリア3%を含む
	2	SYR2/1	黒	細まりが粗く2~5mmの細胞10%, 2~5mmのスコリア3%を含む
	3	SYR2/1	黒	細まりが粗く2~5mmの細胞10%, 2~5mmのスコリア3%を含む
	4	2. SYR2/1	黒	細まりが粗く2~5mmの細胞15%, 2~5mmのスコリア3%を含む
	5	SYR2/1	黒	細まりが粗く5~10mmの細胞10%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	6	SYR2/1	黒	細まりが粗く5~10mmの細胞10%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	7	7. SYR2/1	黒	マツタケ藻土
C - D	1	2. SYR2/1	黒	細
	2	TOYR1. 7/1	黒	やや細さが有る粘質土で砂混じり、1~2mmの細胞3%を含む
	3	TOYR1. 7/1	黒	細さが有る粘質土で1~2mmの細胞3%を含む
	4	2. SYR2/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で1~5mmの細胞15%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	5	2. SYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で1~5mmの細胞15%
	6	TOYR1. 7/1	黒	細まりが粗い粘質土で1~2mmの細胞10%, 1~2mmのスコリア1%, 33層（地山）ブロックを含む
	7	2. SYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で1~2mmの細胞10%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	8	2. SYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で1~2mmの細胞3%を含む
I - J	1	TOYR2/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で砂混じりの粘質土で10mmUTの細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	2	N2/0	黒	細まりが粗い粘質土で10mmUTの細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	3	TOYR1. 7/1	黒	細まりが粗い粘質土で10mmUTの細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	4	2. SYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	5	2. SYR2/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	6	TOYR1. 7/1	黒	細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	7	N2/0	黒	細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	8	2. SYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	9	TOYR2/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞3%, 5mm以下のスコリア1%を含む
	10	TOYR2/1	黒	細まりが粗い粘質土で砂混じりの粘質土で5mm以下の細胞3%, 5mm以下のスコリア1%を含む
	11	N2/0	黒	細まりが粗い粘質土で砂混じりの粘質土で5mm以下の細胞3%, 5mm以下のスコリア1%, 無機質物を含む
	12	7. SYR2/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア1%, やや粘質土を含む
	13	SYZ/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞20%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	14	SYZ/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞20%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	15	S/0	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞20%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	16	SGV2/1	オリーブ	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞20%, 5mm以下のスコリア5%を含む
	17	TOYR1. 7/1	黒	細さが粗い粘質土で1~2mmの細胞3%を含む
P 1	1	TOYR1. 7/1	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む
P 2	2	N2/0	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞20%, 5mm以下のスコリア1%を含む
P 3	3	N2/0	黒	やや細まりが粗い粘質土で5mm以下の細胞10%, 5mm以下のスコリア5%を含む

第113図 5区第7・9号住居址土層記号



第114図 5区第7号住居址出土遺物実測図

SB9 検出されない。

遺 物 SB7 では、土器 5 点と石製品 1 点の計 6 点を図示した。土器はいずれも土師器である。

1~3 が甕、4~5 が瓶である。1~2 にはミガキ調整が認められる。4~5 は外面がケズリ調整で、内面は密にミガキ調整が施される。3 は床面から出土し、4~5 はカマドから出土した。

6 は半分近くを欠損する土製の紡錘車で、床面直上から出土した。上面・下面ともに面取りがされており、径は 4.45cm、厚さ 2.2cm、重量 26.36g を測る。穿孔部径は表面が 0.6cm、裏面が 0.1cm である。

SB9 では図示できる遺物は出土しなかった。

時 期 SB7 はミガキ調整の甕から 7 世紀後半~8 世紀前半に位置づけられる。SB9 は切り合い関係から 7 世後半~8 世紀前半以前である。

5区第8・10号住居址 (5-SB8・5-SB10 第115図・第116図)

SB8 は 122-42Gr・122-43Gr・123-42Gr・123-43Gr、SB10 は 122-42Gr・122-43Gr で検出された。

SB8 が SB10 を切っている。SB8・SB10 とともに調査区北側の調査区外へと続く。ともに平面形は方形と推定される。立ち上がりは SB8 が深さ 0.46m、SB10 が深さ 0.63m を残存していた。

規 模 SB8 東西 4.58m × 南北 3.51m (検出部) SB10 東西 0.62m × 南北 3.89m (検出部)

重複関係 (古) SB10 → SB8 (新) **主軸方位** SB8 N-16°-E SB10 不明

壁 溝 SB8 検出されない。

SB10 北辺から西辺へ巡っている。幅 0.14 ~ 0.20m・深さ 0.05 ~ 0.10m を測る。

柱 穴 SB8 4 基検出。P1・P2・P4 は径 0.49 ~ 0.53m・深さ 0.37 ~ 0.44m、P3 は径 0.65m・深さ 0.41m を測る。

SB10 検出されない。

貼 床 SB8 締まりのある黒褐色土を使って床面としている。硬化面は確認されなかった。

SB10 貼床は確認されなかった。

カマド SB8 カマドの本体部は確認されなかったが、調査区北面壁にはカマドの構築土と思われる粘土の広がりが認められるため、調査区外の北辺に位置する可能性がある。

SB10 検出されない。

遺 物 SB8 では土器を 12 点、鉄製品 1 点の計 13 点を図示した。土器はいずれも土師器である。

1~12 は球胴甕で、全てハケメ調整のみである。3 は頸部にナデではなく、横位方向のハケメが施される。このハケメは胴部のハケメと比べて粗く、単位が異なっているため、別の工具を使い分けているものと考えられる。

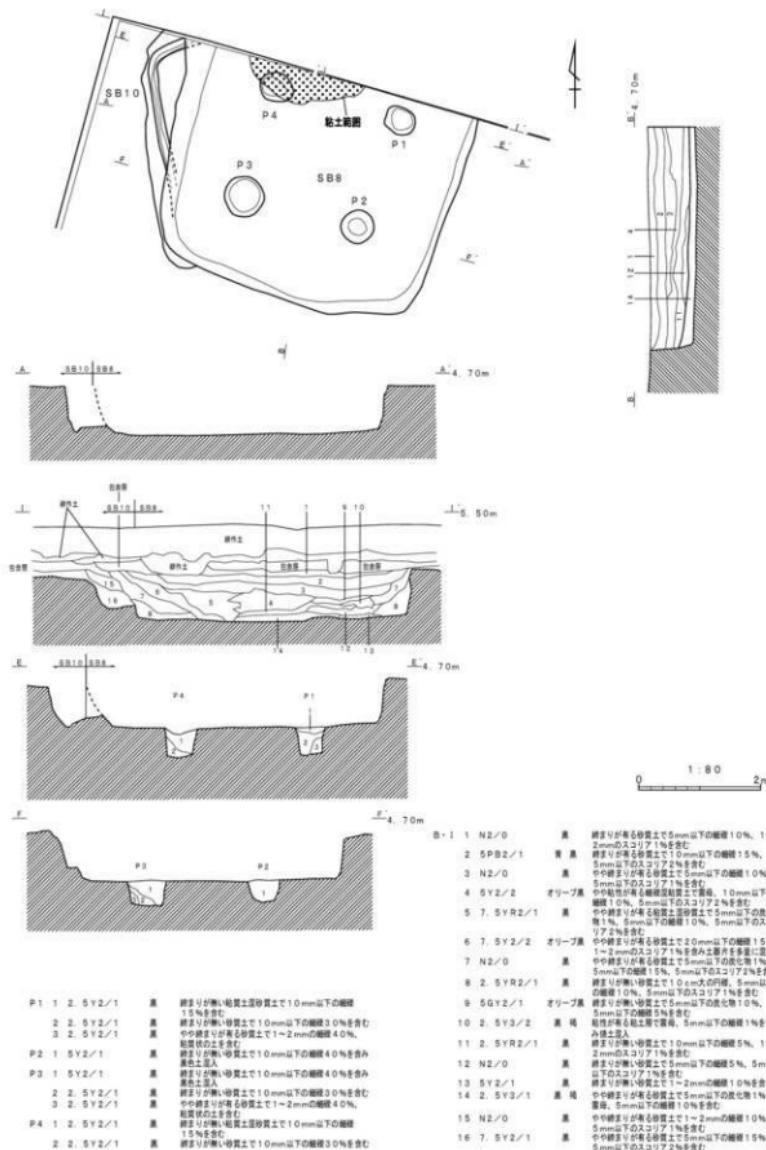
13 は頸部~茎部が残存する棘間の鉄鎌である。茎尻に向けて先細る。

SB10 は図示できる遺物は出土しなかった。

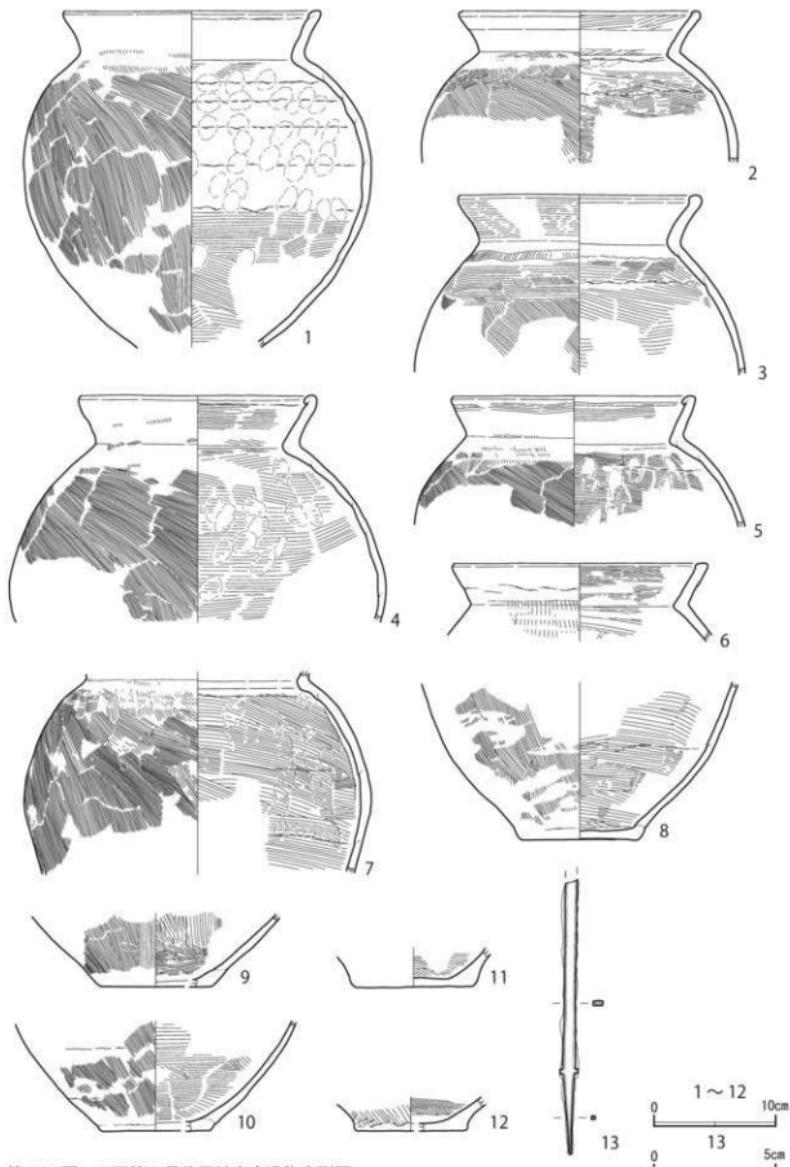
時 期 SB8 は 7 世紀代に位置づけられる。SB10 は切り合い関係から SB8 よりも古く位置づけられるが、詳細時期は不明。

(3) 8区の掘立柱建物址 8-SH

8 区調査区の西南部で 3 棟検出された。なお SH の柱穴には土層注記がなされていないものもあり、残されていた柱穴の情報のみを図中に記載した。また 3 棟ともに遺物が出土していないことから、時期を比定することができなかった。ただし、8-SH2 と 8-SH3 は、他区の検出状況を考える限り、柱穴規模などから、竪穴住居址と同じく古墳時代後期~奈良平安時代に位置づけられる可能性が高い。



第115図 5区第8・10号住居址実測図



第116図 5区第8号住居址出土遺物実測図

8区第1号掘立柱建物址 (8-SH1 第117図～第120図)

119-41Gr・119-42Gr・120-41Gr・120-42Grで検出された。当初は桁行(南北)5間、梁行(東西)3間の総柱建物として調査された(P1～P23)。

だが整理作業時に、単独PT名称を付けられたPT223・PT443・PT303・PT448・PT449・PT442・PT396は本遺構の東側に位置し、かつ規則的に配置されていることから本遺構の一部と判断した。そのため、柱穴の組み合わせとして、第118図に模式図を示した。模式図は、4間×3間の総柱建物と樋が付帯する一連の施設とするものであるが、南西隅とPT303・PT448の間に柱穴が滅失した可能性を考慮し、5間×4間の総柱建物であった可能性もある。

いずれにせよ、軸方向がSBの中で最も東に振れるSB11よりも東に振れること、また他区のSHと比べて柱穴が小規模で、かつ形が整っていること、1間幅が2.0mを超えることなどを根拠に、他のSHとは異なる時期の可能性が高い。

規 模 東西 6.75m × 南北 11.15m (模式図案) 重複関係 (古) SB3 → SH1 (新)

主軸方位 N-17°-E

柱 穴 平面形は円形もしくは楕円形を呈する。覆土の注記や規模等は第119図・第120図参照。

桁 間 北から 2.31m、2.18m、2.14m、2.33m。

梁 間 西から 2.21m、2.33m、2.15m。 遺 物 出土していない。

時 期 不明。柱穴の形態や規模から中世以降の可能性がある。

8区第2号掘立柱建物址 (8-SH2 第121図)

120-40Gr・121-40Gr・121-41Grで検出された。南辺と東辺のみの確認であり、樋の可能性も考えられる。南北3間、東西3間が残存しているが東辺P3・P4の間にSD13に切られた柱穴がもう1点があったと考えられるため、長軸は4間であった可能性がある。平面形はやや長方形を呈する。

SH1よりも1軒の幅が狭く、また柱穴の規模は大きく、平底を呈するものが多い。このような差異からSH1とは異なる時期に位置づけられる可能性が高い。

規 模 東西 4.22m × 南北 4.99m 重複関係 (古) SB5・SB14・SB12 → SH2 (新)

主軸方位 N-22°-E

柱 穴 平面形は円形もしくは楕円形を呈する。P1は径0.90m×0.73m・深さ0.14m、P2は径0.74m・深さ0.25m、P3は径0.71m×0.60m・深さ0.35m、P4は径0.96m・深さ0.30m、P5は径0.96m・深さ0.30m、P6は径0.91m×0.70m・深さ0.26m、P7は径0.79m×0.70m・深さ0.18mを測る。

1間幅 北から 1.45m、1.02m、2.52m。 西から 1.29m、1.22m、1.70m。

遺 物 出土していない。

時 期 不明。

8区第3号掘立柱建物址 (8-SH3 第122図)

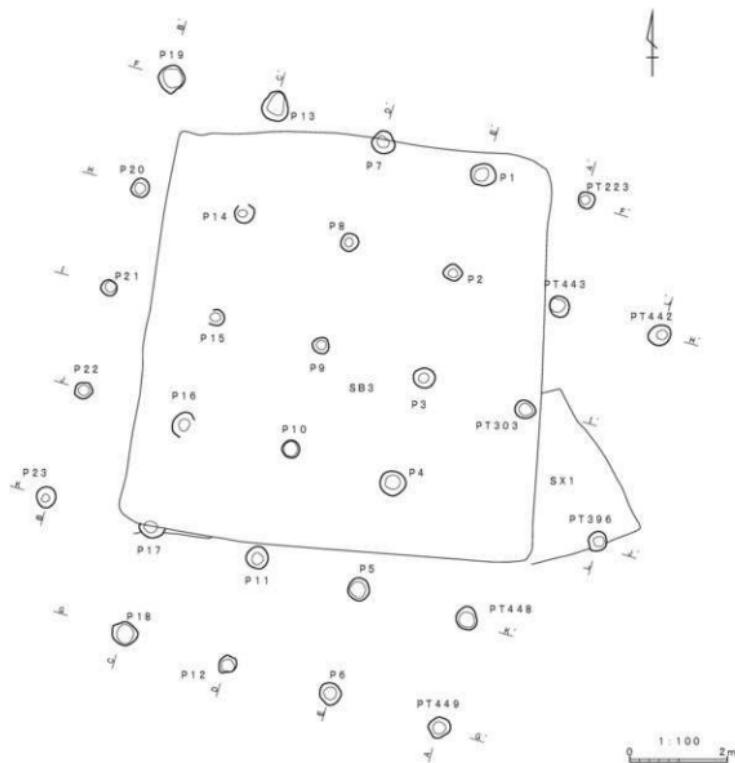
119-40Gr・119-41Gr・120-40Grで検出された。北辺をSD13に切られており、全容は明らかではない。北辺が失われているが、検出された範囲に限り、東西3間・南北2間の建物で、平面形は方形を呈する。

規 模 東西 5.22m × 南北 3.50m (残存部) 重複関係 (古) SB11 → SH3 → SD10・SD13 (新)

主軸方位 N-5°-E (ただし桁行が南北の場合)

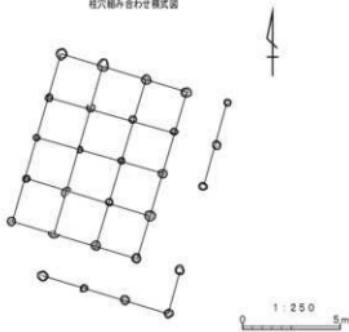
柱 穴 平面形は円形を呈する。P1は径0.49m・深さ0.21m、P2は径0.72m・深さ0.18m、P3は径0.71m・深さ0.28m、P4は径0.75m・深さ0.47m、P5は径0.70m・深さ0.24m、P6は径0.77m・深さ0.20m、P7は径0.58m・深さ0.24m、P8は径0.84m・深さ0.26m、P9は径0.62m・深さ0.29mを測る。

1間幅 南北 北から 1.72m、1.85m。(残存部) 東西 西から 1.68m、1.63m、1.91m。

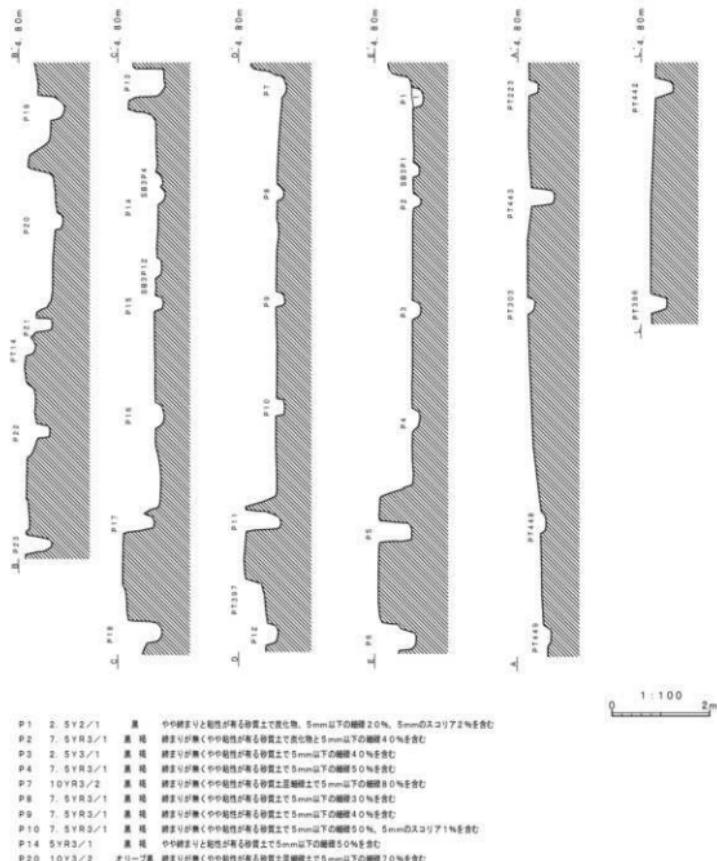


第117図 8区第1号掘立柱建物址実測図（1）

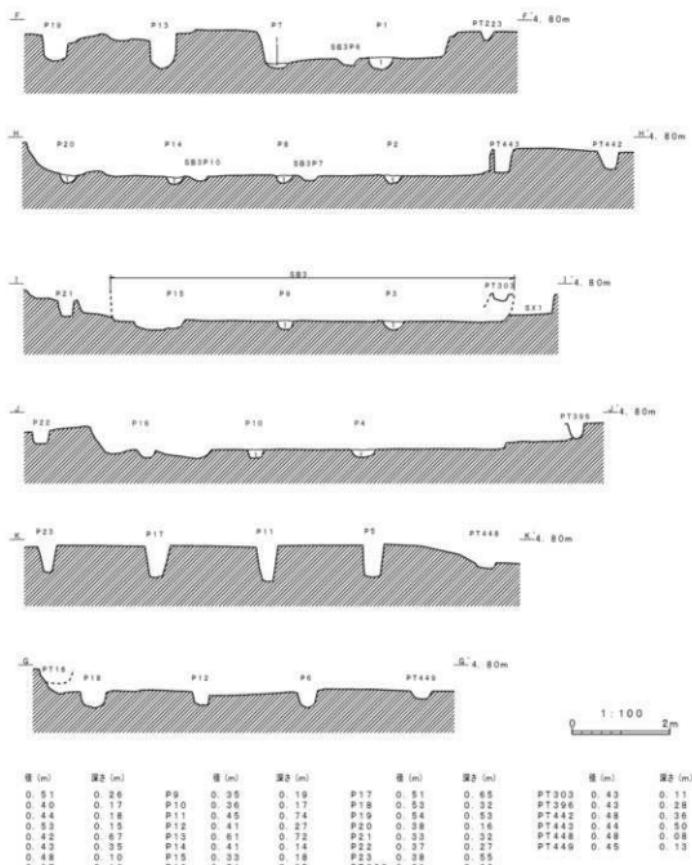
柱穴組み合わせ模式図



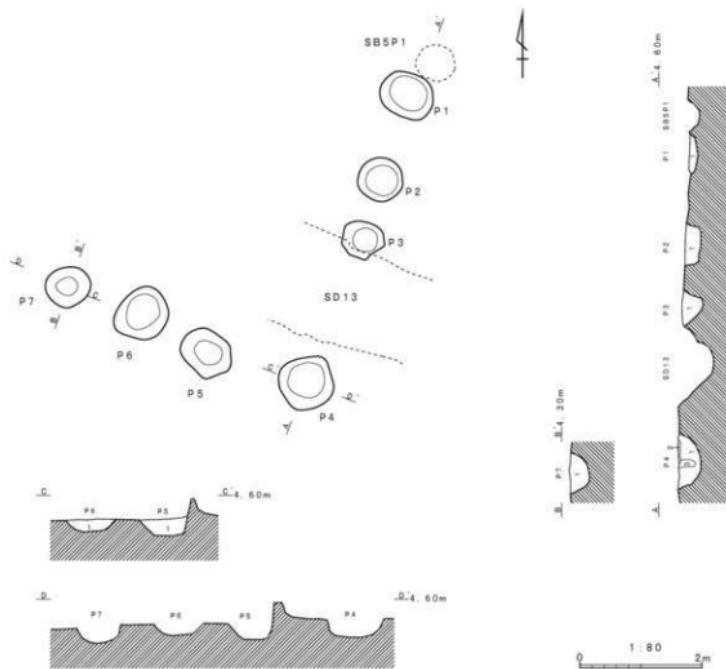
第118図 8区第1号掘立柱建物址模式図



第119図 8区第1号掘立柱建物址実測図(2)



第120図 8区第1号掘立柱建物址実測図（3）



- P1 5P2/1 黒 砂や粘土が有る砂質土混雜土で細繊維と砂質土が混在しており2~5mmの細繊維80%を含む
 P2 N2/0 黒 粘土が無い砂質土で粘土物と2~5mmの細繊維40%を含む
 P3 5RP1.7/1 黒 粘土が無い砂質土で粘土物と2~5mmの細繊維40%、5mmのスコリア1%を含む
 P4 1 N2/0 黒 砂質土と2~5mmの細繊維50%を含む
 2 2 N2/0 黑 砂質土が有る砂質土混雜化物。底土の粗粒土と2~5mmの細繊維20%を含む
 3 2 N2/0 黑 砂質土が有る砂質土混雜化物。底土の粗粒土と2~5mmの細繊維10%を含む
 P5 N2/0 黒 粘土が有る砂質土混雜土で2~5mmの細繊維40%、5mmのスコリア1%を含む
 P6 5RP2/1 黒 砂質土が有る砂質土混雜土で粘土を少量と2~10mmの細繊維60%を含む
 P7 5RP2/1 黑 砂質土が有る砂質土混雜土で2~5mmの細繊維75%を含む

第121図 8区第2号掘立柱建物址実測図

遺 物 出土していない。

時 期 不明。

(4) 5区の掘立柱建物址 5-SH

調査区の西側で3棟、南東端で1棟検出された。8区と同じく、遺物の出土がなく、時期は不明である。

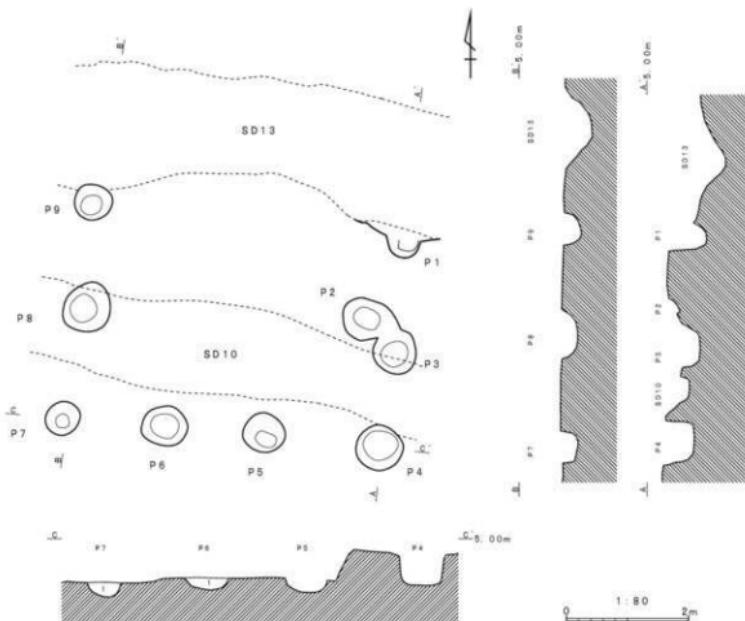
5区第1号掘立柱建物址 (5-SH1 第123図)

123-38Grで検出された。東側が調査区外に広がるため全容は明らかではないが、南北(桁行か)3間、東西は残存部分で2間(梁行)である。

規 模 東西 2.62m × 南北 4.37m (検出部) 重複関係 (古) SB1 → SH1 (新)

主軸方位 N-14°-E

柱 穴 平面形は円形および楕円形を呈する。P6を除くP1~P8はほぼ円形で径 0.50~0.66m・深さ 0.33~0.51m を測る。P6は楕円形を呈し、径 0.93m × 0.58m・深さ 0.33m を測り、他のピット



P6 N2/0 黒 細まりが強くやや堅性がある砂質土で炭化物、5mm以下の繊維3.0%、5mm以下のスコリ7.1%を含む
P7 10G2/1 白 黒 細まりが強くやや堅性がある砂質土で5mm以下の繊維3.0%を含む

第122図 8区第3号掘立柱建物址実測図

トに比べるとやや規模が大きい。

桁間 北から 1.43m、1.43m、1.51m。 **梁間** 西から 1.41m、1.22m。(検出部)

遺物 出土していない。

時期 不明。

5区第2号掘立柱建物址 (5-SH2 第124図)

122-40Gr・122-41Gr・123-40Gr・123-41Grで検出された。桁行(南北)3間、梁行(東西)3間である。平面形は南北に長軸を持つ長方形である。P6はPT166により一部切られている。

規模 東西 3.47m × 南北 4.26m 重複関係 (古) SH2 → SD1 (新)

主軸方位 N- 3° -E

柱穴 平面形はほぼ円形を呈する。規模・深さは図中の土層注記を参照。

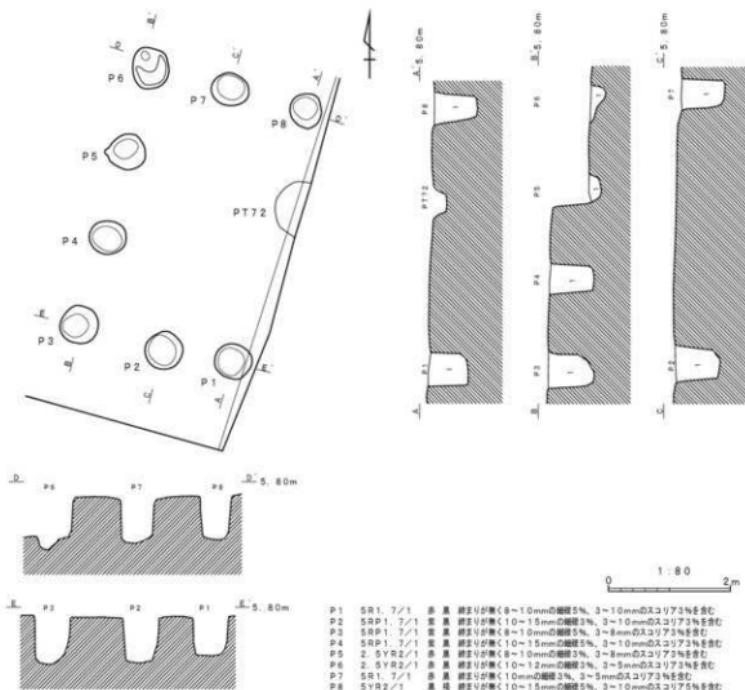
桁間 北から 1.46m、1.29m、1.52m。 **梁間** 西から 1.15m、1.06m、1.27m。

遺物 出土していない。

時期 不明。

5区第3号掘立柱建物址 (5-SH3 第125図)

122-42Gr・123-42Grで検出された。南側はSB6に切られているため、どちらの軸が桁行か判断できないが、残存部で判断する限り、東西(桁行か)は3間、南北(梁行か)2間である。



第123図 5区第1号掘立柱建物址実測図

規 模 東西 3.46m × 南北 2.78m (残存部) 重複関係 (古) SH3 → SB6 (新)

主軸方位 N-12°-E

柱 穴 平面形は円形および橢円形を呈する。P1～P3は径 0.53～0.61m・深さ 0.31～0.41m を測る。P4～P8は径 0.49～0.63m・深さ 0.41～0.53m を測る。

桁 間 北から 1.44m、1.34m (残存部)。 梁 間 西から 1.23m、1.03m、1.20m。

遺 物 出土していない。

時 期 SB6に切られる事から、7世紀以前である。

5区第4号掘立柱建物址 (5-SH4 第126図)

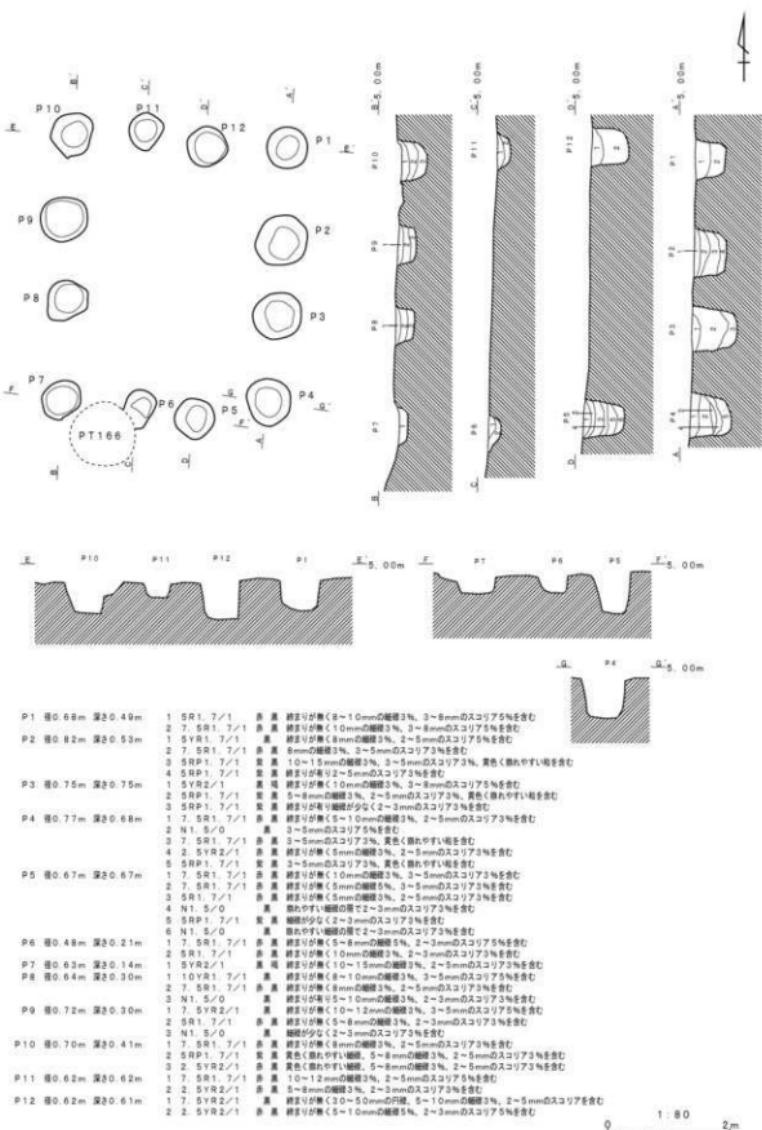
122-41Grで検出された。北辺・東辺はSB5に切られる。残存部において桁行(南北)3間、梁行(東西)は2間である。平面形は南北に長軸を持つ長方形を呈す。

規 模 東西 3.69m × 南北 3.88m (残存部) 重複関係 (古) SH4 → SB5 (新)

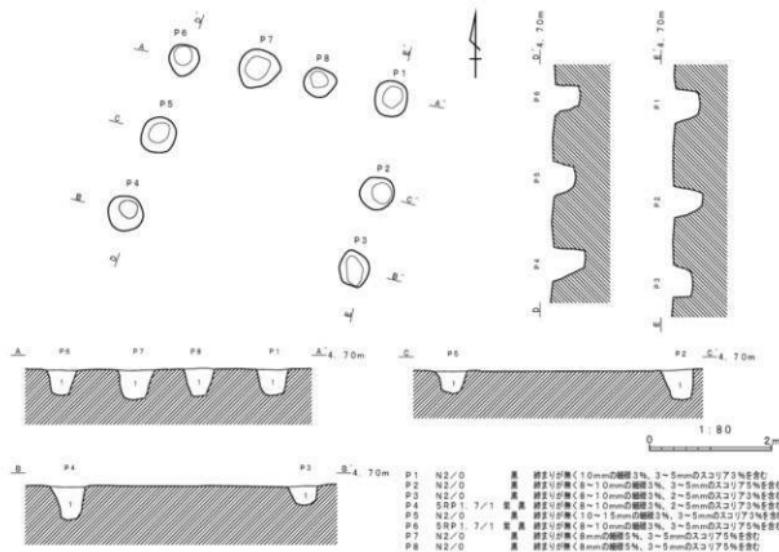
主軸方位 N-13°-E

柱 穴 平面形は円形、橢円形および不整形を呈する。P1～P5は径 0.61～0.74m・深さ 0.37～0.54m を測る。P6は不整形で径 0.67m × 0.53m・深さ 0.74m を測る。

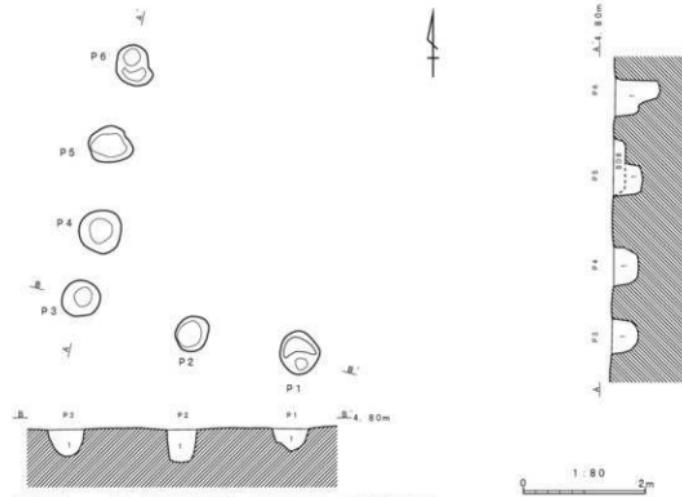
桁 間 北から 1.32m、1.33m、1.23m。 梁 間 西から 1.91m、1.78m。



第124図 5区第2号掘立柱建物址実測図



第125図 5区第3号掘立柱建物址実測図



第126図 5区第4号掘立柱建物址実測図

遺物 出土していない。

時期 SB5に切られることから、7世紀以前である。

(5) 8区の溝状遺構 8-SD

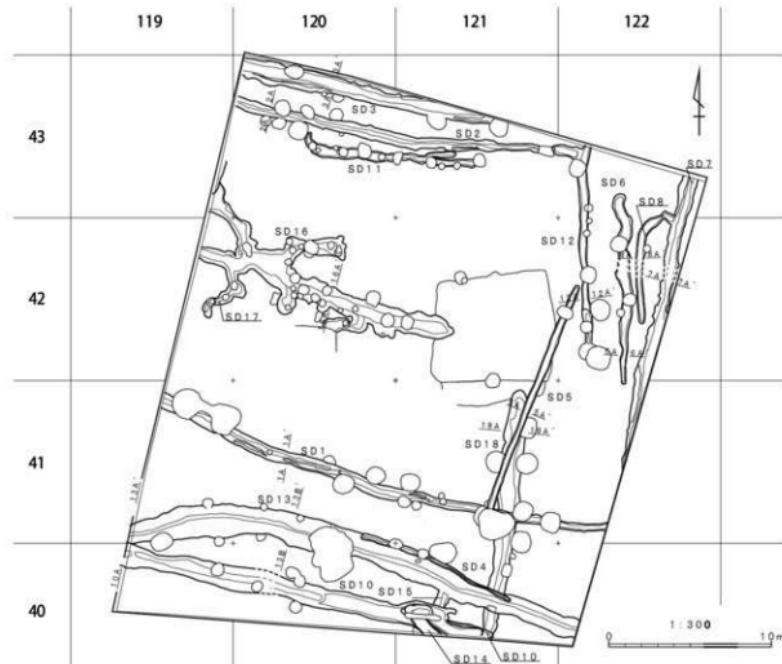
調査区のほぼ全域で検出された。SD9は欠番である。

東西方向に軸を持つ一群はおむね同軸であるが、南北軸を持つ一群は、北東-南西軸のSD5・SD7と北西-南東軸のSD6・SD8・SD12・SD18の2つのグループに分かれ。

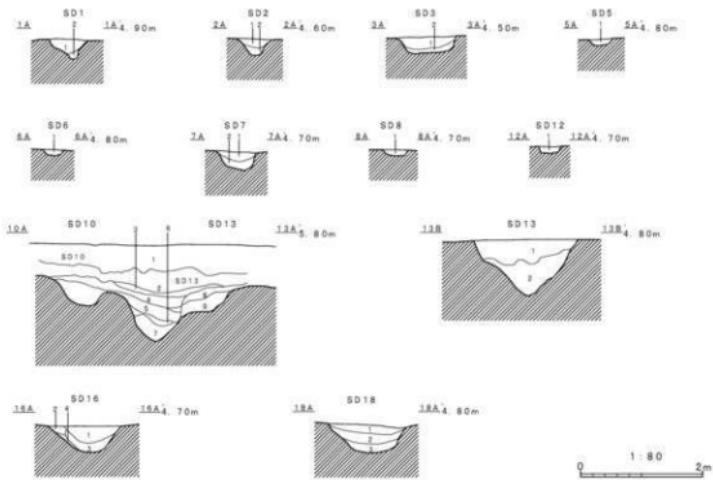
多くの溝からは、古墳時代後期～奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、SD8を除き、全てのSD遺構がSB遺構を切っている関係であること、また他区のSD遺構の状況から判断すると、SD遺構は古墳時代後期～奈良平安時代よりも後世に位置づけることが妥当である。詳細な年代は出土遺物がほとんどないため、決定する根拠に乏しいが、他区の状況から8区のSDも中世以後の年代を想定しておきたい。

SDの覆土や時代別の出土遺物の有無は土層注記とともに一覧で記した。また図示できた古墳時代～奈良平安時代の遺物は、遺構の記載の後に一括で第129図に掲載した。

なお8-SD13は5区のSD9(5-SD9)と、8-SD7は5区のSD7(5-SD7)と同一遺構であるが、8区の調査時には5区の遺物の注記作業が進行していたことから、新しく遺構番号を付けずに調査時そのままとした。



第127図 8区溝状遺構分布図



第128図 8区溝状遺構土層断面図

第8表 8区溝状遺構計測表

構造名	層	色	面 土	断面形	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
SD1	A 1	SHP2/1	縫まりが無く5~10mmの細縫5%, 1~2mmのスコリア1%を含む	裏切形	○		
	2	SHP2/1	縫まりが無く2~5mmの細縫5%, 1~2mmのスコリア1%を含む				
SD2	A 1	N2/0	縫まりが無く5mmの細縫10%, 1~2mmのスコリア1%を含む	深い丸形	○		
	2	N2/0	縫まりが無く2~5mmの細縫5%, 1~2mmのスコリア1%を含む				
SD3	A 1	SHY2/2	5~8mmの細縫8%, 2~3mmのスコリア1%を含む	箱形	○		○
	2	SHP7/1	縫まりが無く5mmの細縫8%, 1~2mmのスコリア1%を含む				
SD4			断面無し	○			
SD5	A 1	N2/0	縫まりが無く5~8mmの細縫8%, 2~3mmのスコリア1%を含む	深い丸形	○		
SD6	A 1	N2/0	縫まりが無く5~8mmの細縫2%, 2~3mmのスコリア3%を含む	深い丸形	○		
SD7	A 1	SHY2/1	縫まりが無く10~15mmの細縫3%, 3~5mmのスコリア5%を含む	深い丸形	○		
	2	N2/0	縫まりが無く5~10mmの細縫1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	箱形	○		
SD8	A 1	N2/0	縫まりが無く5~8mmの細縫1%, 2~3mmのスコリア3%を含む	箱形	○		
SD9			大 番				
SD10			不明		○		○
SD11			断面無し				
SD12	A 1	SHP1/1	縫まりが無く5mmの細縫1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	箱形	○		
	A		不明	深い丸形	○		
SD13	B 1	SHY2/1	縫まりが無くやや粘性がある砂質で30mm以下の細縫5%, 5mmのスコリア2%を含む	裏切形	○	○	○
	2	N2/0	縫まりが無くやや粘性がある砂質細縫で5mm以下の細縫50%を含む				
SD14			断面無し				
SD15			断面無し		○	○	○
SD16			不明		○		
SD17			断面無し				
SD18	A 1	SHY2/1	縫まりが無く5~20mmの細縫20%, 3~5mmのスコリア1%を含む	深い丸形	○		
	2	SHP2/1	縫まりが無く5~20mmの細縫30%, 1~2mmのスコリア1%を含む	箱形	○		
	3	SHY2/1	縫まりが無く5~10mmの細縫20%, 1~2mmのスコリア1%を含む	深い丸形	○		

8区第1号溝状遺構（8-SD1 第127図・第128図、第8表）

119-41Gr・120-41Gr・121-41Gr・122-41Grで検出された。東西方向に走り、東端部で5-SD7と直交する。また121-41GrにてSD5・SD18と交差する。

規模 延長（調査区内）28.40m×幅0.38~0.83m×深さ0.07~0.38m

重複関係 （古）SB3・SB5・SB6・SB9・SB17・SB18・SH1→SD18→SD1→SD5（新）

時期 不明。覆土に縫まりがなく、また中世と推測したSH1を切っているため、中世以後か。

8区第2号溝状遺構（8-SD2 第127図・第128図、第8表）

120-43Gr・121-43Gr・122-43Grで検出された。東西方向に走る。西端は調査区外へ延び、東端は

SD12と直交する。覆土には締まりがない。

規 模 延長(調査区内) 19.17m × 幅 0.35 ~ 0.86m × 深さ 0.13 ~ 0.27m

重複関係 なし

時 期 不明。ただし同軸のSD3と同時期か。

8区第3号溝状遺構(8-SD3 第127図・第128図、第8表)

120-43Gr・121-43Grで検出された。東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びている。

規 模 延長(調査区内) 15.66m × 幅 0.77 ~ 1.50m × 深さ 0.27 ~ 0.36m

重複関係 なし

時 期 出土遺物から近世以後。SD2と同軸であり、SD2も同じく覆土に締まりがないことからSD2と同時期であろう。

8区第4号溝状遺構(8-SD4 第127図、第8表)

120-40Gr・120-41Gr・121-40Grで検出された。SD13と重なり、ほぼ同軸で東西方向に走る。

規 模 延長(残存部) 9.97m × 幅 0.12 ~ 0.36m × 深さ 0.05 ~ 0.08m

重複関係(古) SD13 → SD4(新)

時 期 不明。

8区第5号溝状遺構(8-SD5 第127図・第128図、第8表)

121-41Gr・121-42Gr・122-42Grで検出された。北東-南西方向に走る。南端でSD1と交差する。

規 模 延長(残存部) 14.80m × 幅 0.32 ~ 0.52m × 深さ 0.04 ~ 0.10m

重複関係(古) SB6・SB8・SB16 → SD18 → SD1・SD5(新)

時 期 不明。

8区第6号溝状遺構(8-SD6 第127図・第128図、第8表)

122-41Gr・122-42Gr・122-43Grで検出された。北西-南東方向に走る。溝の上端はやや不整形である。

規 模 延長 11.70m × 幅 0.25 ~ 0.84m × 深さ 0.02 ~ 0.11m

重複関係 なし

時 期 不明。

8区第7号溝状遺構(8-SD7 第127図・第128図、第8表)

122-41Gr・122-42Gr・122-43Grで検出された。5-SD7と同一遺構である。南北方向に走り、SD18と平行する。またSD8の北端部と接する。

規 模 延長(残存部) 19.01m × 幅 0.64 ~ 1.03m × 深さ 0.30 ~ 0.31m

重複関係(古) SD8 → SD7(新)

時 期 不明。

8区第8号溝状遺構(8-SD8 第127図・第128図、第8表)

122-42Gr・122-43Grで検出された。東端がSD7に切られている。東端からおよそ1.8m西へ延びた後、南へ向けて屈曲し南北方向へ延びる。

規 模 延長(調査区内) 東西 1.80m・南北 6.22m × 幅 0.27 ~ 0.59m × 深さ 0.05 ~ 0.12m

重複関係(古) SD8 → SD7(新)

時 期 不明。

8区第10号溝状遺構(8-SD10 第127図・第128図、第8表)

119-40Gr・120-40Gr・121-40Grで検出された。東西方向に走り、西端部でSD13と、東端部でSD18とそれぞれ交差する。なお、SD14との関係は不明だが、SD13とは切り合い関係が把握されており、SD10が新しい。

規 模 延長（調査区内）22.91m × 幅 0.89 ~ 1.60m × 深さ 0.15 ~ 0.48m

重複関係 （古）SB10・SB11・SB13・SB14・SH3・SD15・SD13・SD18 → SD10・SD14（新）

時 期 不明だが、切り合い関係上、他のSDよりも新しい時期に位置づけられる。

8区第11号溝状遺構（8-SD11 第127図・第128図、第8表）

120-43Gr・121-43Grで検出された。東西方向に走り、東端部はPTに切られる。

規 模 延長（残存部）11.54m × 幅 0.26 ~ 0.78m × 深さ 0.02 ~ 0.11m

重複関係 なし

時 期 不明。

8区第12号溝状遺構（8-SD12 第127図・第128図、第8表）

122-42Gr・122-43Grで検出された。南北方向に走る。北端は調査区外に延びるため総延長は不明である。

規 模 延長（調査区内）12.24m × 幅 0.36 ~ 0.61m × 深さ 0.05 ~ 0.40m

重複関係 なし

時 期 不明。SD2と直交するため、SD2と同時期か。

8区第13号溝状遺構（8-SD13 第127図・第128図、第8表）

119-41Gr・120-40Gr・120-41Gr・121-40Gr・122-40Grで検出された。5-SD9と同一遺構である。東西方向に延びる。東西端がともに調査区外へ延びるため、総延長は不明である。底面には多量の礫を伴う。出土遺物に中世に位置づけられる大甕が出土している。

規 模 延長（調査区内）27.99m × 幅 1.05 ~ 2.08m × 深さ 0.65 ~ 0.95m

重複関係 （古）SB9・SB10・SB11・SB12・SB14 → SH2・SD15・SD18 → SD13 → SD4・SD10（新）

時 期 出土遺物から近世以後。

8区第14号溝状遺構（8-SD14 第127図、第8表）

121-40Grで検出された。南北方向に延びる。北端はSD10に切られており、南端は調査区外へ延びるため、総延長は不明である。

規 模 延長（調査区内）2.72m × 幅 0.61 ~ 0.75m × 深さ 0.05m

重複関係 なし。

時 期 不明。

8区第15号溝状遺構（8-SD15 第127図、第8表）

121-40Grで検出された。北端・南端とともにSD10とSD13に切られるため、全容は不明である。

規 模 延長（調査区内）南北 2.14m × 幅 0.52 ~ 0.75m × 深さ 0.31 ~ 0.35m

重複関係 （古）SB14 → SD15 → SD13 → SD10（新）

時 期 出土遺物から近世以後。

8区第16号溝状遺構・8区第17号溝状遺構（8-SD16・8-SD17 第127図・第128図、第8表）

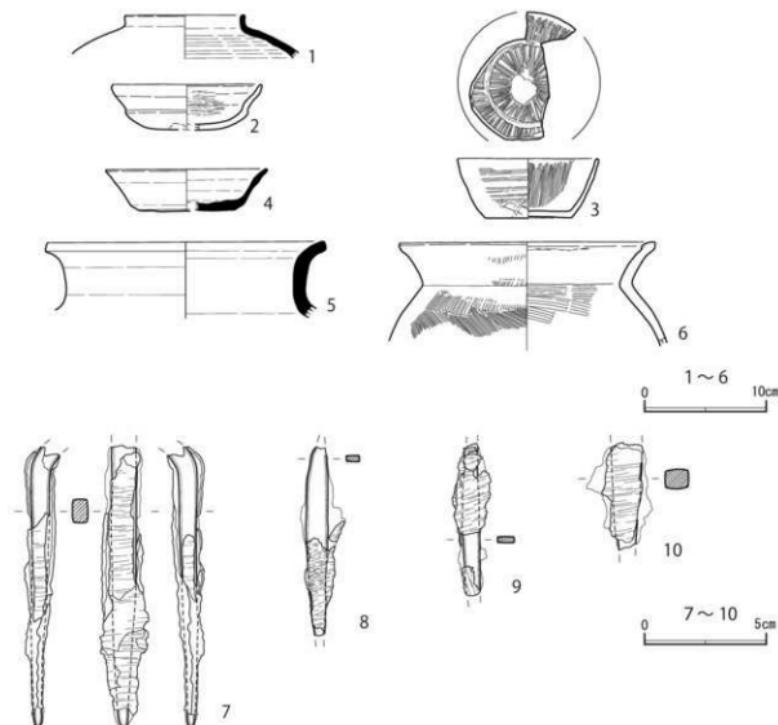
119-42Gr・119-43Gr・120-42Gr・121-42Grで検出された。調査時には2つの遺構名称が付けられていたが、一連の遺構であろう。東西方向に中心軸を持つSDに枝のように不整形なSDが付属する。またSDの形に添うように多くのPTが検出された。なお分岐部がSB3と接するが、切り合い関係は不明である。

規 模 延長（調査区内）16.33m × 幅 0.92 ~ 2.02m × 深さ 0.28 ~ 0.49m（中心軸のSD）

分岐 3.89m × 幅 0.73 ~ 1.12m × 深さ 0.33 ~ 0.45m

重複関係 （古）SB8 → SD16・SD17（新）

時 期 不明。



第129図 8区溝状遺構出土遺物実測図 (1. SD1 2・3.SD10 4・5・7~10.SD13 6.SD16)

8区第18号溝状遺構 (8.SD18 第127図・第128図、第8表)

121-40Gr・121-41Grで検出された。南北方向に走る。南端は調査区外へ延びる。

規 模 延長(調査区内) 12.60m × 幅 0.93 ~ 1.35m × 深さ 0.27 ~ 0.46m

重複関係 (古) SB6・SB16 → SD18 → SD1・SD5・SD10・SD13 (新)

時 期 不明。

8区溝状遺構出土遺物 (第129図)

SDより出土した古墳時代から奈良平安時代にかけての遺物を計10点図示した。1はSD1より出土した須恵器の短頸壺である。外面に自然釉が付着している。2・3はSD10より出土した。2は須恵器環、3は甲斐型環で、3は口縁部まで放射状暗文が及んでいる。4・5はSD13より出土した。4は須恵器環で、底部に回転ヘラ切り痕が残る。5はやや小型の須恵器甕で、内外面に自然釉が付着する。6はSD16より出土した土師器甕である。

7~10は全てSD13より出土した鉄製品である。いずれも器種を特定できなかった。なお、ここで図示した以外にSD13では中世遺物が出土していることから、SD13の年代は中世以後と考えられるため、これらは混入したものと考えられる。

7は断面形が方形で、全面に木質が付着する。先端に向けて先細ることから、鍵もしくは鉄釘であろう。8は同じく断面が方形で、木質が付着する。7と比べて小形であるものの、同質の可能性もある。9は当初ヤリガンナと想定したが、8と同様の特徴を持つことから、鍵の可能性もある。10は7のように断面が厚い。

(6) 5区の溝状遺構 5-SD

調査区の中央、西端、南側で検出された。8区のような密度はない。SD1とSD7が北西-南東軸を持ち、その他は東西軸である。なお、5-SD7は8-SD7と、5-SD9は8-SD13と同一遺構であるが、8区で述べたように、整理作業の混乱を避けるために別遺構名称のままとした。また5-SD2は欠番である。

5区でも多くのSD遺構から、古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土している。また調査時においてSD8はSB3やSB5に切られると判断されている。このことから少なくともSD8は古墳時代後期～終末期に位置づけられる可能性もあるが、SD8は中世以降と想定した8-SD7と直交する関係を持つことから、中世以降となる可能性もある。

その他のSDは8区と同様の傾向を持つことから、奈良平安時代よりも後世であることを想定しておきたい。ただし年代を判断する根拠が乏しいため、覆土や時代別の出土遺物の有無を土層注記とともに記した。また図示できた古墳時代～奈良平安時代の遺物は、一括で第133図に掲載した。

5区第1号溝状遺構 (5-SD1 第130図、第9表)

122-40Gr・122-41Grで検出された。南北方向に走る。断面形は非常に浅い皿形を呈している。

規 模 延長 5.69m × 幅 0.44 ~ 0.69m × 深さ 0.03 ~ 0.06m

重複関係 (古) SH2 → SD1 (新)

時 期 不明。

5区第3号溝状遺構 (5-SD3 第130図・第132図、第9表)

123-39Grで検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。底面には礫が散布する。

規 模 延長 (調査区内) 10.11m × 幅 0.82 ~ 1.13m × 深さ 0.68m

重複関係 なし

時 期 不明。

5区第4号溝状遺構 (5-SD4 第130図・第131図、第9表)

123-39Gr・124-39Grで検出された。東西方向に走る。東端は調査区外へ延びているため総延長は不明である。SD4a・SD4bともに中世遺物と骨が出土している。

規 模 延長 (調査区内) 5.52m × 幅 1.02 ~ 1.29m × 深さ 0.21 ~ 0.23m

重複関係 なし

時 期 出土遺物から中世以降。

5区第5号溝状遺構 (5-SD5 第130図・第132図、第9表)

123-39Gr・124-39Grで検出された。東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。

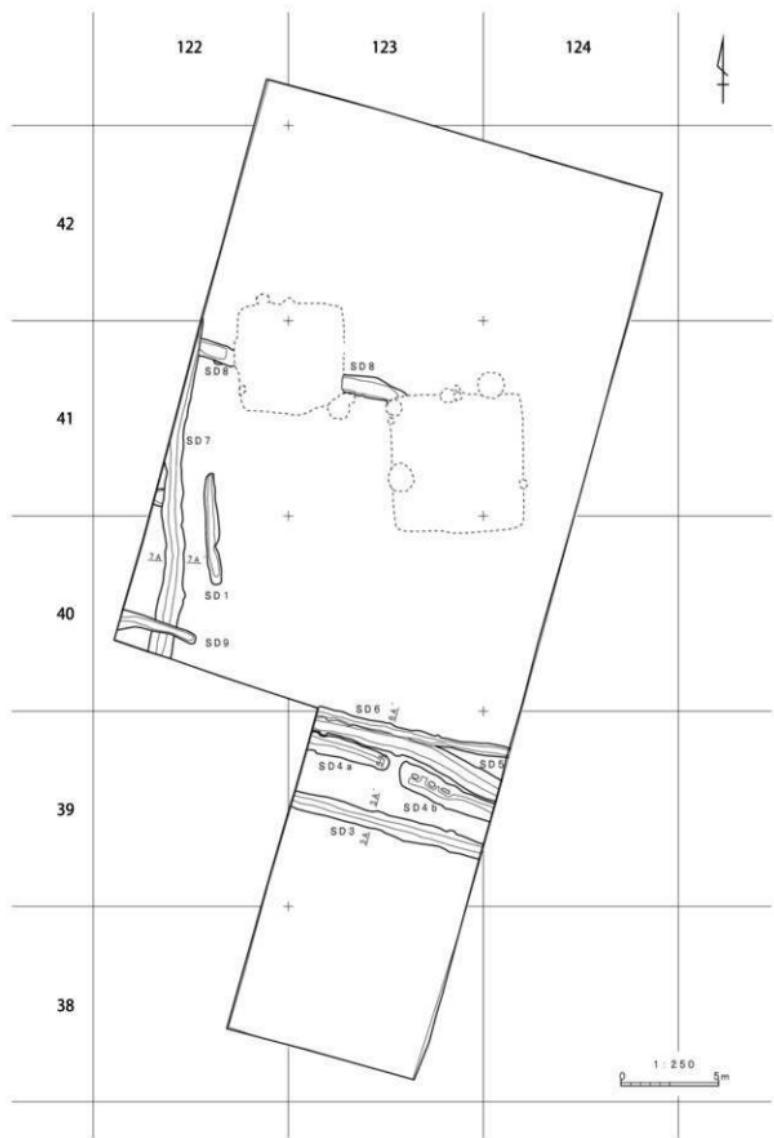
規 模 延長 (調査区内) 10.05m × 幅 1.14 ~ 1.29m × 深さ 0.33m

重複関係 (古) SD5 → SD6 (新)

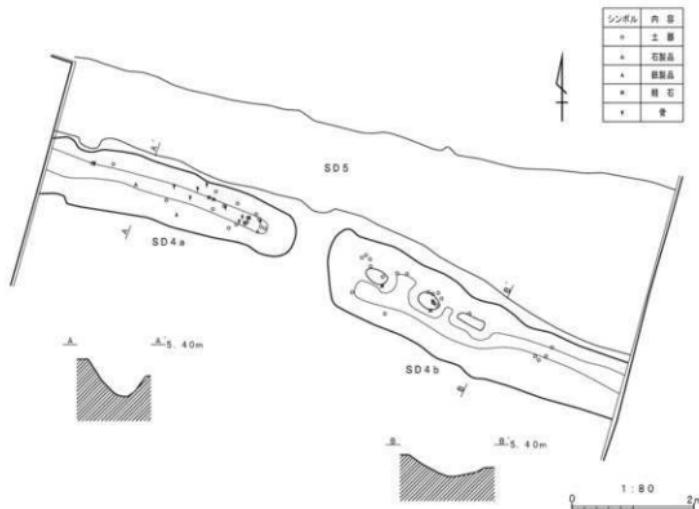
時 期 不明。

5区第6号溝状遺構 (5-SD6 第130図・第132図、第9表)

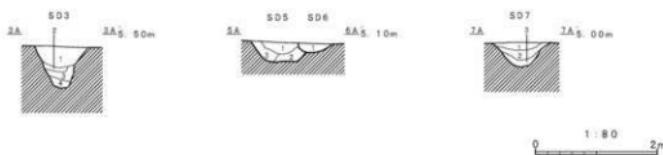
123-39Gr・123-40Gr・124-39Grで検出された。東西方向に走る。東西端ともに調査区外へ延びて



第130図 5区溝状遺構分布図



第131図 5区第4号溝状遺構実測図



第132図 5区溝状遺構土層断面図

第9表 5区溝状遺構計測表

測定名	層	色	底土	断面無し	断面有り	遺物/古代	遺物/半世	遺物/近世
SD1								
SD2			灰 黑					
SD3	A	1 N3/0 2 N2/0 3 7 SY2/1 4 N3/0	紺まりが無い砂質土で5m以上の細緻1%, 5m以下の細緻10%, 5m以下のスコリア3%を含む 紺まりが無い地盤混在色土で5m以下の細緻5%, 1~2mmのスコリア1%を含む やや紺まりがある砂質土で1~2mmの細緻30%, 1~2mmのスコリア2%を含む 紺まりが無い砂質土で5m以上の細緻1%, 1~2mmの細緻30%, 1~2mmのスコリア1%を含む		深い丸形	○		
SD4	A 1 B 1		断面無し	断面無し			○	
SD4b	B 1			断面無し			○	
SD5	A	1 N3/0 2 N2/0 3 N3/0	やや紺まりがある砂質土で5m以下の細緻2%, 5m以下のスコリア1%を含む やや紺まりがある砂質土で1~2mmの細緻5%, 5m以下のスコリア1%を含む 紺まりが無い砂質土で1~2mmの細緻10%, 5m以下のスコリア1%を含む		深い丸形	○	○	
SD6	A 1	N3/0	やや紺まりがある砂質土で5m以下の細緻2%, 5m以下のスコリア1%を含む		深い丸形	○		
SD7	A 1 A 2 B 1	1 N3/0 2 N2/0 3 N3/0	やや紺まりがある砂質土で5m以下の細緻2%, 5m以下のスコリア1%を含む やや紺まれてある砂質土で1~2mmの細緻5%, 5m以下のスコリア1%を含む 紺まりが無い砂質土で1~2mmの細緻10%, 5m以下のスコリア1%を含む		深い丸形	○	○	
SD8			断面無し	断面無し		○	○	
SD9								

いるため総延長は不明である。

規 模 延長（調査区内）10.17m × 幅 0.38 ~ 0.63m × 深さ 0.15m

重複関係 （古）SD5 → SD6（新）

時 期 不明。

5区第7号溝状遺構（5-SD7 第130図・第132図、第9表）

122-40Gr・122-41Gr・122-42Grで検出された。8-SD7と同一遺構で南北方向に走る。8区では中世以後の可能性を指摘したSDであるが、SBを切るとされる5-SD8と直交する。

規 模 延長（調査区内）17.54m × 幅 0.75 ~ 1.29m × 深さ 0.40m

重複関係 （古）SD7・SD8 → SD9（新）

時 期 不明。

5区第8号溝状遺構（5-SD8 第130図、第9表）

122-41Gr・123-41Grで検出された。西端は調査区外に延び、東端は5-SB3に切られているとされる。しかし平面図を除いて、切り合い関係を示す図面が残されていないため、5-SB3や5-SB5との関係は判断できない。

規 模 延長（残存部）10.99m × 幅 0.82 ~ 1.09m × 深さ 0.15 ~ 0.17m

重複関係 （古）SH4 → SD8 → SB3・SB5？（新）

時 期 5-SB3や5-SB5よりも古い7世紀以前に位置づけられる。ただしSD6やSD9等と同軸であることから、後世の可能性もある。

5区第9号溝状遺構（5-SD9 第130図、第9表）

122-40Grで検出された。8-SD13と同一遺構で東西方向に走る。西端が調査区外に延びているため、総延長は不明である。東端部で中世遺物がまとまって出土した。

規 模 延長（調査区内）15.45m × 幅 0.48 ~ 1.00m × 深さ 0.12 ~ 0.41m

重複関係 （古）SD7 → SD9（新）

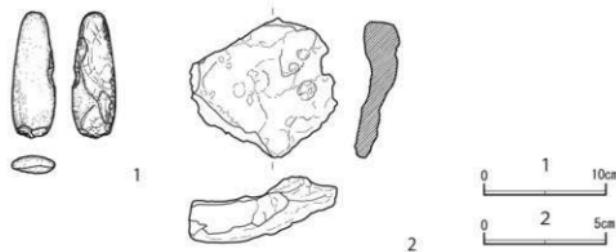
時 期 出土遺物から中世以後

5区溝状遺構出土遺物（第133図、第9表）

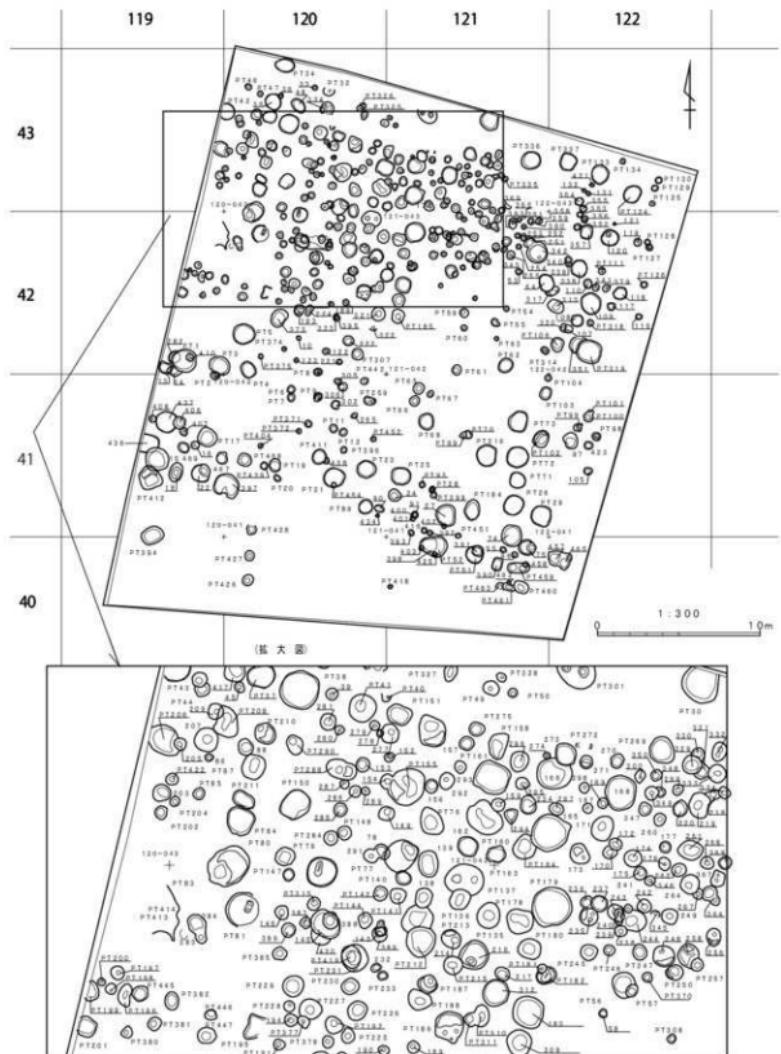
5区のSDにおいて図示できた遺物は、2点でともにSD9から出土した。1は泥岩製の石斧で、最大長10.2cm、最大幅3.47cm、厚さ1.39cmで重さは59.44gを測る。2は鉄滓で環（榎）形を呈し、重量は96.5 gを測る。鉄製品が豊富に出土する中原遺跡において唯一の鉄滓である。

（7）8区のピット（8-PT 第134図・第135図、第10表～第16表）

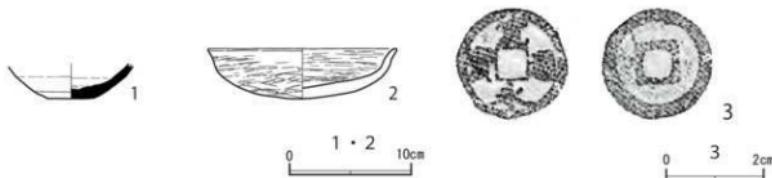
ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区の全域で検出されている。特に住居址が検出されない北西部では多量に確認されており、PT同士で切り合い関係を持つものも認



第133図 5区溝状遺構（SD9）出土遺物実測図



第134図 8区ピット分布図



第135図 8区ピット出土遺物実測図（1.PT26 2.PT306 3.PT418）

められる。平面形は円形ないし梢円形である。図示が可能な遺物は2点のみであり、他区と同様、遺構の帰属時期を決定することは困難であるため、計測値を一覧で示した。欠番があり遺物番号は連続しない。ピットの覆土は締まりがなく、細繩・スコリアを含んでいるものが多い。色は黒色土・紫黒色土・黒褐色土・赤黒色土・オリーブ黒色土などが認められる。

遺物 1はPT26から出土した須恵器環身である。2はPT306から出土した土師器環である。口径が15.4cmとやや大型であるが、器高は4.1cmと低い。内外面ともに丁寧なミガキ調整が施される。3は近世遺物であるが、PT418より出土した寛永通宝である。

(8) 5区のピット (5-PT 第136図、第17表～第19表)

5区でも8区と同様にピットを扱った。調査区南側での検出はわずかで、123-40Gr・123-41Gr・124-40Gr・124-41Grに集中しており、また径が0.90m以上のピットが多く認められた。平面形は円形・梢円形・不整形である。図示が可能な遺物はなく、他区と同様、遺構の帰属時期を決定することは困難であるため、計測値を一覧で示した。欠番があり、遺構番号は連続しない。ピットの覆土は主に細繩・スコリアを含む締まりのない黒色土である。

(9) 8区第1号不明遺構 (8-SX1 第137図・第138図)

8区の120-41Grで検出された。平面形は南東角が張り出している不整方形で、SB3に切られている。規模は東西3.29m×南北3.42m×深さ0.32mを測り、主軸方位はN-18°-Wである。

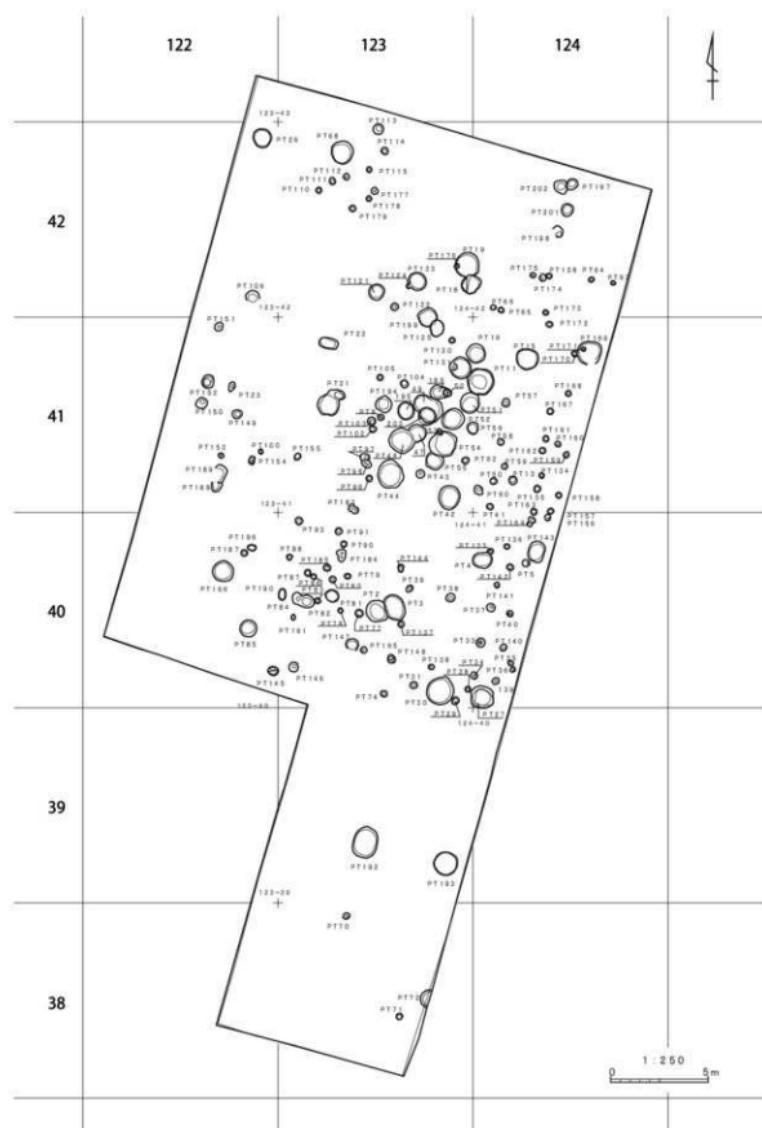
遺物は土師器の甕が出土しており、3点を図示した。ミガキ調整が認められないことや、SB3に切られることから7世紀以前の遺構である。

(10) 遺構外遺物 (第139図・第140図)

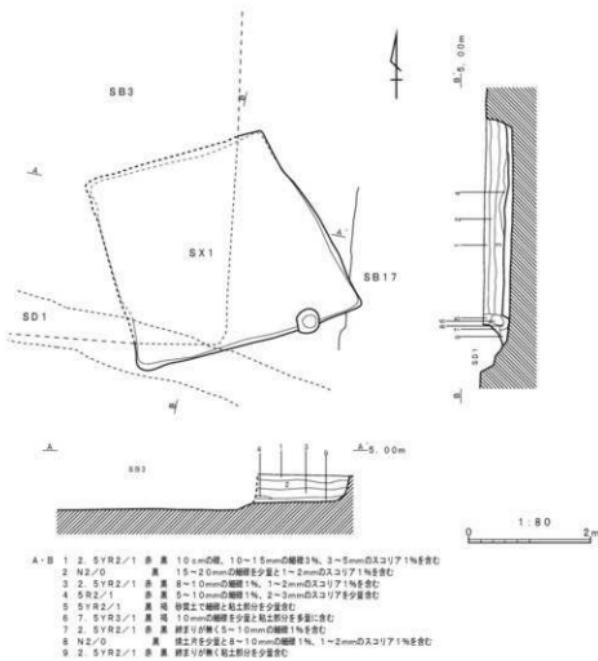
遺構外出土遺物として8区は9点を図示した。1は土師器の長胴甕の口縁部で、頸部の屈曲は緩やかである。2は土師器環で、器高は低く、皿形を呈す。胎土には黒色粒をまばらに含んでいる。3も土師器の環である。焼成は悪く全体的にざらついており、また黒ずんでいる。4～7は須恵器である。4は摘みを有する陣笠形の蓋、5・6は底部が高台よりも張り出す環身、7は自然釉が付着する広口壺である。

8は銅製の鐘である。中央部はへこんでいるが、本来は細長い卵型をしていたものと考えられる。縦3.0cm、横2.2cm、厚さ0.7cm、重さ3.13gを測る。9は全長3.1cmを測る鉄製の針である。8・9は小形であるため、等倍で掲載した。

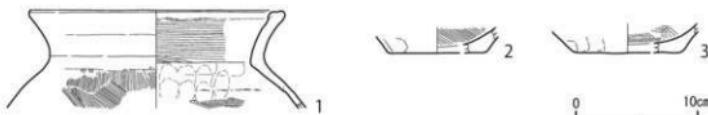
5区の遺構外出土遺物として3点を図示した。いずれも土師器である。1は甕の底部片、2は鍋の口縁部である。ともにハケメ調整である。3は甕である。外面胴部ヘラケズリ、内面は縦方向のヘラミガキである。



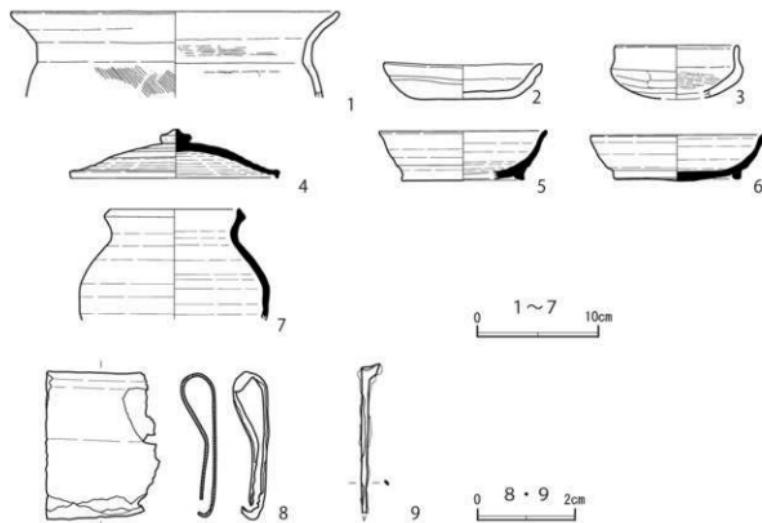
第136図 5区ビット分布図



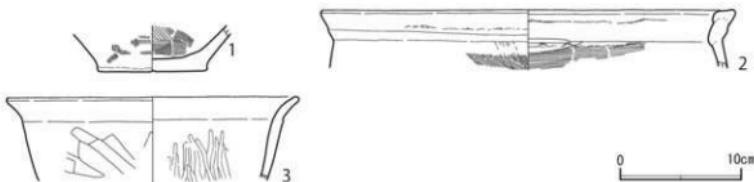
第137図 8区第1号不明構遺実測図



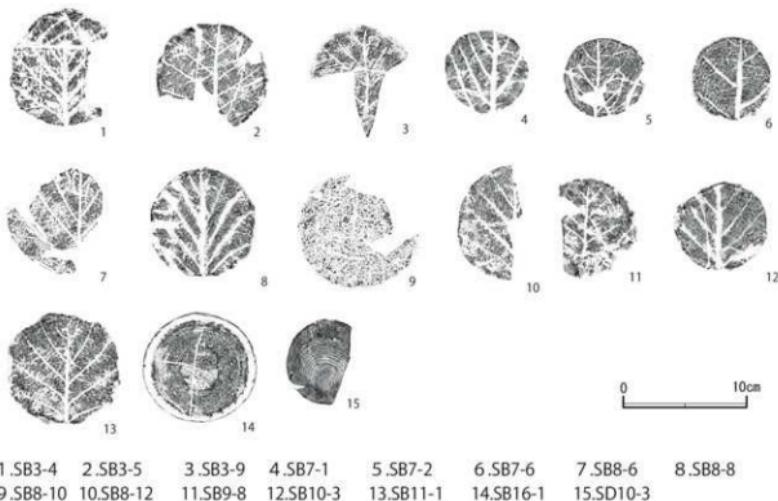
第138図 8区第1号不明構出土遺物実測図



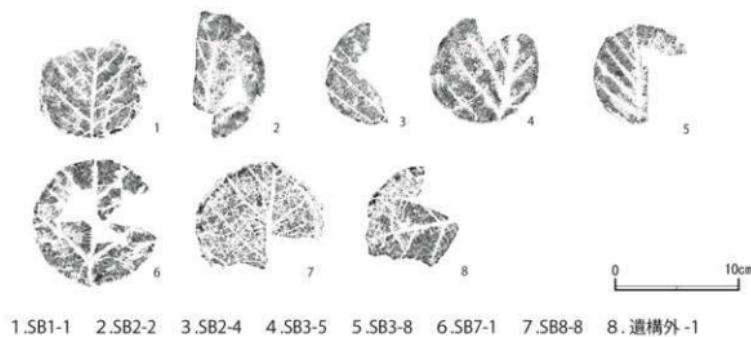
第139図 8区遺構外出土遺物実測図



第140図 5区遺構外出土遺物実測図



第141図 8区出土土器拓本



第142図 5区出土土器拓本

第10表 8区ピット計測表(1)

構造名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	底 土	色	覆土/耕土	苗物/古代	苗物/中耕	苗物/追肥
PT001	円形	深い丸形	1.49	0.17	8 mmの細根 2%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	○	
PT002	円形	深い丸形	0.56	0.33	5~10 mmの細根 3%以下, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N4/0	無し	○		
PT003	楕円形	深い丸形	1.32	0.16	8 mmの細根 2%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT004	楕円形	深い丸形	1.02	0.08	5~8 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	無し	○		
PT005	楕円形	深い丸形	1.35	0.22	8~10 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT007	円形	深い丸形	0.48	0.14	8~10 mmの細根 2%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT008	楕円形	深い丸形	0.53	0.19	10 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT009	楕円形	深い丸形	0.58	0.22	5~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT010	円形	深い丸形	0.29	0.12	5 mmの細根 2%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT011	円形	深い丸形	0.51	0.22	3~10 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT012	円形	深い丸形	0.50	0.24	1~5 mmの細根 7%以下, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT013	不整形	範囲	0.84 × 0.65	0.16	5~8 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5PB3/1	無し	○		
PT014	不整形	範囲	0.92 × 0.56	0.23	10 mmの細根 2%, 2~3 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT015	円形	深い丸形	1.47	0.13	5~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT016	円形	深い丸形	0.49	0.63	8~10 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む 下層に粘土を少許含む	N2/0	無し	○		
PT017	円形	深い丸形	1.19	0.34	3~5 mmの細根 8%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5BP1/7/1	無し	○		
PT018	楕円形	範囲	1.21 × 0.79	0.59	3~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5PB2/1	無し	○		
PT019	楕円形	深い丸形	0.56	0.55	10 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT020	円形	深い丸形	0.46	0.17	8~10 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT021	楕円形	深い丸形	1.35	0.16	10~15 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	やや有り	○		
PT022	円形	深い丸形	1.15	0.48	2~8 mmの細根 8%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	○		
PT023	楕円形	範囲	1.21	0.24	10 mmの細根 2%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT024	楕円形	深い丸形	0.79	0.63	10 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT025	方形	範囲	1.22	0.24	8~10 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5BP1/7/1	無し	○		
PT026	楕円形	深い丸形	1.26	0.13	8 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	○		
PT027	楕円形	深い丸形	1.35	0.09	5~8 mmの細根 3%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	7 SYR1/7/1	有り	○		
PT028	楕円形	深い丸形	0.41	0.26	1~2 mmのスコリア 1%を含む 上層に8 mmの細根 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT029	円形	深い丸形	1.33	0.07	10 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5BP1/7/1	無し	○		
PT030	不明	深い丸形	1.15	0.16	5~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5PB2/1	無し	○		
PT031	不明	深い丸形	1.20	0.24	8 mmの細根 2%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT032	不明	深い丸形	0.69	0.55	5~8 mmの細根 3%, 1~3 mmのスコリア 1%を含む	5G3/1	無し	—		
PT033	円形	深い丸形	0.31	0.29	—	—	—	—	—	○
PT034	楕円形	範囲	1.20 × 0.66	0.12	2~5 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT035	円形	深い丸形	1.02 × 0.94	0.09	5~8 mmの細根 8%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT036	楕円形	範囲	0.93 × 0.33	0.10	2~5 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT037	楕円形	深い丸形	0.85 × 0.71	0.25	10~12 mmの細根 3%, 2~3 mmのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT038	円形	深い丸形	1.25	0.14	3~7 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT039	円形	深い丸形	0.38	0.24	—	—	—	—	—	○
PT040	不整形	深い丸形	0.26	0.23	—	—	—	—	—	
PT041	円形	範研野	0.86	0.32	3~7 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5BP1/7/1	無し	○		
PT042	円形	深い丸形	1.00	0.06	5 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N3/0	無し	○		
PT043	円形	深い丸形	0.45	0.32	8 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5PB2/1	無し	○		
PT044	楕円形	深い丸形	0.46	0.05	10 mmの細根 1%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT045	楕円形	深い丸形	0.33	0.19	8 mmの細根 1%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	10G3/1	無し	○		
PT046	楕円形	深い丸形	0.42	0.15	—	—	—	—	—	
PT047	円形	深い丸形	0.33	0.09	—	—	—	—	—	
PT048	楕円形	深い丸形	0.99 × 0.69	0.09	5~8 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5SY1/	無し	○		
PT049	楕円形	深い丸形	0.50	0.67	5 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT050	楕円形	深い丸形	0.29	0.15	—	—	—	—	—	
PT051	円形	深い丸形	1.13	0.10	5~8 mmの細根 3%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	○		
PT052	不整形	範囲	1.68 × 1.31	0.16	10~12 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	○		
PT053	円形	深い丸形	0.40	0.36	8 mmの細根 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT054	楕円形	深い丸形	0.59 × 0.44	0.17	5~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT055	円形	深い丸形	0.80	0.17	1~3 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 2%を含む	N2/0	無し	○		
PT056	楕円形	範囲	—	2~3 mmの細根 10%, 1~2 mmのスコリア 2%を含む	5SYR2/1	無し	○			
PT057	楕円形	深い丸形	0.42	0.11	5~8 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5SYR2/1	無し	○		
PT058	円形	深い丸形	0.27	0.14	—	—	—	—	—	
PT059	円形	深い丸形	0.55	0.20	5~8 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5P1/7/1	無し	○		
PT060	円形	深い丸形	0.38	0.20	1~3 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT061	楕円形	範研野	0.64	0.28	10 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5PB3/1	無し	○		
PT062	楕円形	深い丸形	0.97	0.17	3~5 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT063	円形	深い丸形	0.28	0.25	—	—	—	—	—	
PT064	楕円形	深い丸形	1.09 × 0.91	0.07	5~8 mmの細根 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT065	円形	深い丸形	0.71	0.19	5 mmの細根 8%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5P1/7/1	無し	○		
PT066	円形	深い丸形	0.65	0.20	3~5 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT067	楕円形	深い丸形	0.43	0.09	5~10 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT068	楕円形	範研野	1.01	0.28	3~8 mmの細根 5%, 3 mmのスコリア 1%を含む	5P1/7/1	無し	○		
PT069	不整形	範研野	0.44	0.15	3~5 mmの細根 5%, 1~2 mmのスコリア 2%を含む	5P2/1	無し	○		
PT070	円形	深い丸形	0.52	0.04	10 mmの細根 1%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	10G3/1	無し	○		
PT071	円形	深い丸形	0.98	0.06	5~10 mmの細根 5%, 2~3 mmのスコリア 3%を含む	7 SYR2/1	無し	○		
PT072	円形	深い丸形	1.30	0.11	10~20 mmの細根 3%, 3~5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	○		

第11表 8区ピット計測表（2）

道名	平面形	断面形	幅 (m)	深さ (m)	土	色	層土跡まり	道物/古代	道物/中世	道物/近世
PT072	楕円形	浅い丸形	1.28 × 1.15	0.13	8 ~ 10 mmの細緻 5%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10Y3/1	無し	○		
PT074	円形	浅い丸形	1.29	0.23	50 mmの細緻, 10 ~ 20 mmの細緻 3%, 3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	○		
PT075	楕円形	深い丸形	1.06	0.41	10 mmの細緻 1%, 3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5Y2/2	無し	○		
PT076	楕円形	深い丸形	0.91 × 0.66	0.26	2 ~ 3 mmの細緻 8%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT077	楕円形	深い丸形	0.90	0.16	5 ~ 8 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5P2/1	無し	○		
PT078	不整形	深い丸形	0.51	0.11	—	—	—	—	—	—
PT079	円形	深い丸形	0.93	0.24	8 ~ 10 mmの細緻 3%以下, 1 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5YR2/1 2.YR2/1	有り	○		
PT080	円形	深い丸形	0.63	0.30	3 ~ 5 mmの細緻 3%, 3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5P91/1 3/1	無し	○		
PT081	円形	深い丸形	1.07	0.34	3 ~ 10 mmの細緻 5%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT083	楕円形	深い丸形	1.29 × 1.10	0.36	8 ~ 10 mmの細�致 1%, 1 ~ 2 mmのスコリア 3%を含む	5P91/1 3/1	無し	○		
PT088	不整形	深い丸形	0.90	0.07	8 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	2.YR2/1	無し	○		
PT089	円形	深い丸形	0.36	0.10	1 ~ 3 mmの細緻 10%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P1/1 7/1	無し	○		
PT090	円形	深い丸形	0.27	0.11	—	—	—	—	—	—
PT087	方形	深い丸形	0.74 × 0.69	0.48	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P1/1 7/1	無し	○		
PT088	楕円形	深い丸形	0.52	0.13	5 mmの細緻 1%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT089	円形	深い丸形	0.92	0.18	5 ~ 8 mmの細緻 5%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P2/1	無し	○		
PT090	楕円形	扇形	0.60	0.29	10 mmの細緻 8%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P91/1 3/1	無し	○		
PT091	円形	深い丸形	0.41	0.29	5 ~ 10 mmの細緻 10%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P2/1	無し	○		
PT092	円形	扇形	0.36	0.14	2 ~ 8 mmの細緻 8%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT095	円形	深い丸形	0.40	0.14	10 mmの細緻 1%, 3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT096	円形	深い丸形	0.38	0.15	10 mmの細緻 1%, 3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	7.SY2/1	無し	○		
PT097	不整形	深い丸形	0.98 × 0.81	0.36	10 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%, 備土の固まりを含む	5G2/1	無し	○		
PT098	円形	深い丸形	0.53	0.37	10 mmの細緻 2%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	10Y2/1	無し	○		
PT099	不整形	深い丸形	0.60 × 0.49	0.23	8 ~ 10 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	○		
PT100	円形	深い丸形	0.60	0.36	10 ~ 12 mmの細緻 2%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5G2/1	無し	○		
PT101	不整形	扇形	0.36	0.39	10 ~ 12 mmの細緻 2%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT102	楕円形	深い丸形	1.06 × 0.88	0.39	10 ~ 15 mmの細緻 1%, 2 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR2/1 5Y3/1	やや有り	○		
PT103	方形	深い丸形	0.79 × 0.66	0.24	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P91/1 3/1	やや有り	○		
PT104	円形	深い丸形	0.42	0.16	3 ~ 5 mmの細緻 5%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	有り	○		
PT105	楕円形	深い丸形	0.52	0.18	10 mmの細緻 2%, 3 ~ 5 mmのスコリア 3%を含む	5Y2/1	やや有り	○		
PT106	楕円形	深い丸形	0.88	0.18	5 mmの細緻 2%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7.SR1/1 3/1	無し	○		
PT107	円形	深い丸形	0.50	0.17	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	7.SYR1/1 3/1	無し	○		
PT108	方形	深い丸形	0.73	0.10	5 mmの細緻 2%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT109	円形	深い丸形	1.32 × 1.23	0.17	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5R1/1 7/1	無し	○		
PT110	円形	深い丸形	0.57	0.18	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5R1/1 7/1	無し	○		
PT111	円形	深い丸形	0.44	0.40	8 mmの細緻 1%, 1 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT112	楕円形	深い丸形	0.40	0.06	—	—	—	—	—	—
PT117	円形	深い丸形	0.51	0.13	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1/5/0	無し	○		
PT118	円形	深い丸形	0.64	0.09	5 mmの細緻 1%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N1/5/0	無し	○		
PT119	円形	深い丸形	0.47	0.60	3 ~ 5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1/5/0	やや有り	○		
PT120	円形	深い丸形	1.09	0.42	3 ~ 5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5P91/1 3/1	無し	○		
PT121	円形	漬研形	0.32	0.14	—	—	—	—	—	—
PT122	楕円形	深い丸形	0.46	0.25	1 ~ 5 mmの細緻 10%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5P91/1 3/1	無し	○		
PT123	円形	漬研形	0.51	0.13	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	N1/5/0	無し	○		
PT124	楕円形	深い丸形	1.18 × 1.0	0.09	10 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT125	円形	深い丸形	0.34	0.37	—	—	—	—	—	—
PT126	円形	深い丸形	0.41	0.05	5 mmの細緻 3%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT127	円形	深い丸形	0.42	0.15	10 mmの細緻 1%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT128	円形	深い丸形	0.36	0.06	5 mmの細緻 3%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT129	円形	深い丸形	0.42	0.12	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	5G2/1	無し	○		
PT130	円形	扇形	0.42	0.29	8 ~ 10 mmの細緻 2%, 1 mmのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○		
PT131	円形	深い丸形	0.29	0.26	—	—	—	—	—	—
PT132	円形	漬研形	0.24	0.15	—	—	—	—	—	—
PT133	楕円形	扇形	1.20	0.18	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5P91/1 3/1	有り	○		
PT134	円形	深い丸形	0.32	0.08	15 ~ 20 mmの細緻 10%, 1 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	無し	○		
PT135	楕円形	深い丸形	0.80	0.20	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT136	方形	深い丸形	0.59	0.19	—	—	—	—	—	—
PT137	円形	深い丸形	1.20	0.33	5 ~ 8 mmの細緻 3%, 3 ~ 5 mmのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT138	楕円形	深い丸形	0.62	0.15	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	やや有り	○		
PT139	楕円形	扇形	0.61 × 0.8	0.41	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	7.SR1/1 3/1	無し	○		
PT140	円形	深い丸形	0.49	0.08	—	—	—	—	—	—
PT141	円形	深い丸形	0.49	0.29	2 ~ 3 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 3%を含む	5R2/1	無し	○		
PT142	円形	深い丸形	0.45	0.31	—	—	—	—	—	—
PT143	円形	深い丸形	0.50	0.31	2 ~ 3 mmの細緻 5%, 5 mmのスコリア 3%を含む	10YR2/1	有り	○		
PT144	不整形	深い丸形	0.49 × 0.36	0.28	3 ~ 8 mmの細緻 10%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	有り	○		
PT145	楕円形	扇形	0.97 × 0.77	0.29	5 mmの細緻 3%含む 上層は1 mmの赤色粘土と灰土を多量に含み、下層は1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2.SY4/1 2.SYR2/1 2.SYR2/1	上層粘土 多量	○		
PT146	円形	深い丸形	0.44	0.08	5 mmの細緻 3%, 2 ~ 3 mmのスコリア 1%を含む	5Y3/1	やや有り	○		
PT147	円形	深い丸形	0.39	0.04	—	—	—	—	—	—
PT148	円形	深い丸形	0.42	0.29	8 mmの細緻 3%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT149	円形	深い丸形	0.50	0.14	5 mmの細緻 1%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT150	方形	扇形	0.94 × 0.81	0.15	5 mmの細緻 3%, 1 ~ 2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT151	方形	扇形	0.75 × 0.56	0.12	5 mmの細緻 1%, 2 ~ 3 mmのスコリア 2%を含む	N2/0	無し	○		

第12表 8区ピット計測表(3)

道名	平面形	断面形	径(m)	深さ(m)	土質	色	覆土材	造物/古代	造物/中折	造物/古物
PT152	楕円形	浅い丸形	0.32	0.21	50～80cmの細痏と10cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	5GY3/1	やや有り	○		
PT153	円形	浅い丸形	0.42	0.29	5cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT154	楕円形	浅い丸形	0.47	0.10	3～5mmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	SP2/1	有り	○		
PT155	楕円形	浅い丸形	1.20	0.26	5cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT156	円形	浅い丸形	0.40	0.21	5cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT157	円形	浅い丸形	0.46	0.05	5cmの細痏 1%、5～10mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	○		
PT158	不整形	浅い丸形	0.78 × 0.54	0.21	5cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT159	円形	浅い丸形	0.40	0.34	5～8mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT160	不整形	浅い丸形	1.10 × 0.83	0.40	8～10mmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT161	方形状	路肩	1.06 × 0.95	0.08	5cmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	7.SR1 7/1	有り	○		
PT162	円形	路肩	0.66	0.22	10mmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT163	円形	浅い丸形	0.57	0.02	3～5mmの細痏 3%、1～2mのスコリア 1%を含む	7.SR1 7/1	無し	○		
PT164	円形	浅い丸形	0.76	0.15	1～3mmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT165	円形	浅い丸形	1.28 × 1.10	0.08	5～7mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5YR2/1	有り	○		
PT166	円形	浅い丸形	1.06	0.20	8～10mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT167	円形	裏研削	0.30	0.09	—	—	—	—	—	—
PT168	楕円形	浅い丸形	1.06 × 0.05	0.05	8～10mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT169	円形	浅い丸形	0.32	0.24	—	—	—	—	—	—
PT170	円形	浅い丸形	0.39	0.25	10～20mmの細痏 1%、3～5mmのスコリア 1%を含む	2.GY2/1	無し	○		
PT171	楕円形	浅い丸形	0.79 × 0.63	0.49	1～3mmの細痏 3%、2mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	○		
PT172	楕円形	浅い丸形	0.42	0.22	—	—	—	—	—	—
PT173	楕円形	浅い丸形	0.67 × 0.53	0.45	5cmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	有り	○		
PT174	円形	路肩	0.56	0.26	5～8mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む やや粒性	10GY2/1	無し	○		
PT175	円形	深い丸形	0.40	0.33	1～3mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む やや粒性 有り	10GY2/1	無し	○		
PT176	楕円形	裏研削	0.40	0.15	1～3mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	○		
PT177	円形	浅い丸形	0.35	0.07	1mの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT178	不整形	路肩	0.85	0.23	5～8mmの細痏 3%、3～5mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT179	円形	路肩	1.29	0.17	1～3mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	○		
PT180	楕円形	浅い丸形	0.71	0.24	—	—	—	—	—	—
PT181	円形	浅い丸形	0.26	0.22	3～5mmの細痏 3%、3mのスコリア 1%を含む やや粒性 有り	5GY2/1	無し	○		
PT182	楕円形	浅い丸形	0.62	0.29	5～8mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	やや有り	○		
PT183	円形	浅い丸形	1.63	0.18	5～8mmの細痏 1%、3～5mのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT184	楕円形	路肩	1.28 × 0.92	0.36	5～6mmの細痏 7%以下、1～5mのスコリア 3%以下を含む	2.SYR2/1	有り	○		
PT185	楕円形	浅い丸形	0.87	0.41	5～8mmの細痏 1%、3～5mのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT186	不整形	浅い丸形	0.99	0.10	5mの細痏 2%、5mmのスコリア 2%を含む	5Y3/1	無し	○		
PT187	円形	浅い丸形	0.58	0.25	5mの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	やや有り	○		
PT188	楕円形	深い丸形	0.74 × 0.60	0.34	5mの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT189	円形	深い丸形	0.38	0.34	—	—	—	—	—	—
PT190	円形	浅い丸形	0.34	0.21	—	—	—	—	—	○
PT191	円形	浅い丸形	0.34	0.20	—	—	—	—	—	○
PT192	楕円形	浅い丸形	0.56 × 0.49	0.57	5mの細痏 8%、1mのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	○		
PT193	楕円形	浅い丸形	0.70 × 0.59	0.26	5mの細痏 4%、1mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT194	円形	浅い丸形	0.40	0.27	5mの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	有り	○		
PT195	不整形	浅い丸形	0.79	0.18	—	—	—	—	—	—
PT196	不整形	浅い丸形	0.71 × 0.39	0.29	5mの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT197	円形	浅い丸形	0.40	0.31	—	—	—	—	—	○
PT198	円形	裏研削	0.33	0.22	—	—	—	—	—	○
PT199	楕円形	浅い丸形	0.61	0.30	50mmの細痏、3～5mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	やや有り	○		
PT200	円形	浅い丸形	0.24	0.20	—	—	—	—	—	○
PT201	円形	浅い丸形	0.65	0.06	3～5mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○		
PT202	円形	浅い丸形	0.42	0.31	3～5mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5Y3/1	やや有り	○		
PT203	円形	浅い丸形	0.54	0.30	8～5mmの細痏 3%、2～3mのスコリア 3%を含む	5GY3/1	やや有り	○		
PT204	円形	浅い丸形	0.32	0.17	8～10mmの細痏 7%以下、2～3mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT205	円形	浅い丸形	0.39	0.22	5mの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%、黏土少量含む	2.SYR2/1	無し	○		
PT206	楕円形	浅い丸形	0.86	0.20	2～3mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	やや有り	○		
PT207	円形	浅い丸形	0.75	0.56	5mの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	5GY2/1	無し	○		
PT208	不整形	浅い丸形	0.96 × 0.74	0.38	8～3mmの細痏 3%、3～5mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	○		
PT209	円形	浅い丸形	0.49	0.41	—	—	—	—	—	—
PT210	楕円形	浅い丸形	0.68	0.25	3～5mmの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○		
PT211	楕円形	浅い丸形	0.73 × 0.42	0.06	5～8mmの細痏 3%、2～3mのスコリア 1%を含む	5GY1 7/1	やや有り	○		
PT212	円形?	浅い丸形	1.00	0.55	5～8mmの細痏 3%、1～2mのスコリア 1%を含む	10GY1 7/1	無し	○		
PT214	楕円形	浅い丸形	0.63 × 0.53	0.30	8～10mmの細痏 1%、1～2mのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT215	円形	浅い丸形	0.58	0.36	5mの細痏 1%、2～3mのスコリア 1%を含む	7.SYR2/1	無し	○		
PT216	円形	浅い丸形	0.89	0.29	10～12mmの細痏 3%、3～5mのスコリア 3%を含む	5GY2/1	有り	○		
PT217	楕円形	浅い丸形	0.46	0.17	1～3mmの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	○		
PT218	不整形	浅い丸形	0.37	0.08	10mmの細痏 2%、2～5mmのスコリア 3%を含む	5Y3/2	無し	○		
PT219	不整形	裏研削	0.70 × 0.61	0.43	3～5mmの細痏 2%、2mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	やや有り	○		
PT220	楕円形	浅い丸形	0.55	0.05	8～10mmの細痏 3%、3～5mのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT221	円形	浅い丸形	0.37	0.28	—	—	—	—	—	—
PT222	円形	浅い丸形	0.67	0.45	8～10mmの細痏 1%、3～5mのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	○		
PT224	楕円形	浅い丸形	0.68 × 0.39	0.24	5～8mmの細痏 3%、1～2mのスコリア 1%を含む	3.SYR2/1	無し	○		
PT225	楕円形	浅い丸形	0.47	0.30	5mの細痏 1%、1mのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	○		

第13表 8区ピット計測表 (4)

透構名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	土 壤	色	基土持続率	過去/古代	過去/中世	過去/近世
PT226	円形	深い丸形	0.60	—	5mの細緻 4%, 3~5mのスコリア1%を含む	SY3/I	やや有り	○	○	○
PT227	円形	深い丸形	0.69	0.48	10mの細緻 1%, 3~5mのスコリア1%を含む	2.SYR2/I	やや有り	○	○	○
PT228	円形	深い丸形	0.34	0.41	—	—	—	○	○	○
PT229	円形	深い丸形	0.65	0.28	3~5mの細緻 10%, 1mのスコリア2%を含む	100Y2/I	有り	○	○	○
PT230	円形	深い丸形	0.55	0.10	5mの細緻 8%, 1mのスコリア1%を含む	50Y3/I	無し	○	○	○
PT231	円形	深い丸形	0.82	0.19	8~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア1%を含む	2.SY3/I	無し	○	○	○
PT232	楕円形	深い丸形	0.31	0.05	—	—	—	○	○	○
PT233	楕円形	深い丸形	0.30	0.06	—	—	—	○	○	○
PT234	楕円形	深い丸形	0.57 ± 0.47	0.06	8mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	2.SY3/I	無し	○	○	○
PT235	円形	深い丸形	0.57	0.41	8~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア3%を含む	7.SY2/I	有り	○	○	○
PT236	円形?	深い丸形	0.39	0.04	10mの細緻 1%, 3~5mのスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT237	円形	深い丸形	0.49	0.08	8~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT238	円形	深い丸形	0.38	0.37	—	—	—	○	○	○
PT239	円形	深い丸形	0.27	0.13	—	—	—	○	○	○
PT240	円形	深い丸形	0.24	0.11	—	—	—	○	○	○
PT241	円形	深い丸形	0.27	0.13	—	—	—	○	○	○
PT242	円形	深い丸形	0.45	0.16	8mの細緻 3%, 3~5mのスコリア1%を含む	50Y2/I	無し	○	○	○
PT243	楕円形	深い丸形	0.59 ± 0.47	0.24	8~10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア3%を含む	2.SY3/I	無し	○	○	○
PT244	円形?	深い丸形	0.63	0.18	10~20mの細緻 1%, 3~5mのスコリア3%を含む	2.SY3/I	無し	○	○	○
PT245	円形	深い丸形	0.53	0.24	5~8mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	10Y2/I	有り	○	○	○
PT246	円形	深い丸形	0.34	0.23	10mの細緻 3%, 3~5mのスコリア1%を含む	10Y3/I	無し	○	○	○
PT247	楕円形	深い丸形	0.49	0.13	—	—	—	○	○	○
PT248	円形	深い丸形	0.66	0.23	10mの細緻 1%, 2~3mスコリア1%を含む	10Y2/I	無し	○	○	○
PT249	円形	深い丸形	0.51	0.42	30~50mの細緻, 10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	50Y2/I	無し	○	○	○
PT250	円形	深い丸形	0.51	0.40	8mの細緻 1%, 3~5mのスコア1%を含む	50Y2/I	有り	○	○	○
PT251	円形?	深い丸形	0.67	0.06	8mの細緻 1%, 1~2mのスコリア1%を含む	100Y2/I	無し	○	○	○
PT252	円形	深い丸形	0.35	0.09	—	—	—	○	○	○
PT253	円形	深い丸形	0.35	0.09	1mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	50Y2/I	無し	○	○	○
PT254	円形	深い丸形	0.33	0.23	—	—	—	○	○	○
PT255	円形	深い丸形	0.53	0.28	28mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	N3/0	やや有り	○	○	○
PT256	楕円形	深い丸形	0.54	0.26	8~12mの細緻 1%, 2~3mのスコリア3%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT257	円形?	深い丸形	0.38	0.23	5mの細緻 3%, 3~5mスコリア1%を含む	50Y2/I	無し	○	○	○
PT258	楕円形	深い丸形	0.79 ± 0.64	0.30	8mの細緻 3%, 2~3mスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT259	楕円形	深い丸形	0.73 ± 0.47	0.23	5mの細緻 1%, 1~2mスコリア1%を含む	7.SR1/7/1	無し	○	○	○
PT260	円形	深い丸形	0.40	0.24	—	—	—	○	○	○
PT261	楕円形	深い丸形	0.78 ± 0.60	0.24	1~3mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	100Y2/I	無し	○	○	○
PT262	楕円形	深い丸形	0.45	0.26	2mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	100Y2/I	無し	○	○	○
PT263	円形	深い丸形	0.59	0.42	1~3mの細緻 2%, 1mスコリア1%を含む	50Y2/I	無し	○	○	○
PT265	不規則	深い丸形	0.40	0.30	10mの細緻 2%, 1~2mスコリア1%を含む	2.SY2/I	無し	○	○	○
PT267	楕円形?	深い丸形	0.32	0.24	5mの細緻 4%, 2~3mスコリア1%を含む	100Y2/I	無し	○	○	○
PT268	円形	深い丸形	0.41	0.17	—	—	—	○	○	○
PT269	楕円形	深い丸形	0.88 ± 0.73	0.10	3~5mの細緻 3%, 2~3mのスコリア1%を含む	SPB2/I	有り	○	○	○
PT270	円形	深い丸形	0.45	0.11	3~5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT271	円形	深い丸形	0.40	0.25	5mの細緻 1%, 2~3mスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT272	不明	深い丸形	0.48	0.06	8mの細緻 1%, 1~2mスコリア1%を含む	10YR2/I	無し	○	○	○
PT273	楕円形?	深い丸形	0.75 ± 0.65	0.09	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	10YR2/I	無し	○	○	○
PT274	円形	深い丸形	0.22	0.31	—	—	—	○	○	○
PT275	円形	深い丸形	0.48	0.26	5~8mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	SPG2/I	無し	○	○	○
PT276	楕円形	深い丸形	1.04 ± 0.84	0.29	10mの細緻 3%, 2~3mスコリア3%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT277	円形	深い丸形	0.57	0.29	2mの細緻 3%, 2~3mスコリア1%を含む	SPB2/I	無し	○	○	○
PT278	円形	深い丸形	0.21	0.04	10mの細緻 1%, 2~3mスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT279	円形	深い丸形	0.30	0.18	10~15mの細緻 1%, 2~3mスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT280	円形	深い丸形	0.29	0.17	5~8mの細緻 3%, 1~2mのスコリア1%を含む	SPB1/7/1	無し	○	○	○
PT281	円形	深い丸形	0.52	0.37	3~5mの細緻 3%, 1~2mのスコリア3%を含む	SPB1/7/1	無し	○	○	○
PT282	円形	扇形	0.79	0.23	—	—	—	○	○	○
PT284	円形	深い丸形	0.42	0.12	3~5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	SPB2/I	無し	○	○	○
PT285	円形	深い丸形	0.41	0.06	時まりが無く 1~2mのスコリア1%を含む	2.SY2/I	無し	○	○	○
PT286	円形	深い丸形	0.35	0.12	—	—	—	○	○	○
PT287	円形	深い丸形	0.28	0.14	—	—	—	○	○	○
PT288	楕円形	裏研形	0.95 ± 0.57	0.30	50mの細緻, 5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT289	円形	深い丸形	0.25	0.15	—	—	—	○	○	○
PT290	楕円形	深い丸形	0.61 ± 0.48	0.28	5mの細緻 3%, 1~2mのスコリア1%を含む	SP1/7/1	無し	○	○	○
PT291	円形	裏研形	0.45	0.15	10~15mの細緻 1%, 2~3mスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT292	楕円形	裏研形	0.53	0.12	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT293	楕円形	深い丸形	0.39	0.10	5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT294	扇三角	深い丸形	0.46	0.04	—	—	—	○	○	○
PT295	楕円形	深い丸形	0.38	0.31	8~10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	SPG2/I	無し	○	○	○
PT296	楕円形	扇形	0.64 ± 0.53	0.13	3~10mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	100Y2/I	有り	○	○	○
PT297	楕円形	深い丸形	0.45	0.07	1~2mのスコリア1%を含む	N2/0	有り	○	○	○
PT298	円形	深い丸形	0.38	0.13	—	—	—	○	○	○
PT299	円形	深い丸形	0.35	0.14	—	—	—	○	○	○
PT300	楕円形	裏研形	0.41	0.24	—	—	—	○	○	○
PT302	不規則	扇形	0.54 ± 0.49	0.22	—	—	—	○	○	○
PT305	楕円形	深い丸形	0.45	0.24	5~8mの細緻 1%, 1mのスコリア1%を含む	N2/0	無し	○	○	○
PT306	楕円形	深い丸形	0.56	0.20	10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア1%を含む	10YR2/I	無し	○	○	○

第14表 8区ピット計測表(5)

構造名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	覆 土	色	覆土種地	造物/古代	造物/中折	造物/造物
PT307	円形	深い丸形	0.71	0.33	5mの細緻 3%, 1~2mのスコリア 3%を含む	2.5YR2/1	無し	○	—	—
PT308	円形	深い丸形	0.28	0.25	—	—	—	○	—	—
PT309	円形	深い丸形	0.81	0.21	2~3mの細緻 10%, 1~2mのスコリア 3%を含む	2.5YR2/1	無し	○	—	—
PT310	楕円形	深い丸形	0.67	0.28	2~3mの細緻 5%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	○	—	—
PT311	円形	深い丸形	0.42	0.19	2~3mの細緻 5%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT312	円形	階形	0.83	0.30	5~8mの細緻 3%, 1~3mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	○	—	—
PT313	楕円形	深い丸形	1.01 × 0.76	0.53	8mの細緻 5%, 3~5mのスコリア 3%を含む	10GY2/1	無し	○	—	—
PT314	楕円形	深い丸形	0.51	0.50	10mの細緻 2%, 2~3mのスコリア 3%を含む	50Y2/1	無し	○	—	—
PT315	円形	深い丸形	0.41	0.26	—	—	—	—	—	—
PT316	円形	階形	1.32	0.20	10~15mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT317	楕円形	深い丸形	0.83 × 0.44	0.69	10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	○	—	—
PT318	円形	深い丸形	0.39	0.17	9mの細緻 3%, 1~2mのスコリア 1%を含む	2.5YR2/1	無し	○	—	—
PT319	円形	深い丸形	1.39	0.18	9~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50P1.7/1	有り	○	—	○
PT320	円形	深い丸形	0.49	0.13	15mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	7.5R1.7/1	無し	—	—	—
PT321	円形	深い丸形	0.64	0.48	—	—	—	—	—	—
PT322	不整形	不明	1.29	0.16	—	—	—	—	—	—
PT323	円形	深い丸形	0.32	0.17	—	—	—	—	—	—
PT324	円形	深い丸形	0.80	0.18	3~5mの細緻 3%, 3mのスコリア 1%を含む	50Y3/1	やや有り	○	—	—
PT325	円形	深い丸形	0.37	0.19	—	—	—	—	—	—
PT326	楕円形	深い丸形	0.36	0.27	5mの細緻 3%, 1~2mのスコリア 1%を含む	3.50Y2/1	無し	—	—	—
PT327	楕円形	深い丸形	0.58 × 0.39	0.18	1mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む 粘性有り	56S1/1	無し	—	—	—
PT328	楕円形	築研形	0.31	0.20	—	—	—	—	—	—
PT329	円形	階形	0.59	0.20	1mの細緻 3%, 1mのスコリア 1%を含む	—	無し	○	—	—
PT330	円形	階形	0.40	0.16	8~10mの細緻 3%, 3~5mのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	—	—	—
PT331	不整形	階形	0.58	0.16	10~20mの細緻 3%, 3~5mのスコリア 3%を含む	10YR2/1	無し	—	—	—
PT332	楕円形	深い丸形	0.59 × 0.41	0.33	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	—	—	—
PT333	円形	深い丸形	0.56	0.24	8mの細緻 1%, 1mのスコリア 5%を含む 粘性有り	7.5YR2/1	無し	○	—	—
PT334	円形	深い丸形	0.37	0.11	—	—	—	—	—	—
PT335	楕円形	深い丸形	0.38	0.19	10mの細緻 2%, 2~3mのスコリア 3%を含む	SY3/1	無し	—	—	—
PT336	円形	深い丸形	1.20	0.19	2mの細緻 5%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	○	—	—
PT337	円形	階形	1.08 × 0.96	0.18	5mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50P1.7/1	有り	○	—	—
PT338	円形	深い丸形	1.68	0.07	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 3%を含む	50P1.7/1	無し	○	—	—
PT339	円形	深い丸形	0.36	0.12	3mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	—	—	—
PT340	円形	深い丸形	0.44	0.12	3~5mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50P1.7/1	無し	○	—	—
PT341	円形	深い丸形	0.42	0.29	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N1.5/0	やや有り	○	—	—
PT342	円形	深い丸形	1.26	0.26	5~10mの細緻 3%, 1~2mのスコリア 5%を含む 粘性有り	10GY2/1	やや有り	○	—	—
PT343	楕円形	深い丸形	0.41 × 0.29	0.16	8mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N3/0	やや有り	○	—	—
PT344	円形	深い丸形	0.59	0.14	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	○	—	—
PT345	不整形	深い丸形	0.26	0.16	10mの細緻 3%, 3~5mのスコリア 3%を含む	2.50Y2/1	無し	—	—	—
PT346	円形	深い丸形	0.33	0.16	—	—	—	—	—	—
PT347	円形	深い丸形	0.39	0.09	—	—	—	—	—	—
PT348	楕円形	深い丸形	0.30	0.08	3mの細緻 1%, 1~2mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	—	—	—
PT349	円形	築研形	0.42	0.20	—	—	—	—	—	—
PT350	円形	深い丸形	0.34	0.13	—	—	—	—	—	—
PT351	不整形	深い丸形	1.09	0.14	8~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT352	円形	深い丸形	0.44	0.12	3~5mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し	—	—	—
PT353	円形	深い丸形	0.36	0.10	5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し	—	—	—
PT354	円形	階形	0.53	0.14	5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し	—	—	—
PT355	円形	階形	0.42	0.12	13~15mの細緻 1%, 1~2mのスコリア 1%を含む	5R1.7/1	無し	—	—	—
PT356	円形	深い丸形	0.43	0.37	3~5mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 1%を含む	N1.5/0	無し	—	—	—
PT357	円形	力丸	0.84 × 0.73	0.12	5~10mの細緻 3%, 2~3mのスコリア 3%を含む	50P1.7/1	無し	○	—	—
PT358	円形	階形	0.42	0.19	5mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10YR2/1	無し	○	—	—
PT359	楕円形	深い丸形	0.42	0.06	3~5mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	—	—	—
PT360	円形	深い丸形	0.28	0.09	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	—	—	—
PT361	円形	深い丸形	0.37	0.18	1mの細�痣 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	—	—	—
PT362	円形	深い丸形	0.52	0.20	1mの細緻 1%, 2mのスコリア 2%を含む	10GY2/1	無し	○	—	—
PT363	不整形	深い丸形	0.46	0.22	8~10mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	—	—	—
PT364	円形	深い丸形	0.30	0.25	—	—	—	—	—	—
PT365	円形	深い丸形	0.50	0.13	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	50Y2/1	無し	—	—	—
PT366	不整形	深い丸形	0.41	0.11	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	○	—	—
PT367	不整形	深い丸形	0.37	0.15	1mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	5T3/1	無し	—	—	—
PT368	円形	深い丸形	0.41	0.10	8~10mの細緻 1%, 1mのスコリア 1%を含む	10GY2/1	無し	○	—	—
PT369	不整形	築研形	0.41	0.30	3~5mの細緻 8%, 2mのスコリア 1%を含む やや粘性有り	5G3/1	無し	—	—	—
PT370	円形	深い丸形	0.30	0.14	—	—	—	—	—	—
PT371	円形	深い丸形	0.43	0.15	1~3mの細緻 3%, 1~2mのスコリア 1%を含む	50P2/1	無し	○	—	—
PT372	円形	深い丸形	0.31	0.12	1~3mの細緻 8%, 1~2mのスコリア 1%を含む	50P1.7/1	無し	—	—	—
PT373	不整形	深い丸形	1.15 × 0.87	0.17	2~5mの細緻 1%, 1~2mのスコリア 1%を含む	2.5YR2/1	無し	—	—	—
PT374	円形	深い丸形	0.29	0.15	—	—	—	—	—	—
PT375	円形	深い丸形	0.30	0.12	—	—	—	—	—	—
PT376	楕円形	深い丸形	0.40	0.31	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	7.5YR2/1	無し	—	—	—
PT377	楕円形	深い丸形	0.38	0.19	5mの細緻 1%, 2~3mのスコリア 1%を含む	2.5YR1.7/1	無し	—	—	—
PT378	楕円形	深い丸形	0.50	0.18	—	—	—	—	—	—
PT379	円形	深い丸形	0.36	0.32	—	—	—	—	—	—
PT380	円形	深い丸形	0.43	0.24	—	—	—	—	—	—
PT381	楕円形	深い丸形	0.55 × 0.42	0.24	—	—	—	—	—	—

第15表 8区ピット計測表 (6)

過場名	平面形	断面形	幅 (m)	深さ (m)	地 土	色	腐土跡まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世	
PT183	円形?	浅い丸形	0.31	0.12	—	—	—	—	—	—	
PT184	不整形	浅い丸形	0.55	0.13	—	—	—	—	—	—	
PT185	円形	浅い丸形	0.41	0.26	—	—	—	—	—	—	
PT186	円形	浅い丸形	0.43	0.16	—	—	—	—	—	—	
PT187	円形	浅い丸形	0.35	0.24	—	—	—	—	○	—	
PT188	円形	浅い丸形	0.53	0.26	—	—	—	—	—	—	
PT189	円形	浅い丸形	0.47	0.18	—	—	—	—	—	—	
PT190	方形	浅い丸形	0.81 × 0.58	0.12	10 mmの細縫 3%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	2 SY2/1	無し	○	—	—	
PT191	円形	箱形	0.70	0.35	10 mmの細縫 3%, 3~5 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	—	—	—	
PT192	円形	浅い丸形	0.33	0.18	5~8 mmの細縫 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	SY2/1	無し	○	—	—	
PT193	円形	浅い丸形	0.38	0.29	5~8 mmの細縫 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	—	—	—	
PT194	横円形	浅い丸形	1.35 × 0.91	0.28	8 mmの細縫 3%, 2~3 mmのスコリア 3%を含む	2 SY3/1	無し	○	—	—	
PT195	横円形	浅い丸形	0.44	0.17	—	—	—	—	○	—	
PT196	円形	浅い丸形	0.42	0.28	—	—	—	—	—	—	
PT197	横円形	箱形	1.52 × 1.16	0.40	10 mm以下の細縫 20%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む カマドを設してため粘土ブロック、炭化物、器皿を含み粘性有り	SY2/1	やや有り	○	—	—	
PT198	横円形	箱形	1.24 × 1.04	0.14	5~10 mmの細縫 1%, 2~5 mmのスコリア 1%, 粘土の固まりを少許含む	N4/0 N3/0	無し	○	—	—	
PT199	円形	浅い丸形	0.40	0.29	5 mm以下の細縫 10%, 1 mmのスコリア 2%を含む	10Y2/1	やや有り	○	—	—	
PT201	円形	浅い丸形	0.30	0.11	5 mm以下の細縫 40%を含む	50Y2/1	やや有り	○	—	—	
PT202	円形	浅い丸形	0.26	0.41	5 mm以下の細縫 30%を含む	50Y2/1	やや有り	○	—	—	
PT203	円形	浅い丸形	0.28	0.21	5 mm以下の細縫 30%を含む 粘性有り	7 SY3/1	無し	○	—	—	
PT204	円形	浅い丸形	0.33	0.19	—	—	—	—	—	—	
PT206	円形	浅い丸形	0.74	0.27	8~10 mmの細縫 1%, 2~3 mmのスコリア 3%以下含む	50Y2/1 N2/0	無し	○	—	—	
PT207	横円形	浅い丸形	0.51	0.33	10 mmの細縫 1%, 2~3 mmのスコリア 1%を含む	7 SY2/1	無し	—	—	—	
PT208	円形	深い丸形	0.43	0.37	5~8 mmの細縫 3%以下。1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0 50G2/1	無し	○	—	—	
PT210	不整形	浅い丸形	0.45	0.22	—	—	—	—	—	—	
PT211	横円形	浅い丸形	0.95	0.27	—	—	—	—	○	—	
PT212	方形	箱形	1.32	0.87	20~50 mmの細縫、8~10 mmの細縫 5%, 2~5 mmのスコリア 2%を含む 下部は発れやすく黄色い粘の細縫を含む	M3/0 SP2/1 SP2/2 2 SYR2/1	無し	○	—	—	—
PT213	不整形	不明	0.33	0.39	—	—	—	—	—	—	
PT214	不整形	浅い丸形	0.47	0.41	—	—	—	—	—	—	
PT216	円形	裏研形	0.34	0.13	—	—	—	—	—	—	
PT217	円形	深い丸形	0.67	0.51	10~15 mmの細縫 3%以下。2~5 mmのスコリア 3%、中央に粘土多量を含む	2 SYR2/1	無し	○	—	—	
PT218	横円形	浅い丸形	0.29	0.23	6 mmの細縫 1%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	5YR3/1	無し	—	—	—	
PT219	横円形	深い丸形	0.70	0.41	上部は粘土層で 10 mmの粘土片を含む 下部は砂質土で 5~8 mmの細縫 3%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	10YR4/2 2 SY3/1	無し	○	—	—	—
PT220	不整形	深い丸形	0.60	0.36	上部は少量土層で粘土層で 5~8 mmの細縫 3%を含む 下部は 5 mmの細縫 3%を含む 粘土多量を含む	2 SY3/3 2 SY3/2	無し	○	—	—	—
PT221	横円形	深い丸形	0.31	0.12	5 mm以下の細縫 40%, 5 mmのスコリア 1%を含む がある砂質土	2 SY2/1	無し	○	—	—	
PT222	円形	深い丸形	0.38	0.43	5 mm以下の細縫 40%, 5 mmのスコリア 2%を含む	2 SYR2/1	無し	—	—	—	
PT223	横円形	深い丸形	0.52	0.22	—	—	—	—	—	—	
PT225	横円形	深い丸形	0.30	0.18	—	—	—	—	—	—	
PT226	円形	深い丸形	0.70	0.20	5 mmのスコリア 2%を含む やや粘性のある砂質土	SYR2/1	無し	○	—	—	
PT227	円形	深い丸形	0.61	0.15	5 mm以下の細縫 30%, 5 mmのスコリア 5%を含む やや粘性のある砂質土	2 SYR2/1	無し	—	—	—	
PT228	横円形	深い丸形	0.61	0.16	5 mm以下の細縫 40%, 5 mmのスコリア 2%を含む やや粘性のある砂質土	2 SYR2/1	無し	○	—	—	
PT234	円形	深い丸形	0.23	0.15	5 mm以下の細縫 40%, 5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性有り	N2/0	無し	—	—	—	
PT235	不明	箱形	0.81	0.62	度と 10 mm以下の細縫 20%を含む やや粘性有り	SPB1.7/1	無し	○	—	—	
PT236	方形	箱形	1.14	0.11	5 mm以下の細縫 30%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	○	—	—	
PT237	円形	深い丸形	1.30	0.07	5 mm以下の細縫 40%, 5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性有り	N2/0	無し	—	—	—	
PT238	不整形	深い丸形	0.35	0.36	5 mm以下の細縫 30%, 5 mmのスコリア 1%を含む やや粘性有り	10YR1.7/1	無し	—	—	—	
PT242	円形	深い丸形	0.48	0.36	—	—	—	—	○	—	
PT244	円形	箱形	0.50	0.16	—	—	—	—	○	—	
PT246	円形	箱形	0.38	0.19	—	—	—	—	○	—	
PT247	円形	深い丸形	0.58	0.21	—	—	—	—	—	—	
PT251	円形	深い丸形	0.34	0.10	5~20 mmの細縫 20%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	2 SYR2/1	無し	—	—	—	
PT262	円形	深い丸形	0.34	0.17	3~40 mmの細縫 30%, 1~3 mmのスコリア 2%を含む	SPR2/1	無し	○	—	—	
PT264	横円形	深い丸形	0.32	0.55	—	—	—	—	—	—	
PT266	不整形	深い丸形	1.05	0.50	8~15 mmの細縫 7%以下。1~2 mmのスコリア 1%を含む	A2.0 50G1/1 50G3/1	無し	—	—	—	
PT267	不整形	深い丸形	0.91	0.39	10~20 mmの細縫 5%, 1~2 mmのスコリア 1%を含む	N2/0 50Z/1	無し	—	—	—	
PT268	円形	深い丸形	0.37	0.41	—	—	—	—	—	—	
PT269	横円形	箱形	1.35 × 0.62	0.48	8~10 mmの細縫 7%以下。2~3 mmのスコリア 1%を含む	SPG2/1 SPG3/1 N3/0	無し	○	—	—	
PT270	横円形	深い丸形	0.94 × 0.72	0.59	—	—	—	—	○	—	
PT271	不整形	深い丸形	0.81 × 0.39	0.45	—	—	—	—	—	—	
PT272	不明	箱形	0.23	0.19	—	—	—	—	—	—	
PT273	円形	深い丸形	0.50	0.22	—	—	—	—	—	—	
PT274	不整形	深い丸形	0.53	0.32	—	—	—	—	—	—	
PT275	不整形	深い丸形	0.72	0.55	2~10 mmの細縫 20%, 5 mmのスコリア 2%を含む	2 SYR1.7/1	無し	○	—	—	

第16表 8区ピット計測表(7)

道標名	平面形	断面形	径(m)	深さ(m)	底土	色	覆土持まり	造物/古代	造物/中世	造物/近世
PT468	円形	深い丸形	0.84	0.54	5~8mmの細緻 20%, 3mmのスコリア 1%を含む	2.5YR2/1	無し	○		
PT469	円形	深い丸形	0.71	0.52	8~10mmの細緻 3%, 1mm以下~2mmのスコリア 3%を含む	2.5YR2/1 5YR2/1 7.5YR2/4	やや有り			

第17表 5区ピット計測表(1)

道標名	平面形	断面形	径(m)	深さ(m)	底土	色	覆土持まり	造物/古代	造物/中世	造物/近世
PT002	円形	深い丸形	1.09	0.20	5~8mmの細緻 5%, 2~5mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT003	楕円形	深い丸形	1.39 × 0.98	0.09	5~8mmの細緻 5%, 2~5mmのスコリア 3%を含む	5YR2/1	無し	○		
PT004	楕円形	深い丸形	1.00 × 0.80	0.14	5mmの細緻 7%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	10YR1.7/1	無し	○		
PT005	円形	深い丸形	0.39	0.32	—	—	—	—	—	—
PT006	円形	深い丸形	0.33	0.15	—	—	—	—	—	—
PT011	円形	深い丸形	1.40	0.18	5~10mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 5%を含む	N1.5/0	無し	○		
PT013	円形	深い丸形	0.41	0.18	5~8mmの細緻 7%, 2~3mmのスコリア 5%を含む	10YR1.7/1	無し			
PT015	円形	断面形	1.13	0.18	5~8mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	N1.5/0	無し	○		
PT016	円形	断面形	0.97	0.06	8~10mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT018	不整形	断面形	0.96 × 0.84	0.17	5mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 5%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT019	円形	深い丸形	1.25	0.06	5~8mmの細緻 3%, 2~5mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT021	不整形	断面形	1.54 × 1.06	0.21	10mmの細緻 3%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT022	楕円形	断面形	0.97 × 0.55	0.24	20~30mmの円錐, 10mmの細緻 5%, 3~6mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し			
PT023	楕円形	深い丸形	0.51 × 0.32	0.31	—	—	—	○		
PT026	円形	断面形	0.91	0.12	5~10mmの細緻 5%, 3~8mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し	○		
PT027	方形	断面形	1.13	0.29	10mmの細緻 3%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT028	円形	深い丸形	0.28	0.27	—	—	—	○		
PT029	円形	深い丸形	0.41	0.25	—	—	—	○		
PT030	円形	断面形	1.38	0.26	10mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT031	円形	深い丸形	0.39	0.43	—	—	—	○		
PT033	円形	深い丸形	0.45	0.38	—	—	—	○		
PT034	円形	深い丸形	0.35	0.40	—	—	—	○		
PT035	円形	深い丸形	0.30	0.22	—	—	—	○		
PT036	円形	深い丸形	0.28	0.37	—	—	—	○		
PT037	円形	深い丸形	0.44	0.23	—	—	—	○		
PT038	円形	深い丸形	0.48	0.24	—	—	—	○		
PT039	円形	深い丸形	0.39	0.21	—	—	—	○		
PT040	円形	深い丸形	0.33	0.49	—	—	—	○		
PT041	円形	深い丸形	0.34	0.33	—	—	—	○		
PT042	楕円形	深い丸形	1.23 × 1.06	0.22	8~10mmの細緻 3%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT043	円形	深い丸形	0.42	0.23	—	—	—	○		
PT044	楕円形	深い丸形	1.44 × 1.30	0.19	10mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT046	円形	深い丸形	1.26	0.26	5~8mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	N2/0	無し			
PT047	円形	深い丸形	0.89	0.11	10~15mmの細緻 3%, 5~8mmのスコリア 3%を含む	10YR1.7/1	無し			
PT049	不整形	深い丸形	1.58 × 1.27	0.12	8~10mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT050	円形	深い丸形	0.41	0.11	—	—	—	○		
PT051	円形	深い丸形	0.96	0.16	10mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 3%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT052	円形	深い丸形	1.15	0.17	5~10mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT053	不整形	深い丸形	0.34	0.16	—	—	—	○		
PT054	円形	深い丸形	1.37	0.24	5~8mmの細緻 7%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT055	円形	深い丸形	0.90	0.19	5~8mmの細緻 7%, 3~5mmのスコリア 5%を含む	7.5Y2/1	無し	○		
PT056	不整形	深い丸形	0.63	0.12	8~10mmの細緻 3%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	10YR1.7/1	無し			
PT057	円形	深い丸形	0.41	0.53	—	—	—	○		
PT058	円形	深い丸形	0.33	0.51	—	—	—	○		
PT059	円形	深い丸形	0.31	0.56	—	—	—	○		
PT060	円形	深い丸形	0.37	0.33	—	—	—	○		
PT062	円形	深い丸形	0.33	0.33	—	—	—	○		
PT063	円形	深い丸形	0.25	0.20	—	—	—	○		
PT064	円形	深い丸形	0.29	0.18	—	—	—	○		
PT065	円形	深い丸形	0.29	0.18	—	—	—	○		
PT066	円形	深い丸形	0.29	0.07	—	—	—	○		
PT068	円形	深い丸形	1.12	0.13	5~8mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	10YR2/1	無し			
PT070	円形	深い丸形	0.37	0.39	—	—	—	○		
PT071	円形	深い丸形	0.33	0.13	—	—	—	○		
PT072	不明	深い丸形	0.91(半)	0.36	—	—	—	○		
PT074	円形	深い丸形	0.35	0.06	—	—	—	○		
PT077	円形	深い丸形	0.42	0.15	—	—	—	○		
PT078	円形	深い丸形	0.27	0.11	—	—	—	○		
PT079	円形	深い丸形	0.33	0.16	—	—	—	○		
PT080	円形	深い丸形	0.35	0.16	—	—	—	○		
PT081	円形	深い丸形	0.72	0.03	5mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し			
PT082	円形?	深い丸形	0.56	0.20	5~8mmの細緻 5%, 2~3mmのスコリア 3%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT083	円形?	深い丸形	0.20	0.12	—	—	—	○		
PT084	円形	深い丸形	0.64	0.39	5~8mmの細緻 3%, 2~3mmのスコリア 3%を含む	2.5Y2/1	無し	○		
PT085	円形	深い丸形	0.65	0.21	5mmの細緻 5%, 3~5mmのスコリア 3%を含む	10YR1.7/1	無し	○		
PT086	円形	深い丸形	0.29	0.16	—	—	—	○		
PT087	円形	深い丸形	0.32	0.20	—	—	—	○		
PT088	円形	深い丸形	0.29	0.16	—	—	—	○		

第18表 5区ピット計測表（2）

透名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	地 土	色	腐土跡	生物	古代	遺物	中世	遺物	古物
PT090	円形	浅い丸形	0.31	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT091	円形	浅い丸形	0.37	0.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT093	円形	浅い丸形	0.38	0.17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT094	円形	浅い丸形	0.33	0.17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT097	楕円形	浅い丸形	0.49 ± 0.37	0.35	5~6mの細緻3%, 2~5mのスコリア3%を含む	10YR1.7/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT098	楕円形	浅い丸形	0.53 ± 0.38	0.21	5~6mの細緻3%, 2~5mのスコリア3%を含む	10YR1.7/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT100	楕円形	浅い丸形	0.26	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT102	円形	浅い丸形	0.35	0.12	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT103	円形	浅い丸形	0.41	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT104	円形	浅い丸形	0.41	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT105	円形	浅い丸形	0.32	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT106	不明	浅い丸形	0.69	0.56	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT110	円形	浅い丸形	0.30	0.04	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT111	円形	浅い丸形	0.37	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT112	円形	浅い丸形	0.32	0.20	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT113	円形	深い丸形	0.54	0.36	5mの細緻7%, 3~8mのスコリア5%を含む	2.5Y2/1	—	—	—	—	—	—	—
PT114	円形	深い丸形	0.37	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT115	円形	深い丸形	0.27	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT121	円形	深い丸形	0.79	0.03	8mの細緻3%, 2~3mのスコリア3%を含む	10Y3/1	—	—	—	—	—	—	—
PT122	円形	深い丸形	0.40	0.05	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT123	円形	深い丸形	0.94	0.06	5~8mの細緻3%, 2~3mmのスコリア3%を含む	N2/0	○	—	—	—	—	—	—
PT124	円形	深い丸形	0.25	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT125	楕円形	深い丸形	0.06 × 0.7	0.05	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT128	円形	深い丸形	0.30	0.24	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT130	円形	深い丸形	0.32	0.46	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT131	円形	深い丸形	1.11	0.10	5mの細緻7%, 2~5mのスコリア5%を含む	10YR1.7/1	—	—	—	—	—	—	—
PT133	楕円形	深い丸形	0.27	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT134	円形	深い丸形	0.26	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT135	円形	深い丸形	0.37	0.26	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT136	円形	深い丸形	0.29	0.38	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT137	円形	深い丸形	0.33	0.26	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT138	円形	深い丸形	0.30	0.41	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT139	円形	深い丸形	0.38	0.44	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT140	円形	深い丸形	0.36	0.45	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT141	円形	深い丸形	0.28	0.24	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT142	円形	深い丸形	0.36	0.19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT143	楕円形	深い丸形	1.05 ± 0.62	0.14	5~10mの細緻5%, 3~5mのスコリア3%を含む	2.5Y2/1	無し	○	—	—	—	—	—
PT144	方形	深い丸形	0.39 ± 0.26	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT145	楕円形	深い丸形	0.54	0.37	50mmの円錐、5~10mの細緻5%, 3~5mのスコリア3%を含む	10Y2/1	無し	○	—	—	—	—	—
PT146	円形	深い丸形	0.48	0.38	8~10mmの細緻5%, 3~5mのスコリア3%を含む	10Y2/2	無し	○	—	—	—	—	—
PT147	円形	深い丸形	0.65	0.24	10mmの細緻5%, 3~8mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し	○	—	—	—	—	—
PT148	楕円形	深い丸形	0.45	0.52	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT149	円形	深い丸形	0.50	0.31	10mmの細緻5%, 3~5mのスコリア5%を含む	2.5Y2/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT150	円形	裏研形	0.62	0.36	10~12mmの細緻3%, 3~8mmのスコリア3%を含む	10YR1.7/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT151	円形	深い丸形	0.47	0.39	10mmの細緻3%, 2~5mmのスコリア5%を含む	10YR1.7/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT152	円形	深い丸形	0.7 ± 0.59	0.23	5~8mmの細緻3%, 3~5mのスコリア3%を含む	SY2/1	無し	○	—	—	—	—	—
PT153	円形	深い丸形	0.29	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT154	方形	深い丸形	0.41 ± 0.29	0.15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT155	楕円形	深い丸形	0.37	0.04	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT156	円形	深い丸形	0.30	0.47	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT157	円形	深い丸形	0.33	0.17	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT158	円形	深い丸形	0.31	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT159	円形	深い丸形	0.34	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT160	円形	深い丸形	0.30	0.20	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT161	円形	深い丸形	0.30	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT162	円形	深い丸形	0.33	0.33	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT163	円形	深い丸形	0.32	0.34	—	—	—	—	—	—	○	—	—
PT164	不規則	深い丸形	0.5 ± 0.37	0.34	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT165	円形	深い丸形	0.32	0.21	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT166	円形	—	1.04	0.10	10mmの細緻3%, 2~3mのスコリア5%を含む	10YR2/1	無し	—	—	—	—	—	—
PT167	円形	深い丸形	0.34	0.22	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT168	円形	深い丸形	0.30	0.15	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT169	円形	深い丸形	1.21	0.08	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT170	円形	深い丸形	0.32	0.07	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT171	円形	深い丸形	0.23	0.30	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT172	円形	深い丸形	0.35	0.25	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT173	円形	深い丸形	0.29	0.23	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT174	楕円形	裏研形	0.38	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT175	円形	裏研形	0.30	0.16	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT176	円形	裏研形	0.24	0.10	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT177	円形	裏研形	0.36	0.09	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT178	円形	深い丸形	0.28	0.19	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT179	円形	裏研形	0.35	0.14	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT180	円形?	深い丸形	0.33	0.18	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT181	楕円形	深い丸形	0.43	0.29	—	—	—	—	—	—	—	—	—
PT182	円形?	深い丸形	0.35	0.26	—	—	—	—	—	—	—	—	—

第19表 5区ピット計測表（3）

造標名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	基 土	色	固土跡あり	造物/古代	造物/中世	造物/近世
PT183	円形？	浅い丸形	0.37	0.26	—	—	—	—	—	—
PT184	不整形	浅い丸形	0.65 × 0.48	0.30	—	—	—	—	—	—
PT185	円形	浅い丸形	0.38	0.12	—	—	—	—	—	—
PT186	方角？	深い丸形	0.92 × 0.71	0.83	10mm以下の細粒30%、5mm以下のスコリア10%を含む砂質土	2 SY2/1 N2/0	やや有り	—	—	—
PT187	円形？	深い丸形	0.33	0.19	—	—	—	—	—	—
PT188	不明	深い丸形	0.52	0.10	—	—	—	—	—	—
PT189	不明	深い丸形	0.8 × 0.59	0.13	—	—	—	—	—	—
PT190	楕円形	深い丸形	0.59 × 0.37	0.10	—	—	—	—	—	—
PT191	楕円形	深い丸形	0.31 × 0.21	0.07	—	—	—	—	—	—
PT192	楕円形	深い丸形	1.59 × 1.23	0.26	—	—	—	—	—	—
PT193	円形	圓形	1.17	0.14	—	—	—	—	—	—
PT194	円形	深い丸形	0.83	0.77	—	—	—	○	—	—
PT195	円形	深い丸形	0.89	0.15	10mm以下の細粒10%、5mm以下のスコリア1%を含む	N3/0	無し	—	—	—
PT196	楕円形	深い丸形	0.45	0.09	—	—	—	○	—	—
PT197	楕円形	深い丸形	0.63	0.39	5mm以下の細粒20%、5mm以下のスコリア1%を含む砂質土	N1 5/0 N2/0	無し	—	—	—
PT198	不明	深い丸形	0.59	0.34	10mm以下の細粒10%、5mm以下のスコリア2%を含む	10R1.7/1	無し	—	—	—
PT199	円形？	深い丸形	0.97	0.16	—	—	—	—	—	—
PT200	楕円形？	深い丸形	0.59	0.40	—	—	—	—	—	—
PT201	円形	深い丸形	0.61	0.34	5mm以下の細粒10%、5mm以下のスコリア1%を含む	10R1.7/1	無し	—	—	—
PT202	不整形	深い丸形	0.72 × 0.64	0.45	5mm以下の細粒5%、1～2mmのスコリア1%を含む やや粘性がある砂質土	2 SY2/1	やや有り	—	—	—
PT203	円形	深い丸形	0.90	0.19	—	—	—	—	—	—

第V章 6区の調査

第V章 6区の調査

第1節 6区の調査経過

中原遺跡6区は全体調査区の中で、中央からやや東寄りに位置し、ほぼ正方形に設定された1,160m²の調査区である。

平成21年3月2日から防砂ネット等資材の搬入など環境整備を行った後、3月17日から25日まで重機による表土掘削を実施した。その後3区・4区の撤収作業や6区と同時に開始した5区の環境整備・表土除去などを進めたため、4月9日まで6区の作業は中断した。調査は4月10日より再開し、表土除去が完了した地点からグリッドの設定を行った後、4月13日からは遺物包含層の掘削に着手した。5月14日までに包含層の掘削作業が完了したため、引き続き遺構検出面の精査を行い、遺構プランを確認した。5月26日から検出遺構の掘り下げを順次開始し、6月23日には全ての遺構調査を完了させた。6月25日には空中写真撮影を行い、写真撮影後はただちに重機による埋め戻しを開始し、同時に防砂ネット等の資材を撤去して6月30日に6区の全ての作業を完了させた。

第2節 6区の遺構と遺物

遺構は調査区全域で検出されたが、SB遺構は北側に集中している。遺構には古墳時代後期から奈良平安時代にかけての竪穴住居址14軒と、これらと同時期と思われる掘立柱建物址1棟、中世以降の溝状遺構15条、土坑1基、黄瀬川に由来すると考えられる赤土盛土地点が3か所認められる。また組み合わせの判明しなかったピットは247基検出された。

出土遺物は遺構から出土したもののはか、遺物包含層でもまとまった量が確認できた。出土遺物は古墳時代後期～奈良平安時代に帰属するものが大部分を占めるが、中世の遺物も少量であるが出土している。

(1) 竪穴住居址 6-SB

調査区中央付近から北側にかけて11軒、東端付近で2軒、南西部で1軒検出されている。主軸方位は西北西～東南東に軸を持つSB1・SB6・SB8と、北西～南東に持つSB3、そして北東～南西に持つSB2・SB4・SB5・SB7・SB9・SB10・SB12・SB13・SB14の3つのグループに分かれる(第144図)(SB11は主軸方位不明)。

6区第1号住居址 (6-SB1 第145図～第147図)

126-40Gr・126-41Grで検出された。一部の上端がピットや擾乱に切られている箇所もあるが、ほぼ全容を捉えることができた。平面形は方形を呈し、立ち上がりは深さ0.46mが残存していた。

規模 東西4.99m×南北4.68m 重複関係なし

主軸方位 N-57°-W 壁 溝 検出されない。

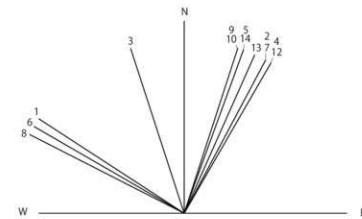
柱穴 9基検出。主柱穴と考えられるP1～P4は径0.22～0.32m・深さ0.20～0.21mを測る。P5～P8は主柱穴よりも規模が大きいが、いずれも深さは浅い。P5は径0.65m・深さ0.15m、P6は径1.11m・深さ0.10m、P7は径0.80m・深さ0.11m、P8は径0.77m・深さ0.09mを測る。主柱穴と同規模で、P1とP2の中間に位置するP9は径0.29m・深さ0.27mを測る。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また硬化面が住居址中央部に認められる。

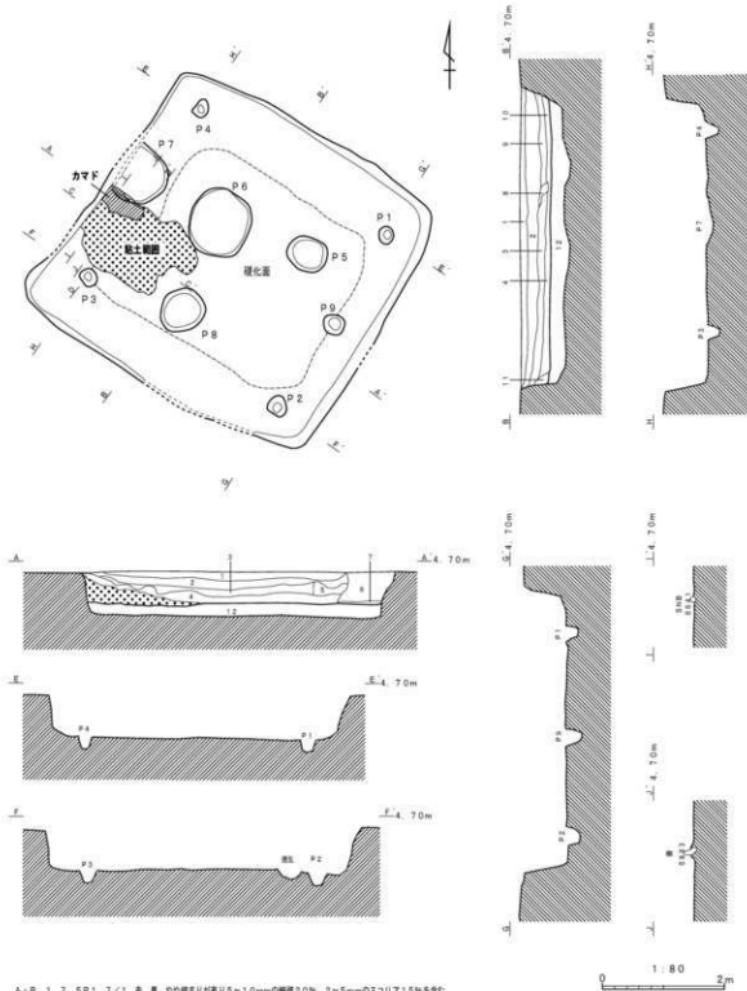
カマド 西辺やや南寄りに位置する。ほぼ崩壊していたが、カマド本体は北側の袖部のみが残存していた。袖部には芯材と考えられる礫が伴い、また燃焼部には支脚と考えられる砂質ブロックが検出された。カマドの南西側には構築土と思われる粘土が崩壊に伴って広がっている。またカマド周辺からは多量の土器片が出土している。



第143図 6区遺構配置図

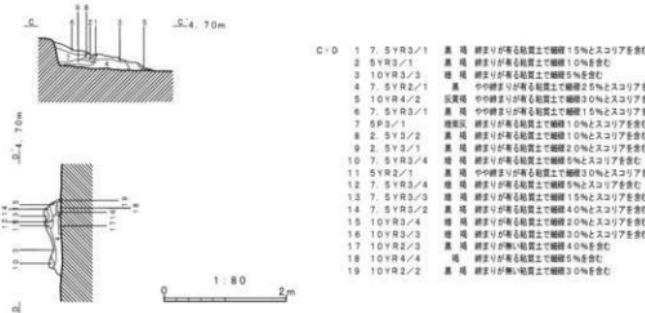


第144図 6区主軸方位

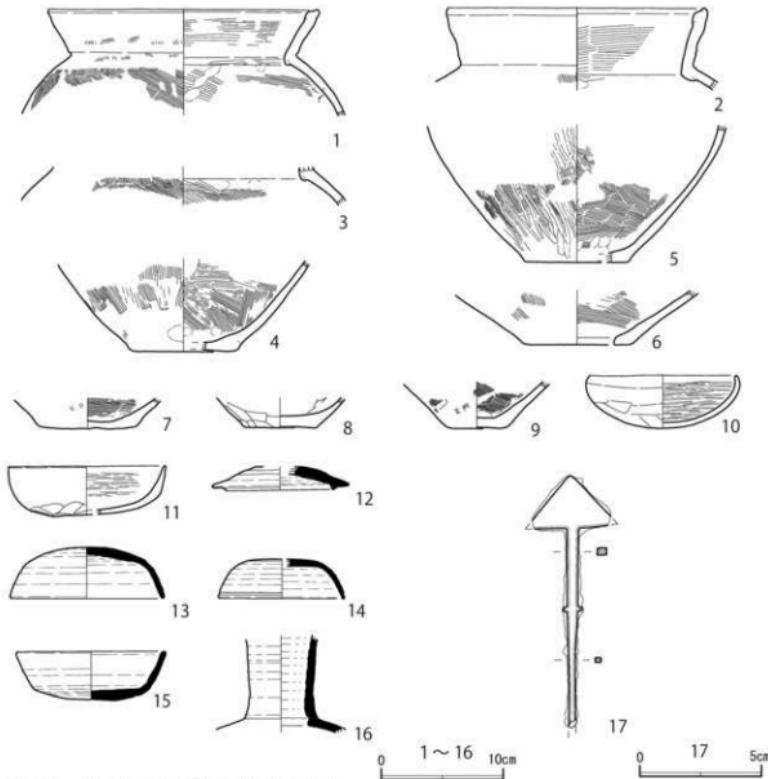


- A-B 1 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり5~10mmの細隙20%, 2~5mmのスコリア15%を含む
 2 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10~15mmの細隙15%, 2~8mmのスコリア15%を含む
 3 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10~15mmの細隙15%, 2~8mmのスコリア15%を含む
 4 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10~15mmの細隙10%, 2~5mmのスコリア15%を含む
 5 N1. 5/0 面 畑 やや傾まりがあり5~10mmの細隙10%, 3~5mmのスコリア15%を含む
 6 5YR1. 7/1 面 畑 中やや傾まりがあり15~18mmの細隙15%, 3~5mmのスコリア20%を含む
 7 5YR1. 7/1 面 畑 中やや傾まりがあり15~18mmの細隙15%, 3~5mmのスコリア20%を含む
 8 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり12~15mmの細隙10%, 2~5mmのスコリア10%を含む
 9 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10mmの細隙10%, 3~8mmのスコリア15%を含む
 10 7. 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10mmの細隙10%, 2~5mmのスコリア15%を含む
 11 5R1. 7/1 面 畑 やや傾まりがあり10mmの細隙10%, 2~5mmのスコリア15%を含む
 12 N1. 5/0 面 畑 分質土層

第145図 6区第1号住居址実測図(1)



第146図 6区第1号住居址実測図（2）



第147図 6区第1号住居址出土遺物実測図

遺物 遺物はカマドとその周辺で多量に出土しており、そのうち土器 16 点と鉄製品 1 点を図示した。土器は 1 ~ 11 は土師器で、12 ~ 16 が須恵器である。

1 ~ 9 は甕である。1・2 は口唇部が肥大化しているが、ミガキ調整は認められず、ハケメ調整のみである。3・4 も同様でハケメ調整のみであるが、5 のみミガキ調整が施されている。6 は、焼成後に穿孔がなされる。また内面に煤が多量に付着している。ハケメ調整であることから器種を甕としたが、瓶などへ転用している可能性が高い。7 も同じく底部片で、穿孔はされていないが、6 と同じく内面に煤が多量に付着している。8 は底部にヘラケズリがなされ、他の甕と色調が異なる。9 は他の甕と比べて底径が小さいため、小型甕であろう。なお、底部片はいずれにも木葉痕が認められ、8 を除いては全てカマド周辺から出土し、8 は床面直上から出土している。

10・11 は壺である。10 はカマド周辺から出土している。粗製胎土であるが、外面はケズリ、内面は丁寧なミガキによって調整されている。11 は緩やかな稜を持ち、口唇部がわずかに外反している。

12 ~ 14 は蓋である。12 は返り蓋で、本来は摘みも有していたと考えられる。13・14 は壺身の可能性もあるが、天井部に自然釉が認められることから蓋とした。また 13 は SB1 で扱ったが、SB6・SB8 の破片と接合した。15 は無台壺身である。底面には十字の窯印が認められる。16 は壺もしくは瓶類の頸部である。SB1 に掲載したが、SB4・SB9 の破片と接合した。13 を除き、須恵器はおおよそ遠江 IV 期後葉～末葉（V 期初頭）に位置づけられる。

17 は鎌身～茎部が残存する平根三角形式の鉄鎌である。茎間は棘間で、ここを境とすると、頭部よりも茎部が長い。また茎尻に向けてやや先細っている。中原遺跡出土鉄鎌の中で、唯一の平根三角形式の鉄鎌である。

時期 須恵器から 7 世紀後葉～末葉に位置づけられる。

6区第2号住居址（6-SB2 第148図・第149図）

125-40Gr・126-40Gr で検出された。平面形は東南辺がやや張り出す方形である。住居址西側の床面が PT280 に、据方の一部が不明遺構 SX1 により切られている。SX1 は所見がなく、SB2 との関連は不明である。SB2 の立ち上がりは深さ 0.48m が残存していた。

規模 東西 4.24m × 南北 3.78m 重複関係 なし

主軸方位 N-28°-E 壁 溝 検出されない。

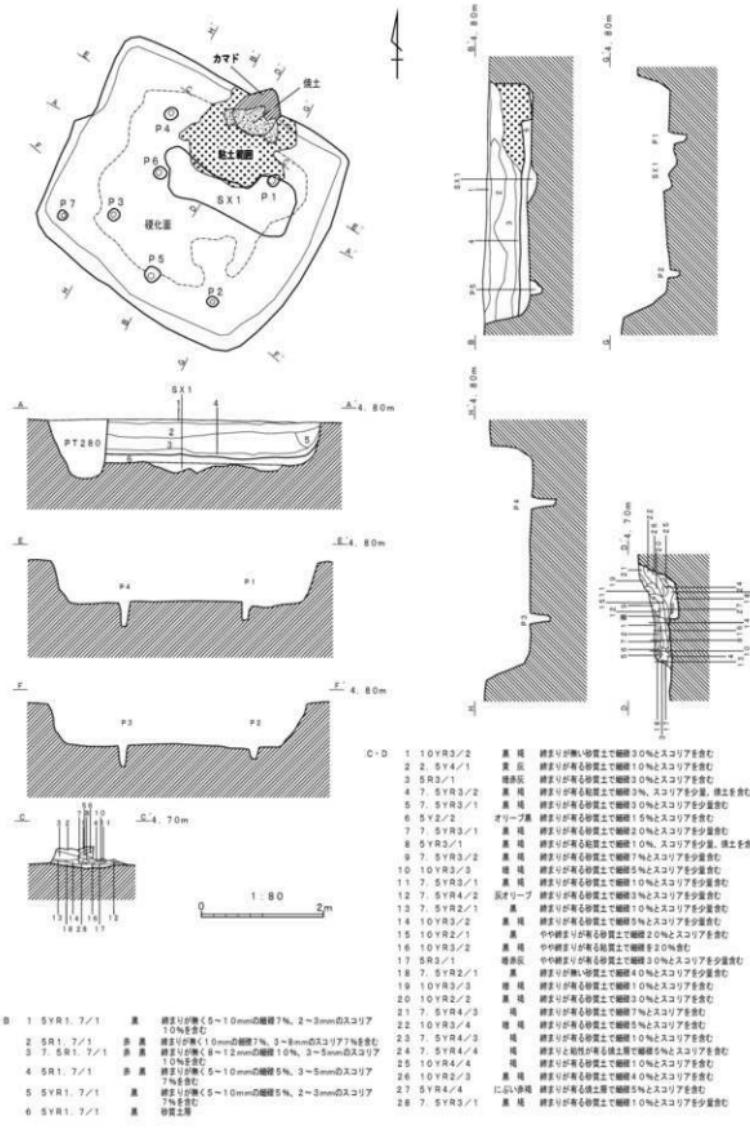
柱穴 7 基検出。P1・P2 は径 0.14 ~ 0.21m・深さ 0.20 ~ 0.29m、P3・P4 は径 0.19 ~ 0.21m・深さ 0.33 ~ 0.39m、P5 ~ P7 は径 0.17 ~ 0.26m・深さ 0.13 ~ 0.23m を測る。主柱穴は P1 ~ P4 と考えられる。

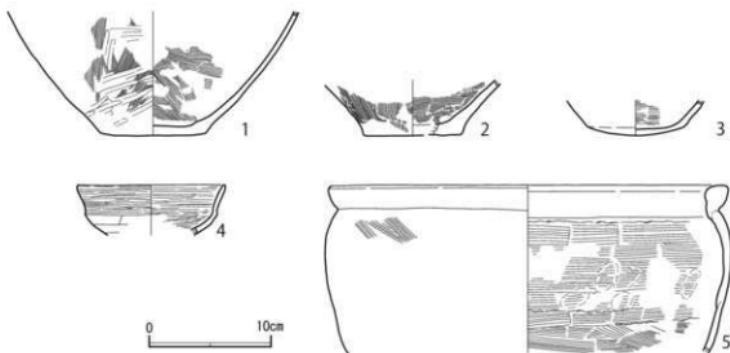
貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また住居址南東部を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、袖部と燃焼部を確認した。また砂質ブロックや多量の土器片が検出している。カマド周辺にはカマドの構築土とみられる粘土の広がり、焼土が認められた。

遺物 土器はカマドとその周辺で多量に出土しているが、破片資料が多く、図示できたものは 5 点であった。いずれも土師器である。1・2 は甕で、1 の胴部にはヘラミガキと考えられる光沢がわずかに認められるが、2 はハケメ調整のみである。ともに底部に木葉痕が認められる。3・4 は壺で、4 は内面に黒色処理が認められる。5 は口縁部が肥厚化している壺である。1・2・5 はカマドから出土した。また図示できなかった須恵器の小片に遠江 IV 期に位置づけられる小型化した壺身片がある。

時期 ミガキ調整を伴う甕や須恵器壺身から 7 世紀後半に位置づけられる。





第149図 6区第2号住居址出土遺物実測図

6区第3号住居址 (6-SB3 第150図~第154図)

125-38Gr・125-39Gr・126-38Grで検出された。SD3との重複箇所は、SD3により床面まで掘削されている。平面形はやや西辺が張り出す方形を呈する。立ち上がりは深さ0.52mが残存していた。住居址中央部がやや盛り上がっており、粘土の広がりが認められた。

規模 東西5.41m×南北4.93m **重複関係** (古) SB3→SD3(新)

主軸方位 N-18°-W **壁溝** 検出されない。

柱穴 11基検出。P1・P11を除き、4か所で2つの柱穴が隣接する。南東部から検出したP2・P8はP2が径0.27m・深さ0.33m、P8が径0.22m・深さ0.18mである。南西部で検出したP3・P9は、P3が径0.30m・深さ0.35m、P9が径0.39m・深さ0.20mである。北西部検出のP4・P5・P10はP4が径0.19m・深さ0.36m、P5が径0.36m・深さ0.32m、P10が径0.21m・深さ0.15mである。北東部で検出したP6・P7は、P6が径0.16m・深さ0.13m、P7が径0.21m・深さ0.15mを測る。主柱穴が2基ずつ掘られていることから、建て替えがあった可能性が想定されるが、隣接する柱穴において、規模と深さは必ずしも一定でない。なお単独で検出されているP1は径0.24m・深さ0.28m、P11は径0.63m・深さ0.15mである。

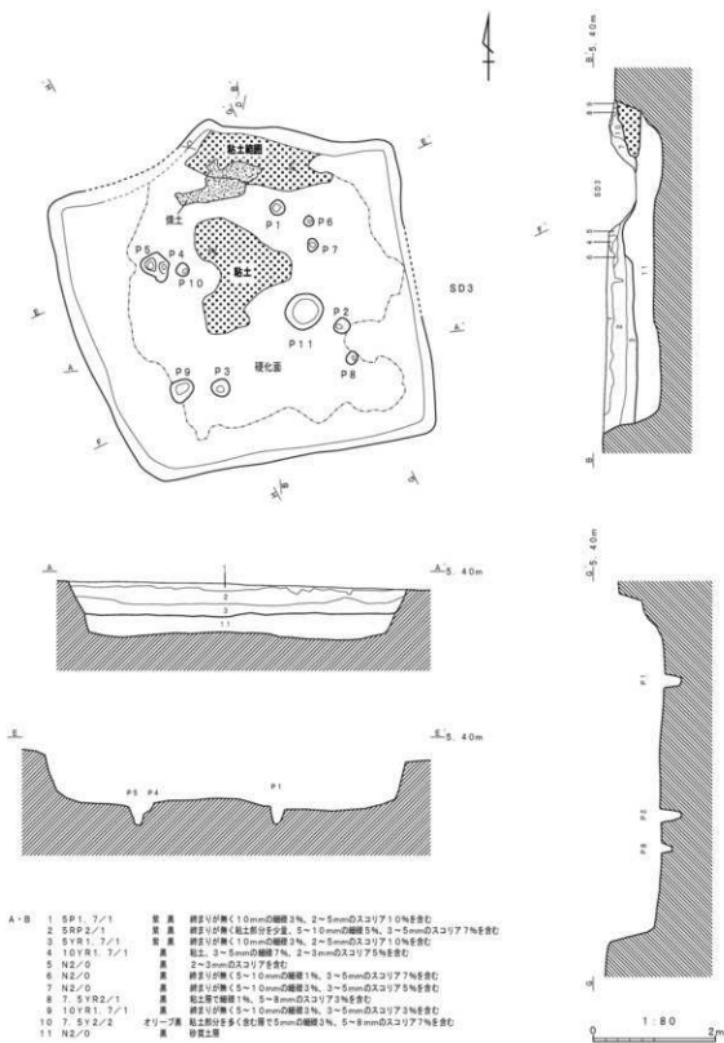
貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また壁面付近を除いて住居址全面に硬化面が検出された。

カマド 北辺のほぼ中央に位置する。崩壊していること、SD3に切られていることから形状は確認できなかったが、カマドの構築土とみられる粘土の広がりと掘方認められた。芯材等は確認されていない。また住居址中央でも粘土の広がりを検出したが、ここでは焼土を伴わなかった。

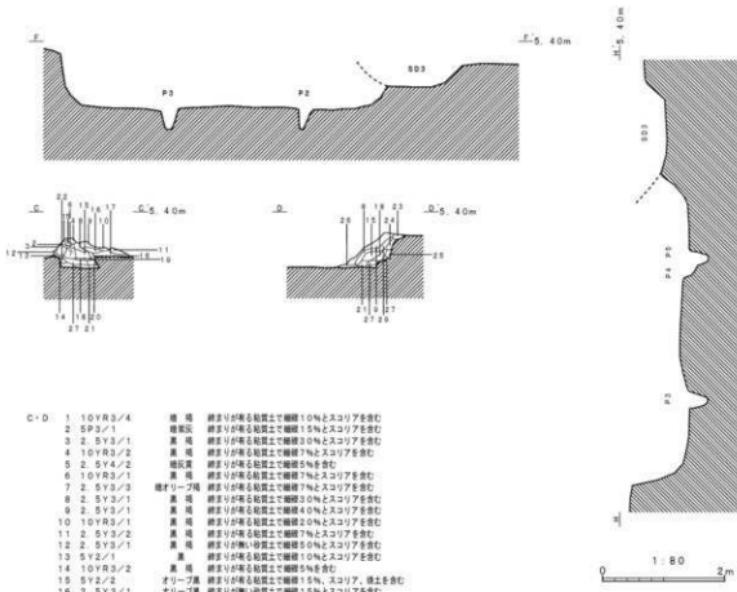
遺物 遺物はカマドとその周辺、床面直上で多数出土し、土器22点と鉄製品1点を図示した。土器は1~20が土師器、21・22が須恵器である。

1~10は甕で、8を除いていずれもハケメ調整のみで、ミガキ調整は認められない。5のみ黄灰色の胎土で、頸部をケズリ(もしくはナデカ)調整を施す。胎土が他の甕とは異なっており、搬入品であろう。1・5・8・10がカマドから出土し、3・4・6・7は床面直上からの出土である。

11~17は壺で、17のみ粗製胎土である。11・12は稜が明確な須恵器模倣壺で、13はこれらに比べて、稜は明瞭ではない。14・15は口縁部が外に向けてやや開く。11・13が内外面ともに黒色処理、12・



第150図 6区第3号住居址実測図（1）



C-D	1. 10YR5/4	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻10%とスコリアを含む
2	5P5/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
3	5Y5/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
4	10YR5/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
5	2. 5Y4/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻5%を含む
6	10YR3/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻7%とスコリアを含む
7	2. 5Y3/3	層 リリーフ	細まりが極まる粘質土で細緻7%とスコリアを含む
8	2. 5Y3/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻10%とスコリアを含む
9	5Y1/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻10%とスコリアを含む
10	10YR3/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻20%とスコリアを含む
11	2. 5Y3/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻7%とスコリアを含む
12	2. 5Y3/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻5%とスコリアを含む
13	5Y2/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻10%とスコリアを含む
14	10YR3/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻5%を含む
15	5Y1/2	ガーネット	ガーネットを含む粘質土で細緻10%とスコリアを含む
16	5Y1/1	オジマ	オジマが集まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
17	N3/0	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻30%とスコリアを含む
18	7. 5YR4/3	層	細まりが極まる粘質土で細緻20%とスコリアを含む
19	10YR5/3	にじいろ	細まりが極まる粘質土で細緻10%とスコリアを含む
20	10YR6/3	にじいろ	細まりが極まる粘質土で細緻5%とスコリアを含む
21	10YR6/2	にじいろ	細まりが極まる粘質土で細緻5%とスコリアを含む
22	10YR6/3	にじいろ	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
23	10YR2/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻20%とスコリアを含む
24	5R3/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻20%とスコリアを含む
25	7. 5YR2/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
26	5YR2/2	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻20%とスコリアを含む
27	7. 5YR4/3	層	細まりが極まる粘質土で細緻15%とスコリアを含む
28	7. 5YR3/1	層 磨	細まりが極まる粘質土で細緻1%とスコリアを含む

第151図 6区第3号住居址実測図（2）

14は内面のみ黒色処理を施す。16は胎土が緻密であるが、体部には明瞭に指頭圧痕が残り、また底面には木葉痕が観察できるなど、17の粗製胎土の环と共に調整方法が認められる。17は黒色粒をまばらに含んだ粗製の环である。18も同様の胎土で、黒色粒をまばらに含んだ粗製塊である。11・15・17・18がカマドから出土し、13は床面直上から出土した。

19・20は堀で、調整技法は甕と共に通する。

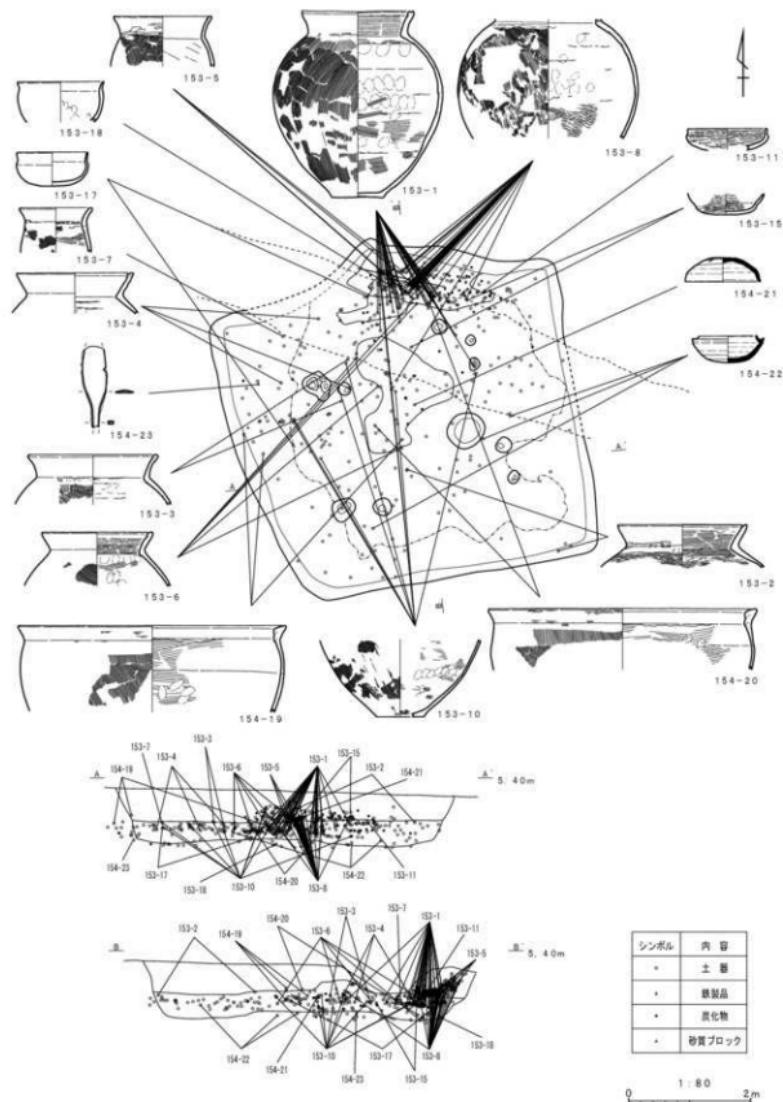
21は环蓋、22は环身である。それぞれ遠江IV期前葉頃に位置づけられる。

23は柳葉式で环身は撫閑と考えられる鐵鍊である。鍊身断面は片丸造りを呈しているが、鍊身平面形は全体的に丸みを持つ。このことから未製品の可能性もある。23は掘方面から出土した。

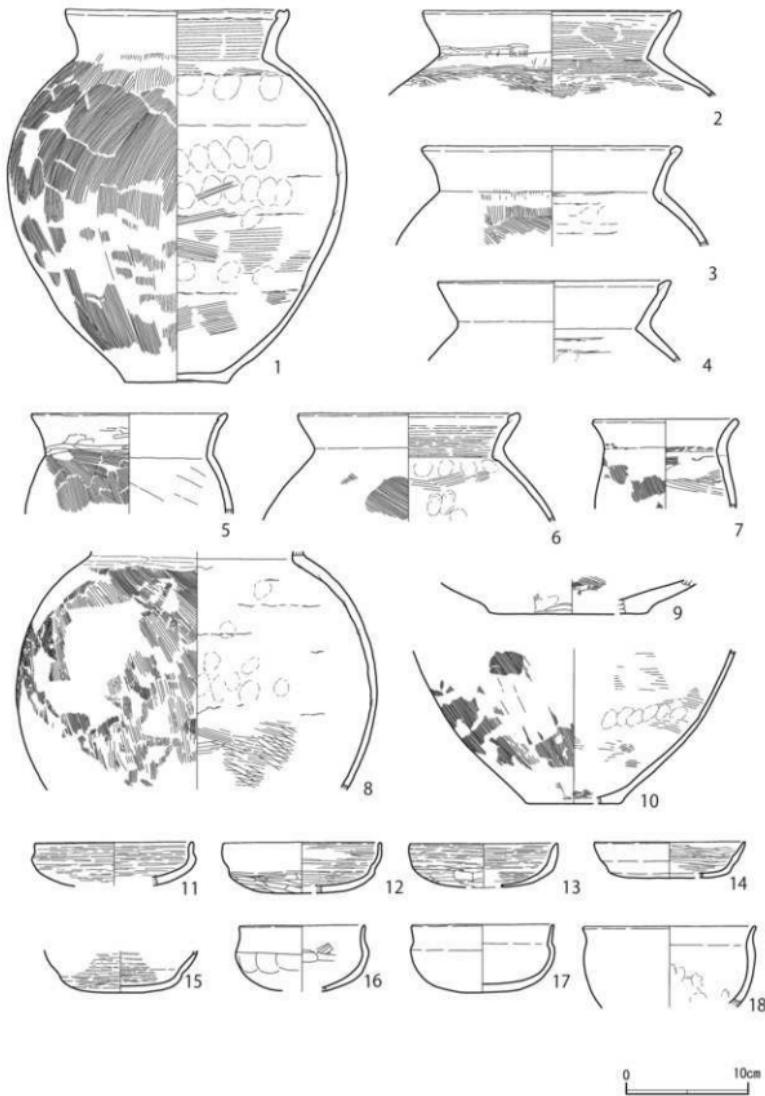
時期 須恵器から7世紀前半～中頃に位置づけられる。

6区第4号住居址（6-SB4 第155図～第159図）

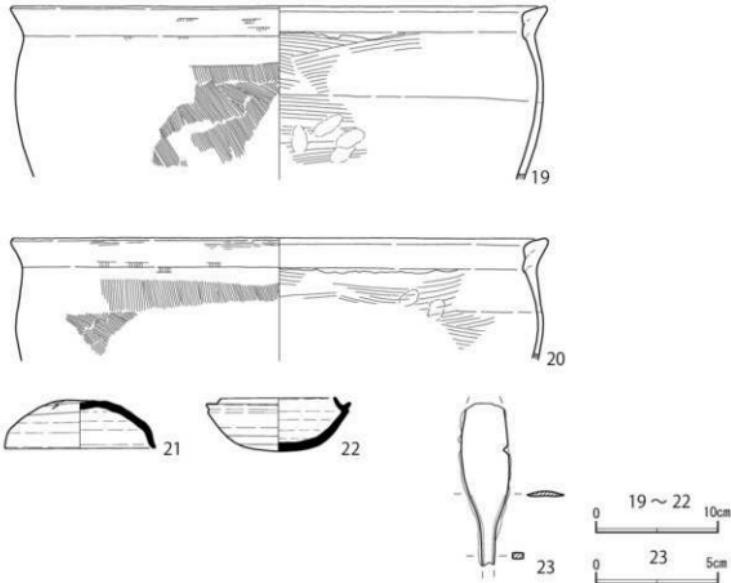
126-40Gr・127-40Gr・127-41Grで検出された。平面形は西辺がやや張り出す長方形を呈し、立ち上がりは深さ0.52mが残存していた。SB12と重複するが、検出段階でSB12を認識できず、SB4の調査が進行してから、SB12の立ち上がりが確認された。そのため、SB12出土遺物の大部分がSB4として取り上げられている。



第152図 6区第3号住居址遺物出土状況図



第153図 6区第3号住居址出土遺物実測図（1）



第154図 6区第3号住居址出土遺物実測図（2）

規模 東西 6.17m × 南北 5.43m 重複関係 (古) SB12 → SB4 (新)

主軸方位 N-30°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 31基検出。重複するSB12の柱穴を含んでいる可能性もあるが、多くの柱穴がSB4の壁面に沿って検出されている。平面形は円形、楕円形または不整な円形を呈する。検出数が多いため、規模等は第155図右下に記した。

主柱穴と考えられる柱穴はP1・P28・P3・P4と考えられるが、P1にはP23が、P28にはP27が隣接する。またP3にも掘り直しの痕跡が認められるため、SB4は建て替えが行われた可能性がある。

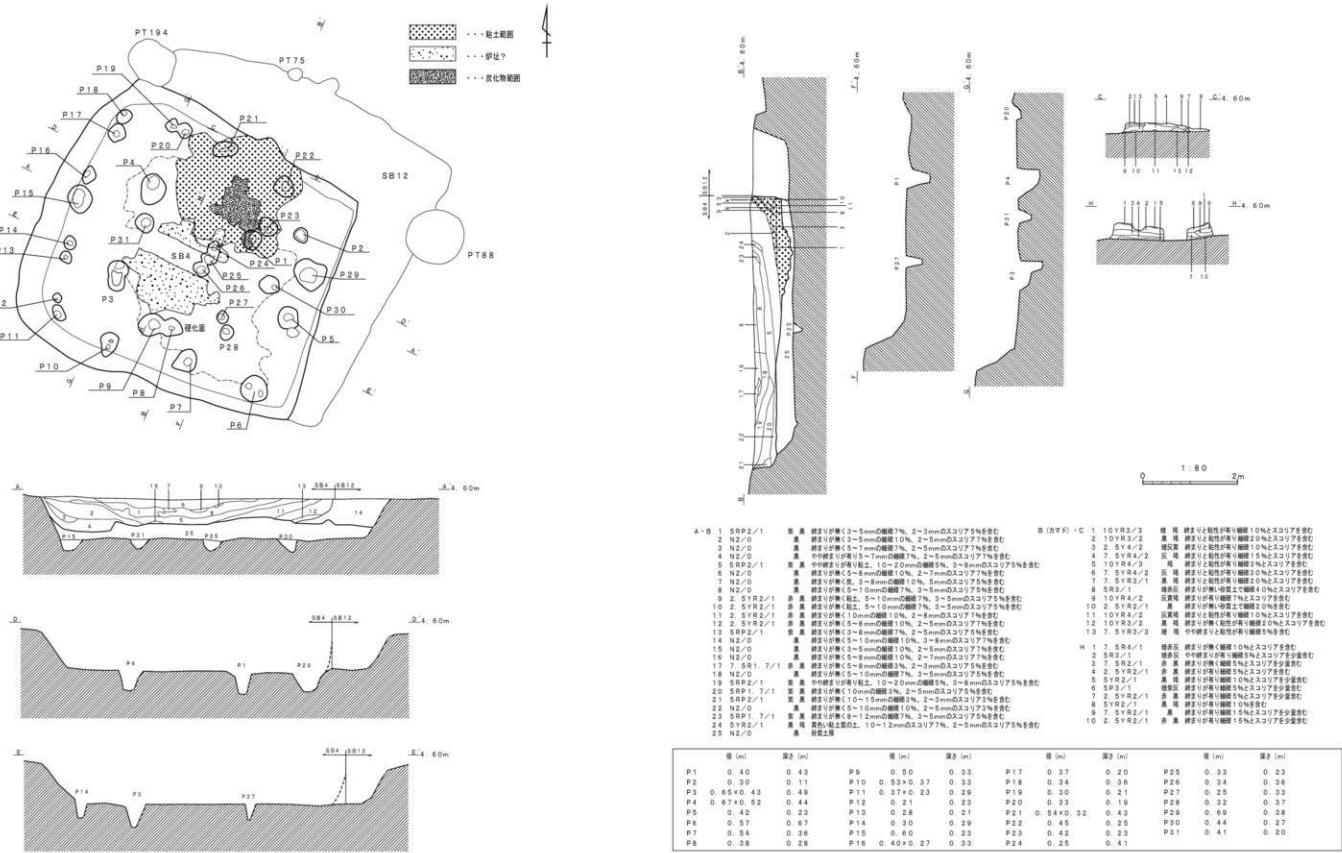
P5～P7・P10～P22・(P29?)は壁面に沿って検出された。壁面沿いの柱穴は南面と西面の間隔が密で、東面には認められない。住居址の西面は2つずつ柱穴が隣接する。またP21とP22はカマドの袖部脇に掘られている。

さらにSB中央を二分するようにP30・P25・P31がある。この柱穴列を境として、南側では遺物の出土数が少なくなる(第156図)。その他に規則性が明らかでない柱穴としてP2・P8・P9がある。SB12に帰属する可能性もあるが、ここに掲載した。

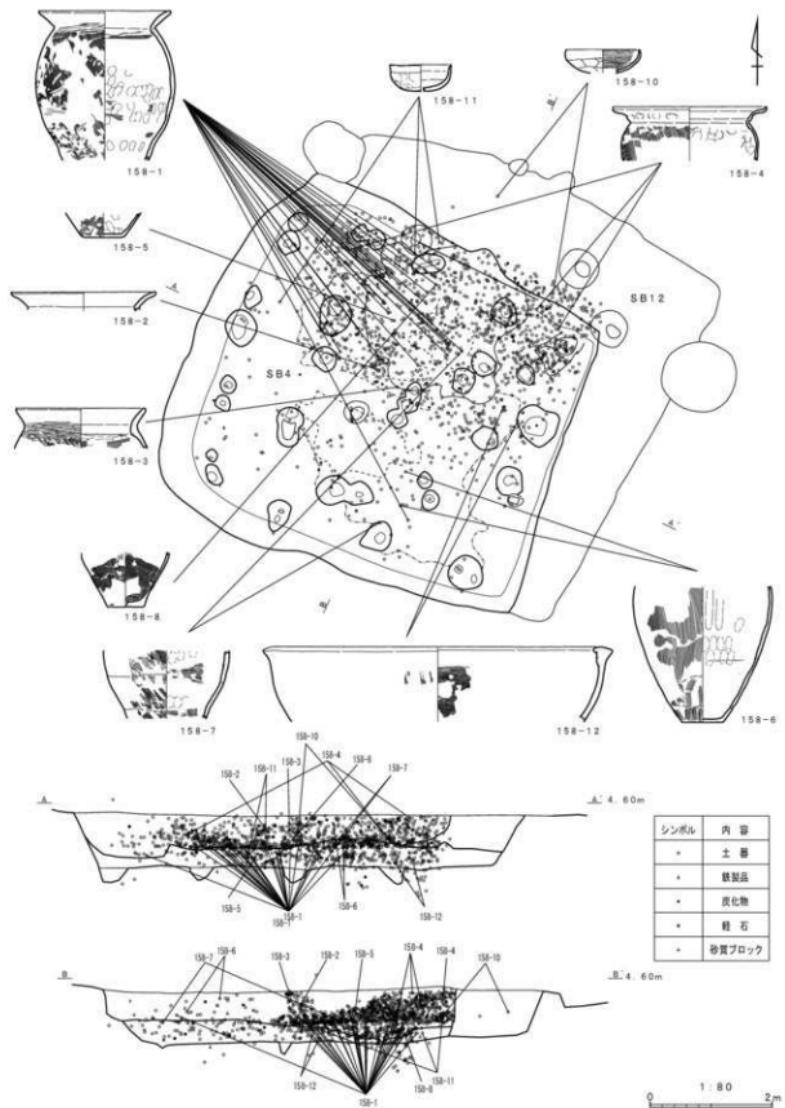
貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。住居址中央に硬化面が検出された。

カマド 北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状を確認できなかったが、構築土と思われる粘土の広がりと多量の炭化物が検出された。そのほかに芯材等は確認されなかった。またカマドと別に、住居址中央とやや南側にも粘土の広がりが認められたが、焼土は伴っていない。

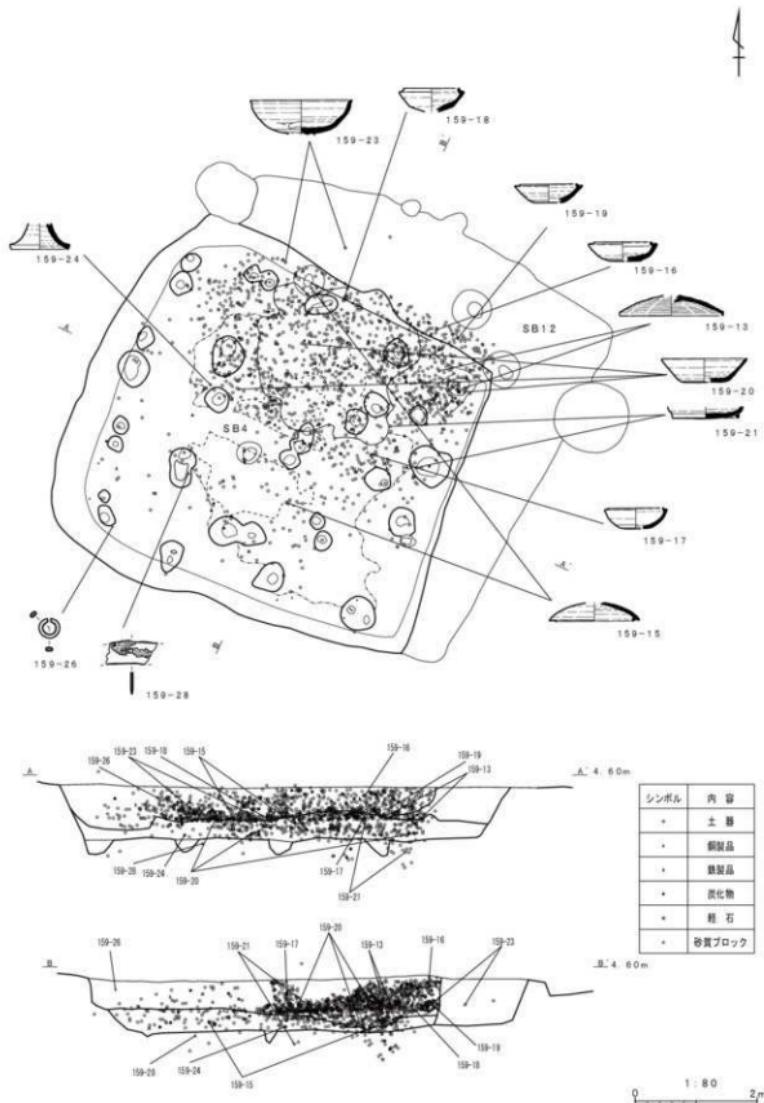
遺物 遺物はほぼ全域で検出しているが、先述したように特に北側において土器が多量に出土した。これは元々のSB4の遺物の豊富さに加えて、SB4がSB12と重複していたものの、大部分の遺物をSB4



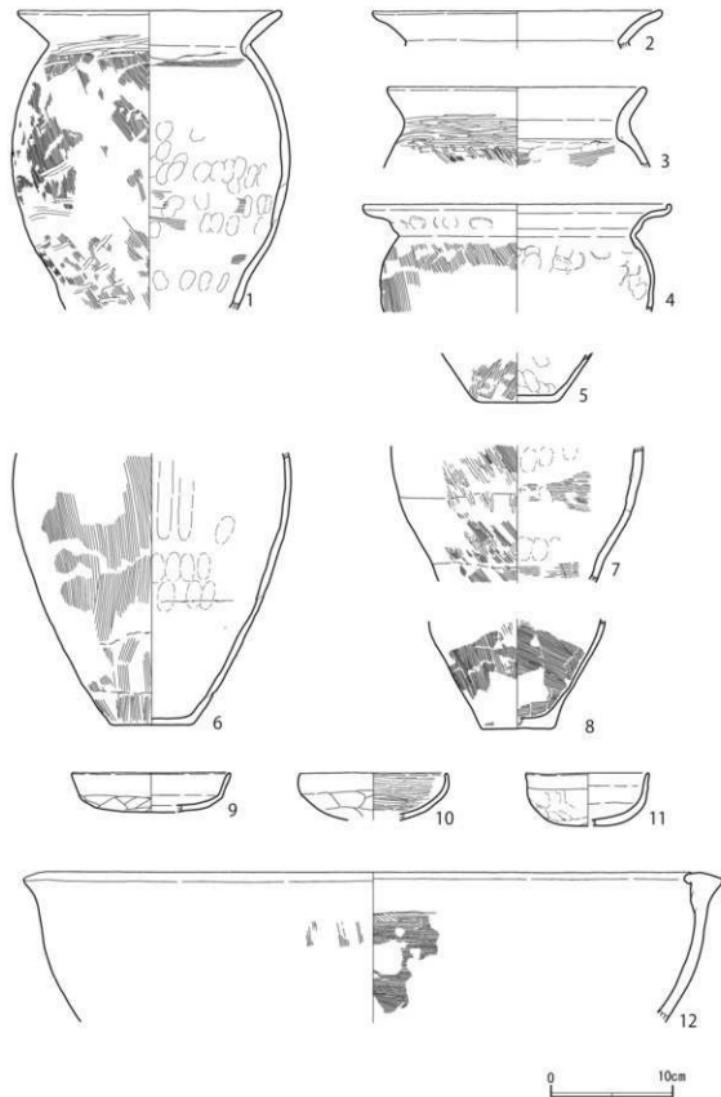
第155図 6区第4号住居址実測図



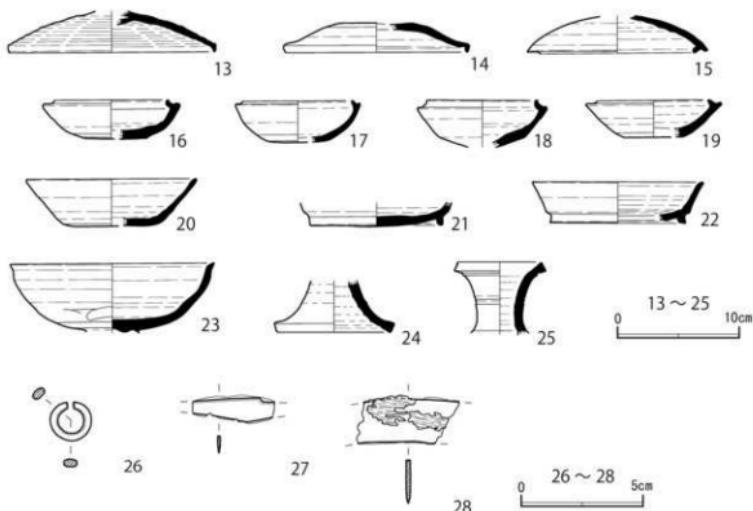
第156図 6区第4号住居址遺物出土状況図（1）



第157図 6区第4号住居址遺物出土状況図（2）



第158図 6区第4号住居址出土遺物実測図（1）



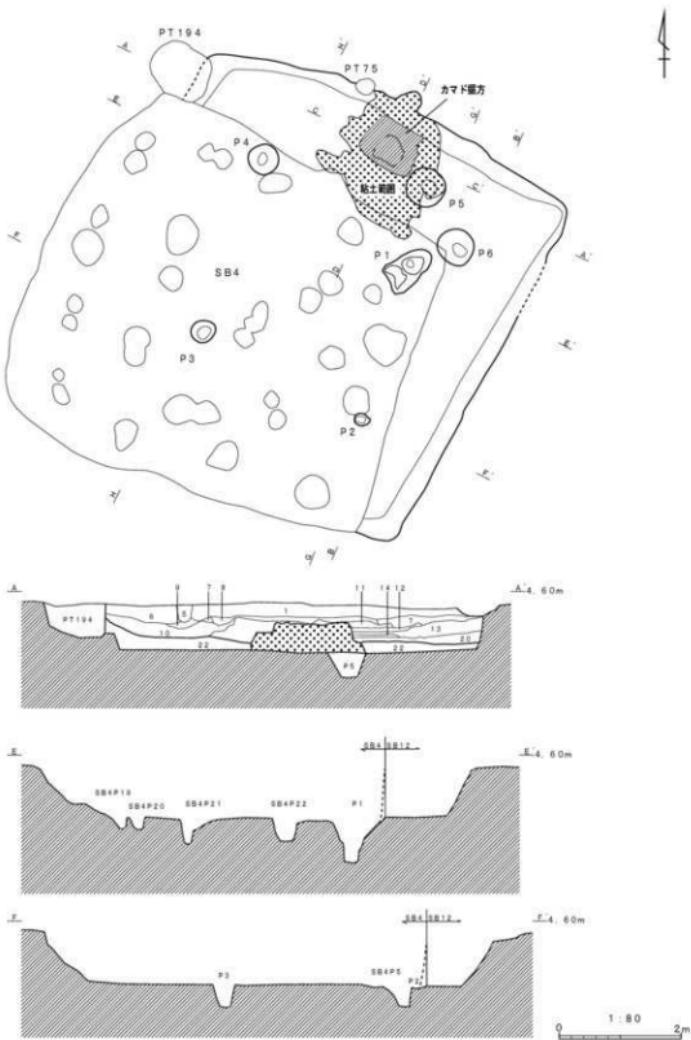
第159図 6区第4号住居址出土遺物実測図（2）

として取り上げたことにも起因する。整理作業の結果、SB4として取り上げた遺物には、8世紀代に位置づけられる一群と7世紀代に位置づけられる一群とが混在していることが判明したが、この時期差はSB4とSB12の時間差を示していると考えられる。だが整理段階で全ての出土遺物をSB4とする注記作業が完了していたため、作業上の混乱を避けるためにも確実にSB12に帰属すると判断できるものを除き、全てSB4の項目で扱った。

図示したものは土器が25点、銅製品1点、鉄製品2点の計28点である。土器は1～12が土師器、13～25が須恵器である。

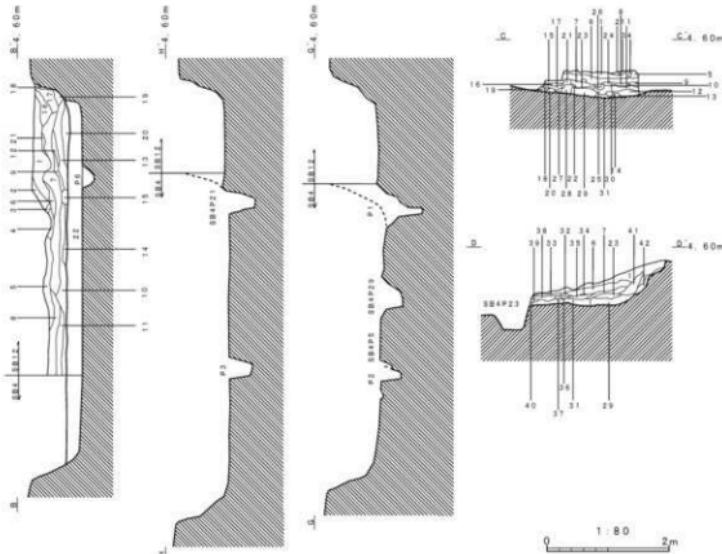
1～8は甕である。1は長胴甕で、胴部の一部にはミガキ調整が施されている。2・3は同じく長胴甕の口縁部である。3の頸部には丁寧なミガキ調整がなされる。4は遠江系水平口縁甕で、器壁は薄く、色調は灰黄褐色で、胎土には白雲母が混じる。5は4と同様の胎土を持った底部片である。おそらく4と同一個体であろう。6～8は長胴甕の胴部～底部片である。6・8はハケメ調整のみであるが、7はミガキ調整が施されている。8はSB8の小片と接合し、1・4・5はカマドから出土した。9～11は壊である。9は外面ケズリ調整のみで、ミガキ調整は認められない。10はカマドから出土し、内面は黒色処理を施す。11は胎土に黒色粒をまばらに含む粗製胎土の壊である。3点ともにSB12として取り上げがなされている小片遺物と接合した。12は壠で、口縁部は肥厚化している。

13～15は蓋で、3点ともに摘みが失われている。15のみ返りが付く。13は床面から出土した。また14はSB5・SB8から出土した破片と接合し、15はSB6出土資料と接合した。16～19は壊身である。遠江IV期（後葉頃か）に位置づけられる。20はやや軟質胎土の無台壊身、21・22は有台壊身である。有台壊身は底部が高台より張り出す。ともに遠江V期前半頃である。23・24は高壊で、前者は壊部で、口唇部が外反し、壊部の底が平底を呈す。後者は脚部で、外面に自然軸が見られる。碗型壊部を持つ高壊は、遠江V期前半までには消滅してしまうとされるため、それ以前に位置づけられる。おそらく21・22と同時期であろう。25は長頸甕もしくは瓶類の口縁部である。



第160図 6区第12号住居址実測図（1）

26は耳環で、縦1.6cm、横1.7cm、厚さ0.6cm、重さ4.07gを測る。地金は銅で、鍍金は銀を主成分とする。
 27は切先を欠損するが、刃部と茎部が一部残存する刀子片で、闇は刃部側が撫闇、棟側は直角闇である。
 28は鏹と考えられるが、小片のため詳細は不明である。木質が付着する。



A - B	1. 7. SYR2/1	赤 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	2. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙2.5%とスコリアを含む
	3. SYR3/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙2.5%とスコリアを含む
	4. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	5. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	6. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	7. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	8. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	9. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	10. 2. SYR2/1	赤 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	11. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	12. SYR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙1.5%とスコリアを含む
	13. 10YR2/1	赤 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙2.0%とスコリアを含む
	14. 10YR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙2.0%とスコリアを含む
	15. 10YR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	16. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	17. 2. SYR2/1	黒 畳	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	18.	地山	
	19. SYR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	20. 10YR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	21. 7. SYR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
	22. 2. SYR2/1	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙4.0%とスコリアを含む
C - D	1. 10YR5/1	堀 反	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	2. 10YR4/4	堀	跡まりが有る軒裏土で細隙5.0%を含む
	3. 10YR3/2	堀	跡まりが有る軒裏土で細隙5.0%とスコリアを含む
	4. 10YR3/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙1.5%とスコリアを含む
	5. 10YR3/5	窓	跡まりが有る軒裏土で細隙1.5%とスコリアを含む
	6. 10YR3/6	窓	跡まりが有る軒裏土で細隙1.5%とスコリアを含む
	7. SYR4/6	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%を含む
	8. 10YR4/6	窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%を含む
	9. 7. SYR2/2	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	10. 7. SYR4/3	縦井戸	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む

C - D	11. 7. SYR3/4	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙1.5%とスコリアを含む
	12. 7. SYR2/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	13. 7. SYR2/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	14. 7. SYR3/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	15. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙2.0%とスコリアを含む
	16. 10YR3/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	17. 10YR3/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	18. 10YR4/3	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	19. 10YR3/3	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	20. 10YR6/3	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	21. 10YR6/3	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	22. 3. SYR4/6	赤 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	23. 10YR6/3	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	24. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	25. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	26. 10YR3/3	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	27. 10YR3/3	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	28. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	29. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	30. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	31. 10YR5/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	32. 7. SYR2/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙2.0%とスコリアを含む
	33. 7. SYR2/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙2.0%とスコリアを含む
	34. 7. SYR2/4	にじく窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	35. SYR2/4	縦 通風口	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	36. SYR4/2	縦 通風口	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	37. 7. SYR4/3	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	38. 7. SYR4/4	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	39. 7. SYR4/4	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	40. 10YR5/4	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	41. 10YR4/4	縦 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む
	42. 7. SYR2/2	黒 窓	跡まりが有る軒裏土で細隙3.0%とスコリアを含む

第161図 6区第12号住居址実測図(2)

時期 土師器長胴甕が出土し、須恵器がV期前半の様相を示すことから、8世紀前半に位置づけられる。須恵器Ⅳ期後葉の遺物は、切り合い関係を持つSB12からの混入であろう。

6区第12号住居址(6-SB12 第160図~第162図)

127-40Gr・127-41Grで検出された。SB4と重複しており、北東側のみが残存していた。残存部から方形であると推定され、立ち上がりは深さ0.54mである。

規模 東西6.37m×南北6.24m(残存部) 重複関係(古) SB12→SB4(新)

主軸方位 N-30°-E(残存部) 壁溝 検出されない。

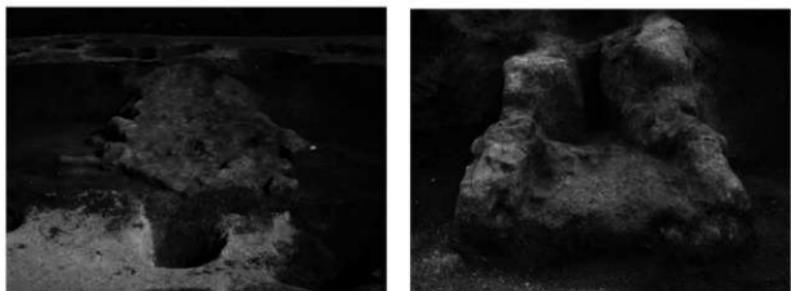
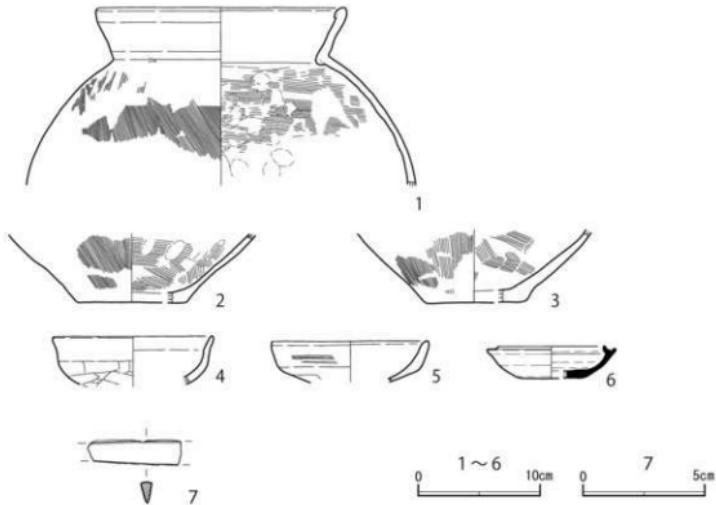


写真 17 6区第12号住居址カマド粘土検出状況および調査状況



第162図 6区第12号住居址出土遺物実測図

柱穴 6基検出。P1は径 $0.80m \times 0.52m$ （残存部）・深さ $0.59m$ 、P2は径 $0.26m$ ・深さ $0.33m$ 、P3は径 $0.39m \times 0.38m$ 、P4は径 $0.50m \times 0.45m$ 、P5は径 $0.49m \times 0.32m$ 、P6は径 $0.62m \times 0.38m$ を測る。主柱穴は位置関係からP2・P3・P4・P6と考えられる。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は確認できなかった。

カマド 北辺の中央に位置する。袖部や燃焼部が確認されたが、完掘状況の図面がなく、天井部崩壊に伴う粘土の広がり範囲と掘方のみが固化されている。そのため、粘土の広がりおよび本体検出は写真を掲載した。芯材等は確認されず、粘土のみの構築と考えられる。

遺物 土器は主にカマド周辺で出土しているが、SB4でも記載したように、SB12の多くの遺物はSB4として取り上げがなされている。ここでは少数ながらもSB12として取り上げ作業が行われ、図示ができたものを記載する。

土器を6点、鉄製品を1点、計7点を図示した。1~3は土師器の甕で、球胴甕である。ミガキ調整

はいずれにも認められない。4・5は坏で、ともに稜は緩やかで、丸みを持って立ち上がる。4は胎土に黒色粒を少量含む。5はカマドから出土した。6は須恵器の坏身で、小型化が進行していることから、遠江IV期後葉～末葉に位置づけられる。

7は刀子の刃部片と考えられる。断面形は鋭い三角形を呈す。

時期 ミガキ調整を伴わない球胴甕とIV期後葉～末葉の須恵器坏身から7世紀後半～末頃に位置づけられる。したがってSB4出土の須恵器坏身(第159図16～19)はSB12からの混入の可能性がある。

6区第5号住居址 (6-SB5 第163図～第167図)

126-39Gr・126-40Grで検出された。平面形は方形を呈する。立ち上がりは深さ0.55mが残存していた。小規模なSBであるが、カマドの残存状況は良好で、カマド周辺からは多量の土器が出土した。

規模 東西3.47m×南北3.26m 重複関係 なし

主軸方位 N-20°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 4基検出。径は0.27～0.41m・深さは0.26～0.29mを測る。

貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また壁面付近を除き、ほぼ全面に硬化面が認められる。

カマド 北辺の中央に位置する。やや崩壊しているが、袖部・燃焼部を確認し、袖石が検出された。カマドの前面には崩壊に伴う粘土の広がりが認められるとともに、土器破片が多量に出土している。

遺物 土器31点、石器1点、計32点を図示した。土器は1～25が土師器、26～31が須恵器である。

1～14は球胴甕で、いずれもハケメ調整のみで、ミガキ調整は伴わない。口唇部が残存するものについてはやや内側に肥厚化している。3は小型甕である。外面はハケメ調整であるが、内面はナデのみの調整である。1・2・3・4がカマド周辺から出土した。

15～17は坏である。15は体部の稜が強く、口縁は内湾する。黒色粒を含むが、内面調整は丁寧で胎土も粗製ではない。16はやや稜が緩やかであるが、15と同様に内湾口縁坏である。15の外面はナデによる調整で、16の外面はミガキ調整と黒色処理が施される。17は粗製胎土の坏で黒色粒をまばらに含む。18は丸底気味の底部を持つ塊で、口唇部がやや反する。外面にはケズリ痕が明瞭に残るが、その上からまばらにミガキ調整が施される。19も同じく塊で、18と比べると、底部に厚みがある。外面はケズリを施し、その際に付いたと考えられるハケメ調整のような痕跡も観察できる。20は塊もしくは壺類の底部である。下半はケズリを施すなど、調整方法は坏と共通する。21・22は高坏の坏部で、21は内外面とともに黑色処理を施す。15・19がカマド周辺から出土した。

23～25は懶である。23は完形品で、カマドの東側から出土している。外面はハケメやケズリ調整の後にミガキ調整を施す。内面にはケズリ痕を強く残し、一部にのみミガキ調整が認められる。24・25は胴部～底部片であるが、ともに内面のミガキが23と比べて密に施される。

26は坏蓋で床面直上から出土した。27～30は坏身で、遠江III期末葉～IV期前葉に位置づけられる。

31は脚付盤類であるが、脚部は残存していない。SB8で出土した破片と接合した。

32は敲石で、SBの西南端で出土した。石材は凝灰岩である。長楕円形を呈する。

時期 須恵器から7世紀前半に位置づけられる。

6区第6号住居址 (6-SB6 第168図～第170図)

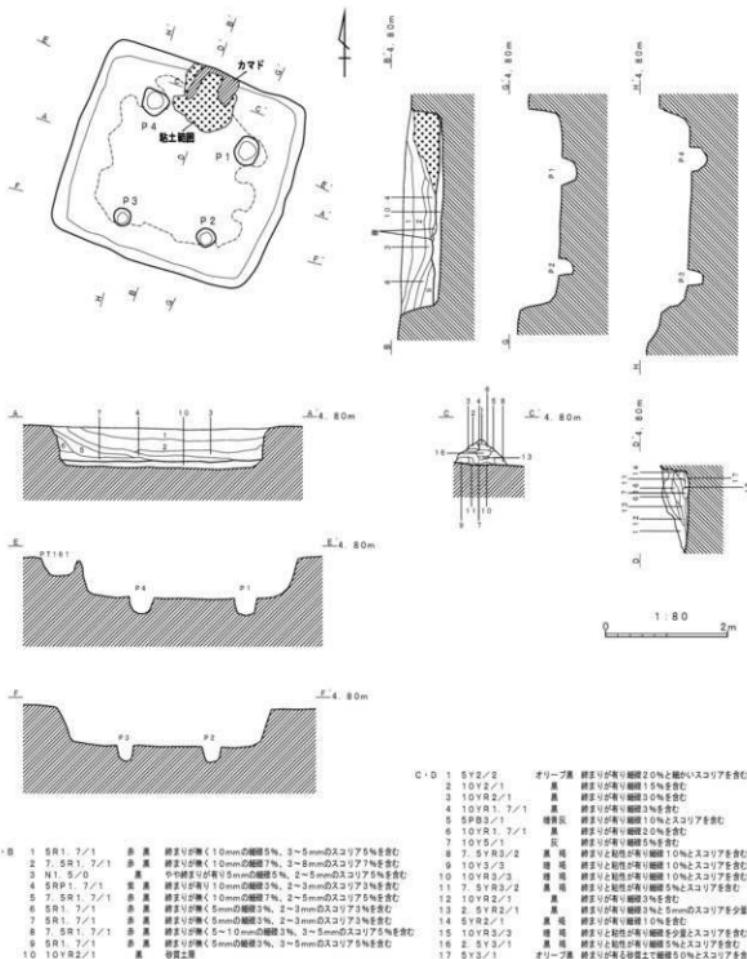
127-39Gr・127-40Grで検出された。SB7と重複する。平面形は方形で、立ち上がりは深さ0.53mが残存していた。

規模 東西3.99m×南北4.39m 重複関係 なし

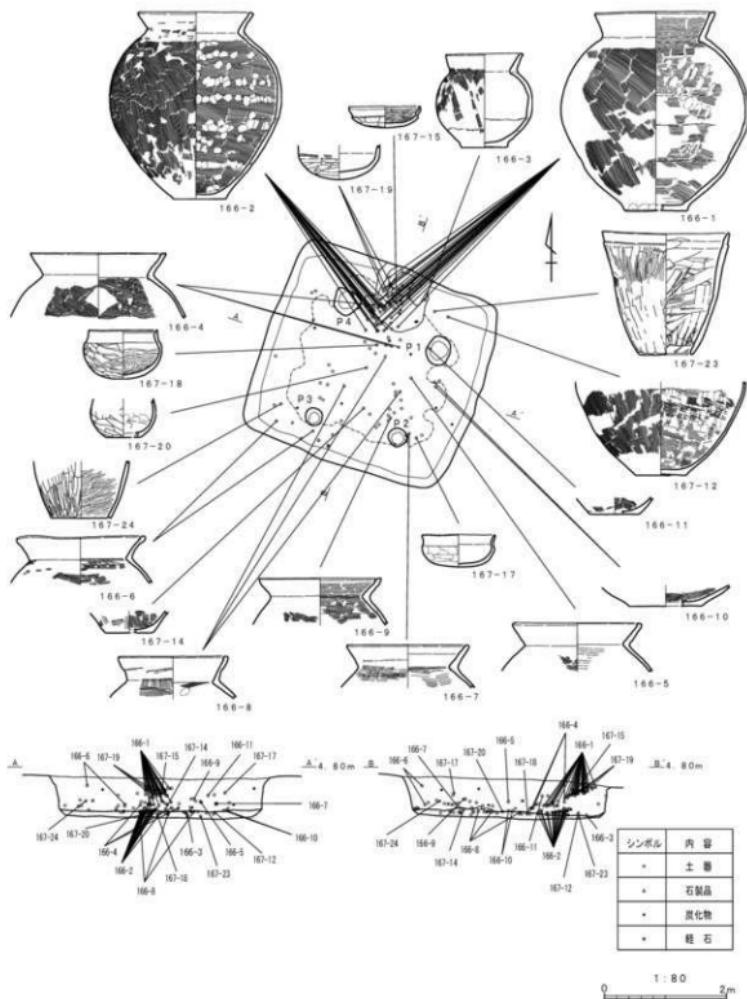
主軸方位 N-60°-W 壁溝 検出されない。

柱穴 4基検出。径は0.31～0.34m・深さは0.30～0.39mである。

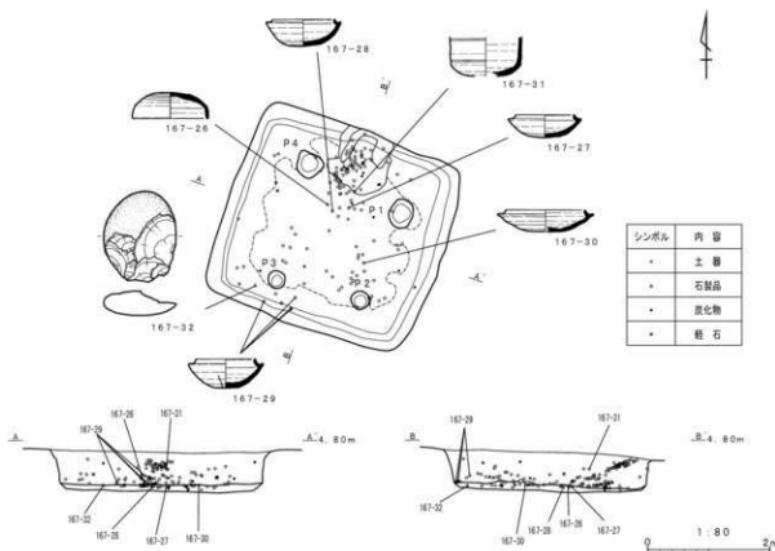
貼床 黒色の砂質土を使って床面としている。また床面のほぼ全域で硬化面を検出した。



第163図 6区第5号住居址実測図



第164図 6区第5号住居址遺物出土状況図（1）



第165図 6区第5号住居址遺物出土状況図（2）

カマド 西辺に位置していたと思われるが、ほぼ崩壊しているため形状は確認できなかった。カマドの構築上とみられる粘土の広がりと掘方のみが検出され、芯材等は確認されなかった。

遺 物 土器 10点、石製品 1点、鐵製品 2点、計 13点を示した。土器は 1～7 が土師器、8～10 が須恵器である。

1～5 は甕である。1 は小型甕で、調整方法はその他の甕と共通する。2～5 は長胴甕と考えられる。2 は SB8 より出土した破片と、4 は SB3 の破片とそれぞれ接合した。5 のハケメは他の個体よりも目が細かい工具が使われている。

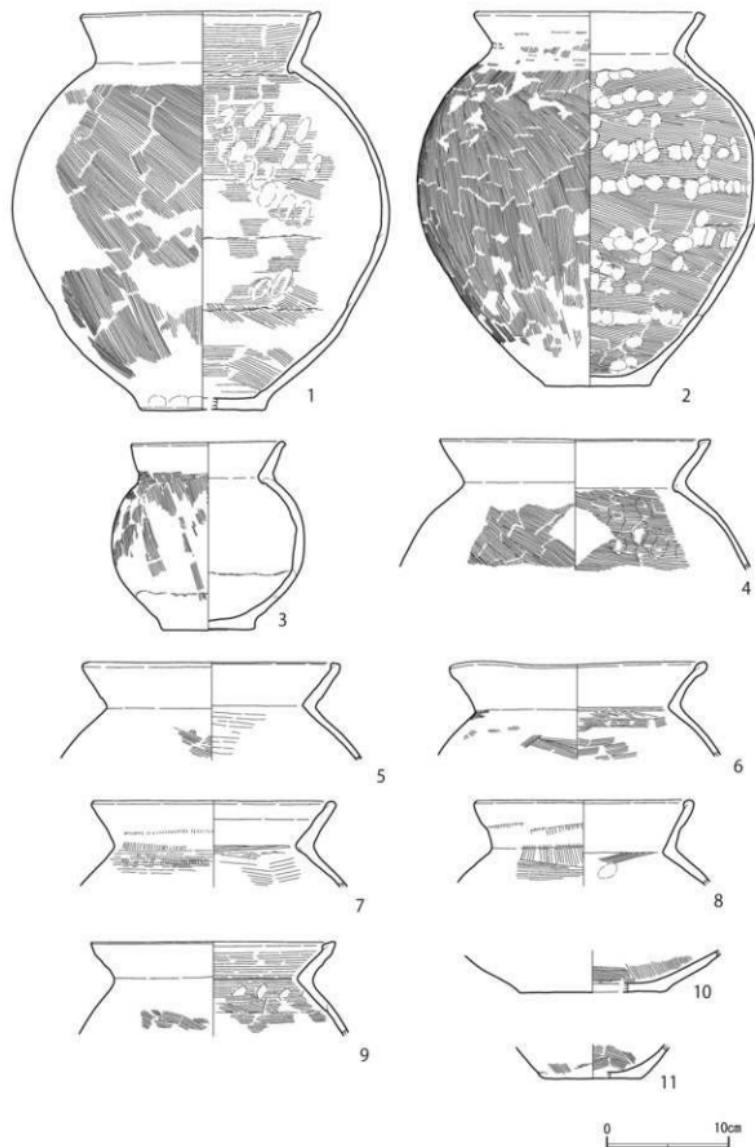
6 は壺で、稜は弱く口唇部は緩やかに外反する。内面はミガキ調整とともに赤彩を施す。7 は高壺で、壺部のみが残存する。外面はケズリとミガキによる調整、内面は丁寧なミガキで、内外面ともに黒色処理を施す。

8 は底部が高台よりも張り出す有台壺身である。9 は無台の碗（もしくは壺身）で、カマドから出土した。10 は皿である。8～10 はそれぞれ遠江 V 期前半（新段階）頃に位置づけられる。

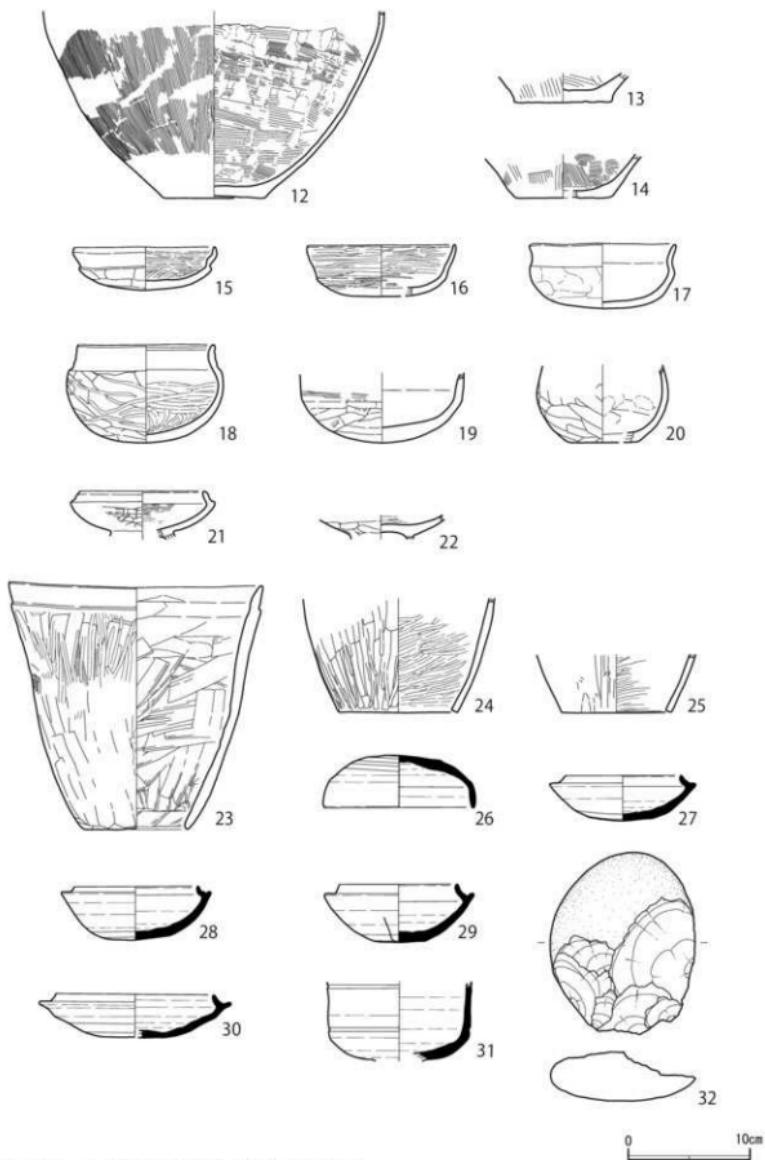
11 は紡錘車で、カマドの構築土内から出土している。泥岩製で、大きさは径 4.7cm、厚さ 2.0cm、重量は 57.72g を測る。穿孔部は表面・裏面とともに径が 0.9cm である。形態は円形で断面形は台形状を呈し、上面・下面とともに面取りがなされている。

12 は刀子でカマド周辺から出土した。刃部～茎部片で、刃部先端部と茎尻が欠損する。刃部側が直角関、棟側が撫関である。13 は鐵釘の頸部もしくは、鉄釘である。残存分が少なく、特定できなかった。

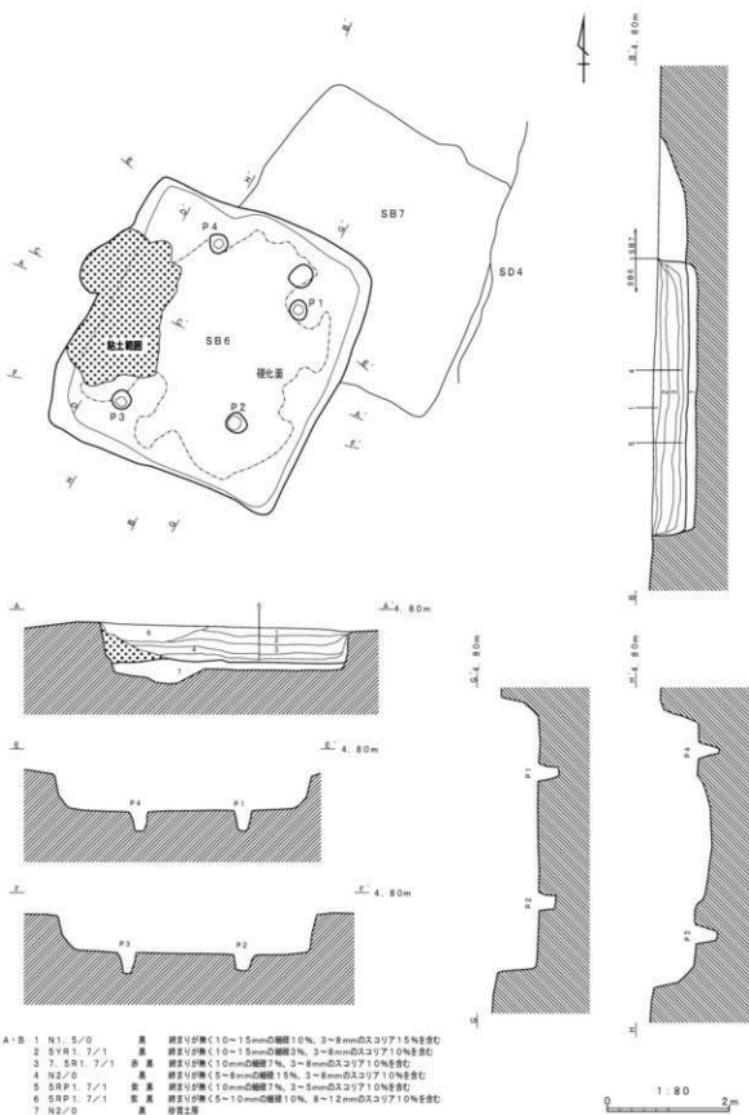
時 期 7 の土師器高壺は 7 世紀であるが、長胴甕や須恵器有台壺身や皿などから 8 世紀前半～中葉頃に位置づけられる。



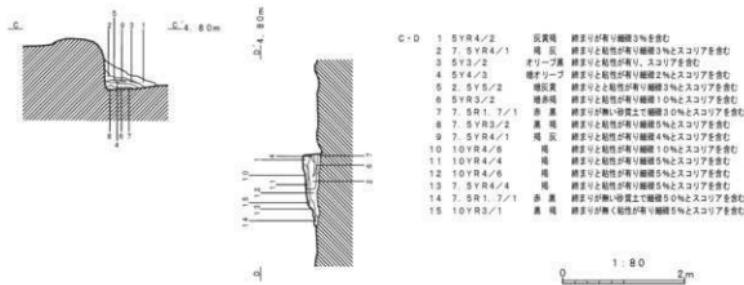
第 166 図 6 区第 5 号住居址出土遺物実測図 (1)



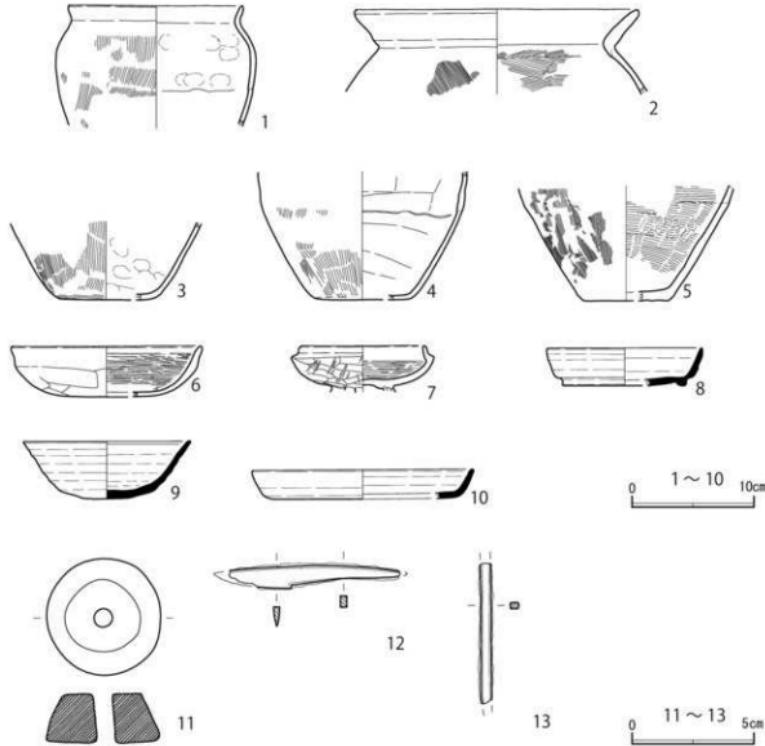
第167図 6区第5号住居址出土遺物実測図(2)



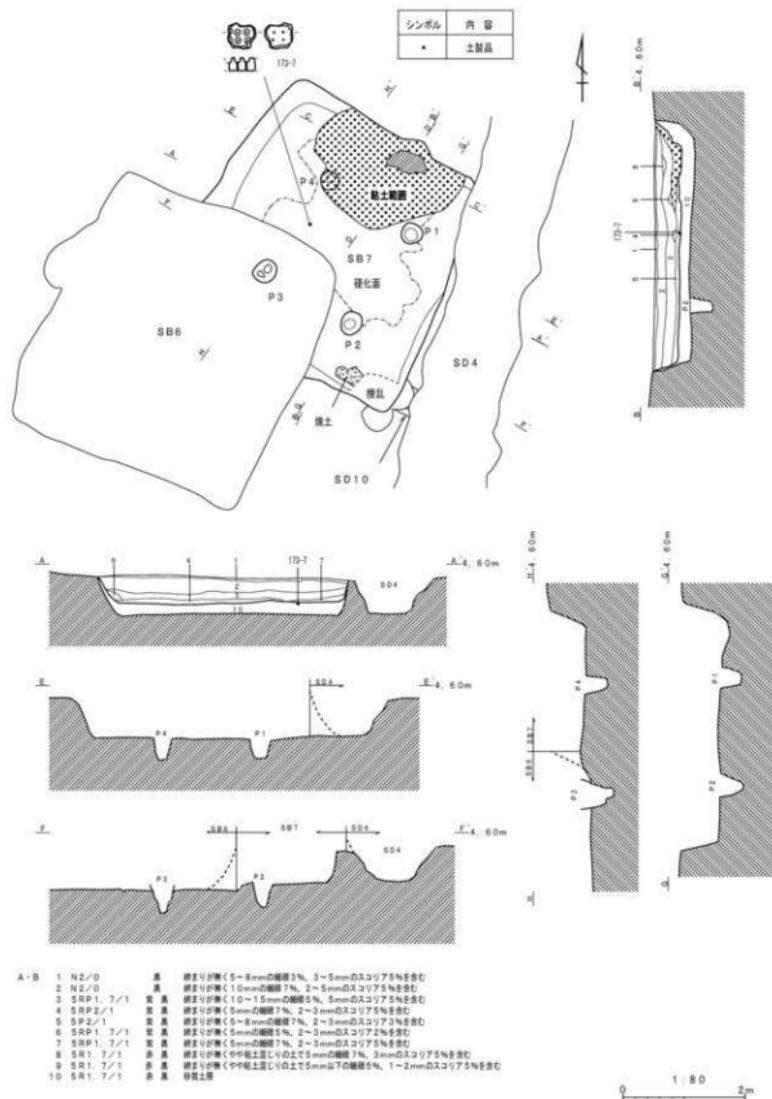
第168図 6区第6号住居址実測図（1）



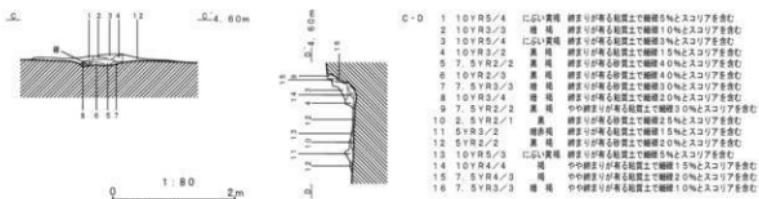
第169図 6区第6号住居址実測図(2)



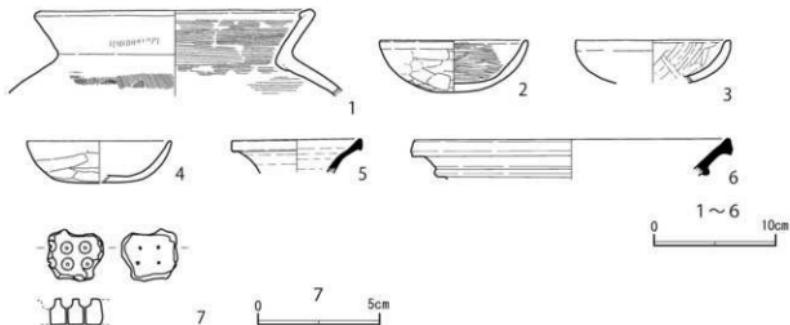
第170図 6区第6号住居址出土遺物実測図



第171図 6区第7号住居址実測図(1)



第172図 6区第7号住居址実測図(2)



第173図 6区第7号住居址出土遺物実測図

6区第7号住居址 (6-SB7 第171図～第173図)

127-40Gr・128-40Grで検出された。南西部がSB6に、北東角がSD4により切られているが、残存部分から平面形は正方形と推定される。立ち上がりは深さ0.42mが残存していた。SB7南東隅においてSD10を切っていると調査時には考えられたが、SD10から中世遺物が出土しているため、先後関係の認証であろう。

規模 東西4.08m×南北3.95m(残存部) 重複関係 (古) SB7→SB6・SD4・SD10(新)

主軸方位 N28°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 4基検出。径は0.31～0.34m・深さは0.30～0.39mを測る。いずれも主柱穴と考えられる。

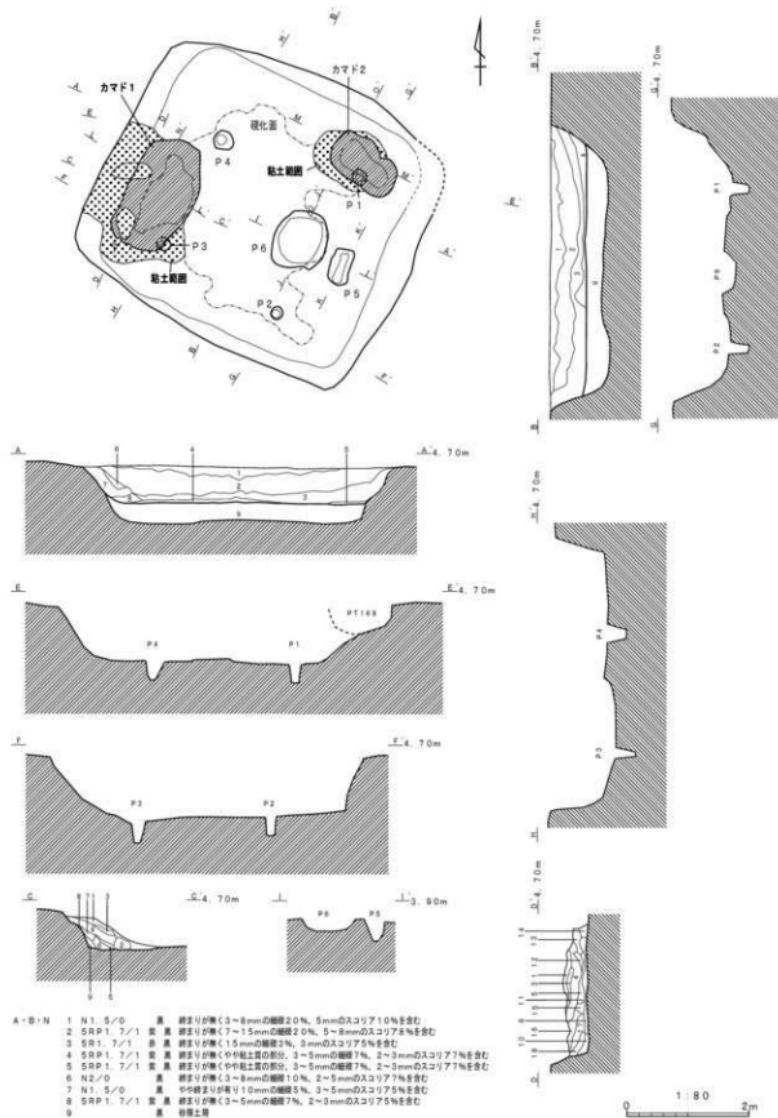
貼床 赤黒色の砂質土を使って床面としている。SBの中央部には硬化面が認められた。またSD10によって、一部が滅失しているものの、南東隅には焼土が広がっていた。

カマド 北辺の中央に位置する。ほぼ崩壊していたが、カマドの構築土とみられる粘土の広がり、支脚と思われる砂質ブロック、煙道の一部およびカマドの掘方が認められた。芯材等は確認されなかった。

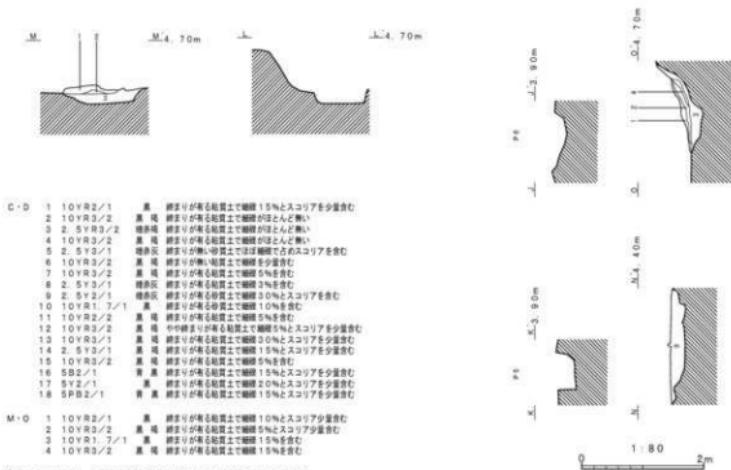
遺物 土器6点、土製品1点の計7点を図示した。土器は1～4が土器師、5・6が須恵器である。

1は球胴瓶で、口唇部がやや肥厚している。ハケメ調整で、頸部はナデ調整である。2～4は丸底の壺で、いずれも稜を持たず、底部から内傾しながら立ち上がる。4は粗製壺で、胎土に黑色粒を少量含んでいる。5・6は須恵器の壺もしくは瓶類の口縁部であるが、小片のため年代は不明である。

7はガラス小玉鋳型である。胎土は粗製であり、最大長2.09cm、最大幅2.26cm、厚さ1.11cmを測り、4か所の完形貫通孔がある。緻密胎土の鋳型には見られた裏面のケズリ調整は認められない。床面直上



第174図 6区第8号住居址実測図（1）



第175図 6区第8号住居址実測図(2)

からの出土である。

時 期 小片が多く、根拠となる遺物は出土していないが、切り合ひ関係上、8世紀前半のSB6より古く、粗製环や球胴壺などから、7世紀後半頃(~8世紀前半)であろう。

6区第8号住居址(6SB8 第174図~第177図)

126-40Gr・127-40Grで検出された。平面形は方形で、立ち上がりは深さ0.56mが残存していた。北辺と西辺にカマドと考えられる掘方がそれぞれ1基ずつ確認されている。残存状況から西辺に造られたカマド1の方が新しく、北辺のカマド2からの造り替えが想定される。また掘方面で焼土坑(P6)が検出されている。

規 模 東西5.06m×南北4.53m 重複関係 なし

主軸方位 N-63°-W(カマド1段階) 壁溝 検出されない。

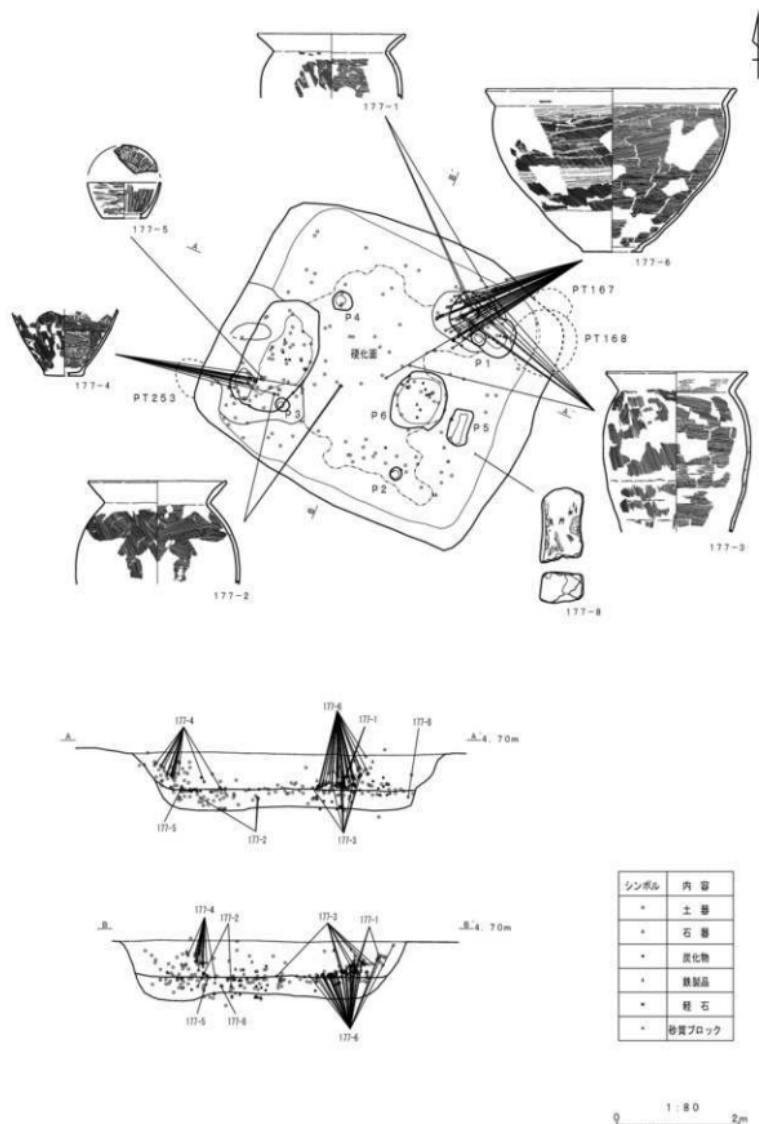
柱 穴 6基検出。P1~P4は径0.18~0.31m・深さ0.30~0.33mである。P1はカマド2と重複するが、主柱穴はP1~P4と考えられる。P5は径0.60m×0.33m・深さ0.37m、P6は径1.05m・深さ0.21mである。P6は掘方面で検出されており、炭化物と礫が数点検出されている。

貼 床 黒色の砂質土を使って床面としている。SB中央部には硬化面が認められた。

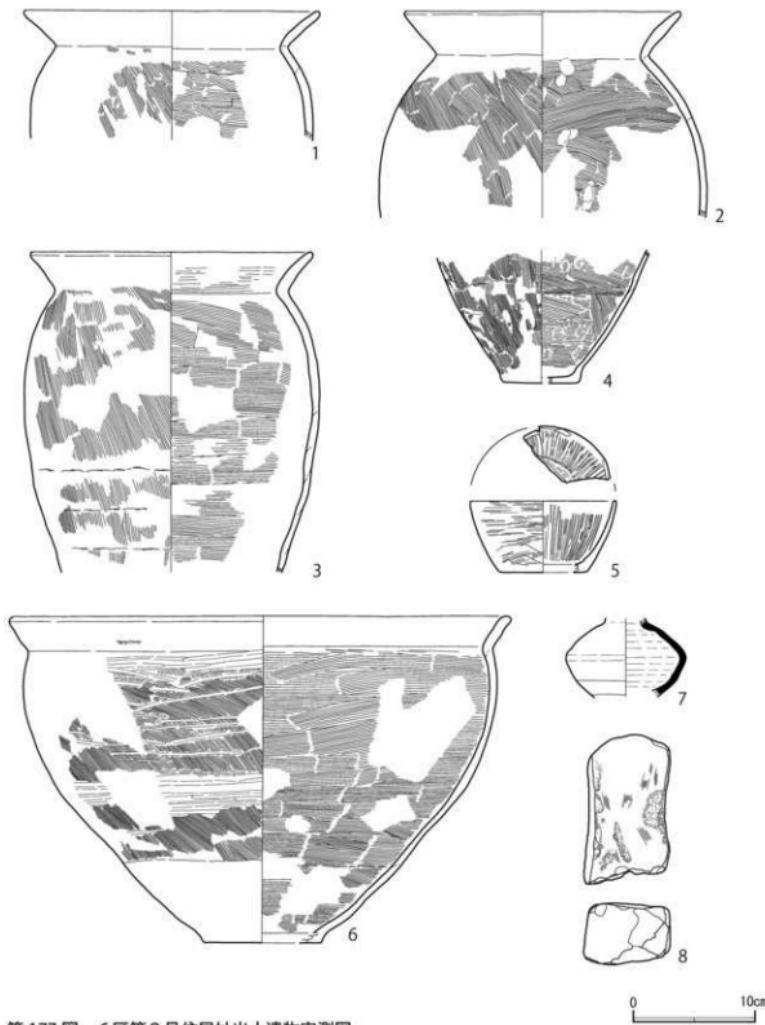
カマド 2基のカマドが検出された。西辺のやや南寄りにカマド1、北辺のやや東にカマド2が位置する。カマド1では袖部の一部と支脚、カマド2では支脚・芯材が検出された。ともに残存状況は良好ではないが、カマド2は袖部も含めて完全に崩壊していたものの、粘土の広がり方は限定的である。このことからカマド2からカマド1への造り替えが想定される。

遺 物 遺物はSB内のほぼ全域にて認められ、特に2基検出されたカマド周辺とP6にて多く出土した。しかし小破片が多く、ここでは土器7点、石器1点の計8点のみを図示した。1~6は土師器で、7のみ須恵器である。

1~4はいずれも長胴壺である。1~3の口縁部は、強く「く」の字に屈曲する。5は甲斐型環で、その法量から、甲斐型土器編年VI期頃に位置づけられる。6は堀で、外面にはミガキ調整が施される。7は須恵器のハソウである。体部のみ残存する。



第176図 6区第8号住居址遺物出土状況図



第177図 6区第8号住居址出土遺物実測図

8は砾石である。材質は砂岩で、長径 11.4cm、幅 4.19cm、厚さ 4.88cm、重さ 653.8g を測る。表面・裏面・両側面の4面にて使用された痕跡が残る。

時期 時期比定は困難であるが、長胴甕や甲斐型壺から8世紀後半～9世紀前半に位置づけられる。ただし長胴甕の明瞭な「く」の字口縁部を考慮すると、8世紀前半にまで遡る可能性もある。また、カマドの造り替えが行われていることから、長期間の使用も考えられる。

6区第9・10・11号住居址（6-SB9・6-SB10・6-SB11 第178図～第180図）

SB9は127-41Gr・128-41Gr、SB10は127-41Gr、SB11は128-41Grでそれぞれ検出された。SB9が切り合い関係から最も新しいが、SB10とSB11の新旧関係は不明である。

いずれも北半が調査区外へと広がり、全容は明らかではないが、平面形はいずれも方形と推定され、SB10のみ南辺の中央付近がやや張り出す。掘方はSB11がやや浅く、SB9とSB10はほぼ同一レベルまで掘り込まれていた。SB9～SB11の立ち上がりはSB9が深さ 0.43m、SB10が深さ 0.42m、SB11が深さ 0.32m 残存していた。

規模 SB9 東西 5.79m × 南北 1.88m (検出部)

SB10 東西 4.79m × 南北 1.45m (検出部)

SB11 東西 1.83m × 南北 2.32m (検出部)

重複関係 (古) SB10・SB11 → SB9 (新)

主軸方位 SB9 N-18°-E SB10 N-18°-E SB11 不明

壁 溝 いずれも検出されない。

柱 穴 SB9 8基検出。P1とP2は主柱穴と考えられ、P3～P6・P8は壁面に沿うように検出されている。P1・P2は径 0.33～0.37m・深さはともに 0.14m、P3は径 0.32m × 0.20m・深さ 0.15m、P4は径 0.32m × 0.11m・深さ 0.19m、P5は径 0.32m × 0.18m・深さ 0.18m、P6は径 0.28m・深さ 0.13m、P8は径 0.23m・深さ 0.40m を測る。単独で検出した P7 は 0.38m・深さ 0.21m であった。

SB10 2基検出。P1は径 0.35m・深さ 0.24m、P2は径 0.21m、深さ 0.16m を測る。P1はSB10の遺構として測量されているが、SB9の壁面に並ぶ柱穴の一群である可能性もある。

SB11 1基検出。径 0.21m・深さ 0.26m を測る。

貼 床 いずれも黒色の砂質土を使って床面としている。SB9・SB10では硬化面が認められたが、SB11では未検出である。SB10は南東端で焼土が検出されている。

カマド いずれも検出されない。

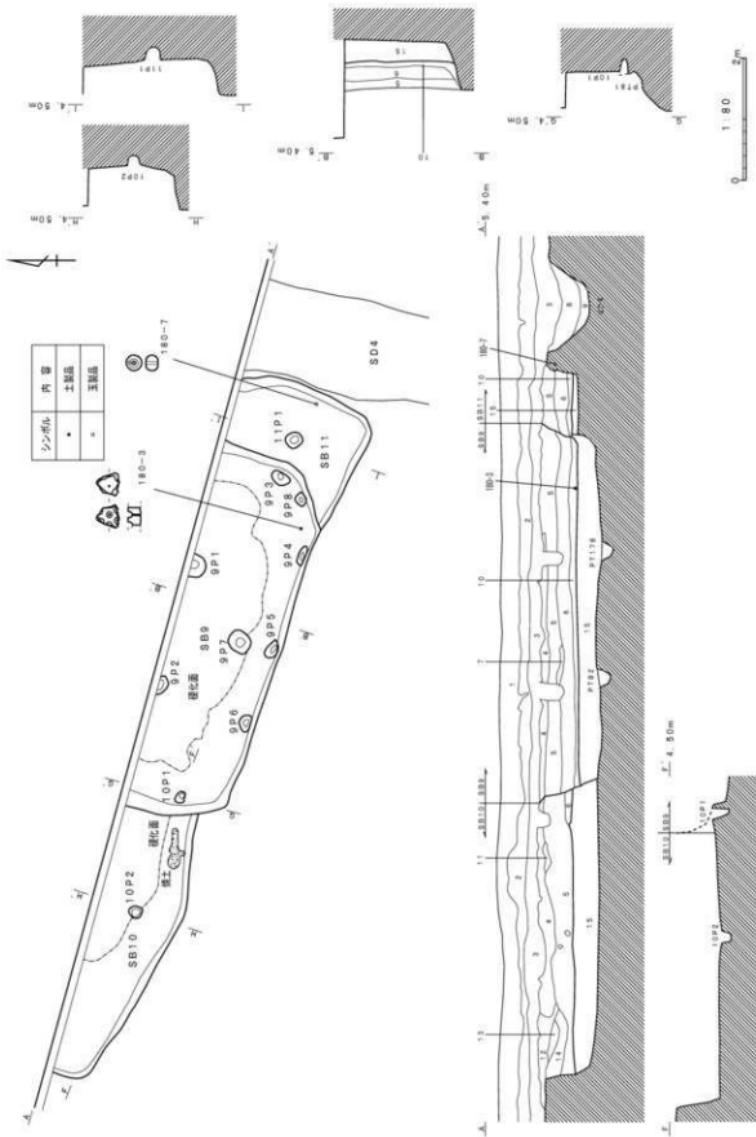
遺 物 切り合い関係上、最も新しいSB9からの出土が大半を占め、SB10・SB11では遺物はほとんど出土しなかった。またSB9も小破片資料が多く、図示できた遺物は土器2点と3点の土製品である。

SB9 1・2とも須恵器である。1は広口壺で口縁部のみが残存する。2は床面直上および掘方から出土した有台环身で、底部が高台よりも張り出す。2は遠江V期前半に位置づけられる。

3～5はガラス小玉鑄型で、3・4は粗製胎土、5は精製緻密の胎土である。3は床面直上にて出土しており、最大長 1.84cm、最大幅 1.84cm、厚さ 1.08cm を測る。表面に完形の1か所の貫通孔と半欠けとなった孔 5か所が認められる。4は最大長 1.76cm、最大幅 2.97cm、厚さ 1.11cm で、表面に完形の3か所の貫通孔、半欠けの孔は 10か所が認められる。5は最大長 2.12cm、最大幅 1.47cm、厚さ 0.97cm で、表面に完形の1か所の貫通孔、半欠けの孔は 1か所が認められる。5は4区のSB2覆土から出土した鑄型片と接合したが、4-SB2は遠江IV期後葉頃に位置づけられるため、本遺構とは年代的に一致しない。

SB10 図示できたものは土器師の壺1点のみであった。体部の稜は弱く、口唇部がわずかに外反する。見込み部にはミガキ調整がなされる。図示できなかった須恵器の小片には、摘みを有する蓋がある。

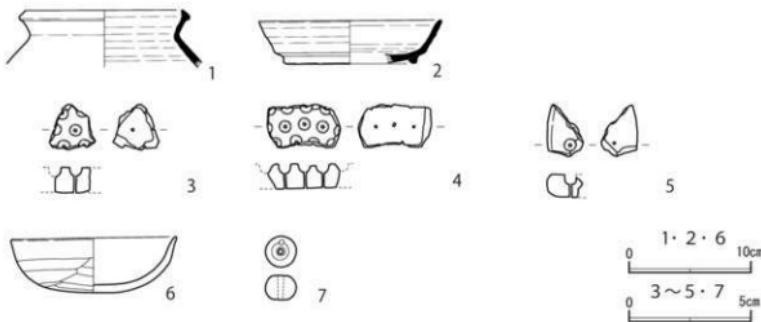
SB11 図示ができたのは、丸玉1点のみで、図示可能な土器はなく、小片においても型式を比定で



第178図 6区第9・10・11号住居址実測図

SB9・10・11 A・B	1 SYR2/1	基 稲 跡まりが有り10mmの範囲1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	2 NZ/0	基 稲 やや細かい有り10~20mmの範囲1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	3 N1 S/0	基 稲 細かい有り10~20mmの範囲3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	4 SYR2/1	基 稲 跡まりが有り10~20mmの範囲3%, 1~2mmのスコリア3%を含む
	5 2・5 SYR2/1	基 稲 やや細かい有り8~10mmの範囲3%, 2~3mmのスコリア3%を含む
	6 7・5 SYR2/1	基 稲 跡まりが有り8~10mmの範囲3%, 2~3mmのスコリア3%を含む
	7 SYR2/1	基 稲 跡まりが有り8~10mmの範囲3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	8 SYR2/1	基 稲 跡まりが有り8~10mmの範囲3%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	9 10YR2/1	基 稲 跡まりが有り8~10mmの範囲7%, 3~5mmのスコリア3%を含む
	10 NZ/0	基 稲 跡まりが有り8~10mmの範囲7%, 3~5mmのスコリア3%を含む
	11 N1, S/0	基 稲 跡めやいわゆる多面に凸出で10~20mmの範囲1%, 2~3mmのスコリア1%を含む
	12 2・5 YR2/1	基 稲 跡めやいわゆる10~15mmの範囲3%, 2~3mmのスコリア3%を含む
	13 7・5 YR2/1	基 稲 跡めやいわゆる10~15mmの範囲1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	14 SYR2/1	基 稲 跡めやいわゆる8mmの範囲1%, 1~2mmのスコリア1%を含む
	15 NZ/0	基 稲 砂質土層

第179図 6区第9・10・11号住居址土層注記



第180図 6区第9・10・11号住居址出土遺物実測図 (1~5.SB9 6.SB10 7.SB11)

きるものは出土しなかった。丸玉は土製で、最大長0.98cm、径は1.26cmとほぼ正円である。重量は1.41gを測る。

時期 SB9は床面および掘方から出土した有台环身の年代から8世紀前半頃に位置づけられる。SB10はSB9に切られることに加え、出土した土師器環の稜が弱いことから、7世紀の中でも後半頃と考えられる。SB11も時期を比定できる遺物は出土しなかったが、SB9に切られていることから、8世紀前半以前の住居である。

6区第13号住居址 (6-SB13 第181図・第182図)

128-38Gr・128-39Grで検出された。西辺上端をSD1に切られているが、床面、掘方面は残存していた。平面形は方形で、立ち上がりは深さ0.43mを測る。

規模 東西2.72m×南北3.05m(残存部) 重複関係 (古) SB13→SD1(新)

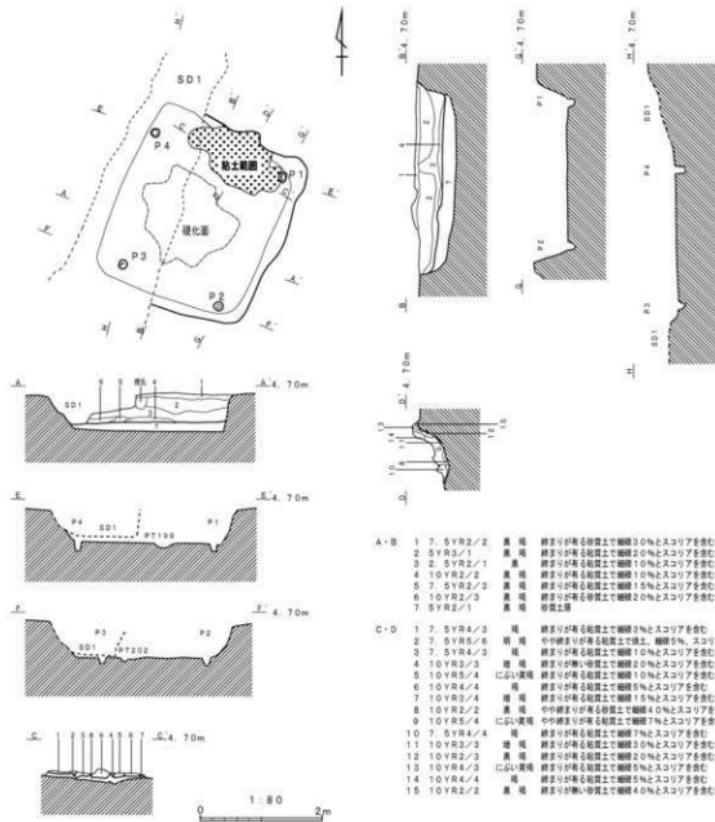
主軸方位 N-24°-E 壁溝 検出されない。

柱穴 壁面に近い位置にて4基を検出。P1~P3の径は0.12~0.15m・深さ0.11~0.12m、P4の径は0.14m・深さ0.17mである。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。またSBの中央部付近で硬化面を確認した。

カマド SB13の平面形を検出した段階で、粘土の広がりが確認された。北辺の中央に位置する。崩壊していたため形状は不明であるが、粘土の広がりと砂質ブロックが検出された。

遺物 土器は破片資料が多く、図示ができたものは5点であった。土器は1~3が土師器、4・5は須恵器である。

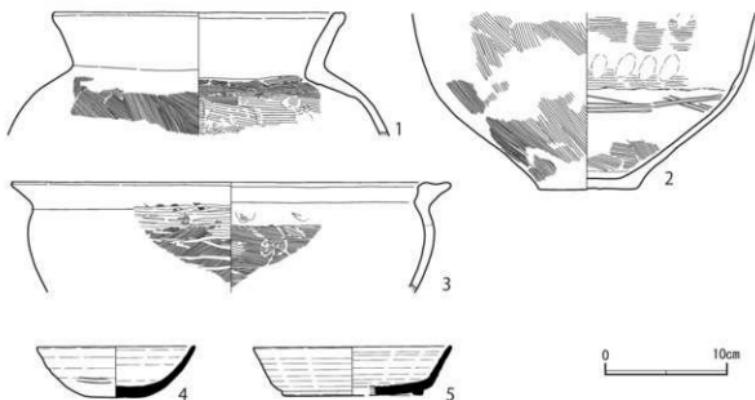


第181図 6区第13号住居址実測図

1~3は土師器で、1・2は甕である。1は口縁部~胴部上位、2は胴部~底部が残存する。ともにミガキ調整は認められない。2の内面胴部中段には、ハケではなく、竹管のような工具によって横筋の調整痕がある。3は壺で、口縁部~胴部が残存する。頸部にはミガキ調整が施される。

4は無台环身、もしくは無台碗である。5は有台环身で、底部が高台よりも張り出す。ともに遠江V期前半頃に位置づけられる。1・4はカマドから、2は床面上から出土した。

時期 須恵器から8世紀前半頃と考えられるが、ミガキのない球胴甕がカマドや床面上から出土することから、7世紀後半まで遡る可能性がある。



第182図 6区第13号住居址出土遺物実測図

6区第14号住居址 (6-SB14 第183図~第185図)

128-37Gr・128-38Grで検出された。東側は調査区外へ広がり、西側の上端はSD1・SD3・SD7に切られているため全容は明らかではないが、残存部から平面形は方形と推定される。立ち上がりは深さ0.48mが残存していた。

規模 東西2.34m×南北4.55m(残存部) **重複関係** (古) SB14→SD1・SD3・SD7(新)

主軸方位 N-20°-E

壁溝 南壁のみで検出された。残存部で幅0.20～0.40m、深さ0.04mを測る。

柱穴 4基検出。P1・P2は径0.33～0.35m・深さ0.24～0.35m、P3は径0.28m・深さ0.34m、P4は径0.54m・深さ0.40mを測る。主柱穴はP1、P2と考えられる。

貼床 黒褐色の砂質土を使って床面としている。硬化面は確認されなかった。

カマド 北辺に位置する。崩壊していたため形状は確認できなかったが、カマドの構築土とみられる粘土の広がりが認められ、この広がりは調査区外へと続く。芯材等は確認されなかった。

遺物 土器2点を図示した。1は須恵器の甕で内外面ともにタタキ痕が残る。2は須恵器の有台环身で遠江V期前に位置づけられる。

時期 有台环身の存在から8世紀前半に位置づけられる。

(2) 堀立柱建物址 6-SH

SBは調査区の北側に集中するが、SHはSBの分布域とは外れた調査区の南側で1棟検出されている。

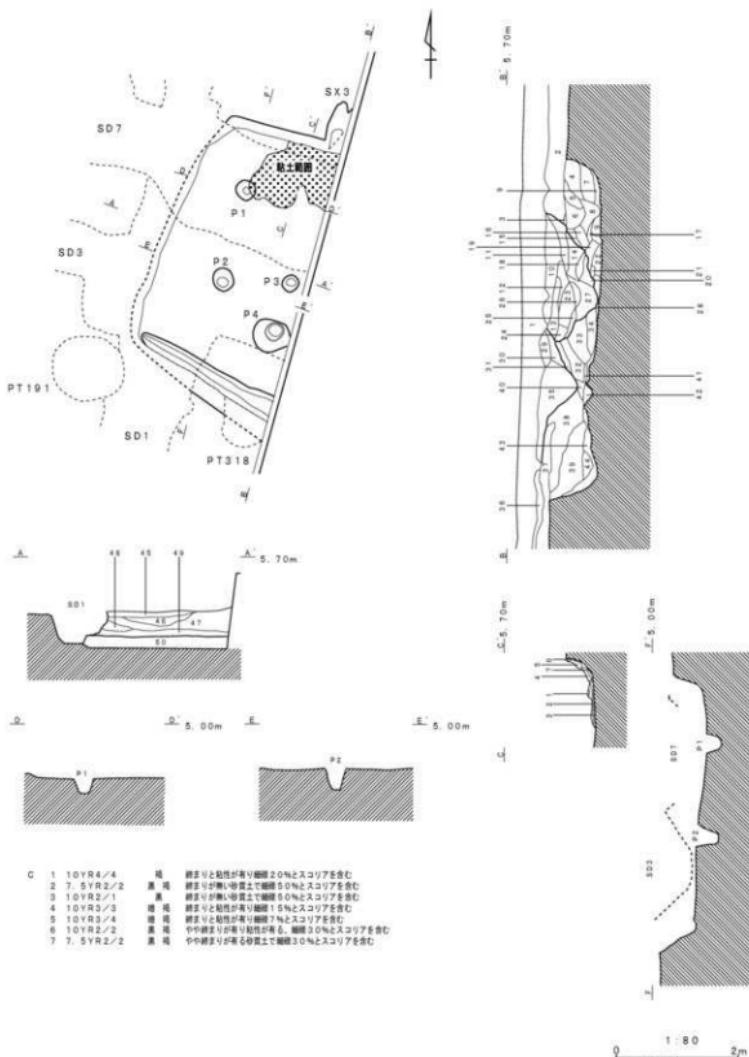
6区第1号堀立柱建物址 (6-SH1 第186図)

126-38Gr・126-39Gr・127-38Gr・127-39Grで検出された。桁行(南北)4間、梁行(東西)3間の建物で、平面形は長方形を呈する。SD2・SD9と重複しており、P9・P10の上端が切られている。また、P13はPT108により上端の一部が切られる。

規模 東西3.44m×南北4.13m **重複関係** (古) SH1→SD9→SD2(新)

主軸方位 N-45°-E

柱穴 平面形は円形および梢円形を呈する。P1は径0.75m×0.50m・深さ0.21m、P2は径0.71m・深さ0.57m、P3は径0.71m・深さ0.53m、P4は径0.72m・深さ0.59m、P5は径0.61m・深さ0.35m、



第183図 6区第14号住居址実測図

A-B	1 10YR2/1	基 礎	跡まりが最も1.5~2.0mmの範囲で、3~5mmのスコリア1%を含む
2 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も1.0mmの範囲で、2~3mmのスコリア1%を含む	
3 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も1.0mmの範囲で、2~3mmのスコリア1%を含む	
4 2, 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も1.0mmの範囲で、2~3mmのスコリア1%を含む	
5 5RP1, 7/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
6 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
7 5RP2/1	基 礎	粘土合士で6mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
8 N2/0	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
9 2, 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
10 2, 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
11 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も0.5mmの範囲で1%, 10mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
12 N2/0	基 礎	跡まりが最も0.5mmの範囲で1%, 10mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
13 N2/0	基 礎	跡まりが最も1.0mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
14 2, 5YR2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
15 N2/0	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
16 5RP2/1	基 礎	粘土合土で10mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
17 N2/0	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
18 7, 5YR2/1	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む (SD3)	
19 5RP1, 7/1	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む (SD3)	
20 2, 5YR2/1	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む	
21 10YR2/1	基 礎	粘土合土で5mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む	
22 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
23 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で3%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
24 N2/0	基 礎	跡まりが最も2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
25 2, 5YR2/1	基 礎	5.0~8.0mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
26 5RP1, 7/1	基 礎	5.0~8.0mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
27 N2/0	基 礎	5.0~8.0mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
28 5RP1, 7/1	基 礎	跡まりが最も1~2mmのスコリア1%を含む	
29 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も1.0~1.2mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む (SD3)	
30 2, 5YR2/1	基 礎	3.0mmの範囲で1%, 10mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む (SD3)	
31 5P1, 7/1	基 礎	跡まりが最も1.0cmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
32 5RP1, 7/1	基 礎	跡まりが最も1.0cmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む	
33 N2/0	基 礎	跡まりが最も1.0cmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
34 5RP2/1	基 礎	跡まりが最も0.8mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
35 5P1, 7/1	基 礎	3.0~5.0mmの範囲で1%, 10~20mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア3%を含む (SD3)	
36 N2/0	基 礎	跡まりが最も0~10mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
37 5YR2/1	基 礎	2.0mmの範囲で1%, 8mmの範囲で3%, 5~8mmのスコリア1%を含む	
38 N2/0	基 礎	跡まりが最も0~12mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む	
39 5RP1, 7/1	基 礎	跡まりが最も0~12mmの範囲で1%, 3~5mmのスコリア1%を含む	
40 N2/0	基 礎	跡まりが最も0~5mmの範囲で3%, 2~3mmのスコリア1%を含む	
41 2, 5YR2/1	基 礎	2~3mmの範囲を含む	
42 5RP2/1	基 礎	流れやすい状態の砂を多く含む(直径6mmの範囲で1%, 1~2mmのスコリア3%を含む)	
43 5RP1, 7/1	基 礎	流れやすい状態の砂を多く含む(直径6mmの範囲で1%, 1~2mmのスコリア1%を含む)	
44 2, 5YR2/1	基 礎	流れやすい状態の砂を多く含む(直径6mmの範囲で1%, 2~3mmのスコリア1%を含む)	
45 2, 5YR2/2	基 礎	やや砂利と石が混じり砂利3%とスコリア2%を含む	
46 10YR2/1	基 礎	跡まりと砂利が混じり砂利2%とスコリアを含む	
47 2, 5YR1, 7/1	基 礎	跡まりが来る粘土質で細粒で2%とスコリアを含む	
48 10YR2/1	基 礎	跡まりが来る粘土質で細粒1.5%とスコリアを含む	
49 5YR2/1	基 礎	跡まりが来る粘土質で細粒1.5%とスコリアを含む	
50 7, 5YR3/4	基 礎	砂質土層	

第184図 6区第14号住居址土層注記

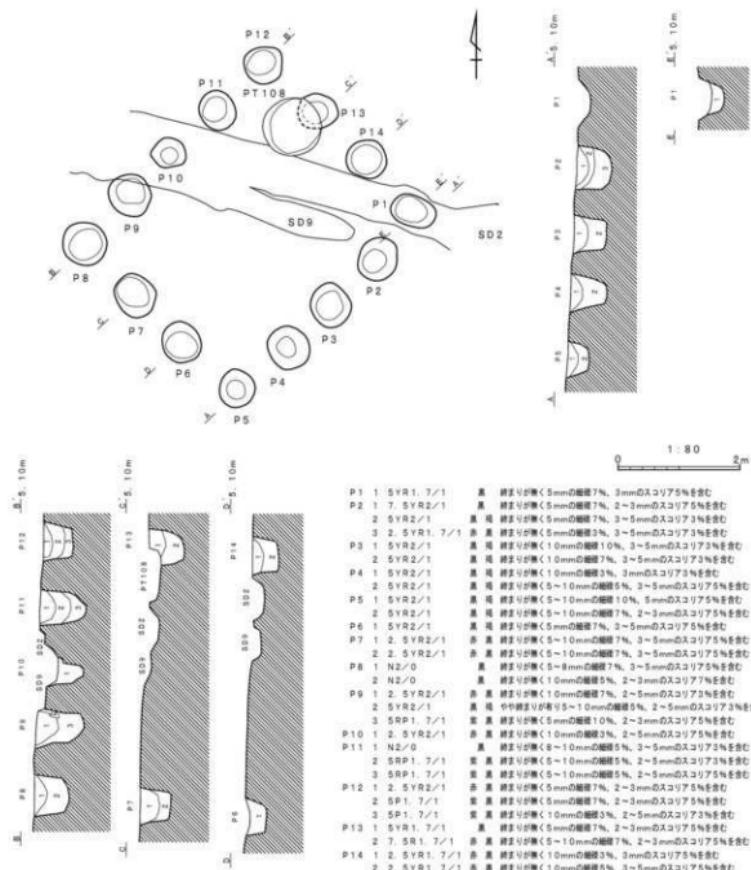


第185図 6区第14号住居址出土遺物実測図

P6は径0.68m・深さ0.50m、P7は径0.74m・深さ0.27m、P8は径0.71m・深さ0.57m、P9は径0.71m・深さ0.78m、P10は径0.51m・深さ0.42m、P11は径0.64m・深さ0.76m、P12は径0.65m・深さ0.48mである。P13は径0.66m・深さ0.43m、P14は径0.62m・深さ0.56mを測る。

桁 間 北から1.02m、1.07m、0.96m、1.08m。 **梁 間** 西から1.17m、1.02m、1.08m。
遺 物 出土していない。

時 期 遺物は出土しておらず、また主軸方位もSBと近似値を測るものがないため、時期は不明である。しかし他区の状況や規模・深さから推測して古墳時代後期～奈良平安時代と推定される。



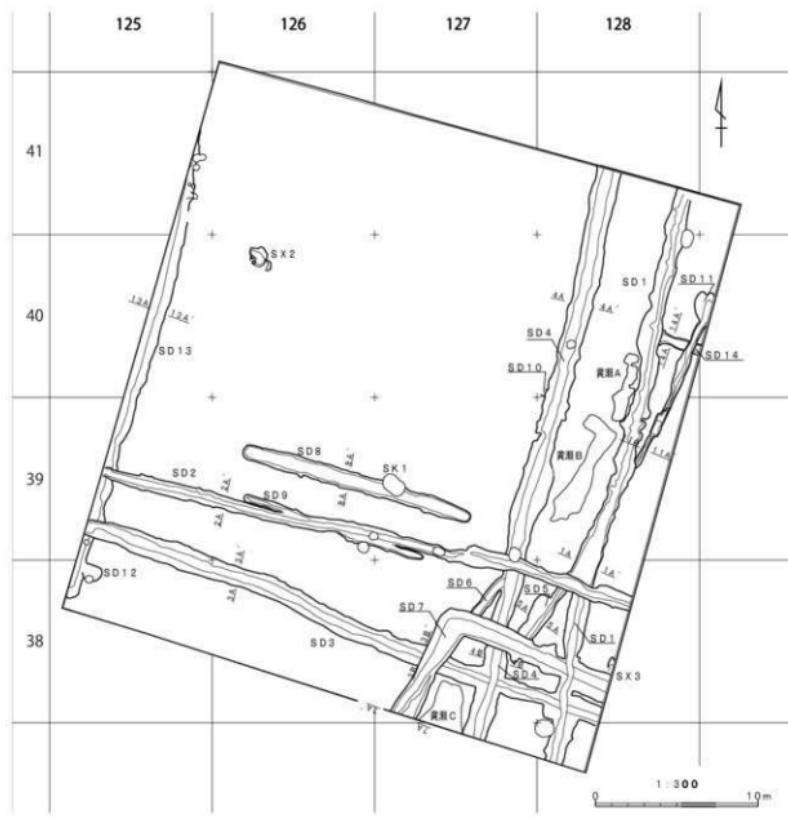
第186図 6区第1号掘立柱建物址実測図

(3) 溝状遺構 6-SD

調査区の東側と南側を中心で検出された。また調査区西端部においても1条確認されている。南北に軸を持つ一群と東西に軸を持つ一群がある。

多くの溝からは古墳時代後期から奈良平安時代に位置づけられる遺物が出土しているが、併せてSD2～SD11では中世遺物が出土し、さらにSD4からは近世遺物も出土している。したがって、多くの溝は中世以後の遺構と考えられる。また中世遺物を伴わないSD1は、中世遺物が出土するSDを切る関係にあり、SD13はSD2やSD3と直交する関係にある。SD14もSD1と直交する。以上のことから、これらも中世以後の年代とすることが妥当と思われる。SD6は判断する根拠に乏しい。

なおSD4とSD13の間の距離は約24mを測るが、これは近接する下道遺跡において近世以後の溝の単



第187図 6区溝状遺構分布図

位として現れる 10.8m とは異なった数値である。

ただし SD は類推によって時期を判断したものも多いため、SD の覆土や時代別の出土遺物の有無を別表に一覧で示した。また図示できた古墳時代～奈良平安時代の遺物は、遺構の記載の後に一括で第189図・第190図に掲載した。

6区第1号溝状遺構（6-SD1 第187図・第188図、第20表）

128-37Gr・128-38Gr・128-39Gr・128-40Gr・128-41Gr で検出された。南北方向に走る。南北端ともに調査区外へ延びているため総延長は不明である。128-39Gr にて礫の集中箇所が認められる。

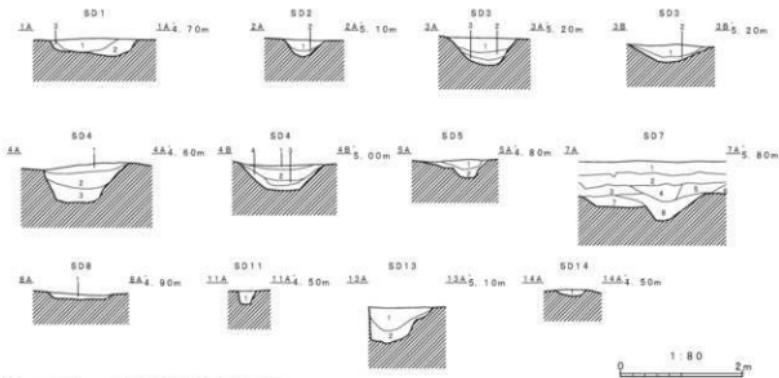
規模 延長（調査区内）36.19m × 幅 0.84 ~ 1.30m × 深さ 0.40m

重複関係（古）SB13・SB14 → SD14 → SD5・SD11 → SD3 → SD7 → SD1 → SD2（新）

時期 SD7 との関係から中世以後に位置づけられる。

6区第2号溝状遺構（6-SD2 第187図・第188図、第20表）

125-39Gr・126-39Gr・127-38Gr・127-39Gr・128-38Gr で検出された。東西方向に走る。東西端



第188図 6区溝状遺構土層断面図

第20表 6区溝状遺構計測表

遺構名	形 色	基 土	断面形			
			造物/古代	遺物/中世	遺物/近世	
SD1	A 1 N1 5/0	縫まりが無く5~10mmの細緻7%、3~8mmのスコリア5%を含む	浅い丸形	○		
	A 2 N2/1	やや縫まりが有り10mmの細緻10%、3~5mmのスコリア5%を含む				
	3 SFR1/7/1	やや縫まりが有り10mmの細緻10%、3~5mmのスコリア5%を含む				
SD2	A 1 N1 5/0	縫まりが無く5~10mmの細緻20%、2~3mmのスコリア15%を含む	深い丸形	○	○	
	2 T.SR1/7/1	縫まりが有り10mmの細緻3%、2~3mmのスコリア10%を含む				
SD3	A 1 N1 5/0	縫まりが有り20~80mmの細緻25%、3~10mmのスコリア15%を含む	深い丸形	○	○	
	A 2 N2/0	縫まりが有り5~10mmの細緻7%、3~5mmのスコリア10%を含む				
	3 N1 5/0	やや縫まりが有り10mmの細緻10%、2~3mmのスコリア10%を含む				
SD4	B 1 SYR2/7/1	やや縫まりが有る砂質土で細緻30%とスコリアを含む	深い丸形	○	○	
	2 2.SYR2/1	やや縫まりが有る砂質土で細緻30%とスコリアを含む				
SD5	A 1 N1 5/0	縫まりが無く8~10mmの細緻7%、1~5mmのスコリア15%を含む	深い丸形	○	○	○
	A 2 SFR2/1	縫まりが有り3~5mmの細緻7%、1~3mmのスコリア10%を含む				
	3 SFR2/1	縫まりが有り10mmの細緻10%、2~3mmのスコリア10%を含む				
SD6	B 1 SYR2/1	やや縫まりが有る砂質土で細緻20%とスコリアを含む	深い丸形	○	○	
	2 10YR2/1	縫まりが有る砂質土で細緻20%とスコリアを含む				
SD7	A 1 不明	縫まりが有り5~8mmの細緻10%、2~5mmのスコリア15%を含む	深い丸形	○	○	
	A 2 N2/0	縫まりが有り5~8mmの細緻10%、2~5mmのスコリア15%を含む				
SD9	不 明	縫 面 無 し	○	○	○	
	SD10	縫 面 無 し				
SD11	A 1 7.SYR2/2	縫まりが有る砂質土で細緻20%とスコリアを含む	深い丸形	○	○	
	SD12	縫 面 無 し				
SD13	A 1 7.SYR2/2	縫まりが有る砂質土で細緻20%とスコリアを含む	深い丸形	○		
	2 10YR2/3	縫まりが有る砂質土で細緻15%とスコリアを含む				
SD14	A 1 不 明	縫 面 無 し	深い丸形	○		

ともに調査区外へ延びているため、総延長は不明である。西端部にて礫の集中箇所が認められる。

規 模 延長（調査区内）33.37m × 幅 0.61 ~ 1.30m × 深さ 0.28m

重複関係（古）SH1・SD1・SD4・SD5・SD9・SD13 → SD2（新）

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第3号溝状遺構（6-SD3 第187図・第188図、第20表）

125-38Gr・125-39Gr・126-38Gr・126-39Gr・127-38Gr・128-37Gr・128-38Grで検出された。SD2と並行して東西方向に走り、東西端ともに調査区外へ延びている。東端部にて礫の集中箇所が認められ、西側で小規模な礫の集中箇所も検出されている。

規 模 延長（調査区内）33.64m × 幅 1.01 ~ 1.20m × 深さ 0.28 ~ 0.44m

重複関係（古）SB3 → SB14 → SD13 → SD3 → SD4 → SD7 → SD1（新）

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第4号溝状遺構（6-SD4 第187図・第188図、第20表）

127-37Gr・127-38Gr・127-39Gr・128-40Gr・128-39Gr・128-41Grで検出された。SD1と並行して南北方向に走り、南北端ともに調査区外へ延びている。127-39Grと128-41Grにて小規模な礫の集中箇所が認められ、128-40Grと128-41Grの境付近で、馬と推定される歯が出土している。

規 模 延長（調査区内）35.94m×幅1.01～1.86m×深さ0.33～0.61m

重複関係（古）SD3・SD6→SD4・SD10→SD2・SD7（新）

時 期 出土遺物から近世以後に位置づけられる。

6区第5号溝状遺構（6-SD5 第187図・第188図、第20表）

127-38Gr・128-38Grで検出された。南端をSD7、北端をSD1とSD2に切られている。北東一南西方向に走り、北側はやや細くなる。細くなった幅は同一線上に位置するSD11とほぼ同規模になるため、両者は一連の遺構の可能性がある。

規 模 延長（調査区内）4.35m×幅0.55～1.35m×深さ0.31m

重複関係（古）SD5→SD7→SD1→SD2（新）

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられるが、他のSD群とは軸方向が異なっているため、これらとは異なる時期であろう。SD2に切られることからSD2以前の遺構となるが、詳細時期は不明。

6区第6号溝状遺構（6-SD6 第187図、第20表）

127-38Grで検出された。SD4とSD7に切られるため、全容は不明であるが、SD5と同じく北東一南西方向に走る。

規 模 延長（残存部）0.36m×幅0.80～1.10m

重複関係（古）SD6→SD4→SD7（新）

時 期 不明。SD5と並行することから同時期か。

6区第7号溝状遺構（6-SD7 第187図・第188図、第20表）

127-38Gr・128-38Grで検出された。調査区南端から南北方向に4mほど延びたところで東に向けて屈曲し、東西方向へ延び、調査区外へと続く。底面には多量の礫を作う。

規 模 延長（残存部）南北6.50m・東西9.08m×幅1.13～1.59m×深さ0.42～0.60m

重複関係（古）SB14→SD3・SD5・SD6→SD4→SD7→SD1（新）

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第8号溝状遺構（6-SD8 第187図・第188図、第20表）

126-39Gr・127-39Grで検出された。SD2やSD3と並行して東西方向に走るが、延長は短い。SK1が重複する。

規 模 延長14.57m×幅0.90～1.19m×深さ0.09m

重複関係（古）SD8→SK1（新）

時 期 出土遺物から中世以後に位置づけられる。

6区第9号溝状遺構（6-SD9 第187図、第20表）

126-39Gr・127-39Grで検出された。SD8と並行して東西に走る。SD2に切られている。

規 模 延長（残存部）11.61m×幅0.41～0.44m×深さ0.05～0.09m

重複関係（古）SH1→SD9→SD2（新）

時 期 中世遺物が出土することから中世以後に位置づけられる。SD8と並行することから、SD8と同時期であろう。

6区第10号溝状遺構（6-SD10 第187図、第20表）

128-40Grで検出された。東西方向に走るが、東端はSD4、西端はSB7と重複するためごく一部しか検出されず、全容は明らかではない。中世遺物が出土しているので、切り合い関係を持つSB7より新しい遺構である。

規模 延長（残存部）0.30m×幅0.47m×深さ0.24m

重複関係（古）SB7→SD4・SD10（新）

時期 出土遺物から、中世以後である。

6区第11号溝状遺構（6-SD11 第187図・第188図、第20表）

128-39Gr・128-40Gr・129-40Grで検出された。北東—南西方向に走る。SD5のほぼ同一線上にあることから、両者は一連の遺構の可能性がある。

規模 延長（残存部）11.76m×幅0.29～0.76m×深さ0.22m

重複関係（古）SD14→SD11→SD1（新）

時期 出土遺物から、中世以後である。

6区第12号溝状遺構（6-SD12 第187図、第20表）

125-38Grで検出された。東西方向に延びる。大部分が調査区外へと広がるため、全容は明らかではない。また直交するSD13との先後関係は把握できなかった。

規模 延長（残存部）1.22m×幅0.91m

重複関係 不明。

時期 不明。SD2やSD3と並行するものと考えられるため、これら遺構と同時期か。

6区第13号溝状遺構（6-SD13 第187図・第188図、第20表）

125-38Gr・125-39Gr・125-40Gr・125-41Grで検出された。SD1やSD4と並行し、南北方向に延びる。

規模 延長（調査区内）29.80m×幅0.55～1.10m×深さ0.30～0.58m

重複関係（古）SD13→SD2・SD3（新）

時期 SD1やSD4と並行するため、これら遺構と同時期である中世以後に位置づけられる。

6区第14号溝状遺構（6-SD14 第187図・第188図、第20表）

128-40Grで検出された。東西方向に走る。東端は調査区外へ延び、西端はSD1に切られているため総延長は不明である。

規模 延長（調査区内）2.55m×幅0.49～0.94m×深さ0.11m

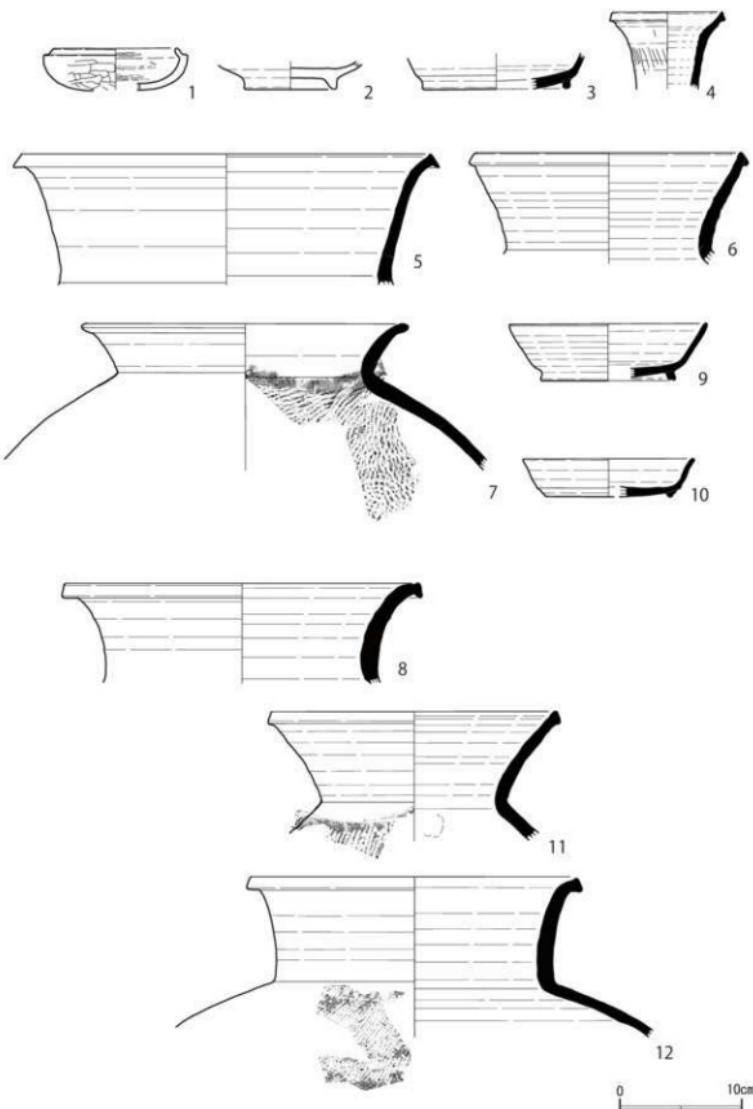
重複関係（古）SD14→SD11→SD1（新）

時期 SD1と直交するため、SD1と同時期、すなわち中世以後と推測される。

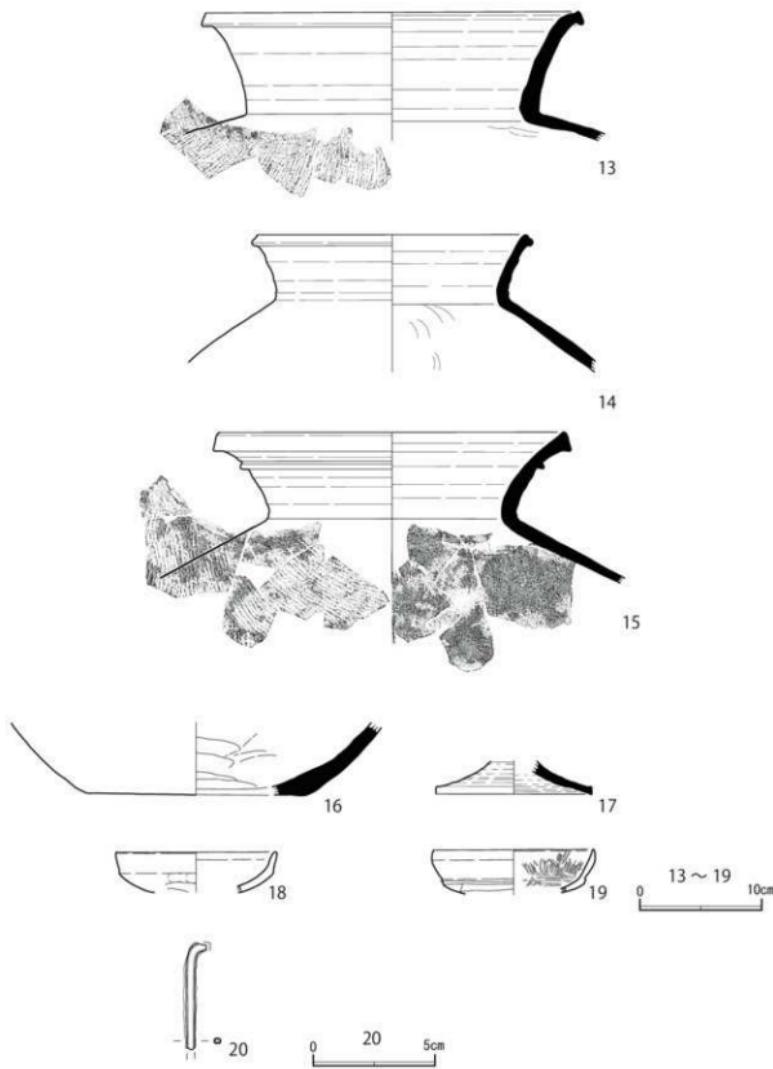
溝状遺構出土遺物（第189図・第190図）

SD自体は多くが中世以後と推測されるが、ここではSDより出土した古墳時代後期から奈良平安時代にかけての遺物を20点図示した。

1～4はSD1より出土した。1は土師器の壺で、受部が付き、内面は黒色処理が施される。2は灰釉陶器の碗で、貼付高台、底部には糸切り痕が残る。3は須恵器の有台环身で、底部が高台よりも張り出す。4は須恵器・長頸壺（もしくは瓶類）の口縁部で、外面には縦方向に線刻が認められる。5・6はSD2より出土した須恵器の壺である。5は外面には黒色釉がかかる個体で、6は無釉の個体である。7～9はSD4より出土した。7は須恵器の壺で、外面頸部以下には自然釉がかかる。内面にはタタキ痕が明瞭に残る。8も同じく須恵器の壺で、外面には黒色釉がかかる。内面は褐色釉を下地とし、その上から黒色釉がかかる。9・10は須恵器の有台环身でおそらく底部は高台よりも下がる。10はSD5から出土した。11～17はSD7より出土した。11～16は須恵器の壺である。11・12は外面頸部に



第189図 6区溝状遺構出土遺物実測図（1）
(1~4.SD1 5~6.SD2 7~9.SD4 10.SD5 11~12.SD7)



第190図 6区溝状遺構出土遺物実測図（2）(13~17.SD7 18.SD9 19.SD13 20.SD4)

タタキ痕が残る。12と13は外面の口縁部から頸部にかけて、褐色釉を下地とし、その上に黒色釉がかかる。14は胎土がやや灰色から白色に近い無釉の甕で、他の甕よりも口縁部の器壁が若干薄い。15は14と同質の胎土で内外面ともにタタキの痕跡が認められる。16は須恵器甕の底部で、褐色釉が外而全体に施される。17は須恵器高环の脚部である。18は土師器の环でSD9より出土した。19も土師器の环でSD13より出土し、内面の上半は縱位のミガキ調整、下半は横位のミガキ調整が施される。

20はSD4から出土した鉄釘である。先端部と頭が欠損している。

(4) 土坑 6-SK

6区第1号土坑 (6-SK1 第191図)

127-39Grで検出された。SD8を切っている。

平面形は楕円形で、中央付近がややへこんでいる。

規模 長径 1.51m × 短径 0.96m × 深さ

0.31m

遺物 出土していない。

時期 出土遺物はないが、SD8との関係から、中世以後に位置づけられる。

(5) ピット 6-PT (第192図・第193図、第 第191図 6区第1号土坑実測図

21表～24表)

ここでは方形配列などの規則性を見出せなかったピットを扱った。調査区のほぼ全域で検出されているが、特に調査区北西側に集中して確認されている。平面形は円形、楕円形ないし不整な円形が大半を占める。直径 0.11 ~ 2.06m・深さ 0.03 ~ 0.87m を測り、その値に幅がある。形状や規模などからは時期の判別はできなかったが、古墳時代後期から奈良平安時代、中世、近世以後とさまざまな時代のピットが混在しているものと考えられる。

図示が可能な遺物は2点のみであり、他の遺構との切り合い関係や深さなどから近世以後と思われるピットも多数認められるが、帰属時期を決定することは困難である。そのため、個々のピットの時期決定は行わず、計測値を一覧で示した。欠番が多く遺構番号は連続しない。ピットの覆土は細礫・スコリアを含む黒色土・黒褐色土・紫黒色土などが認められる。

遺物 1は土師器環で、PT22から出土した。内面は丁寧なミガキ調整が施される。2はPT265より出土した土師器甕である。

(6) 黄瀬川赤土ブロック (第194図)

調査区東側で黄瀬川に由来すると考えられる赤土のブロックが3か所で検出された。これはカマドの構築材として使用している土と同質のものと考えられるが、自然に流れてきたものか、人為的に運ばれたものかは不明である。また盛土に伴う遺物はなく、時期も不明である。

黄瀬 A

128-39Gr・128-40Grで検出された。

規模 範囲延長 4.26m × 幅 0.17 ~ 0.99m × 盛土高さ 0.31m

黄瀬 B

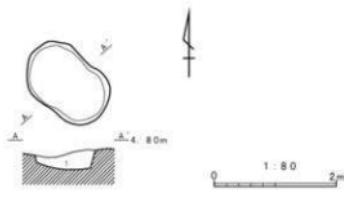
128-39Grで検出された。

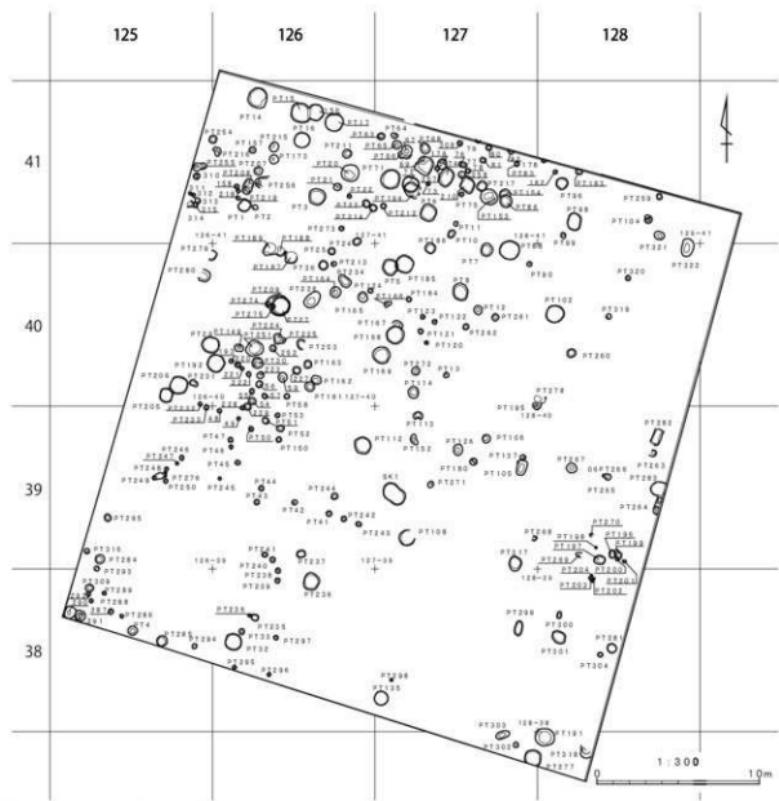
規模 範囲延長 南北 6.68m × 東西 2.01m × 幅 0.29 ~ 1.67m × 盛土高さ 0.33m

黄瀬 C

127-37Gr・127-38Grで検出された。

規模 範囲延長 (調査区内) 2.79m × 幅 0.66 ~ 0.80m × 盛土高さ 0.35m

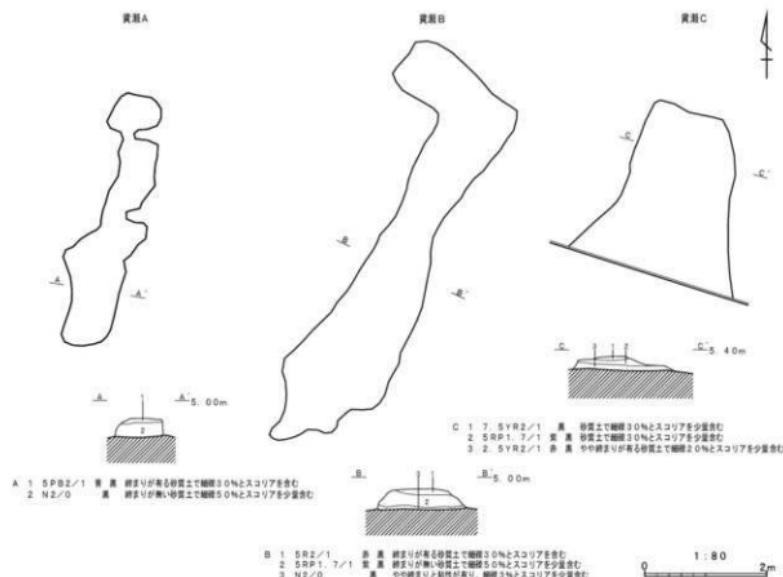




第192図 6区ピット分布図



第193図 6区ピット出土遺物実測図 (1.PT22 2.PT265)



第194図 6区黄瀬赤土盛土実測図

(7) 不明遺構 6-SX

6-SX1 (第148図)

126-40Grで検出された。SB2の掘方面で確認されており、平面形は不整形である。土層注記は残されていない。

規 模 長径2.30m×短径0.9m×深さ0.15m

6-SX2 (第195図)

126-40Grで検出された。SB2と隣接しており、平面形は不整形である。

規 模 長径1.72m×短径1.12m×深さ0.38m

6-SX3 (第183図)

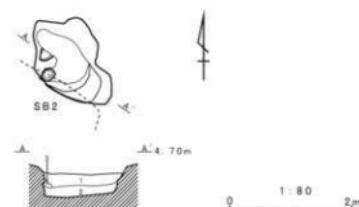
128-38Grで検出された。SB14の北側と隣接しており、平面形は不整形である。カマドと関連する可能性があるが、SX3には焼土や粘土が伴っていない。

規 模 長径0.68m×短径0.28m×深さ0.44m

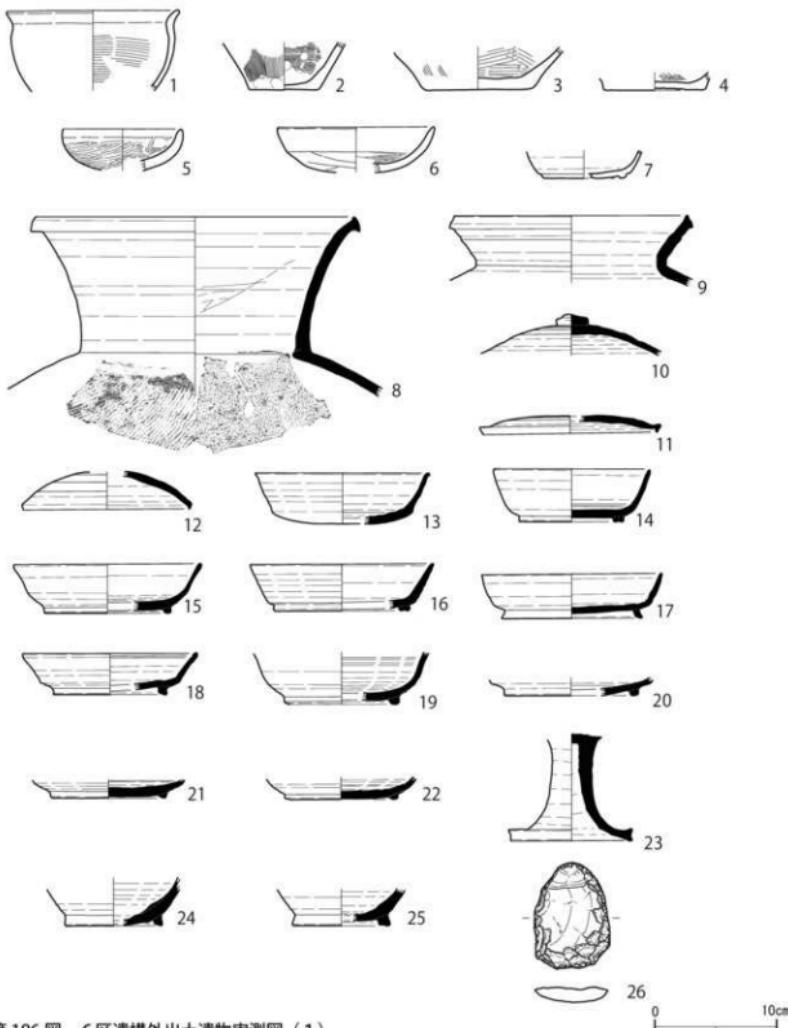
(8) 遺構外遺物 (第196図・第197図)

土器を25点、石器1点、ガラス小玉鋳型5点、古銭1点の計32点を図示した。

1~7は土師器である。1は小型の甕で、外面は摩耗しているため調整痕は不明瞭ではあるが、観察する限りハケメ調整は認められない。2は小型甕の底部で、内外面ともにハケメ調整、底部には木葉痕が認められる。3は器壁の厚みから球胴甕の底部片と考えられる。4も同じく球胴甕の底部片であるが、



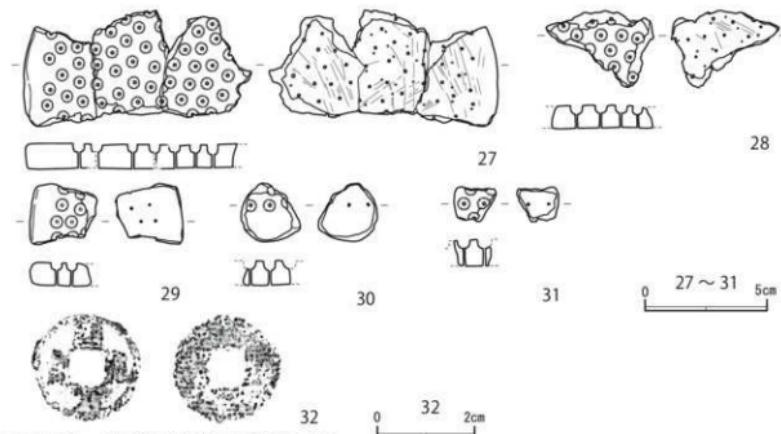
第195図 6区第2号不明遺構実測図



第196図 6区遺構外出土遺物実測図（1）

底面には木葉痕のほかに、種子圧痕が認められる。5は壺で、内外面ともにミガキ調整であるが、ミガキは口唇部にまで及んでいない。6も同じく壺で、内面は下半のみミガキ調整で、上半はナデ調整である。7は高台が小さい有台壺の底部片で、胎土には雲母が含まれる。胎土から甲斐型壺の可能性もあるが、外面のケズリ調整や内面の放射状暗文は認められない。

8～25は須恵器である。8は甕で、内外面ともにタタキ痕が残る。また外面口縁部には褐色釉が施



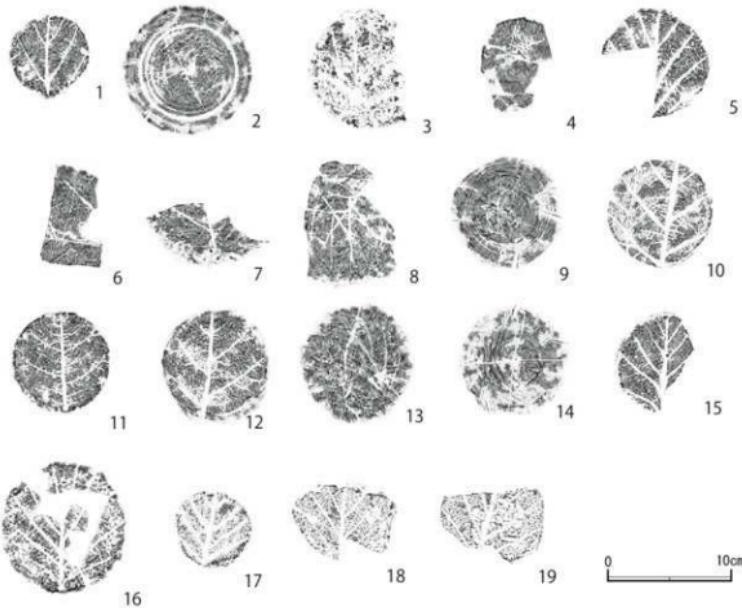
第197図 6区遺構外出土遺物実測図(2)

される。9は同じく蓋で、外面肩部と内面口縁部に自然軸がかかる。10～12は蓋で、10は摘みを有し、陣笠形を呈する。11は平頂蓋で、遠江VII期に位置づけられるが、6区では当該期の遺構は検出されていない。12は天井部の断面形が弧状を呈する。13～22は壺身で、13のみ無台、14以降は有台壺身である。17は還元が不十分であるためか、灰褐色と茶褐色の色調が混ざる。また外面の片側に自然軸が付着する。23は高环の脚部で環部は欠損している。24・25は壺もしくは瓶類の底部である。24は内面の底部に自然軸のたまりが認められる。

26は削器である。泥岩製で、長さ8.5cm、幅6.1cm、厚さ1.3cm、重量98.04gを測る。

27～31はガラス小玉鋳型である。出土位置は127-40Gr・128-40Gr・128-41Grである。住居址から出土したガラス小玉鋳型はSB7(127-40Gr)やSB9(128-41Gr)であることから、ガラス小玉鋳型の出土位置は、6区の中でも北東域にあるといえる。

27は3点の個体が接合したものである。図の左から127-40Gr・127-41Gr・127-40Grで出土した。精製緻密の胎土で、接合後の最大長は4.72cm、最大幅9.30cm、厚さ1.14cmである。表面に完形貫通孔が42か所ある一方、裏面はそれに加えて、表面まで貫通しない盲孔が19か所認められる。盲孔は、いずれも貫通孔の近くに並ぶように認められる。28は精製緻密胎土で、最大長3.11cm、最大幅4.37cm、厚さ1.00cmである。表面に完形の8か所の貫通孔があり、裏面はそれに加えて、盲孔が10か所認められる。27と同じく盲孔は、貫通孔の脇に開けられている。29は粗製胎土で、最大長2.49cm、最大幅2.77cm、厚さ1.00cmである。表面に4か所の完形貫通孔があり、裏面からの貫通しない穴は認められない。30は粗製胎土で、最大長2.37cm、最大幅2.41cm、厚さ1.06cmである。表面に2か所の完形貫通孔があり、裏面からの穿孔はない。31も粗製胎土で最大長1.40cm、最大幅1.74cm、厚さ1.11cmである。表面に完形の2か所の穿孔があり、裏面からの穿孔はない。32は古銭で、開元通寶である。残存状況は悪く、「通寶」の文字がつぶれている。



1. SB1-8 2. SB1-15 3. SB2-1 4. SB2-3 5. SB3-1 6. SB3-15 7. SB3-16 8. SB3-17
 9. SB3-21 10. SB5-2 11. SB5-3 12. SB5-12 13. SB5-17 14. SB5-29 15. SB13-2 16. PT265
 17. 遺構外-2 18. 遺構外-3 19. 遺構外-4

第198図 6区出土器拓本

第21表 6区ピット計測表 (1)

遺構名	平面形	断面形	様 (m)	深さ (m)	土		色	遺土跡まり	遺物/古代	遺物/中世	遺物/近世
					表面	底					
PT001	方形	浅い丸形	0.77 × 0.66	0.06	2～3mmの細緻が主体	5mmの細緻を10%、1～2mmのスコリア10%を含む	N2/0	やや有り			
PT002	円形	深い丸形	0.29	0.35	—	—	—	—			
PT003	円形	浅い丸形	1.02	0.19	3～5mmの細緻10%、2～3mmのスコリア15%を含む	—	N1.5/0	有り	○		
PT004	円形	深い丸形	0.55	0.33	5～10mmの細緻1%，2～5mmのスコリア10%を含む	—	SRI.7/1	無し			
PT005	円形	浅い丸形	0.97	0.15	2～3mmの細緻を主体	5mmの細緻を7%、1～3mmのスコリアを15%を含む	N3/0	有り			
PT006	方形	浅い丸形	1.01	0.09	5～10mmの細緻7%，1～3mmのスコリア15%を含む	—	N3/0	無し	○		
PT007	円形	深い丸形	0.78	0.14	3～5mmの細緻を10%、1～3mmのスコリア15%を含む	—	N2/0	やや有り	○		
PT008	楕円形	浅い丸形	1.02	0.10	3～5mmの細緻7%，2～5mmのスコリア15%を含む	—	N2/0	やや有り	○		
PT010	楕円形	深い丸形	0.53 × 0.38	0.29	—	—	—	—	—	○	
PT011	楕円形	葉筋形	0.30	0.25	—	—	—	—	—		
PT012	円形	扇形	0.56	0.12	3～5mmの細緻を15%	2～5mmのスコリア15%を含む	N3/0	やや有り	○		
PT013	円形	浅い丸形	0.34	0.13	—	—	—	—			
PT014	円形	扇形	1.13	0.29	10mmの細緻3%，3～5mmのスコリア3%を含む	—	N2/0	無し	○		
PT015	円形	浅い丸形	1.20	0.14	5～10mmの細緻5%，3～5mmのスコリア3%を含む	—	SRI.1/1	無し	○		
PT016	円形	扇形	0.94	0.17	10mmの細緻3%，2～3mmのスコリア7%を含む	—	N1.5/0	無し	○		
PT017	円形	浅い丸形	1.12	0.08	10mmの細緻3%，2～3mmのスコリア7%を含む	—	N1.5/0	無し	○		
PT020	円形	深い丸形	1.06	0.41	5～10mmの細�hist10%，5mmのスコリア3%を含む	—	N1.5/0	無し	○		
PT021	円形	浅い丸形	0.47	0.25	10～20mmの細�hist1%，2～3mmのスコリア1%を含む	—	N2/0	やや有り	○		
PT022	円形	浅い丸形	0.25	0.12	—	—	—	—			
PT023	楕円形	扇形	0.49	0.19	8mmの細�hist1%，2～3mmのスコリア1%を含む	—	N2/0	無し	○		
PT024	楕円形	浅い丸形	0.53	0.14	—	—	—	—			
PT025	円形	浅い丸形	0.43	0.24	5～10mmの細�hist5%，3～5mmのスコリア7%を含む	—	N2/0	無し	○		

第22表 6区ピット計測表（2）

道標名	平面形	断面形	幅 (m)	深さ (m)	基土	色	基土持まり	造物/古代	造物/中世	造物/近世
PT026	円形	深い丸形	0.55	0.34	3～5mmの細緻7%，2～5mmのスコリア5%を含む	N2/0	無し	○		
PT027	不整形	深い丸形	1.45 × 1.25	0.21	8～10mmの細緻3%，2～3mmのスコリア1%を含む	SRP1.7/1	無し	○		
PT028	不整形	深い丸形	0.86	0.04	—	—	—	—	○	
PT029	円形	圓形	1.07	0.29	10～20mmの細緻7%，2～5mmのスコリア3%を含む	SRP1.7/1	無し	○		
PT030	円形	圓形	0.67	0.30	5～8mmの細緻10%，2～3mmのスコリア5%を含む	SRP1.7/1	無し	○		
PT032	円形	圓形	1.02	0.15	10～20mmの細緻1%，3～5mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し			
PT033	橢円形	深い丸形	0.37	0.12	—	—	—	—		
PT041	円形	深い丸形	0.35	0.21	—	—	—	—		
PT042	円形	圓研形	0.33	0.15	—	—	—	—		
PT043	円形	深い丸形	0.32	0.45	—	—	—	—		
PT044	円形	圓研形	0.34	0.14	—	—	—	—		
PT045	円形	圓研形	0.30	0.23	—	—	—	—		
PT046	円形	深い丸形	0.21	0.15	—	—	—	—		
PT047	円形	深い丸形	0.31	0.26	—	—	—	—		
PT048	円形	深い丸形	0.27	0.08	—	—	—	—		
PT049	円形	深い丸形	0.21	0.13	—	—	—	—		
PT050	円形	深い丸形	0.28	0.15	—	—	—	—		
PT051	橢円形	深い丸形	0.42	0.27	5～10mmの細緻10%，3～5mmのスコリア7%を含む	N2/0	無し			
PT052	橢円形	深い丸形	0.48	0.23	5～10mmの細緻10%，3～5mmのスコリア7%を含む	N2/0	無し			
PT053	円形	深い丸形	0.30	0.36	—	—	—	—		
PT054	円形	深い丸形	0.48	0.29	—	—	—	—		
PT055	橢円形	深い丸形	0.34	0.11	—	—	—	—		
PT056	橢円形	深い丸形	0.42	0.17	—	—	—	—		
PT057	橢円形	深い丸形	0.35	0.20	—	—	—	—		
PT058	橢円形	深い丸形	0.33	0.04	—	—	—	—		
PT059	橢円形	深い丸形	0.59	0.34	30mmの細緻，5～8mmの細緻7%，2～3mmのスコリア5%を含む	SRP1.7/1	無し			
PT063	円形	深い丸形	0.46	0.29	8mmの細緻1%，1～2mmのスコリア1%を含む	N2/0	やや有り	○		
PT064	橢円形	圓研形	0.42	0.18	—	—	—	—		
PT065	不整形	深い丸形	0.54	0.27	5～10mmの細緻5%，2～5mmのスコリア5%を含む	SRP1.7/1	無し	○		
PT066	円形	深い丸形	0.79	0.14	5～10mmの細緻3%，2～3mmのスコリア5%を含む	N2/0	無し			
PT067	橢円形	深い丸形	0.61	0.45	5mmの細緻2%，2～3mmのスコリア5%を含む	N2/0	無し			
PT068	不整形	深い丸形	0.66	0.45	縫まりが有る無質土，スコリアを含む	SYR2/2	有り			
PT069	円形	深い丸形	1.20	0.31	5～10mmの細緻5%，3～5mmのスコリア3%を含む	N1.5/0	無し			
PT071	円形	深い丸形	1.19	0.16	5～10mmの細緻3%，2～5mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し			
PT072	円形	圓形	1.01	0.10	5～10mmの細緻3%，2～5mmのスコリア3%を含む	N2/0	無し	○		
PT073	橢円形	圓研形	0.24	0.18	—	—	—	—		
PT074	橢円形	深い丸形	1.13 × 0.83	0.17	8mmの細緻3%，3～5mmのスコリア3%を含む	N3/0	無し	○		
PT075	円形	圓研形	0.31	0.23	—	—	—	—		
PT076	円形？	深い丸形	0.29	0.03	—	—	—	—		
PT077	不整形	深い丸形	0.31	0.34	—	—	—	—		
PT078	橢円形	深い丸形	0.32	0.17	—	—	—	—	○	
PT079	不規	深い丸形	0.29	0.08	—	—	—	—		
PT080	円形	深い丸形	0.35	0.26	—	—	—	—	○	
PT081	円形	深い丸形	0.37	0.59	—	—	—	—	○	
PT082	不規	深い丸形	0.39	0.29	—	—	—	—	○	
PT083	円形	深い丸形	0.29	0.33	—	—	—	—	○	
PT086	円形	深い丸形	0.72	0.09	3～5mmの細緻15%，2～3mmのスコリア5%を含む	N2/0	無し			
PT088	円形	圓形	1.20	0.17	3～5mmの細緻2%，2～5mmのスコリア7%を含む	SRP1.7/1	やや有り	○		
PT090	円形	圓形	0.31	0.14	—	—	—	—		
PT096	円形	深い丸形	0.71	0.14	5～10mmの細緻20%，2～5mmのスコリア15%を含む	N2/0	無し			
PT098	方形	深い丸形	1.06 × 0.81	0.04	10mmの細緻5%，2～3mmのスコリア3%を含む	SYR2/1	無し	○		
PT099	橢円形	深い丸形	0.38	0.24	—	—	—	—		
PT102	円形	深い丸形	1.12	0.12	縫まりが無る無質土，スコリアを含む	SYR1.7/1	無し	○		
PT104	不整形	深い丸形	0.46	0.39	粘性が有る，スコリアを含む	SYR2/1	有り	○		
PT105	方形	深い丸形	0.94 × 0.58	0.39	10～12mmの円錐，8～12mmの細緻1%，1～2mmのスコリア1%を含む	SRP1.7/1	やや有り	○		
PT106	円形	深い丸形	0.48	0.36	5～10mmの細緻7%，5mmのスコリア3%を含む	N1.5/0	無し			
PT108	円形	圓形	0.96	0.22	10～20mmの細緻7%，2～5mmのスコリア5%を含む こぶし状の石を點在する	N1.5/0	やや有り	○		
PT112	円形	深い丸形	1.04	0.10	3～5mmの細緻15%，2～3mmのスコリア15%を含む	N2/0	無し			
PT113	不整形	深い丸形	0.58 × 0.41	0.41	—	—	—	—	○	
PT114	橢円形	深い丸形	0.73	0.34	3～5mmの細緻5%，2～3mmのスコリア3%を含む	SP1.7/1	無し	○		
PT120	橢円形	深い丸形	0.23	0.16	—	—	—	—		
PT121	橢円形	深い丸形	0.32	0.07	—	—	—	—		
PT122	円形	深い丸形	0.28	0.25	—	—	—	—		
PT123	円形	深い丸形	0.27	0.14	—	—	—	—		
PT124	円形	深い丸形	0.30	0.20	—	—	—	—		
PT126	橢円形	深い丸形	0.69	0.41	5～8mmの細緻7%，2～5mmのスコリア5%を含む	N2/0	無し			
PT135	円形	圓形	0.85	0.13	—	—	—	—	○	
PT137	橢円形	圓研形	0.34	0.40	—	—	—	—	○	
PT140	円形	深い丸形	0.56	0.39	8～10mmの細緻7%，2～3mmのスコリア5%を含む	SRP2/1	無し			
PT150	橢円形	深い丸形	0.34	0.20	—	—	—	—		
PT152	円形	深い丸形	0.66 × 0.36	0.18	—	—	—	—		
PT153	円形	深い丸形	1.11	0.46	—	—	—	—		
PT154	円形？	深い丸形	0.68	0.17	—	—	—	—		
PT156	円形	深い丸形	1.00	0.07	5～10mmの細緻5%，3～5mmのスコリア3%を含む	SRP1.7/1	無し	○		
PT157	円形	深い丸形	0.39	0.27	10mmの細緻1%，2～3mmのスコリア1%を含む	N2/0	有り	○		

第23表 6区ピット計測表 (3)

道名	平面形	断面形	径 (m)	深さ (m)	地 土	色	塵土被り	植物/古代	植物/中世	植物/近世
PT158	円形	浅い丸形	0.29	0.24	—	—	—	—	—	—
PT161	円形	浅い丸形	0.61	0.23	30mmの細緻、5mmの細緻 20%、2~5mmのスコリア 10%を含む	N1 5/0	やや有り	○	—	—
PT162	楕円形	浅い丸形	0.63	0.25	5mmの細緻 20%、3~5mmのスコリア 10%を含む	N1 5/0	無し	○	—	—
PT163	円形	浅い丸形	0.51	0.06	5~10mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N1 5/0	やや有り	○	—	—
PT164	円形	浅い丸形	0.65	0.13	5~10mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N1 5/0	有り	○	—	—
PT165	円形	浅い丸形	0.62	0.13	3~8mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N2/0	有り	○	—	—
PT166	不整	浅い丸形	0.47 ± 0.33	0.09	3~8mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N2/0	有り	○	—	—
PT167	不明	蕭研形	0.62	0.38	8~10mmの細緻 10%、3~8mmのスコリア 10%を含む	N1 5/0	やや有り	○	—	—
PT168	円形	範形	1.08	0.25	5~10mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N1 5/0	有り	○	—	—
PT169	円形	範形	1.07	0.23	5~10mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N1 5/0	有り	○	—	—
PT173	円形	浅い丸形	0.57	0.15	10~20mmの細緻 20%、2~3mmのスコリア 20%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT176	楕円形	浅い丸形	0.65	0.39	10~12mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 10%を含む	SPR2/1	やや有り	○	—	—
PT178	円形	浅い丸形	0.25	0.30	—	—	—	—	—	—
PT180	円形	範形	0.43	0.12	3~5mmの細緻 7%，5mmのスコリア 5%を含む	SPR2/1	有り	○	—	—
PT182	円形	浅い丸形	0.25	0.32	—	—	—	—	—	○
PT183	不明	浅い丸形	0.41	0.15	—	—	—	—	—	○
PT184	円形	浅い丸形	0.30	0.23	—	—	—	—	—	○
PT185	方形	範形	1.06	0.13	5mmの細緻 7%，2~3mmのスコリア 10%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT186	方形	浅い丸形	0.64	0.14	5mmの細緻 7%，2~3mmのスコリア 10%を含む	N1 5/0	無し	○	—	—
PT187	不明	浅い丸形	0.76	0.59	—	—	—	—	—	○
PT188	不整	浅い丸形	0.52	0.31	—	—	—	—	—	○
PT189	不整	浅い丸形	0.66	0.46	—	—	—	—	—	○
PT190	円形	浅い丸形	1.07	0.49	5~8mmの細緻 10%、3~5mmのスコリア 7%を含む	N1 5/0	無し	○	—	—
PT191	円形	浅い丸形	1.20	0.46	—	—	—	—	—	—
PT192	円形	浅い丸形	1.11	0.11	細緻 10%、スコリアを含む 粘性有り	SYR2/1	有り	○	—	—
PT193	円形	浅い丸形	0.27	0.25	—	—	—	—	—	—
PT194	不整	浅い丸形	0.84	0.47	—	—	—	—	—	—
PT195	不明	蕭研形	0.50	0.49	—	—	—	—	—	—
PT196	楕円形	範形	0.51	0.11	—	—	—	—	—	—
PT197	楕円形	浅い丸形	0.69 ± 0.55	0.16	—	—	—	—	—	—
PT198	円形	浅い丸形	0.13	0.06	—	—	—	—	—	—
PT199	不整	浅い丸形	0.62 ± 0.29	0.10	—	—	—	—	—	—
PT200	不整	浅い丸形	0.24	0.13	—	—	—	—	—	—
PT201	楕円形	浅い丸形	0.23	0.14	—	—	—	—	—	—
PT202	不整	浅い丸形	0.14 ± 0.34	0.07	—	—	—	—	—	○
PT203	不整	浅い丸形	0.24	0.11	—	—	—	—	—	—
PT204	円形	浅い丸形	0.11	0.08	—	—	—	—	—	—
PT205	円形	浅い丸形	0.88	0.03	10mmの細緻 3%，3~5mmのスコリア 1%を含む	SPR1 7/1	無し	○	—	—
PT206	円形	浅い丸形	1.08	0.14	10~20mmの細緻 3%，3~5mmのスコリア 3%を含む	SPR1 7/1	無し	○	—	—
PT207	円形	浅い丸形	0.51	0.29	8~12mmの細緻 1%，2~3mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○	—	—
PT208	長方形	浅い丸形	0.94 ± 0.58	0.37	10~20mmの細緻 1%，2~3mmのスコリア 3%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT209	円形	範形	1.06	0.18	—	—	—	—	—	○
PT210	方形	範形	0.85	0.20	10~15mmの細緻 3%，3~5mmのスコリア 3%を含む	2.SPR2/1	無し	○	—	—
PT211	円形	浅い丸形	0.52	0.46	8~10mmの細緻 1%，2~3mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT212	円形	浅い丸形	0.33	0.27	—	—	—	—	—	—
PT213	円形	浅い丸形	0.32	0.42	—	—	—	—	—	—
PT214	円形	浅い丸形	0.44	0.23	8mmの細緻 1%，2~3mmのスコリア 1%を含む	SPR2/1	無し	○	—	—
PT215	円形	浅い丸形	0.63	0.65	8~10mmの細緻 3%，1~3mmのスコリア 1%を含む	N2/0	有り	○	やや有り	○
PT216	不整	浅い丸形	0.52 ± 0.45	0.18	8~12mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 1%を含む	SPR1 7/1	有り	○	—	—
PT217	円形	浅い丸形	0.64	0.32	10~12mmの細緻 1%，2~3mmのスコリア 1%を含む	2.SPR2/1	無し	○	—	—
PT218	円形	浅い丸形	0.21	0.21	—	—	—	—	—	—
PT219	円形	浅い丸形	0.23	0.44	—	—	—	—	—	—
PT220	円形	浅い丸形	0.35	0.18	—	—	—	—	—	○
PT221	円形	浅い丸形	0.22	0.14	—	—	—	—	—	—
PT222	円形	浅い丸形	0.33	0.29	—	—	—	—	—	—
PT223	円形	浅い丸形	0.42	0.59	10mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 1%を含む	SPR1 7/1	有り	○	—	—
PT224	楕円形	範形	0.37	0.13	—	—	—	—	—	—
PT225	楕円形	浅い丸形	0.64	0.21	—	—	—	—	—	—
PT226	楕円形	浅い丸形	1.14 ± 0.76	0.36	8mmの細緻 5%，1~2mmのスコリア 3%を含む	SPR1 7/1	有り	○	—	—
PT227	円形	浅い丸形	0.49	0.26	8mmの細緻 3%，1~2mmのスコリア 1%を含む	N1 5/0	有り	○	—	—
PT228	円形	浅い丸形	0.43	0.07	8mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 1%を含む	N2/0	やや有り	○	—	—
PT229	方形	浅い丸形	0.26	0.23	8~10mmの細緻 3%，2~3mmのスコリア 3%を含む	SYR2/1	やや有り	○	—	—
PT230	円形	浅い丸形	0.28	0.20	—	—	—	—	—	—
PT231	楕円形	浅い丸形	0.51 ± 0.35	0.16	8mmの細緻 3%，1~2mmのスコリア 1%を含む	SPR1 7/1	有り	○	—	—
PT232	円形	浅い丸形	0.24	0.19	—	—	—	—	—	—
PT233	楕円形	浅い丸形	0.28	0.32	—	—	—	—	—	—
PT234	円形	浅い丸形	0.66 ± 0.57	0.22	8mmの細緻 3%，1~2mmのスコリア 1%を含む	SPR1 7/1	やや有り	○	—	—
PT235	円形	浅い丸形	0.39	0.12	8mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT236	円形	浅い丸形	0.19	0.09	8mmの細緻 1%，1~2mmのスコリア 1%を含む	N2/0	無し	○	—	—
PT237	楕円形	浅い丸形	0.55	0.08	—	—	—	—	—	—
PT238	円形	浅い丸形	0.32	0.23	—	—	—	—	—	—
PT239	円形	浅い丸形	0.32	0.15	—	—	—	—	—	—
PT240	円形	浅い丸形	0.33	0.28	—	—	—	—	—	—
PT241	円形	浅い丸形	0.35	0.23	—	—	—	—	—	—
PT242	円形	浅い丸形	0.33	0.19	—	—	—	—	—	—

第24表 6区ピット計測表 (4)

道標名	平面形	断面形	緯 (m)	深さ (m)	基 土	色	墨土跡まり	造物／古代	造物／中世	造物／近世
PT243	円形	深い丸形	0.35	0.22	—	—	—	—	—	—
PT244	円形	深い丸形	0.42	0.26	—	—	—	—	—	—
PT245	円形	深い丸形	0.19	0.09	—	—	—	—	—	—
PT247	円形	深い丸形	0.21	0.06	—	—	—	—	—	—
PT248	不整形	深い丸形	0.22	0.25	—	—	—	—	—	—
PT249	楕円形	深い丸形	0.7 × 0.38	0.20	—	—	—	—	—	—
PT250	円形	深い丸形	0.27	0.30	—	—	—	—	—	—
PT251	円形	深い丸形	0.96	0.36	8~10mmの細緻3%, 2~3mmのスコリア1%を含む	SYR1.7/1	有り	○	—	—
PT252	円形	深い丸形	0.38	0.19	—	—	—	—	—	—
PT253	不明	深い丸形	0.61	0.07	—	—	—	—	—	—
PT254	円形	深い丸形	0.45	0.28	8~10mmの細緻3%, 1~2mmのスコリア1%を含む	SYR1.7/1	やや有り	—	—	—
PT255	不整形	深い丸形	0.64 × 0.47	0.19	8~10mmの細緻3%, スコリア1%を含む	SYR1.7/1	やや有り	○	—	—
PT256	不明	深い丸形	0.70	0.63	—	—	—	—	—	○
PT257	円形	深い丸形	0.30	0.19	—	—	—	—	—	—
PT258	円形	深い丸形	0.42	0.72	—	—	—	—	—	○
PT259	円形	縫隙	0.37	0.12	細緻を30%, スコリアを含む 縫まりのある砂質土	SYR2/1	有り	—	—	—
PT260	円形	深い丸形	0.55	0.13	細緻を40%, スコリアを含む やや縫まりのある砂質土	2 SYR2/1	やや有り	—	—	—
PT261	円形	深い丸形	0.43	0.24	—	—	—	—	—	—
PT262	円形	深い丸形	0.37	0.22	—	—	—	—	—	—
PT263	不明	深い丸形	0.41	0.27	5~8mmの細緻3%, 2~3mmのスコリア1%を含む	N1 5/0	無し	○	—	—
PT264	不明	深い丸形	0.34	0.38	—	—	—	—	—	○
PT265	円形	深い丸形	0.38	0.31	—	—	—	—	—	○
PT266	円形	深い丸形	0.22	0.16	—	—	—	—	—	—
PT267	円形	深い丸形	0.59	0.23	10~12mmの細緻1%, 1~2mmのスコリア1%を含む	SYR1.7/1	やや有り	—	—	—
PT268	不整形	深い丸形	0.27	0.09	—	—	—	—	—	—
PT269	不明	深い丸形	0.27	0.23	—	—	—	—	—	—
PT270	不整形	深い丸形	0.19	0.16	—	—	—	—	—	—
PT271	楕円形	縫隙形	0.41	0.23	—	—	—	—	—	—
PT272	円形	深い丸形	0.51	0.21	—	—	—	—	—	○
PT273	円形	深い丸形	0.31	0.43	—	—	—	—	—	○
PT274	円形	深い丸形	0.25	0.60	—	—	—	—	—	—
PT275	円形	深い丸形	0.30	0.68	—	—	—	—	—	—
PT276	円形	深い丸形	0.18	0.22	—	—	—	—	—	—
PT277	円形	縫隙	0.98	0.22	細緻を20%とスコリアを含む 縫まりがある砂質土	7 SYR3/1	有り	○	—	—
PT279	不明	深い丸形	0.61	0.37	—	—	—	—	—	—
PT280	不明	深い丸形	0.72	0.26	—	—	—	—	—	—
PT281	円形	深い丸形	0.58	0.03	細緻20%とスコリアを含む 黏性有り	2 SYR2/1	有り	—	—	—
PT282	不整形	深い丸形	2.06 × 0.53	0.66	—	—	—	—	—	—
PT283	円形	縫隙	0.83	0.12	—	—	—	—	—	—
PT284	円形	深い丸形	0.56	0.28	細緻30%とスコリアを含む砂質土	SYR2/1	有り	○	—	—
PT285	円形	深い丸形	0.65	0.55	—	—	—	—	—	○
PT286	楕円形	縫隙形	0.23	0.23	—	—	—	—	—	—
PT287	楕円形	深い丸形	0.35	0.17	—	—	—	—	—	○
PT288	円形	深い丸形	0.26	0.19	—	—	—	—	—	—
PT289	円形	深い丸形	0.24	0.18	—	—	—	—	—	—
PT290	楕円形	深い丸形	0.78	0.25	細緻15%とスコリアを含む砂質土	7 SYR2/1	有り	○	—	—
PT291	円形	縫隙形	0.67	0.40	細緻20%とスコリアを含む砂質土	SYR2/2	有り	○	—	—
PT292	円形	縫隙	0.31	0.15	—	—	—	—	—	—
PT293	円形	深い丸形	0.32	0.26	—	—	—	—	—	—
PT294	円形	深い丸形	0.33	0.06	—	—	—	—	—	—
PT295	円形	深い丸形	0.23	0.17	—	—	—	—	—	—
PT296	円形	深い丸形	0.25	0.06	—	—	—	—	—	—
PT297	円形	深い丸形	0.29	0.17	—	—	—	—	—	○
PT298	円形	深い丸形	0.19	0.21	—	—	—	—	—	—
PT299	楕円形	深い丸形	0.91 × 0.47	0.14	細緻30%とスコリアを含む砂質土	SYR2/1	有り	—	—	—
PT300	楕円形	深い丸形	0.43 × 0.26	0.21	—	—	—	—	—	—
PT301	楕円形	深い丸形	0.82	0.33	細緻15%とスコリアを含む 黏性有り	SYR2/2	有り	○	—	—
PT302	円形	深い丸形	0.31	0.33	—	—	—	—	—	—
PT303	楕円形	深い丸形	0.88 × 0.44	0.52	細緻10%とスコリアを含む 黏性有り	2 SYR2/1	有り	○	—	—
PT304	円形	深い丸形	0.30	0.12	—	—	—	—	—	○
PT305	円形	深い丸形	0.32	0.13	—	—	—	—	—	—
PT309	円形	深い丸形	0.51	0.35	細緻30%とスコリアを含む砂質土	SYR2/1	有り	○	—	—
PT310	円形	縫隙形	0.41	0.30	—	—	—	—	—	—
PT311	円形	縫隙	0.20	0.08	—	—	—	—	—	—
PT312	楕円形	縫隙形	0.27	0.27	—	—	—	—	—	—
PT313	楕円形	縫隙	0.36	0.31	—	—	—	—	—	—
PT314	不整形	深い丸形	0.22	0.16	—	—	—	—	—	○
PT315	不整形	深い丸形	0.41	0.19	—	—	—	—	—	—
PT316	円形	深い丸形	0.33	0.20	—	—	—	—	—	—
PT317	楕円形	縫隙	0.93	0.21	細緻30%とスコリアを含む砂質土	10YR2/2	無し	—	—	—
PT318	不明	深い丸形	0.69	0.10	—	—	—	—	—	—
PT319	円形	深い丸形	0.32	0.45	—	—	—	—	—	—
PT320	円形	深い丸形	0.32	0.58	—	—	—	—	—	○
PT321	楕円形	深い丸形	0.62	0.45	—	—	—	—	—	○
PT322	楕円形	深い丸形	1.11 × 0.71	0.87	—	—	—	—	—	○

報告書抄録

沼津市文化財調査報告書 第113集

中原遺跡発掘調査報告書

(第1分冊)

平成28年2月19日 印刷

平成28年3月4日 発行

編 集／沼津市教育委員会

発 行／沼津市教育委員会

沼津市御幸町16番1号

TEL(055)931-2500㈹

印 刷／みどり美術印刷株式会社